

博士論文

日中バイリンガルの 2 言語使用と
言語処理メカニズムに関する考察

大阪市立大学大学院

文学研究科後期博士課程

言語文化学専攻言語応用学専修

平成 29 年度

り びん
李 敏

目次

序章	1
1. 問題究明の出発点	1
2. 本研究の構成	3
第1章 バイリンガリズム研究の基礎	6
1 バイリンガルとは	6
1.1 バイリンガルの定義	6
1.2 バイリンガルの分類	8
1.2.1 言語の習得時期による分類	8
1.2.2 話者の言語能力による分類	10
1.2.3 言語の社会的位置付けによる分類	13
1.3 本研究で取り上げるバイリンガル	13
2 バイリンガリズムに関わる研究分野	14
2.1 社会言語学からみたバイリンガリズム研究	15
2.1.1 マクロ的視点からのバイリンガリズム研究	15
2.1.2 ミクロ的視点からのバイリンガリズム研究	18
2.2 応用言語学からみたバイリンガリズム研究	20
2.2.1 バイリンガル教育の理論的基盤	21
2.2.2 多様なバイリンガル教育	24
2.2.3 日本のバイリンガル教育	27
2.3 心理言語学の観点からみたバイリンガリズム研究	29
2.3.1 バイリンガルの2言語切り替え使用と初期言語発達	30
2.3.2 バイリンガルの2言語知識の記憶形態	33
2.4 神経言語学の観点からみたバイリンガリズム研究	37
3 まとめ	39
第2章 バイリンガルの言語切り替え使用と言語記憶システム	42
1 バイリンガルの言語切り替え使用に関する研究	42

1.1	コードスイッチング (CS) について	43
1.1.1	コードスイッチングとは	43
1.1.2	コードスイッチングと借用、コードミキシング	44
1.1.3	コードスイッチングの分類とその使用実態	45
1.2	社会言語学的側面からみた CS の言語機能	47
1.2.1	CS 使用に関わる社会的な諸要素	48
1.2.2	会話内 CS の談話的機能	52
1.3	言語学的側面からみた CS の文法的規則	55
1.3.1	語順制約と自由形態素の制約	56
1.3.2	FCH に基づく CS の文法的規則	58
1.3.3	MLF モデルと 4-M モデル	59
1.4	結び	61
2	バイリンガルの言語記憶システム	61
2.1	記憶研究からみた言語情報	62
2.1.1	記憶の仕組み	62
2.1.2	言語活動に関わる多様な記憶情報	66
2.1.3	記憶の種類と言語知識	68
2.2	言語情報の記憶システム - メンタルレキシコン	72
2.2.1	メンタルレキシコンの構成要素	73
2.2.2	メンタルレキシコンにおける意味部門の構造	75
2.2.3	母語獲得におけるメンタルレキシコンの構築	79
2.3	バイリンガルにおけるメンタルレキシコンの構築	81
2.4	結び	84
3	まとめ	85
 第 3 章 日中バイリンガルの CS 使用に関する調査		87
1	調査概要	87
2	分析方法	88
2.1	本研究で扱う CS	88
2.2	CS の談話的機能に関する分析枠組み	90

2.3 CS の使用形態に関する分析枠組み	92
3 CS の談話的機能に関する分析	96
3.1 日中バイリンガルの CS 発話における各機能項目の使用実例	96
3.1.1 CS 使用の意味的機能について	96
3.1.2 CS 使用の対人的機能について	98
3.1.3 CS 使用の文体的機能について	100
3.2 会話データにおける各 CS 機能項目の使用状況	101
3.2.1 JSL の発話における各 CS 機能項目の使用状況	101
3.2.2 JFL の発話における各 CS 機能項目の使用状況	104
3.2.3 CS の機能的特徴における両グループの共通点と相違点	106
3.2.4 社会言語学の観点からみた両グループの CS 使用の機能的相違点	107
4 CS の使用形態に関する分析	108
4.1 日中バイリンガルの CS 発話における各切り替え項目の使用実例	108
4.1.1 付加的 CS について	109
4.1.2 文内 CS について	110
4.1.3 文間 CS について	118
4.2 会話データにおける各切り替え項目の使用実態	120
4.2.1 JSL の発話における各切り替え項目の使用実態	120
4.2.2 JFL の発話における各切り替え項目の使用実態	123
4.2.3 CS の使用形態における両グループの相違点	125
4.2.4 心理言語学の観点から両グループの CS 使用形態に関する考察	129
5 まとめ	132

第 4 章 日中バイリンガルの言語記憶システムに関する実証分析----134

1 意味要素領域の特性に関する実証実験：語彙近接性ランキング課題	134
1.1 理論的枠組み	134
1.2 調査：語彙近接性ランキング課題	136
1.2.1 調査目的	136
1.2.2 調査協力者	136
1.2.3 調査方法	137

1.3	分析	139
1.3.1	相関分析	139
1.3.1.1	本研究で扱う相関分析	139
1.3.1.2	相関分析の結果	140
1.3.2	因子分析	142
1.3.2.1	本研究で扱う因子分析	142
1.3.2.2	因子分析の結果	143
1.4	考察	144
1.5	結び	147
2	言語要素間の結びつき方に関する実証実験：翻訳課題と絵命名課題	148
2.1	理論的枠組み	148
2.2	調査	151
2.2.1	実験方法	151
2.2.2	仮説と分析方法	153
2.3	分析結果	154
2.3.1	JSL の反応時間に関する分析結果	154
2.3.1.1	各実験課題における JSL の反応時間	154
2.3.1.2	刺激内容のカテゴリーにおける JSL の反応時間	155
2.3.2	JFL の反応時間に関する分析結果	158
2.3.2.1	各実験課題における JFL の反応時間	159
2.3.2.2	刺激内容のカテゴリーにおける JFL の反応時間	160
2.3.3	各実験課題における JSL と JFL の反応時間に関する比較分析	163
2.3.3.1	両グループの分析結果にみられた共通点	164
2.3.3.2	両グループの分析結果にみられた相違点	164
2.4	考察	166
2.4.1	2 言語処理における各言語要素の結びつき方	166
2.4.2	コンテキストに含まれた視覚的情報が言語産出に与える影響	170
3	まとめ	171

第5章 2 言語処理システムと脳内神経基盤 -----	174
1 はじめに	174
2 言語処理システムにおける処理プロセス	177
2.1 意味的階層における言語処理	178
2.2 形式的階層における音韻符号化処理	181
2.3 意味的階層と形式的階層の情報処理関係	182
3 言語処理システムを支える脳内メカニズム	183
3.1 言語処理システムを支えるワーキングメモリ	184
3.1.1 意味的階層での言語処理に関わるワーキングメモリ	185
3.1.2 形式的階層での言語処理に関わるワーキングメモリ	186
3.2 言語処理に関わるワーキングメモリの脳内神経基盤	189
4 バイリンガルの言語処理システム	194
4.1 バイリンガルにおける言語処理システムの特徴	194
4.2 バイリンガルの言語処理に関わる脳内メカニズム	197
5 まとめ	200
終章 -----	201
1 まとめ	201
2 本研究の限界と今後の課題	205
参考文献 -----	208

序論

1. 問題究明の出発点

世界の言語の百科事典とも言えるエスノログ (Ethnologue) というデータベースは、世界の言語数や、各言語の話者と分布域などに関して、権威ある調査を行ってきた。エスノログ (2017) によると、世界には 7099 の言語が存在している。さらに、世界中の多言語使用状況を調べる ilanguages (2016) の調査結果によると、1つの国において1つの言語しか話されていないモノリンガルの国は、世界中でも 40%未満の割合しか占めていない。このことから、1つの国において2種類以上の言語が同時に存在する多言語社会が主流派を占めることがわかる。言語学の研究分野では、このような2つあるいは2つ以上の言語を使用する能力を持つ人達のことをバイリンガル (Bilingual) またはマルチリンガル (Multilingual) と呼ぶ。

特に、近年、グローバル化が進展する中で、世界規模の人口移動が進み、異国や異文化間のコミュニケーションも活発になりつつある。これらのことを背景に、2種類以上の言語を操ることができるバイリンガル (あるいはマルチリンガル) の人数が年々増加しつつある。それと同時に、学術の分野でも社会言語学や応用言語学など多様な研究アプローチから、バイリンガルの言語使用やバイリンガル教育などに関するバイリンガリズム研究が注目されている。例えば、社会言語学の立場から捉えるバイリンガリズム研究においては、バイリンガルが社会、政治、経済など社会的要素との関係性に焦点を当て、個人を越える社会レベルのバイリンガリズムを中心に観察されてきた。そして、複数の言語が同時に存在する多言語社会やカナダ、シンガポールのような移民社会において、2言語で学校教育を実施するバイリンガル教育が昔から行われてきた。そのため、これらの国における言語学者を中心に、バイリンガルの認知発達と言語能力という観点から、バイリンガル教育の理論的基盤が作り上げられてきた。また、近年、バイリンガルの研究分野では、社会言語学や応用言語学からのアプローチだけでなく、言語能力と認知能力の発達に関係に注目する心理言語学的アプローチや、脳科学研究から得られる知見をバイリンガルの言語処理に応用しようとする神経言語学的アプローチも目立つようになっている。これらの研究では、バイリンガルの2言語能力の発達や、2言語使用活動に内在している認知的仕組み、脳内処理のメカニズムなど言語の生物学的な規則に関わる諸問題の解明が重要視されている。これら既存の研究成果を踏まえながら、日中バイリンガルの2言語使用の実態、彼らの2

言語使用を支える認知的メカニズムと脳内神経基盤を明らかにすることが本研究の目的である。

また、これまでの日本のバイリンガリズム研究では、日本語と英語を同時に操る日英バイリンガル話者の言語使用に関する研究が主流であるが、在日中国人や中国人日本語学習者のような日中バイリンガルを対象とした研究は比較的少ない。在日中国人や中国人日本語学習者などによって構成されたバイリンガル・コミュニティにおける人数が莫大である。法務省の在日外国人統計によると、2016年6月末までに、中国語を母語とする在日外国人が95万人以上にのぼり、他地域からの外国人数を圧倒的に上回っている。これらの在日中国人は日本で最も人口が多いバイリンガル集団である。そして、1990年代後半から、中国では日本語学習ブームと日本への留学ブームが到来し、中国人日本語学習者が年々増加しつつある。2012年の国際交流基金の調査結果によると、中国人日本語学習者は104万人以上にのぼり、日本語学習者全体の26.3%を占めている。そのため、日中バイリンガルとしての在日中国人及び中国人日本語学習者がどのように両言語を発達させ、どのような言語使用の特徴を持っているのかということは大きな課題になると言えよう。つまり、このような200万人以上という莫大な数の日中バイリンガルを対象とする研究が望まれる。さらに、日中バイリンガルを対象とする研究において、社会言語学の観点から在日中国人の言語使用を考察したものはいくつか見られるが（例えば、王，2004，2009など）、心理言語学及び神経言語学の視点から、日中バイリンガルの2言語習得・使用を支える認知メカニズムと脳内神経基盤を考察した研究はほとんど見られないのである。

以上の点を踏まえ、本研究は日中バイリンガルの日常生活に頻繁に現れる2言語コードの切り替え使用現象（Code-Switching：以下はCSに略す）を切り口として、彼らの2言語使用状況について考察する。それと同時に、心理言語学と神経言語学の観点から、この現象を引き起こす認知的メカニズムと脳内神経基盤を解明していくことも目的とする。具体的には、まず、日中バイリンガルの日常会話に現れたCS使用現象に関して、機能的・形態的特徴の観点から考察する。CS使用が、日中バイリンガルの言語習得環境、使用環境、学習方略によってどのように影響されるのかを明らかにする。そして、日中バイリンガルの2言語使用現象に隠された認知的な要因を解明するために、心理言語学の視点からバイリンガルの言語記憶システムの構築とその特性について検討する。具体的には、認知心理学の分野で言語知識の記憶システムを議論した先行研究をもとに、バイリンガルの言語記憶システムの構築に影響する複数の要因を考慮し、従来のバイリンガルの語彙記憶モ

デルを理論的に発展させていく。次に、日中バイリンガルを対象として、翻訳課題、絵命名課題と語彙近接性ランキング課題という3つの言語課題を実施する。このことによって、言語習得環境、使用環境、文化的要素などがどのようにバイリンガルの言語記憶システムに影響するのかを検証する。また、3つの言語課題の分析結果を心理言語学の観点から考察することによって、CS使用を説明できる言語産出モデルを構築する。最後に、言語機能に関わる神経科学研究から得た知見を踏まえ、バイリンガルの言語処理システムを支える認知的な仕組みと脳内神経基盤を考察していく。このことによって、日中バイリンガルの2言語産出モデルの心理的実在性を確認し、CS使用に関わる神経科学的な原理を解明することを目指す。

2. 本研究の構成

続いて、次章以降の本研究の構成について述べる。本研究の構成は図0-1に示したとおりである。

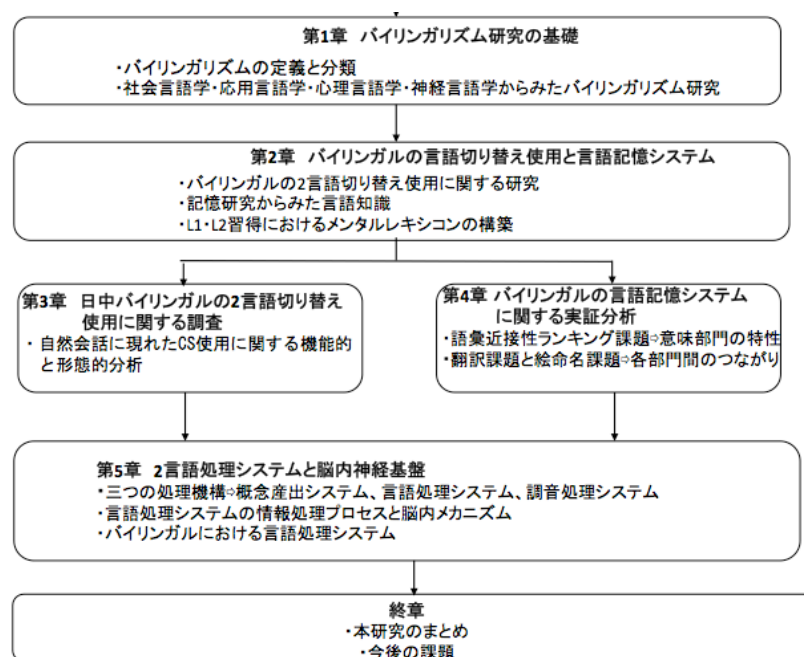


図0-1 本研究の構成

第1章ではまず、社会言語学、応用言語学、心理言語学と神経言語学という4つの視点から、既存のバイリンガリズム研究を概観する。これらの先行研究において、バイリンガルが社会、教育、心理、脳神経との関わりでどのように捉えられてきたのかを整理する。このことは第2章におけるバイリンガル話者の2言語使用と言語記憶システムの理論的検

討に向けた準備作業となる。具体的には、まず、多言語社会におけるバイリンガルの定義、種類及びその特徴について検討し、本研究におけるバイリンガルの具体像を提示する。次に、バイリンガルの社会生活、バイリンガル教育、バイリンガル話者の言語能力と認知発達、バイリンガルの脳内言語処理という4つの問題点について論じた先行研究を整理する。このことを通じて、バイリンガリズム研究の実態を把握し、本研究の位置づけを明らかにすることがこの第1章の目的となる。

第2章では、言語学的及び心理言語学的アプローチから、バイリンガルの言語使用と言語能力の発達について論じてきた先行研究を、特に2言語の切り替え使用と2言語知識の記憶システムに焦点を当てて概観する。まず、バイリンガルのCS使用に関わる社会的要因、談話的機能と文法的規則という3つの問題について、社会言語学、語用論、統語論という3つの視点からそれぞれ分析した先行研究を整理する。このことを通じて、バイリンガルの言語活動において、2つの言語がなぜ、どのように切り替わるのかについて検討し、第3章の日中バイリンガルの会話データの分析に理論的枠組みを提供することがこの部分の目的である。次に、言語知識の記憶形式について、記憶研究の視点から論じてきた先行研究を概観し、母語獲得と第2言語習得における言語記憶システムの特徴について検討する。これらの検討を通じて、バイリンガルのCS使用を支える言語記憶システムの特徴について把握し、第4章の実証分析に役立てることがこの部分の目的である。

第3章では、日中バイリンガルの日常会話におけるCS使用に関するデータ分析を行う。具体的には、CS使用実態に迫るために、彼らの中国語を基盤とする日常会話を録音し、収集された談話資料に現れたCS発話を観察する。本章では、まず、第2章で検討したCS使用の談話的機能と文法的形態に基づき、会話データの分析枠組みを示す。その上で、日中バイリンガル同士の会話データを用いて、母語から学習言語への切り替えはどのような談話的機能及び形態的特徴を持っているのかについて分析する。

第4章では、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題という3つの言語課題の実験を用いて、第2章で議論したバイリンガルの言語記憶システムを検証し、第3章で明らかにしたCS使用の特徴を引き起こす心理言語学的な要因について検討する。具体的には、意味要素領域の特性に焦点を当て、日中バイリンガルに語彙近接性ランキング課題を用いて、2言語形式に対応する意味要素の記憶方法に影響する要因について考察する。そして、日中バイリンガルを対象に、翻訳課題と絵命名課題を実施し、E-Prime 2.0という心理学的実験ソフトウェアで実験参加者の反応時間を計測することで、バイリンガルの言

語記憶システムにおける言語形式と意味情報との結びつき方について検討する。最後に、バイリンガルの言語記憶システムの特性について、この3つの言語課題に基づいて考察し、CS使用を支える言語産出モデルの構築への示唆を与える。

第5章では、言語情報処理の仕組みに関する心理言語学と神経科学研究を踏まえて、第4章で提案したバイリンガルの言語産出モデルの心理的実在性を考察したうえで、バイリンガルの言語処理システムと脳内メカニズムを明らかにすることが目的である。まず、心理言語学の先行研究に基づき、人間の言語産出プロセスに関して、特にバイリンガル話者の特性が顕著に見られる言語処理システムに焦点を当てて検討する。また、神経科学研究から得られた知見を踏まえて、言語処理システムに関連する脳内メカニズムについて探索していく。最後に、バイリンガルにおける2言語産出の特性と脳内処理システムに関して考察する。このことを通じて、バイリンガルの2言語使用現象の根本的解明を目指す。

終章では、本研究のまとめと今後の研究課題について述べる。

第1章 バイリンガリズム研究の基礎

バイリンガルを対象とする先行研究では、言語のみならず、社会、教育、認知、心理など多様な要素との関わりでバイリンガルを論じている。本章では、まず、バイリンガルとは何かという問題を取り上げ、バイリンガルの定義を検討する。そして、言語の習得時期、社会的位置付け、言語能力など多様な観点からバイリンガルの分類に関する先行研究を検討し、本研究の研究対象とする日中バイリンガルの具体像を提示する。次に、社会言語学、応用言語学、心理言語学、神経言語学という4つの視点から行われたバイリンガリズム研究を概観する。これらを通して、バイリンガリズム研究の実態と全体像を明らかにし、本研究の位置づけを明確にすることがこの第1章の目的となる。また、これら既存の研究を概観することを通して、第2章におけるバイリンガル話者の2言語使用と2言語知識の記憶システムに関する理論的検討に向けた準備を行う

1 バイリンガルとは

1.1 バイリンガルの定義

序章で記述したように、現在のグローバル化社会では、1つの言語しか話さないモノリンガルは少数派であり、2つあるいは2つ以上の言語を使用する能力を持つようなバイリンガルが主流派である。では、バイリンガルは一体どのような存在であろうか。言語接触を議論した Weinreich (1967) は、2つの言語を相互に使用することをバイリンガリズム、それに関与する者をバイリンガルと呼んでいる。しかしながら、バイリンガルを明確に定義することはさほど容易ではない。なぜなら、2つの言語を操るということに関して、言語習得時期、2言語能力、言語使用環境など多様な問題があるからである。これらの要素をどのように判定するのかは、バイリンガルを定義するうえで考慮せねばならない問題だと考えられる。また、バイリンガリズムの研究分野において、バイリンガルを定義する際に、常に取り上げられる基準として、2言語の運用能力と社会的な言語機能という2つの側面がある。まず、両言語がどの程度使用されているのかという2言語能力の側面からバイリンガルを定義した研究として、Bloomfield (1935)、Haugen (1953)、Macnamara (1967) などの先行研究をあげることができる。まず、Bloomfield (1935) では、バイリンガルとは両言語を母語話者レベルで操ることができる人のことを指している。つまり、Bloomfield (1935) は、2つの言語の間に能力の差がなく、両方とも母語話者のように完璧にコントロールできる人をバイリンガルと見なす。彼のバイリンガルに関する定義は非

常に狭いものになってしまうおそれがあると、その後のバイリンガリズム研究（山本，1991；李，2002）が批判している。それに対し、Haugen（1953）は、バイリンガルは別の言語を用いて完結した意味のある発話ができる人のことを指す、としている。つまり、Haugen の定義では、“How are you”、“Good morning”などのような簡単な挨拶ができる人であれば、バイリンガルと見なされる。そのため、彼の定義は非常に範囲が広いものだと考えられる（マーハ・八代，1991；東，2000）。その他に、Macnamara（1967）は言語技能のレベルに着目し、4 技能（聞く、話す、読む、書く）の中に少なくとも1つができる人をバイリンガルとして捉え、より具体的な定義基準をもとに折衷的な定義を提示した。上記の3つの定義はいずれも言語能力の観点からバイリンガルを捉え、その後のバイリンガリズム研究においてよく引用されるものである。

しかしながら、上記のいずれの定義にも不十分な点が残る。その理由として、彼らの定義では、2つの言語がバイリンガルの言語活動にどのような機能を果たしているのかという点が考慮されていないからである。2言語で社会的活動を営むバイリンガルにおいて、2つの言語は異なる場面で使用され、異なるコミュニケーション機能を持っている。そのため、バイリンガルの定義を考える際に、もう1つ重要な糸口として、言語が果たす機能という点を無視してはならない。そこで、2つの言語の社会的機能に注目し、バイリンガルを定義した研究として、Benson（1987）をあげることができる。彼によると、バイリンガルは2言語を同程度に運用できることではなく、社会的ネットワークの中で機能できる程度に第2言語を運用できる人々のことである。即ち、Benson（1987）のバイリンガルに関する定義は、2つの言語がバイリンガルの日常的な社会活動においてどの程度機能するかという観点から捉えるものとして評価される。しかしながら、Benson の定義において「社会的ネットワークの中で機能する程度」という表現には曖昧さが残り、これについてより明確に検討する必要がある。この点に関して、第2言語が母語話者以外の社会的ネットワークで機能するということを、「直接的に機能する」と「間接的に機能する」という2つの状況に区分する必要があると筆者は考えている。「直接的に機能する」とは、第2言語の国での長期滞在や、あるいは短期旅行などで、その言語を母語とする話者と実際に付き合うことを通じて、身をもって第2言語で社会活動に参加することである。一方で、「間接的に機能する」とは、新聞、テレビなどのマスメディアを媒介として、第2言語の社会活動に間接的に参与することである。もちろん、このような社会的ネットワークの中で機能する2種類の状況において要求される話者の第2言語の能力も異なっている。

以上、バイリンガルとは何かということについて、言語能力と言語の社会的機能という 2 つの側面から見てきた。バイリンガルの定義について議論した先行研究では、2 つの言語能力を有する人がバイリンガルとみなされる、社会的言語活動との関わりでバイリンガルが定義されてきた。しかしながら、実際に活躍しているバイリンガル話者において、個人状況によってバイリンガル化された程度も異なってくる。即ち、同じバイリンガルと呼ばれても、その実態が 2 言語の習得時期、習得状況、言語の運用能力など、多様な要因によって変わってくる可能性が十分にあると考えられる。つまり、バイリンガルは静的なものではなく、動的な概念である。まさにマーハ・八代 (1991) が指摘しているように、バイリンガルの実態が Haugen の定義を起点として、Boolmfield の定義を到達点とするように変化している。それゆえ、今後バイリンガルを捉える際に、バイリンガル話者に関わる多様な要素を考慮しつつ、研究目的や研究内容に応じてバイリンガルの定義と分類を慎重に考えていく必要がある。また、バイリンガルに関する分類とその影響要因については、後で詳しくみていくようにさまざまな観点から説明されている。

1.2 バイリンガルの分類

上で議論したように、バイリンガルといっても、その定義は 2 言語の運用能力、2 言語の社会的機能など様々な要素によって変わってくる。したがって、バイリンガリズムに関する研究に携わる際に、バイリンガルに関わる多様な形態を念頭に置き、その定義と分類を慎重に考えることが重要である。ここでは、バイリンガルの形態に影響する要因について論じた先行研究を概観し、バイリンガルに関する分類を整理していく。以下では、2 言語の習得時期、話者の言語能力と 2 言語の社会的位置付けという 3 つの観点から、バイリンガルの分類について検討する。

1.2.1 言語の習得時期による分類

まず、バイリンガリズム研究において、多くの先行研究が 2 つの言語の習得時期という側面に注目し、バイリンガルを同時バイリンガルと継続バイリンガルに分けている (山本, 1991 ; De Houwer, 2009 ; 久津木, 2006)。同時バイリンガルとは、言語発達のかかなり早い時期から 2 言語ともに接する環境に置かれ、同時に 2 言語を習得することができる人々のことを指している。一方で、継続バイリンガルは、第 1 言語 (以下 L1 と略す) がある程度習得された後に、第 2 言語 (以下 L2 と略す) を学習し始める人達のことを指してい

る。この2種類のバイリンガルは、言語発達段階において、2つの言語をいつから習得し始めるのかということによって、異なる特徴を持っている。2つの言語の習得が並行している同時バイリンガルにおいては、2言語の習得順序に前後がないため、2つの言語をL1とL2として区別しない(Swain, 1972)。例えば、国際的な家庭環境で生まれた子供達は、生後間もなくから2つの言語をいずれもL1として習得していく。このように、言語発達の早い段階から2つの言語と接触できる同時バイリンガルの場合には、2言語を自然な言語環境で習得するため、2つの言語とも高いレベルに上達しやすい(Cummins & 中島, 1985; 小野, 1989)。それに対し、継続バイリンガルの場合に、L1がある程度習得された後に、L2との接触が始まるため、L2の習得がL1から干渉されやすい(Cook, 1992)。特に、発音の面でL2にL1のなまりが残ることが先行研究で検証されている(Nakada, et al., 2001)。こうした習得時期によってバイリンガルを分類する方法に関しては、習得時期の分け目がどこにあるのかということが重要なポイントになる。同時バイリンガルと継続バイリンガルにおける習得時期の分け目について、これまでバイリンガリズム研究者によって多様な議論が行なわれてきたが、統一見解に達していないのが現状である。たとえば、McLaughlin (1978) で主張された「3歳の境」という知見がよく引用される。McLaughlinによると、3歳以後に、L2の習得を開始する人たちが継続バイリンガルとして捉えられる。McLaughlinの判断基準は1つの目安として使いやすいが、それぞれの子供が置かれている言語環境の差を考慮せずに恣意性が高いものであると山本(1999)が指摘している。De Houwer (2009) では、同時バイリンガルと継続バイリンガルを分ける際に、習得時期において2つの分け目があることを指摘している。彼の研究では、生後から1歳6ヶ月以前にL2を習得し始める人達が同時バイリンガルとしてみなされる。1歳6ヶ月以後に、L2の習得を開始する人達は継続バイリンガルの範疇に入る。また、継続バイリンガルは、4歳を境として早期L2習得と学校教育でのL2習得という2種類に分けられる。同時バイリンガルと継続バイリンガルの分け方について、上述したように、McLaughlin (1978) と De Houwer (2009) という2つの知見があげられるが、いずれもL2習得が年齢的制約を受けるということを強調している。しかしながら、両方とも理論的な妥当性に欠けている恣意的な結論だと考えられる。

ここでは、言語発達に関する神経心理言語学的研究から得た知見を取り入れ、同時バイリンガルと継続バイリンガルの分類基準を再検討していく。井狩(2009)は言語の発達段階を言語準備段階(0歳～生後6ヶ月)、言語発達段階(生後6ヶ月～10歳)と言語成熟

段階（10歳～青年期）という3段階に分けている。彼によると、言語発達から言語成熟までの過程で観察できる質的变化は、3歳と10歳が年齢的切れ目として考えられる。乳幼児は12ヶ月から24ヶ月までの時期において、一語期、二語期、三語期を経て、言語運用の基礎能力を獲得する。この時期の幼児の発話は、場面に依存し、包括的に処理される。3歳頃になって以降、認知能力の発達とともに、語彙、文法などの言語知識が蓄積され、分析的に言語情報を処理する能力が次第に発達してくる。また、10歳頃になると、言語発達段階から言語成熟段階へ、言語の習得方略が質的な変化が起こる。言語成熟段階においては、言語自体に注意を向け、抽象的な思考で言語体系の精緻化と強化を図り、分析的に言語情報を処理することが特徴になる。ここで、言語発達段階と言語成熟段階の分け目を10歳にする根拠として、言語獲得に与える臨界期の影響が考えられる。神経言語学の視点から、言語習得の臨界期は脳の柔軟性と密接に関わっているとされる（Potkowski, 1980 ; Lamendella, 1977）。新生児の脳はあらゆる言語環境に適応する柔軟性を持ち、外部環境との相互作用により、脳内の神経回路を新たに組み立てていく（酒井, 2002）。この段階における言語習得は、脳の両半球をバランスよく使いながら進行していく。しかしながら、脳に備わっている柔軟性は脳の成熟に伴い失われていく。思春期に入ると、左右半球の機能が固定化され、言語情報の処理は分析的処理において優位とされる左半球に偏っていく。そこで、思春期の始まる10代初期を分け目として、言語発達段階と言語成熟段階を区別する。以上の言語の発達段階及び言語習得の臨界期に関する議論に基づき、同時バイリンガルと継続バイリンガルの分類基準について、以下のように考えられる。同時バイリンガルと継続バイリンガルの分け目としては、言語運用能力の基礎を身につける時期である3歳だと考える。また、継続バイリンガルにおいて、敏感期（10歳）の年齢を分け目として考える。3歳から10歳までにL2を習得し始めた場合には「敏感期前L2習得」と呼び、10歳以後にL2との接触が始まった場合には、「敏感期後L2習得」というように区別していく。

1.2.2 話者の言語能力による分類

習得時期以外に、言語能力の観点からバイリンガルを分類した研究（Halliday, 1968 ; Baker, 1996 ; Yip, 2013）も多く見られる。次に、これらの先行研究をもとに、2つの言語がどの程度運用されるのかという観点からバイリンガルの分類について検討する。2言語の運用能力の差異からバイリンガルを分類する際、よく議論されるのは二重バイリン

ガル、均衡バイリンガル、偏重バイリンガルという3つのタイプである。まず、二重バイリンガルとは、両言語とも母語話者レベルで操ることができる人達のことである (Halliday, 1968)。この定義から、二重バイリンガルを満たす条件として、少なくとも2つのことがあげられる。第1に、話者の2言語の使用能力に優劣がないことである。第2に、両言語ともモノリンガルと全く同じように操ることができることである。しかしながら、このような理想的なバイリンガルが実際に存在するかどうかということが疑問である。なぜなら、バイリンガルの言語能力の上達度は2言語の使用場面、インプットの量・質など習得環境の要因と強く関連しているからである (吉川, 2017)。話者がすべての会話場面を2言語で均等に経験するのは、現実には困難である。そのため、2つの言語の能力が両方とも母語話者のレベルに到達し難い。以上のことから、二重バイリンガルは両言語とも完璧に操るバイリンガルの理想像に過ぎないとも言える。その一方で、二重バイリンガルと比べて、均衡バイリンガルの方は現実に存在する。均衡バイリンガルとは、バイリンガル自身が持っている2つの言語の能力がほぼ均等である人達のことを指す。先ほどの二重バイリンガルと異なる点は、均衡バイリンガルは2言語をバランスよく使えるが、両言語とも母語話者のように堪能である必要はない。均衡バイリンガルの2言語能力について、Baker (1996) では、話者が2つの言語をすべての場面で同等の能力で使える必要はない、異なった目的と機能に応じて2つの言語を使い分けることができれば、均衡バイリンガルと考えられるとしている。例えば、多言語社会で生活するバイリンガル達は使用場面、相手、話題によって2つの言語を使い分ける。ビジネスや会議などフォーマルな場面には一方の言語を使い、家族や友人と話すインフォーマルな場面にはもう一方の言語を使うことが一般的である。このことによって、2言語の運用能力がモノリンガル母語話者レベルまで上達しなくても、それぞれの使用場面に対応できる各言語の得意領域を持つという条件を満たせば、均衡バイリンガルとして考えられる。また、均衡バイリンガルに対して、2つの言語能力の間に差がある人達が偏重バイリンガルと呼ばれる。偏重バイリンガルの場合、2つの言語が能力の優劣により、優勢言語と非優勢言語に区別される (小柳, 2004 ; 山本, 2014a)。これらの2つの概念は Cummins (1986) によって提唱された。Cummins (1986) によると、バイリンガルの2言語能力は天秤の両端に置かれるもののように、一方の言語が優勢になると、もう一方は劣勢になると考えられる。例えば、成人以後に学校教育を通して、日本語を学ぶ中国人日本語学習者にとっては、中国語が母語として流暢に操れる優勢言語であり、一方、日本語が非優勢言語である。

以上に議論したように、3つのタイプのバイリンガルの中で、バイリンガルの理想像である二重バイリンガルは現実にはほとんどいない。そして、2言語能力でバランスがよくとれている均衡バイリンガルに到達することも容易ではない。現実には、2言語の能力にある程度の能力差を持つ偏重バイリンガルの方が多数派である。一般には、習得時期の影響で、思春期の前にL2を習得する場合には、両言語とも堪能になる均衡バイリンガルになれる可能性が高い (Patkowski, 1980 ; Johnson & Newport, 1989)。しかしながら、均衡バイリンガルと偏重バイリンガルの区別が白黒の対立的な関係ではなく、話者の2言語の習熟状態に応じて、バイリンガルが均衡バイリンガルと偏重バイリンガルとの間に変換する可能性がある。このことは、心理言語学における脳の可塑性が言語習得に及ぼす影響に関する考察からも示唆されている。言語習得に関わる脳の可塑性について、移民の子供の音韻習得を調査した実証研究 (Asher & Garcia, 1969 ; Oyama, 1976) を挙げることができる。これらの研究の結果から、移民の子供達の発音習得が移住年齢と強く関連していることが明らかにされ、子供の言語習得における脳の可塑性が年齢と密接に関連することが示唆される。そして、言語習得における脳の可塑性について、ヘンシュ (2003) は有力な知見を提示した。彼によると、言語習得に関わる脳の可塑性は、形態的可塑性と機能的可塑性に区分することができる。井狩 (2009) は、形態的可塑性が音声のような言語の最も基礎になる部分の獲得に関わっている一方で、機能的可塑性は文法、表現など高次の言語処理に関わっているということを指摘した。また、彼は、機能的可塑性より形態的可塑性の方が年齢的制約を受けやすいと考えている。例えば、思春期以降に外国語を学ぶ言語学習者において、外国語で学術論文を読む、書くなど高次的な言語活動はできても、母国語の訛りが残ることがよく知られた事実である。このことから、第2言語習得において、高次的な言語活動を支える語彙、文法の習得は年齢的制約を受け難いと考えられる。つまり、成人以後に2つ目の言語を学び始める外国語学習者の場合にも、良質な言語学習・使用環境を確保できれば、2言語をかなり堪能に操れる均衡バイリンガルになる可能性がないわけではない。一方、早い年齢で第2言語習得を始めても、言語使用の機会の減少により、言語能力の衰弱あるいは喪失に至ることがある。これは、バイリンガル子供の言語保持と喪失について考察したバイリンガリズム研究 (小池, 1989 ; 田浦, 2012) からわかったことである。以上の議論から、2言語の能力の優劣による区分された多種類のバイリンガルは、互いに流動的な概念である。

1.2.3 言語の社会的位置付けによる分類

最後に、社会環境における2言語の位置付けという立場からバイリンガルを分類する先行研究を検討する。言語と社会の関係性に焦点を当てた社会言語学的な研究において、言語は複雑な使用場面によって異なった社会的機能を果たすと考えられる (Ferguson, 1959 ; Fishman, 1971 ; 東, 2011)。東 (2011) によると、話者が生活している社会では、政治的・経済的な側面から、その社会にある各言語の社会的価値が評価される。その中には、政治的・経済的に勢力の強い言語集団が操る言語は、高い社会的価値を有する言語とみなされる。山本 (2014a) では、このような2言語の社会的権威を基準として、バイリンガルを主流派バイリンガルと少数派バイリンガルに分類している。主流派バイリンガルの場合、生後に第1言語として習得された母語が、主流派の言語集団に使用され、社会環境の中で権威が高い言語とみなされる。例えば、中国の教育機関で日本語を外国語として学ぶ中国人学習者らは主流派バイリンガルである。一方、少数派バイリンガルとは、社会環境における少数派言語を母語として、主流派言語を第2言語として習得する人たちを指す (山本, 2014a)。例えば、日本に移民した在日中国人、在日韓国人が少数派バイリンガルとみなされる。特に、移民先で生まれ育った少数派バイリンガルにとっては、社会的に権威の低い母語の保持は困難になる (Yamamoto, 2002, 2005)。それと同時に、母語の習得環境と社会的位置付けは、バイリンガル話者の言語運用能力、習得状況だけではなく、個人のアイデンティティや社会的価値観など認知的システムの構築と密接に関連している (岡崎, 2009 ; 川上, 2014 ; 福永, 2017)。そのため、バイリンガルを対象とした研究に携わる際に、2つの言語の社会的位置付けと使用環境を慎重に考慮することが重要であるとも言える。

1.3 本研究で取り上げるバイリンガル

上記では、習得時期、言語能力及び言語の社会的位置付けという3つの観点からバイリンガルを分類した先行研究を概観し、多様なタイプのバイリンガルの特徴について検討してきた。ここでは、本研究で取り上げるバイリンガルの具体像を紹介する。本研究では、中国語と日本語の両言語ともに堪能である日中バイリンガルを対象に、彼らの2言語使用状況と言語処理システムについて観察する。そして、前述したバイリンガルに関する3つの分類基準をもとに、本研究で取り上げる日中バイリンガルの特徴を表1-1のようにまとめてみた。

表 1-1 本研究で取りあげる日中バイリンガルの特徴

本論文での研究対象	言語能力	習得時期	母語の社会的位置付け
在日中国人留学生 (JSL学習者)	継続バイリンガル (敏感期後)	偏重バイリンガル	主流派バイリンガル⇔少数派 バイリンガル
在中日本語学習者 (JFL学習者)	継続バイリンガル (敏感期後)	偏重バイリンガル	主流派バイリンガル

表 1-1 が示しているように、本研究では、在日中国人留学生、在中日本語学習者、という 2 種類の日中バイリンガルを研究対象にしている。まず、習得時期から見ると、在日中国人留学生と在中日本語学習者の 2 つのグループとも、敏感期以後に日本語を 2 つ目の言語として習得する敏感期後の継続バイリンガルである。そして、言語能力から見ると、成人以後に言語教育機関で正規的な言語指導を受けた在日中国人留学生と在中日本語学習者において、日本語能力が中国語より劣り、日本語母語話者の能力レベルには到達していない偏重バイリンガルである。社会生活で自然に日本語を習得する在日中国人留学生の場合には、第 2 言語の運用能力が母語話者のように完璧に上達しなくても、多様な日常生活場面に対応できる、より自然で高いレベルまで習得されている。母語の社会的位置付けのもとに 2 種類の日中バイリンガルの特徴を見ていくと、中国の日本語教育機関で日本語を学習する在中日本語学習者は主流派バイリンガルである。在日中国人留学生の場合には、中国で日本語を学習する際に、主流派バイリンガルとみなされ、日本に留学してきた後、母語が社会的権威の低い少数派言語とみなされ、少数派バイリンガルとなる。

本研究では、上で紹介した 2 種類の日中バイリンガル話者を対象として、彼らの日常会話で行われる 2 言語の切り替え使用現象に注目し、そこで観察された機能的及び形態的特徴を観察していく。そして、心理言語学の視点から日中バイリンガル話者の 2 言語切り替え使用に関わる 2 言語の記憶システム、認知的メカニズムについて考察する。同時に、言語機能を支える脳内メカニズムに関する神経科学的研究をもとに、日中バイリンガルの 2 言語使用に関連する脳内神経基盤を検討し、2 言語の切り替え使用現象を引き起こす根本的な原因を解明していく。

2 バイリンガリズムに関わる研究分野

序章でも述べたように、従来のバイリンガリズム研究においては、バイリンガルに関する分析的視点が多様である。以下では、社会言語学、応用言語学、心理言語学、神経言語学など幅広い観点から行われたバイリンガリズムに関わる先行研究を検討する。このことを通じて、バイリンガリズム研究の実態を把握し、本研究の位置付けを明らかにすること

がこの第2節の目的である。

2.1 社会言語学からみたバイリンガリズム研究

前述したように、言語習得、言語使用などすべての言語活動は社会的環境をベースにして行われる。そのため、言語研究が社会から切り離されることは不可能である。そして、社会言語学の研究分野では、言語と社会の相互関係に焦点を当てて研究が行われてきた。また、社会言語学の研究分野において、マクロ的視点とミクロ的視点という2つの研究アプローチがある（マーハ・八代，1991；東，2011）。マクロ的視点とは、言語を取り巻く周りの社会から多言語使用の全体像を明らかにするものである。マーハ・八代（1991）はこのような言語使用の全体像を見る研究が「言語の社会学」と呼ばれるべきだと指摘する。一方、ミクロ的視点とは、個々の言語現象、言語使用個体を対象に、各言語の使用実態や言語機能に注目するものである。ここでは、マクロとミクロの両方の視点から、バイリンガリズムについて論じた社会言語学分野の先行研究を概観し、多言語社会におけるバイリンガルと社会、政治、民族などの社会的要素との関係について検討する。特に、本研究との関わりで、日本社会における多文化共生とバイリンガル話者の言語使用という2つの問題を中心に見ていきたい。

2.1.1 マクロ的視点からのバイリンガリズム研究

社会言語学の分野において、マクロの視点からバイリンガリズムの形態を考察した研究として、Appel & Muysken（1987）をあげることができる。彼らは、バイリンガル社会を、2つの言語集団がどのような関係で共存するのかという観点から以下の3形態に区分した。(1) 植民地化された社会のような2つのモノリンガル集団が共存する社会 (2) アフリカ諸国のような構成員全員がバイリンガルである社会 (3) 少数民族集団を含む中国のようなモノリンガル集団とバイリンガル集団が共存する社会。そして、山本（1991）によると、現在の日本社会は、在日外国人、帰国子女、少数民族など、多様で潜在的なバイリンガル集団が共存し、上記の(3)のバイリンガル社会になったと考えられる。ここでは、日本のバイリンガリズムに焦点を当てて、日本社会における言語のバリエーションと言語政策について論じてきた先行研究を概観し、マクロ的視点から日本社会の多言語・多文化共生について検討する。

日本では日本語だけで十分機能できるため、日本社会は言語的に単一化傾向を持つ社会

だと考えられやすい。しかしながら、現在の日本社会では、少数民族、在日外国人、帰国子女など多様なバイリンガル・コミュニティが共存している状態である。即ち、日本社会は日本語を主流言語として、その周辺に複数の少数言語集団が存在している多言語社会であることをあらためて認識していく必要がある。

まず、日本において、北海道北部のアイヌ民族、琉球列島の琉球民族などの少数民族集団が昔から日本列島に在住し続けてきた。換言すれば、日本の多民族社会は昔からすでに形成されていたということである。単一民族単一文化主義という思想からの影響で、従来の日本政府は、少数民族集団に対する分離政策と同化政策を打ち出し、これらの少数民族を弾圧してきた（マーハ、1991）。その結果として、現在の日本社会において、少数民族が同化されて、民族間の差がほとんどなくなっている。藤村（1985）によると、アイヌ語を母語とする話者は30人程度しかおらず、ほぼ全員が80代の人たちである。現在、アイヌ語の母語話者はほぼ滅亡に近い状態と言える¹。そして、マーハ（1991）によると、現在の日本社会では、アイヌ民族及びその言語の地位に関する政治活動や言語復活活動が活性化している²。少数民族の文化と言語を保存することに対して、日本政府と民間機関が高い関心を持って、努力していることがわかる。

次に、近年、日本の経済力、文化水準が向上するとともに、世界の国々からやって来る外国人が年々増加している。先述したように、法務省の在日外国人の統計データによると、2016年12月末までに、日本に在住している外国人数は291万人を超え、日本総人口の3%近くを占めている。その中で、永住者のような日本に長期的に滞在、定住している人数が140万人以上にのぼり、在日外国人総数の半分近くを占めている³。そして、在日外国人を国籍別に見れば、中国や韓国などアジア諸国をはじめ、ヨーロッパ、アフリカ、北米、南米、オセアニアなどのような多様な国籍の外国人によって構成されている。その中で、中国語を母語とする在日中国人が84万人以上にのぼり、外国人登録者数の第1位を占め、他地域からの外国人数を圧倒的に上回っている。そして、在日中国人の次に、在日韓国人が527077人、在日フィリピン人が271969人、在日ベトナム人が203653人、在日ブラジル人が183583人で、在日外国人登録者数の上位5位をそれぞれ占めている。このよう

¹多言語社会において、政府によって制定、提案された言語政策が少数民族の存続や少数言語の消滅に大きく影響を与える（マーハ、1991）。

²アイヌ語を保存するために、1899年の『アイヌ民族に関する法律』では、小学校においてアイヌ語も併用されることが日本政府によって認可された（マーハ、1991）。そして、アイヌ語を復活するために、『アイヌ語会話-初級編』や『やさしいアイヌ語 I』などの教材も開発されてきた。

³その中で、永住者が727111人、特別永住者が338950人、定住者が168830人、日本人の配偶者が139327人、永住者の配偶者が30927人である。

な社会背景の下、日本における少数言語集団の諸相について論じてきた先行研究においても、在日韓国人、在日ブラジル人、在日中国人を研究対象として考察したものが圧倒的に多い。これらの研究はミクロ的視点から各言語集団の言語使用について論じてきたものであり、それらの研究については後で再度詳細に検討する。

また、マクロ的なバイリンガリズム研究において、言語政策が重要な課題として論じられてきた。言語政策に関して、亀井（1996）では、国家、政党、種々の圧力団体や報道機関などが、言語の自然な発展過程を意識的に変動させようとする行動だと定義している。また、多言語社会における言語政策の内容について、豊田（1964）は表 1-2 が示すように対外的政策、対内的政策、文化的政策という 3 つの種類に区分している。

表 1-2 多言語社会における言語政策

言語政策の3つのパターン	具体的な政策内容
対外的言語政策	少数民族語対策、 国家公用語対策、 言語教育調整、 2言語併用地域対策、 民族政策など
対内的言語政策	文字言語対策、 音声言語対策、 語彙対策、 教育対策など
文化的言語政策	国語の国外普及対策、 外国語教育、 研究対策など

（豊田,1964 に基づき筆者が作成）

即ち、言語政策に関する先行研究は、多言語社会における公用語の普及、言語教育の使用言語、少数言語集団の言語などを行政的にどのように捉えるのかという問題について論じてきた。例えば、日本の場合には、アイヌ民族や琉球民族などの少数民族集団に対する同化政策や言語復旧活動は、対外的言語政策と考えられる。そして、漢字の数、仮名遣い、カタカナ語など文字表記の分野での取り組み問題が対内的言語政策の一部分と考えられる。そして、在日外国人に対する言語教育対策、生活支援、情報提供が文化的政策に当てはまる。特に、以上に挙げてきた在日外国人数に関する統計データから、現在の日本社会では、在日外国人のような少数言語集団が莫大な人数に登るため、多言語・多文化が共生できる日本社会を構築することが要求される（西原，2010，福永，2017）。多文化共生の日本社会を構築するために日本政府や各自治体などが取り組んでいる在日外国人に対する言語政策について、数多くの研究がなされてきた（文化庁，1998；田尻，2010；宮崎，2009）。例えば、田尻（2010）によると、在日外国人の問題に対して、内閣官房、内閣府、文部科学省、文化庁、経済産業省、法務省、外務省など 11 の行政機関が関わっている。そして、

在日外国人関連の言語政策と関わる省庁としては、外国人に対する日本語教育全般、留学生の初等・中等教育における日本語教育などの問題を取り扱う文化庁と文部科学省があげられる。また、在日外国人の日本語習得、生活を支援するために、日本語ボランティア活動や地域日本語教室など民間活動が各地域で盛んに行なわれている（総務省，2006；文化庁，2015；森本，2001）。

2.1.2 ミクロ的視点からのバイリンガリズム研究

バイリンガリズム研究において、社会や国などマクロな視点から言語使用の全体図を見たもの以外に、バイリンガル話者の特徴や各言語現象そのものに注目するミクロ的な視点からみた研究もある。次に、こうしたミクロ的視点からバイリンガルの個人的な言語使用を分析する先行研究を概観していく。特に、ここでは、日本でのバイリンガリズムに焦点を当て、主に在日外国人の言語生活及び国際結婚家庭の子供の言語選択という2つの問題を扱う先行研究を見ていく。

まず、日本社会における言語接触について論じてきた先行研究を概観し、日本における少数言語集団の言語使用について検討する。前述したように、在日外国人の言語生活について論じてきた研究において、在日韓国人（任，1993；生越，1991，2005；金，1998；真田他，2005；朴，2016）、在日ブラジル人（工藤，2004；ナカミズ，1997，2003；重松，2012）、在日中国人（沈，1991；朱，1999；陳，2005；王，2004，2005，2009）を研究対象として考察したものが圧倒的に多い。これらの研究では、日本に移住した外国人の言語使用について文化適応、対人ネットワーク、個人的アイデンティティなどの観点から論じられてきた。特に、真田他（2005）によると、これらの在日外国人の言語使用について、在日韓国人を対象にするものが最も多い。例えば、任（1993）、金（1998）、生越（2005）では、在日韓国人の言語生活の実態を全体的に考察した。生越（2005）は425名の在日韓国人を対象にアンケート調査を実施し、彼らの言語使用状況・意識の変化について考察を行った。彼によると、在日韓国人の日常使用言語は話者の出生地、親の出生地及び将来の住居地と強く関連している。具体的に、韓国生まれの在日1世は韓国語をよく使っている一方で、日本生まれの在日2世は日本語中心で生活を送っている傾向が見られる。そして、黄（1994）、金（2003）、郭（2006）はコード切り替えの視点から在日韓国人の2言語運用の特徴を考察した。任（2006）は韓国語、韓国文化に影響された在日韓国人の独特なコミュニケーション・スタイルについて分析を行った。また、在日韓国人の2言語使用にお

いて現れている具体的な文法項目の特徴について分析した研究もある（金庭，2003；金，2006）。

また、在日韓国人の言語使用を観察する研究と比べ、在日外国人の中に最も人数が多い在日中国人を対象とする研究がそれほど多くない、と渋谷（2010）は指摘している。中国籍の移民コミュニティの言語使用や言語意識などに注目する研究では、沈（1991）、朱（1999）、陳（2005）、王（2004，2005，2009）などがある。その中で、王（2005）は1世から4世までの在日中国人163名を対象に、彼らの言語使用、言語能力と言語意識の変化に注目し、実態調査を実施した。その結果として、在日1世は高度な中国語能力を維持し、2世以降の世代は中国語能力が衰退し、民族語意識が希薄化しつつあるということがわかった。また、成人後に来日した中国人留学生（460名）の2言語使用実態について分析を行った王（2004）は「相手の国籍」、「相手の言語」、「相手との親疎」、「上下関係」、「話題」、「話す立場」、「日本人傍聴者の有無」、「傍聴者との親疎」などの要因が中国人留学生の2言語使い分けに影響を及ぼすと指摘している。さらに、王（2009）は王（2004）の分析を踏まえ、在日中国人留学生の言語使用における言語意識と言語能力の働きについて考察を行った。その結果として、日本語好感度と日本語能力が日本語使用に影響を与えることが明らかになった。また、在日外国人の言語生活に関する研究において、在日ブラジル人や在日パキスタン人を研究対象とするものもある（工藤，2004；ナカミズ，1997；重松，2012；福永，2015）。以上の研究の考察から、在日外国人の言語使用が来日時期の年齢、滞在期間、民族語に対する態度など様々な要因と関わることが分かった。

次に、国際結婚家庭の子供の言語使用について論じてきた研究を踏まえ、バイリンガルの言語選択に関わる要因について検討する。ここでは、国際結婚家庭の子供の言語使用と言語選択に関して、一連の実態調査を実施した山本の研究（Yamamoto，2001，2002，2005；山本，2010，2013，2014b）を踏まえながら、検討していく。例えば、山本（2010）では国際結婚家族の言語選択・使用の可能な形態として、表1-3のように9つの組み合わせを想定した。

表 1-3 国際結婚家族の言語選択モデル

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
話者1	A	B	A	B	A	A+B	B	A+B	A+B
話者2	A	B	B	A	A+B	A	A+B	B	A+B

（山本，2010，p.199より引用）

そして、山本 (2014b) は日本語-英語異言語間家族、日本語-フィリピン異言語間家族、日本語-英語以外の非日本語異言語間家族という 3 種類の国際結婚家族の言語使用実態に関して以下のように考察した。彼によると、日本語-英語異言語間家族では英語が選択・使用される一方で、日本語-フィリピン異言語間家族、日本語-英語以外の非日本語異言語間家族では、日本語が選択・使用されることが圧倒的に多い。それは、現在の日本社会において、フィリピン語などと比べて、英語が世界的に通用語で、社会的地位が高い言語とみなされるからである。また、山本 (2014b) は、異言語間家族の言語使用実態に影響する要因として、家族メンバーの言語能力、言語や文化に対する意識、子供の言語環境を含む家族に関わる要因群と、言語の社会的権威を含む社会に関わる要因をあげている。まず、子供の言語習得・言語使用にとって、家族が最初の場を提供するような役割を果たしている。そのため、家族メンバーの言語能力と言語意識が子供の言語使用と言語能力を決める重要な要因である。即ち、子供は家族メンバーとコミュニケーションする際に、家族の言語環境をもとに、使用言語を決定する。また、家族メンバーの言語能力と言語意識は社会的な生活経験の中で形成されている。そのため、子供の言語選択と言語使用があくまで社会的な要因によって影響される。例えば、国際結婚家庭で育てられた子供達は、言語習得の早期段階から両言語に接触する機会に恵まれ、両言語とも完璧に話せる均衡バイリンガルと思われやすい。実際には、国際結婚の子供が必ずしもバイリンガルの成功例になれるわけではないと小野 (1994) は考えている。Kasjan (2004) によると、バイリンガル習得が成功するには、バイリンガル言語習得に対する肯定的な環境と、子供の弱い言語が肯定的に評価される社会的環境という 2 つの条件が必要である。即ち、バイリンガル児の言語習得が、家庭使用言語より、生活している社会の主流言語から強く影響されるからである。以上のように、個人的な言語能力の発達と言語使用は社会的な言語環境と密接に関連していることが示唆される。

2.2 応用言語学からみたバイリンガリズム研究

上では、社会言語学の視点から論じた日本のバイリンガリズム研究を、マクロ的視点とミクロ的視点から整理し、日本社会における多言語共生とバイリンガル話者の言語使用について考察した。続いて、応用言語学の観点からバイリンガル話者をどのように養成するのかについて論じたバイリンガル教育分野の先行研究を概観する。

2.2.1 バイリンガル教育の理論的基盤

モノリンガルの育成とバイリンガルの育成にせよ、学校教育は言語能力の発達と認知能力の発達という2つのポイントに焦点を当てて行われる。しかしながら、モノリンガルと比べて、2言語と接触するバイリンガルには異言語・異文化間の摩擦があるため、その育成はより複雑になる。特に、バイリンガルの発達において、2言語能力と認知能力がどのように影響しあっているのか、また2言語能力がどのような形で存在しているのかを明らかにすることは、バイリンガル教育を考える上で非常に重要な課題だと考えられる。ここでは、バイリンガルにおける2言語能力と認知能力の関係という問題を取り上げ、Cummins (1978) の閾仮説 (Threshold Hypothesis)、Cummins & Swain (1986) の2言語相互依存仮説について論じてきた日本でのバイリンガル教育研究 (Baker, 1996 ; 中島, 1998 ; 山本, 2003) を概観し、バイリンガル教育を支える理論的基盤について検討する。

まず、バイリンガルの2言語が認知能力の発達に及ぼす影響に関して、Cummins (1978) は閾仮説 (Threshold Hypothesis) を提唱した (山本, 2003)。Cummins によると、2言語の習得が子供の認知能力の発達に及ぼす影響は、バイリンガルの到達度によって異なる。

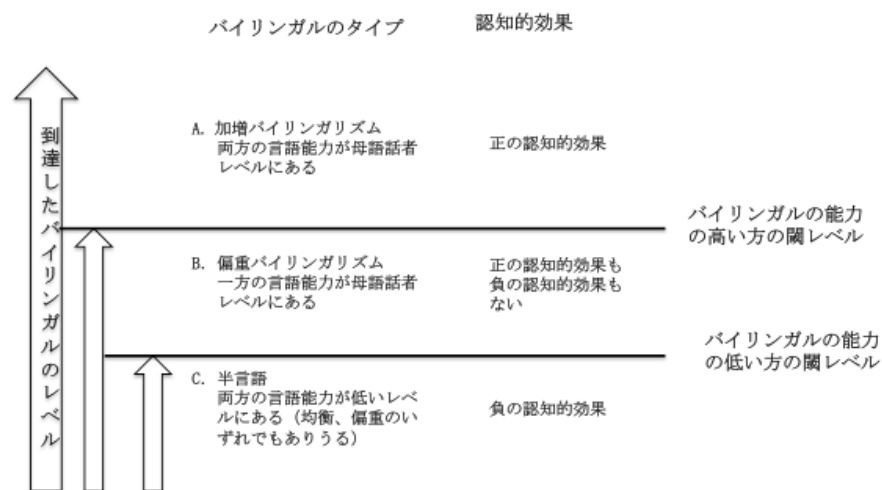


図 1-1 Cummins の閾仮説 (山本, 2003 に基づき筆者が作成)

図 1-1 で示されているように、両言語能力とも低い子供の場合に、2言語習得が認知能力の発達に悪影響をもたらしていることがわかる。それに対し、子供の2言語能力が高いレベルに到達する場合に、正の認知的効果をもたらしている。そして、一方の言語のみ母語話者レベルに到達する場合、2言語は認知の発達に特別な影響を与えない。この

仮説によると、2つの言語を習得させることが必ずしも子供の認知的発達にポジティブな影響を与えるとは言えない。そして、2つの言語能力が両方とも低いレベルに止まっている場合に、2言語習得が子供の認知的発達にマイナスな影響を与えることが考えられる。

上では、バイリンガルの2言語能力が認知発達に与える影響に関する知見を取り上げた。実際には、言語能力と認知能力の関係は一方的なものではなく、双方向で影響しあっているものである。Cummins (1979) は言語活動を行う際に必要となる認知資源の度合いによって、言語能力を基本的対人伝達能力 (Basic Interpersonal Communicative Skills : BICS) と認知・学習言語能力 (Cognitive/Academic Language Proficiency : CALP) という2種類に大別している (Baker, 1996)。彼によると、前者の基本的対人伝達能力とは日常生活で具体的な場面に依存して獲得されるものである。また、後者の認知・学習言語能力とは文脈への依存度が低く、抽象的な思考をする際に働いているものである。つまり、基本的対人伝達能力より認知・学習言語能力の方が、より認知レベルが高い高次的な言語活動である。この知見から、バイリンガルの子供の言語能力と認知能力が互いに影響しあって絡み合いながら発達していくことがわかる。そして、2つの言語能力の発達時期と発達速度の間には大きな差異があると言える。この点について、Skutnabb-Kangas (1984) は、6歳でアメリカに移住した子供達を研究対象に、彼らの2言語における BICS と CALP の発達状況について、図 1-2 のような発達曲線で示している。

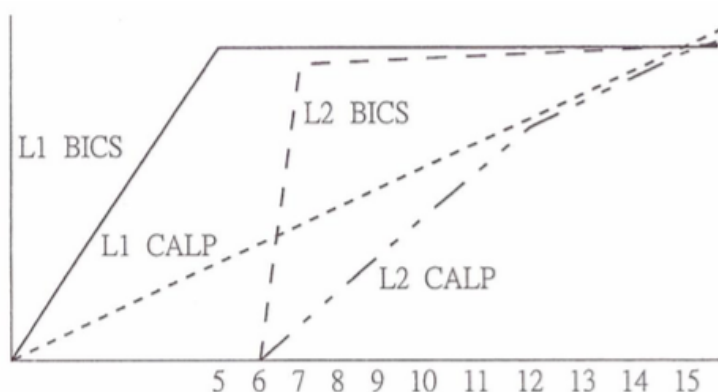


図 1-2 バイリンガルの BICS と CALP の発達曲線 (Skutnabb-Kangas 1984, p.113 より引用)

図 1-2 から、L1 の発達において、CALP と比べて、BICS の方が早く発達することがわかる。具体的には、BICS が 5 歳前後に日常的レベルに上達し、その後も維持されていく。一方で、L2 の発達において、BICS は 1 年前後という短期間でモノリンガルの子どもと同じレベルまで到達できることに對し、CALP は 5 年から 7 年前後という長期間がかかる。

また、BICS と CALP の発達差を考察する際、Cummins (1984) は BICS と CALP という言語能力の 2 分法を修正し、図 1-3 のような 2 つの座標軸を用い、言語活動における認知能力の必要度と文脈依存度によって言語能力を再考察した (Baker, 1996)。

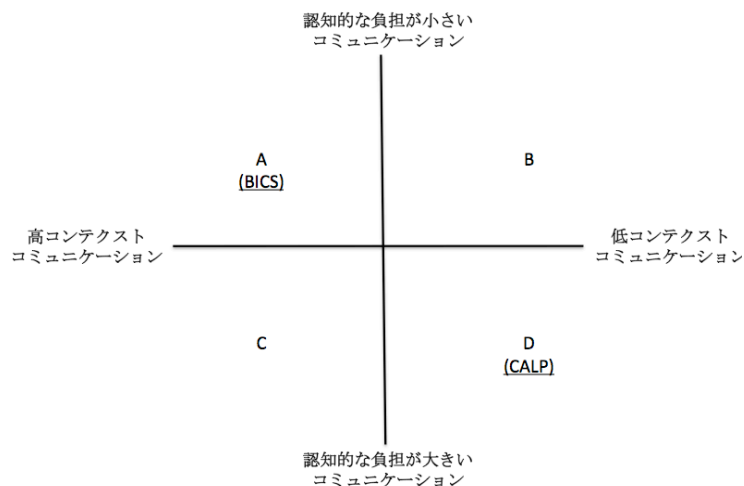


図 1-3 BICS と CALP の発達モデル(Baker, 1996 に基づき筆者が作成)

図 1-3 の横軸は言語活動がどれほど会話場面や文脈に依存するのかを示している。文脈に対する依存度が高い言語活動では、身振りや周りの環境など非言語的な情報を手がかりとしてコミュニケーションする。例えば、飲食店やデパートなど日常生活場面でのコミュニケーションは言葉を交わさなくても、うまく進んでいく。それに対し、文脈依存度が低い言語活動では、場面からの情報が少なく、言語そのものからの情報をもとにコミュニケーションする。縦軸は言語を話す際に、どのぐらいの認知能力を必要とするのかを示している。認知能力が高く必要とされる言語活動は、文脈から切り離された場面で行われたもので、より多くの認知的資源を消費する必要がある。例えば、文章を読むことや論文を書くことでは、抽象的な思考や理論的な考えなどが必要とされ、より大きな認知的な負担がかかる知的な言語活動である。図 1-3 を用いて、言語能力を BICS と CALP に区分する方法を再考する。BICS は文脈への依存度が高く認知能力の必要度が低い、図 1-3 の A の領域に当てはまるものである。一方で、CALP は文脈からの助けが少なく高いレベルの認知能力が必要とされる、図 1-3 の D の領域に当てはまるものである。つまり、BICS は日常的生活場面で自然に発達していくのに対し、認知レベルが高い CALP は学校教育で獲得されるものである。そのため、バイリンガル教育において、BICS を土台にして、CALP の上達に力を入れることが重要である。

また、バイリンガル教育を考える際に、よく取り上げるもう 1 つの理論は Cummins &

Swain (1986) の 2 言語相互依存仮説である。2 言語相互依存仮説はバイリンガルの 2 言語能力と認知能力の関係性を明示的に示している (Baker, 1996)。

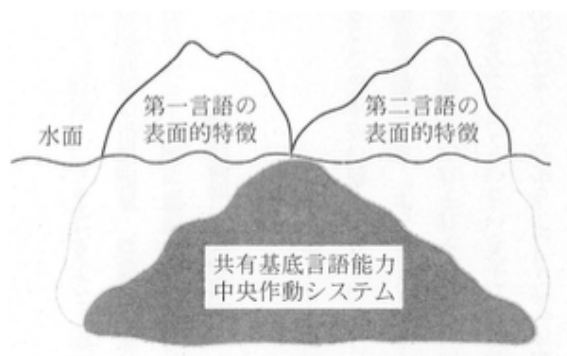


図 1-4 Cummins & Swain の冰山説 (Baker, 1996, p.163 より引用)

図 1-4 に示されているように、2 つの言語は発音や文字など表面的な部分に独自な特徴を有するため、独立に存在するように見えているが、実は 2 言語は思考や認知など深層的部分において共通している。これは 2 つの氷山が水面上では関係なく個別な存在に見えても、水面下では相互に融合しているということと似ているため、「冰山説」とも呼ばれる。Cummins & Swain (1986) の 2 言語相互依存仮説がバイリンガル教育の理論的基盤として広く支持されている。以上に紹介した Cummins の複数の理論は、バイリンガルの言語と認知の関係を明確に解釈すると同時に、実際のバイリンガル教育に有効な理論的枠組みを提供した。Baker (1996) によると、Cummins が提示した 2 言語活動で必要となる認知的負担と文脈依存度に関する考え方は、実際のバイリンガル教育現場でのカリキュラムの設計にも役立つ。つまり、バイリンガルの言語能力と認知能力を議論した Cummins の複数の知見は実際のバイリンガル教育現場に応用でき、実践的な意義を持っているものであると考えられている。

2.2.2 多様なバイリンガル教育

上では、バイリンガル教育を支える理論的枠組みとして、Cummins の理論を概観し、バイリンガルにおける言語と認知の関係について検討した。ここでは、多言語社会におけるバイリンガル教育の形態と実施状況について論じてきたバイリンガル教育研究を概観し、特に、バイリンガル教育の分野で盛んに議論されてきたイマージョン教育と継承言語教育という 2 つの教育形態に焦点を当て、詳しく検討していく。

バイリンガル教育は、経済、文化、政治など幅広い社会的要素に影響され、多様な形態を持っている。Baker (1996) は、生徒の属性、教室での使用言語、教育の目的、言語的

な達成目標という4点を基準として、バイリンガル教育の形態を表1-4で示されるような10種類に大別した。

表1-4 バイリンガル教育の種類

2言語使用に消極的な教育形態				
バイリンガル教育の種類	典型的な生徒	教室で使われる言語	社会、教育が目指すもの	結果として目指す言語的狀態
サブマージョン（構造化されたイマージョン）	少数派言語話者	多数派言語	同化	1言語使用
特別補習クラス（簡易英語）付きのサブマージョン	少数派言語話者	多数派言語 L2の特別補習付き	同化	1言語使用
差別型	少数派言語話者	少数派言語（強制的で、選択の余地なし）	人種差別政策	1言語使用
移行型	少数派言語話者	少数派言語から多数派言語へ移行	同化	どちらかという1言語使用
外国語教育を含む通常の学校教育	少数派言語話者	多数派言語 L2またはFLの授業	豊かにするという点では限定的	限定的な2言語使用
分離型	少数派言語話者	少数派言語（自らの選択による）	分離・自治	限定的な2言語使用
2言語使用や2言語での読み書き能力に積極的な教育形態				
バイリンガル教育の種類	典型的な生徒	教室で使われる言語	社会、教育が目指すもの	結果として目指す言語的狀態
イマージョン	多数派言語話者	最初はL2に重点を置いた2言語使用	複合主義、豊かにすること	2言語使用と2言語での読み書き能力
維持型・相続言語教育	少数派言語話者	L1に重点を置いた2言語使用	言語維持、複合主義、豊かにすること	2言語使用と2言語での読み書き能力
双方向言語教育・2重言語教育	少数派言語話者と多数派言語話者の混合	少数派言語と多数派言語	言語維持、複合主義、豊かにすること	2言語使用と2言語での読み書き能力
主流派バイリンガル教育	多数派言語話者	2つの多数派言語	言語維持、複合主義、豊かにすること	2言語使用と2言語での読み書き能力
注：(1) L2=第2言語；L1=第1言語；FL=外国語				

(Baker, 1996, p.183 より引用)

また、表1-4から見ると、このような多様なバイリンガル教育の背後に隠された教育の目的に関して、少数派言語を抑制する言語同化及び2言語能力を向上させる言語維持という2つの側面に区別できることがわかった。そして、前者の少数派言語を多数派言語集団へ同化させるために実施されたバイリンガル教育は、言語・文化の多様性を抹殺するため、消極的なバイリンガル教育とみなされる。一方、後者のアイデンティティの維持や文化理解を促進するために行われたバイリンガル教育は積極的なバイリンガル教育であると考えられる（Baker, 1996）。消極的なバイリンガル教育の典型的な例として、サブマージョン式バイリンガル教育⁴と移行型バイリンガル教育⁵という2形態がよく取り上げられる。積極的なバイリンガル教育では、イマージョン教育と継承言語教育という2種類の教育形態がよく言及される。現在の日本社会におけるバイリンガル教育では、2言語能力の維持を求める積極的なバイリンガル教育が注目されている。そのため、ここでは、イマージョン教育と継承言語教育について、Baker（1996）の議論を参考に、詳しく検討していく。

⁴ サブマージョンは英語の「submersion」で、水浸しにするという意味である。サブマージョン教育の基本的な考え方は、生徒に母語からの支えを一切なくし、第2言語のみの使用環境に浸すということである。その結果として、移民の子供たちの言語力、認知力、価値観などの発達に悪影響をもたらすと同時に、人種差別などの社会問題が起きる。

⁵ 移行型バイリンガル教育では、子供達の民族語が一時的に使われる。そして、生徒達が授業に適応するうちに、民族語の使用を順次に減らし、多数派言語の使用を増やしていく。

まず、イマージョン教育は、1965年にカナダのモントリオール・ランベールのある幼稚園から始まった。英語母語話者の子供に2言語、2文化を身につけさせるために、英語とフランス語が混ざる2言語の初等学校教育が実験的に実施された(Lambert & Tucker, 1972; Baker, 1996)。即ち、イマージョン式バイリンガル教育は、話者の両言語の使用能力をともに高いレベルに到達させる均衡バイリンガルの育成を目指して、実施されたものである。そして、彼らによると、このイマージョン教育の実験結果として、参加した子供達が2言語とも高いレベルに到達し、著しい成功を収めたということである。その後、イマージョン教育がカナダの学校教育で盛んになった。Baker (1996)によると、1993年までに、カナダでは、約1600の学校において合計で25万人以上の英語話者の生徒に対してフランス語でのイマージョン教育が実施されている。また、イマージョン式バイリンガル教育では、2言語の使用率や生徒達の年齢によって、多様な実施形態がある。イマージョン教育の実施形態について、Baker (1996)は、早期全面的イマージョン式バイリンガル教育、早期部分的イマージョン式バイリンガル教育、延期型イマージョン式バイリンガル教育、後期イマージョン式バイリンガル教育という4種類に大別した(表1-5)。

表 1-5 4種類のイマージョン教育

イマージョン教育の種類	開始年齢	目標言語との接触時間
早期全面的イマージョン教育 (early total immersion)	幼稚園や小学校低学年	最初は100%L2で、2~3年経過した後L2の使用が80%に減らし、中等教育段階からL2を50%まで減らす
早期部分的イマージョン教育 (early partial immersion)	幼稚園や小学校低学年	幼稚園から中学校終了まで、L2が約50%で使われる
延期型イマージョン教育 (middel immersion)	9歳~10歳	イマージョン教育開始最初の2、3年間に、80%のL2が使用され、中学校から50%に減らす
後期イマージョン教育 (late immersion)	中等教育段階	中学校段階には80%L2を使い、高等学校から50%に減らす

(Baker, 1996に基づき筆者が作成)

これらの4種類のプログラムは、イマージョンを開始する教育段階と教室内における第2言語の使用割合という2つの問題に注目し、区別したものである。その中で、第2種の部分的イマージョン・プログラム、即ち、小学校の低学年から教室内において約半分の割合で第2言語を使用するものが、子供達の2言語能力をバランスよく発達させていく上で大きな効果を果たしている(Baker, 1996)。また、このようなイマージョン教育がカナダだけではなく、世界各国のバイリンガル教育にも示唆をもたらしている。たとえば、後で詳しく紹介していく静岡県有加藤学園で実施された英語の早期部分的イマージョン教育が日本での典型的な実施事例である。

また、継承言語教育は少数派言語話者を対象に、彼らの民族語とアイデンティティを保

持するために実施されるものである。少数派言語を母語とする移民たち、特に子供時代から移民先で生活する 2 世以降の話者の中では、母語能力の喪失現象が多く見られる(湯川, 2005 ; 田浦, 2012, 2013)。そして、Fishman (1989) によると、母語の維持が民族的アイデンティティと個人的価値観の形成に密接に関連し、母語喪失がアイデンティティの混乱を引き起こす可能性が十分にありうる。そのため、少数派言語話者に対する母語教育は民族文化の継承及び自己アイデンティティの構築に重要な意義を持つと考えられる。Baker (1996) によると、継承言語教育は、アメリカ、カナダのような移民社会で盛んに行われている。彼はアメリカにおいて、アラブ人、アフリカ人、アジア人、ユダヤ人、ロシア人などの少数派言語集団の母語を保護するため、全州にわたって 5000 校以上の民族共同体の母語学校が設立されたと述べている。そして、カナダの継承言語教育を紹介する中島 (1998) では、日本人の移住者子弟が最も多いトロント市の継承言語教育プログラムの実態が明らかにされた。彼によると、トロント市の継承言語教育が教育委員会という政府機関によって支えられた政府率先型継承言語教育であり、具体的な授業形態は以下の 3 種類がある。(1) 学校のカリキュラムの中に組み込まれた相互プログラム (2) 放課後の継承言語プログラム (3) 週末の継承言語プログラムである。しかしながら、中島 (1998) によると、このような移民の子供に対する継承言語教育では、教材の不足や教授法の改善など複数の問題点が残っており、バイリンガル教育の視点を取り入れて、これらの問題点に対応する方法論についてさらなる検討を行う必要がある。

2.2.3 日本のバイリンガル教育

続いて、現在の日本社会におけるバイリンガル教育を見ていこう。日本でのバイリンガル教育はグローバル化人材を育成するイマージョン教育と在日外国人の母語・母国文化を保護する継承言語教育という 2 つの課題に重点を置いている。ここでは、湯本 (2003b)、山下 (2003) などの議論を参考に、イマージョン教育と継承言語教育に関わる具体的な事例を取り上げ、日本社会におけるバイリンガル言語集団に対する教育の実態について検討する。

まず、日本のバイリンガル教育研究において、成功バイリンガルの育成を目指すイマージョン教育について、多様な議論が行われた(湯本, 2003a,b ; 井狩, 2014 ; 佐藤, 2014 ;)。ここでは、静岡県沼津市の加藤学園のイマージョン・プログラムについて湯本 (2003b) の事例研究を中心に検討していく。静岡県沼津市の加藤学園は日本で初のイマージョン教

育実施校として知られている。高い英語運用力を持つグローバル化人材を育成するために、1992年4月に加藤学園において英語で一般教科を教えるイマージョン・プログラムが導入された。そして、加藤学園の実施全体像を紹介した湯本（2003b）によると、2002年までに、イマージョン・プログラムに参加した生徒数は合計で537名になる（その中に、幼稚園児152名、初等学校の小学生272名、中学校・高等学校の生徒113名が含まれている）。

また、湯本（2003b）では、加藤学園で実施しているイマージョン・プログラムの特徴についても紹介した。彼によると、加藤学園では、上で紹介した早期部分的イマージョンというプログラムを採用し、幼稚園の段階から英語の使用が導入される。そして、初等科教育段階では学年が高くなるとともに、英語使用授業の割合が3分の2から半分へ削減していく。また、1998年になると、中学・高等学校のバイリンガル・コースも設けられるようになった。バイリンガル・コースでは、生徒の英語能力と教科能力の両方が重視される。授業での英語使用率が、中学では半分ぐらいで、高校に入るとすべての教科項目が英語で行われる。そして、加藤学園のイマージョン・バイリンガル教育が日本での試行として、高く評価されている。湯本（2003b）によると、イマージョン・プログラムに参加した一期生は、算数や国語など各教科の学力に関しては一般の小学生に負けないとともに、英語能力がアメリカ3年生に相当すると判定された。そして、バイリンガル・コースに参加した中高生は、学力検査で全国平均を上回っているとともに、同年齢の母語話者なみの英語能力に到達した。湯本（2003a）は、加藤学園のイマージョン・プログラムの成果に関して、付加的バイリンガル⁶を輩出できる素地を提供していると高く評価した。

次に、日本で生活している移民に対する継承言語教育の実施状況について概観してみる。前述したように、多文化共生社会とも言える現在の日本社会では、世界の国々から移住してきた外国人が莫大な数に登る。中でも、在日中国人と在日韓国人は他の地域からの外国人数を圧倒的に上回っている。そのため、日本全国において、在日中国人と在日韓国人の子供達を対象に、彼らの母語文化及び民族的アイデンティティを保つための華僑学校や朝鮮語学校などの民族学校が数多く設立されている。また、在日外国人の言語生活を考察する重要な視点として、民族学校の運営状況と教育方針について論じてきた研究も見られる（張，2005；黄，2005，王，2009）。ここで、横浜山手中華学校の事例を用いて、日本で

⁶ 付加的バイリンガルとは第1言語を保持しながら、第2言語の習得が順調に進んでいく。両方の言語とも高いレベルに到達する成功的なバイリンガル像である。

の移民に対する継承言語教育について見ていく。横浜山手中華学校は1898年に開校され、日本で最も歴史が長い華僑学校である（山下，2003）。幼稚園部、小学部及び中学部が併設され、在學生には華僑の子供だけではなく、日本籍の子供達もいる。現在の在學生の人数と国籍状況は表 1-6 で示されている。

表 1-6 横浜山手中華学校の生徒構成

国籍	中国籍 (191名)	華人(369名)	日本人(32名)
学部	小学部 (472名)		中学部 (165名)

（横浜山手中華学校のホームページより引用）

そして、学校の教職員構成からみていくと、華僑 17 名、中国人 17 名、日本人 15 名、アメリカ人 1 名というように、教育規模が大きな民族学校である。また、両言語による授業の実施形態に関して、小学部では、国語、数学、社会などの重点科目は中国語で行われており、中国語の使用比重が比較的高い。一方、中学部では、以上の重点科目が日本語で教えられ、日本語系教科により力が注がれている。中国語の言語環境を確保するために、学校内での使用言語が学年に関わらず、中国語が中心となる。山下（2003）は、華僑学校に通う子供達の両言語の習得状況を明らかにするために、横浜山手中華学校に在学している小・中学生全員を対象として言語力調査を実施した。その結果、中学 3 年を卒業するまでに、6 割以上の子供たちが簡単な会話ができる程度の中国語能力を身につけている。日本語力に関しては、日本語の学年平均値から見ていくと、中華学校に在学する子供達に、一般的な日本人小学生と比べてさほど差が見られないこともわかった。また、山下（2003）では、横浜山手中華学校が語学学習だけではなく、中国文化・日本文化の紹介にも力を入れ、在日華僑の母語維持や中国文化の継承に重要な役割を担うということも指摘されている。

2.3 心理言語学の観点からみたバイリンガリズム研究

次に、言語機能に関わる認知的メカニズムを解明することを目指す心理言語学の観点から行われたバイリンガリズム研究について概観していく。まず、言語習得の早い時期から 2 言語環境で育てられるバイリンガル児の言語習得に焦点を当てた先行研究を概観し、2 言語混用現象と初期言語発達のプロセスについて検討する。次に、成人バイリンガルにおける 2 言語情報の蓄えに関する諸説を整理し、バイリンガルの言語使用を支える言語記憶システムについて考察していく。

2.3.1 バイリンガルの2言語切り替え使用と初期言語発達

2言語環境で生まれ、言語発達の早期段階から2つの言語を習得し始める乳幼児は同時バイリンガルであることは、本章の第1節で紹介した。本項では、同時バイリンガルが言語発達の早期段階において、どのように2言語情報を認識・処理していくのかという疑問をめぐって議論した先行研究を踏まえ、2言語使用現象に内在している認知的メカニズムについて考察する。

単一な言語環境で育てられるモノリンガルと比べて、早い時期から2言語と接触する同時バイリンガルの言語発達には、2言語の混用や切り替え使用など独特な言語使用現象があることが頻繁に観察される。同時バイリンガルの初期言語発達に関する研究では、なぜこの2言語混用現象が生じるのかという問題について数多く論じられてきた。例えば、Lindholm & Padilla (1978) は、語彙不足の観点からバイリンガル児の2言語混用現象を考察した。彼らの考えでは、同時バイリンガルの場合は、1つの概念表象に対して2つの言語表現を持っている。しかし、同じ概念に対応する2言語の表現が同時に獲得されるわけではない。そのため、話者はある概念に対応する一方の言語が未習得の場合に、もう一方の言語語彙を借用することになってしまう。このようなことによって2言語の混合現象が生じることが考えられる。しかしながら、バイリンガル話者における2言語の切り替え使用の要因について、言語能力の不足を補うための語彙借用のみでは十分説明できない恐れがあり、認知能力の発達など幅広い側面から再検討する必要があると考えられる。その中でも、バイリンガルの初期言語発達の認知メカニズムを議論してきた知見は、この2言語混用現象の仕組みの解明に大きな示唆を与えている。

バイリンガルの初期言語発達について論じてきたバイリンガリズム研究は、主に子供がいつ2つの言語体系の存在を認知できるのかに着目している。この疑問点をめぐって、「即時分化仮説」と「統合分化仮説」という2つの仮説が代表的な知見としてよく議論されている。

まず、「即時分化仮説」の立場では、バイリンガル児の言語発達の早期段階から2言語体系が分化し始めると主張している。「即時分化仮説」を支持する代表的なバイリンガリズム研究として、Dopke (1992)、Deucher & Qeucher (2000)、De Houwer (2009)などをあげることができる。彼らは、子供が言語発達の結構早い段階から2つの言語体系の存在を認識することができ、2つの言語を区別する上で言語能力を獲得していくと考えている。そして、Dopke (1992)では、子供が結構早い時期から2つの言語体系の存在を認知

し始めるということを認めると同時に、2 言語の分化を受動的分化と能動的分化に区別した。受動的分化とは、言葉を聞いて理解する受容能力における分化である。また、能動的分化とは、発話や自己表現など言語産出面における分化である。子供の言語習得は、周りの世界からの言語情報がインプットされてから始められ、その次に能動的に自己表現の発話が始まる。つまり、言語の産出能力より言語の理解能力の方が先に発達し始めるということである。そのため、能動的分化より受動的分化の方が先に進んでいくことが考えられる。同時バイリンガルの初期発話における 2 言語の混合使用は、能動的分化を支える言語能力の発達の不十分に起因する、と Dopke (1992) は主張している。

一方、「統合言語仮説」は「即時分化仮説」と全く異なった立場に立っているものである。「統合言語仮説」は、同時バイリンガル児における言語体系が最初の 1 つの統合されたものから独立したシステムに分化されていく、と主張する立場である。「統合言語仮説」は Volterra & Taeschner (1978) によって提唱されてから多くのバイリンガリズム研究者によって支持される (山本, 1991, 2003 ; MacWhinney, 2004)。例えば、山本 (1991) の研究では、同時バイリンガルの言語習得の初期発達が「統合言語期」と「言語分離期」という 2 つの認知段階に分けられている。山本 (1991) によると、「統合言語期」において、子供は 2 つの言語がそれぞれ別の体系を持った独立言語体系であると認知しておらず、共に 1 つの言語体系に属するものとして捉えている。そして、言語経験の積み重ねと認知能力の発達につれて、2 つの言語が認識され、1 つの統語言語体系が 2 つの言語個別体系に分化し、「言語分離期」に入っていくと指摘している。このような、同時バイリンガルの言語発達の初期段階において 2 言語体系が分化していない「統合言語期」が存在するという考え方は、「統合言語仮説」と呼ばれる。山本 (1991) はこの「統合言語仮説」について、ケーススタディを通じて検証した。彼はパメラという日米同時バイリンガル児を対象に、3 年間の縦断研究を行った。その結果としては、被験者の音声データの分析から、「1 語文期」から 2 言語を混合して発話する現象が観察されたことがわかった。そして、生後 3 年目に入ると、被験者は次第に会話場面や話し相手などに応じて、2 言語を使い分けていくことができ、2 言語の存在を認識し始めるようになるということも明らかになった。山本 (1991) はこうした話し相手によって 2 言語を使い分け始めた時を、「統合言語期」から「言語分離期」へ入る判断基準として捉えている。また、「言語分離期」の開始時期は、子供の言語発達の速度に影響され、1 歳半から 4 歳までのように大きな個人差が見られることも指摘している。これらの分析結果は、2 言語の分離は、2 言語に接した時期に関わ

らず、2言語の存在を認識できる認知能力の発達と密接に関連していることを示唆している。

同時バイリンガルにおける言語体系がいかに独立したシステムに分化していくかということに関して、Volterra & Taeschner (1978) の「統合言語仮説」の中では、「言語分離期」に音韻体系の分離と統語・文法体系の分離という2つの段階があるとしている。つまり、同時バイリンガルの2言語発達は「統合言語期」、「音韻体系の分離期」、「統語体系の分離期」という3段階を経て完成されていくということである。山本(2003)は、Volterra & Taeschner (1978) の言語体系分化の3段階を次のように図式化し、明示的に示している。

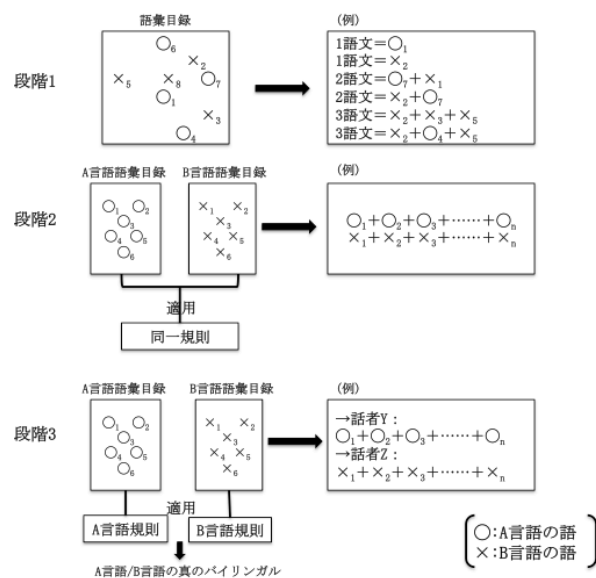


図 1-5 言語体系分化の3段階 (山本, 2003, p.81 より引用)

また、このような同時バイリンガルの「言語分離期」における音韻体系と統語体系の分化に関して、山本(1991)はケーススタディを用いて検証した。彼の分析結果から、被験者は日本語の語彙が不足すると、英語をカタカナ読みすることで補っている。また、その際に、被験者の中で子音の後に本来は存在しない母音を挿入することで、日本語の基本音を作る現象が見られた。この現象に関して、山本(1991)は、同時バイリンガルは「統合言語期」を過ぎると2言語の存在を認識し始め、それぞれの言語に特有の音声構造規則があることを意識し始めると指摘している。そして、統語面の分化に関して、山本(1991)のケーススタディでは、被験者は文法上の間違いを犯しながら次第に2言語の統語規則を分析し、正しく使い分けていく現象が見られた。たとえば、山本(2003)では、4歳頃の日英バイリンガル児が英語で日本語の統語規則を解説できるようになるということが指摘

された。このような言語行動から、2 言語の統語体系がすでに分離し始めていることが窺える。

以上のように、これまでに同時バイリンガルの言語発達過程に関して、言語習得の初期段階における言語体系が統合的に存在しているのか、あるいは個別的に分離しているのかという問題をめぐって多様な論争がなされてきた。その中で、「即時分化仮説」と「統合言語仮説」という 2 つの対立的な知見を概観したが、「統合言語仮説」の方がより合理的ではないだろうか。その理由は、乳幼児は初期言語発達において、言語形式を客観的な対象物として捉え、それと現実世界との関連付けに重点を置くからである。この発達段階の子供は言語そのものという抽象的概念を認知する能力が備わっていないため、2 つの言語体系の存在を認識することができない。だが、子供は、言語能力と認知能力が発達するとともに、2 種類の言語形式の背後にある規則性の違いを発見し、混沌としている同一の言語体系に 2 つの言語システムがあることを認知していく。従って、初期言語発達時期に発生する 2 言語混用現象は、バイリンガル児の 2 言語システムの分化がまだ未熟なことと関わっていると考えられる。

2.3.2 バイリンガルの 2 言語知識の記憶形態

前項で述べたように、モノリンガルと比較すると、2 つの言語システムを持っているバイリンガルの言語使用の方がより複雑である。そして、バイリンガル児の 2 言語混用現象は 2 言語システムの分化過程と密接に関連しているということがわかった。実は子供に限らず、成人バイリンガルの 2 言語使用も認知的メカニズムから分離しがたい。そのため、バイリンガルの 2 言語使用現象の根底に迫るには、2 言語能力に関わる認知的仕組みを解明することが重要である。そのため、ここでは、バイリンガルの認知的仕組みに関して、特に、バイリンガルにおける 2 言語知識の記憶状態に焦点を当てて心理言語学の分野で提唱された諸説を整理する。

言語と認知の關係に注目する心理言語学の分野において、バイリンガルにおける 2 言語情報がどのような形で蓄えられるのかという問題を論じてきた研究として、Hamers & Blanc (1983)、Taylor & Taylor (1990)などをあげることができる。2 言語知識の記憶状態を議論した彼らの研究では、音声や文字など形式情報が各言語システムに個別に蓄えられるとされている。一方で、意味情報の記憶状態に関しては、研究者の間で意見が分かれている。その中で、両言語の意味情報が単一的なシステムに記憶されるのか、あるい

は、2つのシステムに独立に記憶されるのかということが理論上の争点となり、数多くのモデルが提起された。これらの知見の着目点をまとめてみると、「共通説」、「分離説」及び「折衷説」という3つのパターンに分類できる。

「共通説」の立場では、バイリンガルにおける2つの言語の意味情報が2言語で共通している記憶装置に貯蔵されていると主張している。それに対して、「分離説」は、2言語の意味情報が独立した2つの貯蔵庫に個別に蓄えられると主張している。ここでは、バイリンガルの2言語記憶システムに関する諸説を検討した Hamers & Blanc (1983) の議論を詳しく見てみる。彼らは「共通説」と「分離説」に基づいて、共通貯蔵モデル (Shared-store Model) と分離独立貯蔵モデル (Separated-memories Model) をそれぞれ提示した。まず、2言語の意味情報が1つのシステムに保存されるという「共通説」の観点から、Hamers & Blanc (1983) はバイリンガルの2言語記憶システムについて、図1-6のように図式化した。

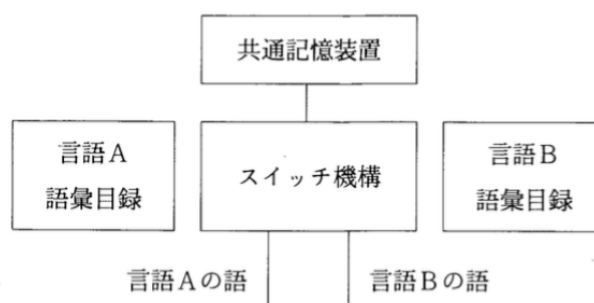


図1-6 共通貯蔵モデル (Hamers & Blanc,1983,p.97 : 山本,1994,p.64 より引用)

図1-6の中で、言語Aと言語Bと書かれている両側の2つのボックスは音声や文字など言語の形式情報を表している。図1-6によると、2言語の形式的な内容は個別に分離した語彙システムに記憶される。それに対して、言語形式に対応する意味情報は2言語に共通している記憶装置に記憶される。そして、図1-6で示されるように、バイリンガルが両言語の情報を産出する際に、スイッチ機構を通して、共通記憶装置に貯蔵される同じ意味情報に対応する個別の語彙システムを活性化する。また、言語理解の場合に、同じ原理でスイッチ機構を起動し、個々語彙システムから共通記憶装置にアクセスしていく。

また、こうした共通貯蔵モデルを検証した心理的実験として、MacLeod (1976) の語彙想起テストと Caramazza & Borones (1980) の語彙判定テストをあげることができる。まず、MacLeod (1976) は、23名のフランス語-英語バイリンガルを対象に、5週間の間隔を置く2回の語彙想起テストを実施した。2回目の語彙想起リストの一部分は、1回目

の語彙想起リストに含まれた語彙である。その中に、言語と意味が両方とも同じである同一語及び、言語と意味が一方だけ同じである翻訳語を含む。実験の結果によると、同一語だけでなく、翻訳語の提示も 2 回目の語彙想起を促進できることがわかった。また、Caramazza & Borones (1980) はスペイン語-英語バイリンガルを対象に語彙判定テストを実施した。その結果によると、いずれの言語を使用しても、語彙判定の反応速度には大きな差異が見られず、つまり使用言語が語彙または語彙のカテゴリの判定速度に大きな影響を与えていないことが示された。これらの実験は、両言語の意味情報が共通記憶装置に貯蔵されることを主張する共通貯蔵仮説に検証的なデータを提供している。

一方、2 言語の意味情報がそれぞれ独立した記憶システムを有するという「分離説」の考え方に基づく Hamers & Blanc (1983) は、図 1-7 が示しているような分離独立貯蔵モデルを提示した。

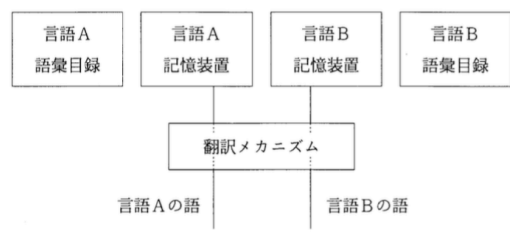


図 1-7 分離独立貯蔵モデル (Hamers & Blanc, 1983, p.97 : 山本, 1994, p.65 より引用)

図 1-7 で示されるように、意味的内容が各言語個別の記憶装置に分立的に貯蔵される。そして、言語 A の語彙はそれに対応する言語 A の記憶装置に貯蔵される意味情報を賦活し、言語 B の語彙は言語 B の記憶装置に貯蔵される意味情報にアクセスする。つまり、言語 A の語彙システムから直接言語 B の記憶装置にアクセスすることはできないということである。そして、両言語の語彙システムの変換が翻訳メカニズムを通して実現される。また、こうした分離独立貯蔵仮説の立場を支持する検証実験として、Kolers (1968) の語彙連想実験が頻繁に引用される。Kolers (1968) の語彙連想実験では、英語-スペイン語バイリンガルに両言語 (英語とスペイン語) で刺激語を提示し、刺激語に対応する連想語を産出させる。その結果として、それぞれの言語で産出された連想語の中に共通している部分が全体の 20%しかない。Kolers (1968) の実験結果から、ある語彙に対応する意味要素では特定の言語体系によって大きな違いを持っていることがわかった。また、Darlymple-Alford & Aamiry (1970) はアラビア語-英語バイリンガルを対象に 2 回の語彙連想実験を行った。2 回目の実験で提示された刺激語が、1 回目の実験で使われた同一語 (言語表記と意味が両方とも同じ語) と翻訳語 (意味が同じ、言語表記が異なる) から

なっている。彼らの実験の結果では、2回の実験で産出された連想語の重複範囲は、翻訳語より同一語の方が大きいことが示され、これらの分析結果によって、分離独立貯蔵仮説が支持された。

以上のように対立的な立場として論争の続く共通説と分離説に関して、いずれの説にも限界があることが多くのバイリンガリズム研究者によって指摘されてきた。まず、この2つの仮説を検証した言語課題の実験データについて十分な信頼性があるかどうかである。その中で、自由再生のような概念駆動型処理を求める課題では分離説が支持され、単語完成のようなデータ駆動型処理を求める課題では共通説が支持されるという Taylor & Taylor (1990) は批判した。そのため、Taylor & Taylor (1990) はこうした先行研究の限界を克服するため、「重複分布記憶貯蔵モデル」という新たなモデルを提示した (図 1-8)。

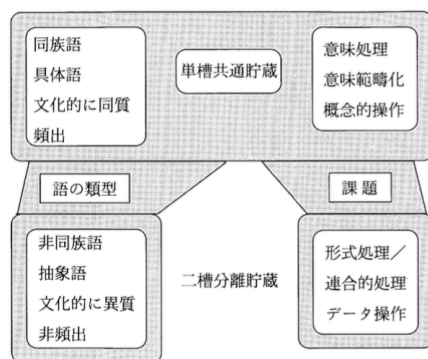


図 1-8 重複分布記憶貯蔵モデル (Taylor & Taylor,1990,p.359 : 山本,1994,p.66 より引用)

彼らはバイリンガルの言語記憶システムの表出形式が、言語情報の種類や言語実験課題など多様な要素によって影響されると指摘している。彼らによると、バイリンガルの言語記憶貯蔵庫に蓄えられた語彙は使用頻度や文化的性質によって、文化的に同質語、文化的に異質語、頻出語、非頻出語、具体語、抽象語に分けられ、その中で、抽象語、文化的に異質語、非同族語に対応する意味情報が言語別の記憶装置に貯蔵される。それに対し、具体語、同族語及び使用頻度が高い語に対応する意味情報は1つの記憶装置に蓄えられる。また、音韻や文字のような言語形式に関わる言語知識は2つの言語システムに分離的に貯蔵される。分離説と共通説に比べて、Taylor & Taylor (1990) の「重複分布記憶貯蔵説」はバイリンガルの2言語記憶システムの柔軟性を強調している。また、共通貯蔵仮説と分離独立貯蔵仮説を実証した言語課題のいずれも、重複分布記憶貯蔵説の実証データとして使えると考えられる。

2.4 神経言語学の観点からみたバイリンガリズム研究

続いて、バイリンガルの脳内言語処理システム及び2言語能力を支える脳内神経基盤について論じてきた神経言語学の先行研究を概観していく。

脳神経科学の分野におけるバイリンガリズム研究はバイリンガルの失語症患者の症状と回復状況の観察から始まった。失語症とは、事故や病気などの原因で脳部位が損傷を受けることによって、話者の言語機能に障害が出ることである。失語症は障害を受けた脳部位によって、運動性失語症と理解性失語症という2種類に大別できる。運動性失語症とは、発話に関わる運動機能と文の組み立て機能に関連しているブローカ野の損傷によって引き起こされる言語機能障害であり、ブローカ失語症とも呼ばれる。理解性失語症は、音声と意味との関連付けに重要な役割を果たすウェルニッケ野に損傷を受けることによって、流暢に発話できても、言語の理解に障害が出ることである。山本（2003）によると、バイリンガルの失語症患者に対する神経言語学的研究において、主に2つの問題が取り扱われている。一つは、脳損傷によって2言語機能が同程度に損傷されるのかという問題である。もう一つは、治療を受けたバイリンガルの患者では、2言語能力がどのように回復しているのかという問題である。まず、バイリンガルの患者の失語症症状に関する従来の神経言語学の調査研究から、2言語能力が同じ程度に障害を受ける症例がまれであることが分かった。Paradis（1977）はバイリンガルの失語症患者に対する症例研究を通じて、後天的に習得された第2言語より、第1言語の方が障害を受けにくく、また回復の速度も速いということを明らかにした。その原因として、第2言語と比べて、言語発達の早い時期に獲得された第1言語の知識が脳内の深いところに記憶されるからである、と彼は考えている。そして、治療を受けたバイリンガルの失語症患者における2言語能力の回復状況について、山本（2003）はParadis（1977,1981）をもとに、2言語の回復過程を以下の5つのパターンにまとめた（表1-6）。

表 1-6 失語症の回復パターン

失語症の回復パターン	2言語能力の回復過程
共働回復 (Synergistic recovery)	一方の言語が回復するのに伴い、他方の言語も回復するもの。
拮抗回復 (Antagonistic recovery)	先に回復していた言語が、別の言語の回復と入れ替わりに後退するもの。
継続回復 (Successive recovery)	1つの言語が完全に回復するまで、別の言語が回復し始めないもの。
選択回復 (Selective recovery)	回復しない言語があるもの。
混合回復 (Mixed recovery)	言語構造のあらゆるレベルで常習的に言語要素を混ぜ合わせるという、失語症になる以前に見られなかったタイプの言語間干渉が生じるもの。

（山本，2003に基づき筆者が作成）

また、上記のようなバイリンガルの失語症患者の言語能力回復パターンを決める要因として、習得年齢、言語習得環境、言語習得順序、言語使用の環境・様式、言語熟達の度合い、知能、教育の程度、バイリンガルのタイプなどがあげられる（山本, 2003）。また、これらの要因が影響し合っていることも山本（2003）で指摘されてきた。

また、近年、脳機能イメージング技術の進歩につれて、自然な環境下で健常者の脳内言語処理実態を観察できる非侵襲的脳機能計測装置が開発されるようになった。脳機能イメージングを用いた脳内神経活動の測定方法には、脳内の電気活動を空間的に測定できる脳波（EEG）、脳磁図（MEG）と、脳内の血流量を計測できる陽電子断層撮影法（PET）、機能的核磁気共鳴画像法（fMRI）などがある。特に、近年、近赤外分光法（NIRS）という検査方法を用いて、大脳皮質の血流量と酸素必要量を計測することにより、言語課題を行っている被験者の脳活性化部位を特定することができるようになった。これらの脳機能イメージングを用いて、バイリンガルの2言語処理に影響する要因に関して多様な実験調査が行われた（Posner & Raichle, 1994 ; Kim & Hirsch, 1997 ; Saur et al., 2009 ; 大石, 2006）。たとえば、Posner & Raichle（1994）では、文法判断課題と意味判断課題を行う際に、バイリンガル被験者の脳活動を PET で計測した。結果としては、習得開始時期と言語習熟度は、文法と意味処理を行っている脳の働きに、それぞれ異なった影響をもたらしていることが明らかになった。また、Kim & Hirsch（1997）は fMRI を用いて、バイリンガルの言語機能が習得開始時期によって異なるかどうかということを確認した。具体的には、早期習得者はいずれの言語でもブローカ野を中心に脳が賦活する部位が共通しているに対して、後期習得者は言語によって脳の賦活部位が異なっているということである。また、Saur et al.（2009）は fMRI を用いて、同時バイリンガルと継続バイリンガルの言語理解に関して実験を行った。その結果、被験者の脳の活性化が優勢言語の刺激に対して強く行なわれることが見られた。これらの脳機能イメージングの実験によって、2言語に対応する脳の活性化の度合いが言語の習熟度によって異なり、言語の習熟度が高いほど、脳内言語処理の活発的な反応が強くなるということが検証された。

また、大石（2006）は脳内の血流量を観察できる NIRS を応用し、日本人英語学習者を対象に一連の実験調査を行った。2言語のリスニング課題とリーディング課題を遂行している実験協力者の脳活性状態を観察した実験の結果は以下の4点にまとめられる。(1) バイリンガルの左脳と右脳の活性化に関して、上級学習者では右脳より左脳の血流増加量の割合が多い一方で、初級学習者では、両半球の血流増加量の割合に差が見られない。つま

り、英語の習熟度が高い学習者が、英語を処理する際に左脳が優位脳であることがわかった。(2) 言語の習熟度による脳活性状態を調べる結果として、日本人学習者が英語を処理する際に、習熟度による血流増加量の割合が異なり、中級学習者では初級学習者と上級学習者より言語野の血流増加量の割合が多い。(3) 課題の難易度による脳活性度の変化に関して、学習者の言語能力に関わらず、初級・中級・上級学習者では、難しい言語課題より易しい言語課題を遂行する方が、言語野の血流増加量の割合が少ない。(4) スキーマが脳の活性化に与える影響について、言語課題の内容に関連する情報を事前に提示される場合の方が提示されない場合より、血流増加量の割合が少なくなることを示している。以上のように、大石(2006)の研究は日本人英語学習者の英語処理の脳内活動に、言語能力、提示された課題の難易度、メタ認知のストラテジーという3つの要因がどのような影響をもたらしているのかということをはっきりとすることを通じて、第2言語の脳内言語処理のメカニズムの解明に貢献した。

3 まとめ

以上のように、本章はバイリンガルの定義と分類に関するバイリンガリズム研究を踏まえ、バイリンガルのバリエーション及びダイナミックな性質を検討したうえで、本研究で取り扱うバイリンガルの具体像を提示した。そして、社会言語学、応用言語学、心理言語学、神経言語学という4つの分野におけるバイリンガリズム研究を概観することによって、バイリンガルに関わる社会的背景、多言語社会の言語教育、認知メカニズム、脳内神経システムについて検討した。具体的には、社会言語学の視点からみたバイリンガリズム研究については、バイリンガリズムに関わる社会的背景に焦点を当て、言語使用の全体像と社会性に注目するマクロ的視点と、個々の言語使用現象に接近するミクロ的視点から考察を行った。次に、応用言語学の視点からみたバイリンガル教育研究に関して、Cumminsのいくつかの理論に基づくバイリンガル教育の理論的枠組みを検討しながら、多様なバイリンガル教育の実施形態を紹介した。そして、言語機能に関わる認知の仕組みに関心を持つ心理言語学の分野から得た知見を踏まえ、バイリンガルの2言語能力の初期発達及び2言語知識の記憶状態を観察した。最後に、脳科学という比較的新しい学術的視点から行なわれたバイリンガリズム研究で、失語症患者と、脳機能イメージングを用いた実証研究に関する研究成果を紹介する上で、バイリンガルの失語症と脳内言語処理に影響する複数の要因について考察した。

しかしながら、以上に概観したバイリンガリズム研究では、以下のような3つの点が不十分であると考えられる。(1) まず、研究対象に関する問題点である。従来のバイリンガリズム研究は、多言語社会である欧米の国々で盛んに行われている。日本でのバイリンガリズム研究でも、日本語と英語のバイリンガル話者に目が向けられ、日本語と中国語を堪能に操ることができる日中バイリンガルを対象とする研究はまだ少ないのが現実である。

(2) そして、2言語発達過程に関するバイリンガリズム研究において、2言語を早い段階から習得し始める同時バイリンガルに目を向けた研究が殆どであるが、日本語学習者のような2言語能力の間に差がある偏重バイリンガルを対象とする研究の蓄積はあまりない。

(3) 最後に、従来のバイリンガリズム研究においては、多言語社会の実態とバイリンガル話者の言語使用を観察するような、社会言語学の立場から捉えたものが多いが、今後は心理言語学や神経科学の研究成果を取り入れ、バイリンガルの2言語使用を支える認知的なメカニズム、脳内言語処理システムの解明により力を入れる必要があると言える。特に、バイリンガルの2言語使用に関わる認知的・脳内メカニズムという根本的な問題を追究する研究においては、2言語能力の発達に関連する認知的な仕組みに焦点を当てるものがほとんどであるが、その認知機能を支える脳内神経基盤という心理的実在性については十分に検討されているとはいえない。

そこで、本研究では、従来のバイリンガリズム研究では取り上げられなかった日中バイリンガルを研究対象とする。彼らの日常会話で現れた2言語の切り替え使用という言語現象を突破口として、表面的な言語使用現象に内在している言語機能の共通原理を探求し、バイリンガルの2言語使用を支える認知的メカニズム及び脳内神経基盤を解明することを目的とする。本研究では、具体的には以下の4つの研究方略を用いて、議論を展開していくことにする。

(1) 日中バイリンガルの日常会話に現れた母語から学習言語への2言語の切り替え使用現象に目を向け、実際に収集された会話データをもとに、彼らの2言語の切り替え使用の談話的機能と使用形態について実証分析を行う。

(2) 2言語の切り替え使用に影響する認知的要因を追究するために、日中バイリンガルに語彙近接性ランキング課題を実施し、2言語形式に対応する意味要素の差異と特性について考察する。

(3) 日中バイリンガルを対象に、翻訳課題と絵命名課題を実施し、E-Prime2.0という心理的実験ソフトウェアで実験参加者の反応時間を計測することで、2言語記

憶システムにおける各構成部門間の結びつき方を考察し、2 言語の切り替え使用現象を引き起こす認知的メカニズムに関して実証的に検討していく。そして、実施した 3 つの言語課題の分析結果に対する考察を通じて、バイリンガルの言語産出処理モデルの提案を試みる。

- (4) 神経心理言語学的研究から得られた知見を踏まえながら、バイリンガルの 2 言語産出モデルを支える言語情報の処理プロセスと脳内神経基盤について考察するうえで、2 言語処理システムの心理的実在性について、神経心理言語学の観点から再検討していく。

そして、実証研究に入る前に、まず第 2 章では、第 3 章と第 4 章の検証実験に向けて、バイリンガルの 2 言語使用と 2 言語能力の発達について論じてきた先行研究を概観し、特に、2 言語コードの切り替え使用と 2 言語知識の記憶システムに焦点を当て、詳しく検討していく。

第2章 バイリンガルの言語切り替え使用と言語記憶システム

前章では、社会言語学、応用言語学、心理言語学及び神経言語学の4つの研究分野からバイリンガリズムに関する先行研究を概観し、バイリンガリズム研究における本研究の位置付けを明らかにした。前章でも言及したように、2言語環境で生まれ育ったバイリンガルにとって、日常会話において2言語を混合して使用することは珍しくない。このような2言語を混ぜて使う言語現象はコードスイッチング (Code-Switching、以下CSに略す) あるいは、コードミキシング (Code-Mixing) と呼ばれる。Eastman (1992) はこうしたバイリンガルの日常会話で見られる言語接触現象であるCSの研究は、重要なバイリンガリズム研究の一環であると指摘した。そのため本研究は、CSという2言語使用現象に焦点を当て、バイリンガルの言語使用及び言語能力に関わる認知的メカニズムを明らかにすることを目指している。本章では、バイリンガリズム研究におけるCS使用と2言語の記憶システムについて論じてきた先行研究を検討する。CSの文法的規則、談話的機能とバイリンガルの言語記憶システムの検討を通じて、第3章以後で行う実証分析へとつなげる。

本章では、まず、CSが生じる原因及びその言語学的メカニズムについて論じた主要な研究を概観し、社会言語学的アプローチからCSの社会的背景、談話的機能を、統語論的観点からCSの文法的形態と統語規則を、それぞれ検討する。次に、言語習得に関わる記憶の仕組みに焦点を当て、心理言語学の研究分野における言語知識の記憶方法及びバイリンガルの言語記憶システムに関する先行研究を検討する。これらの考察をもとに、第3章は日中バイリンガルを対象に実施したCS使用状況の調査について分析し、第4章では2言語記憶システムを検証するための心理学的実験に関する理論的枠組みを構築する。

1 バイリンガルの言語切り替え使用に関する研究

本章の冒頭でも述べたように、CSはバイリンガルの2言語使用を捉える重要な概念として、バイリンガリズムに関する先行研究で論じられてきた。そして、これまでのバイリンガリズム研究者らは、主になぜCSが起こるのか、あるいは話者が2言語をどのように切り替えるのかという2つの疑問を取り上げ、社会言語学と言語学の視点からCSに対する考察を行ってきた。本節では、まず、バイリンガルによる2言語の切り替え使用に関して、その定義及び分類に関する先行研究を紹介した上で、CSに対する本研究での捉え方について明確にする。そして、CSという言語現象に関するバイリンガリズム研究を踏ま

え、CS 使用に関わる社会言語学的要素、談話的機能及び文法的規則について検討する。

1.1 コードスイッチング (CS) について

1.1.1 コードスイッチングとは

上でも述べたように、2 言語で生活を営むバイリンガルの言語活動において、2 言語を混ぜて使用するという言語現象が CS と呼ばれている。しかしながら、CS という言語現象を定義するには、2 言語の混合使用のみで説明するのは不十分である。ここでは、まず、先行研究では CS をどのように定義し、取り扱っているのかを見ていく。CS に関して、Grosjean (1982) は「the alternate use of two or more languages in the same utterance of conversation (Grosjean, 1982, p.150)」と定義し、バイリンガル話者特有の言語使用形式であるとしている。そして、Myers-Scotton (1993) は、「alternations of linguistic varieties within the same conversation (Myers-Scotton, 1993, p.1)」と Grosjean (1982) とほぼ同じように定義し、1つの会話の中に複数の言語を切り替えて使用することを CS として捉えている。これらの2つの定義の中に、CS と認定する原則として以下の2点が考えられる。まず、CS の発話者に関する条件である。即ち、言語活動に参加する聞き手と話し手が、両方とも2言語能力がある程度に到達するバイリンガルであることが、CS を引き起こす前提である。このことに関して、Wei (2000) は CS が使われる1つの大きな原則として、言語コードをスイッチされても、会話参加者の情報伝達や言語理解に支障が出ないことを挙げている。また、もう1つの原則は、CS の使用状況に関わることである。すでに繰り返し指摘したように、話者が1つの会話で2つ以上の言語を切り替えながら使うことが CS と呼ばれる。言い換えると、場面と話し相手と同じである一連の会話の中で行われた2言語の切り替えが CS とみなされる。また、CS の使用状況に対して、ガンパーズ (2004) は、語用論的な観点から、より詳細に議論した。彼は、CS の定義に関し、以下のような内容で説明し、数多くの CS 研究でも引用されている。

「2つの独自の文法システムのそれぞれの内部規則にそって、話者が意識的あるいは無意識的に作った糸のようなものを、意味のある並置をするということ。」

(ガンパーズ, 2004, p. 83)

以上から、ガンパーズ (2004) は発話者の意識と CS 使用の文法規則の制限という2つの要素を取り入れて、CS 使用に関わる制限的条件を検討した。彼の考えでは、2つの言語システムが同時に働き、個々の言語の文法システムにおける規則を破らないことが CS を

生起する規則となる。そして、話し手の意志と密接に関っている CS 使用が、1 つの談話ストラテジー、言語知識不足の補助など機能的特徴を持っていることにも、ガンパーズ (2004) は言及した。

1.1.2 コードスイッチングと借用、コードミキシング

CS に関する先行研究では、CS に近い概念として、借用 (Borrowing)、コードミキシング (Code-Mixing) という 2 つの概念がよく言及される。Baker (1980) は借用を「single-item terms that are proper nouns or names of particular places or things that cannot be translated (Baker, 1980, p.3)」と定義している。つまり、借用は固有名詞や特定の場所・物の名前のような翻訳できないものに関して、モノリンガル話者でも使っている短い言語項目である。そして、Grosjean (1982) は、借用と CS との異なりについて、「code-switch can be of any length and is complete shift to the other language, whereas a borrowing is a word or short expression that is adapted phonologically and morphologically to the language being spoken (Grosjean, 1982, p.308)」と述べている。彼の知見から、一方の言語の語彙をもう一方の言語システムに取り込んで、音韻的、形態的にその言語に適応していくということが借用の特性である。この特性は借用を CS から区別する最も重要な原則となると考えられる。借用の使用例として、例えば、「居酒屋 (ju-jiu-wu)」、「刺身 (ci-shen)」など日本文化に関わる意味情報が漢字のままで中国語の語彙システムに取り込まれ、中国語の発音で話されている。このような日本語の語彙は借用語として中国語の語彙システムに定着している。

2 言語接触現象に関わるもう一つ概念はコードミキシングである。コードミキシングは、借用と同じように、一方の言語の要素がもう一方の言語システムに挟まれ、語彙レベルで起こるものである (Maschler, 1998)。そして、コードミキシングと CS との相違点に関して、Bokamba (1989) は以下のような考察を行ってきた。「Code-switching is the mixing of words, phrases and sentences from two distinct grammatical (sub) systems across sentence boundaries within the same speech event... code-mixing is the embedding of various linguistic units such as affixes (bound morphemes), words (unbound morphemes), phrases and clauses from a cooperative activity where the participants, in order to infer what is intended, must reconcile what they hear with what they understand.」即ち、コードミキシングされる語彙は音韻的、形態的な面にお

いて、元の言語のままに保持されることである。一つの単語の差し入れと言われるコードミキシングに対して、CS は単語だけではなく、節や文などより大きな単位で起こるものと言える。しかしながら、実際には、コードミキシングと CS を区別するのはさほど容易ではない。Holmes (2008) は、2 言語を切り替えて使用する原因と動機付けの立場から、CS とコードミキシングの違いを説明した。彼の考えでは、話者が明確な動機を持ち、文脈や対話をする相手との関係を含めた理由で使う場合を CS と呼び、コードミキシングはそういった動機付けもなく乱雑に混ぜて話をするのである。つまり、CS と比べて、コードミキシングは、言語能力の不足を補うために話者が行うものであり、話者が 2 言語を混用するというネガティブなイメージも持っている。

1.1.3 CS の分類とその使用実態

CS については、2 言語コードの切り替えの文中位置と切り替えの語単位によって、その形態的特徴も異なってくる。CS の分類を検討する研究でよく取り上げられているのは、Poplack (1980) の知見である。Poplack (1980) は英語とスペイン語が混ざっている会話で観察した CS を、付加的 CS (Tag Switching)、文間 CS (Inter-Switching) 及び文内 CS (Intra-Switching) という 3 つのパターンに分けている。付加的 CS とは、間投詞や感動詞、タグなどのような文の付加的要素が異なる言語で挿入される現象である。また、文間 CS とは、文と文の切れ目で 2 言語コードを切り替え、文単位で起こるものである。そして、一つの文構造の中に 2 つの言語コードを切り替えることは文内 CS と呼ばれている。Poplack (1980) では、スペイン語-英語バイリンガル話者の CS 使用におけるこれらの 3 つのパターンの CS 使用状況について、以下のような結果が報告されている。まず、スペイン語を基盤言語とする偏重バイリンガルの CS において、感嘆詞やフィラーなどの付加的 CS が圧倒的に多いことがわかった。その一方、2 言語とも高い運用能力を持っている均衡バイリンガルの場合には、付加的 CS より、文や節などの単位で起こる文間 CS と文内 CS の方が多い。特に、均衡バイリンガルの CS 発話の半分以上 (53%) が文内 CS であることも彼の分析結果からわかった。この結果から、CS の使用パターンが話者の 2 言語能力と強く関連していることが示唆されている。そして、Fotos (1995) は Poplack (1980) の分類を援用し、日英均衡バイリンガルの子供と英語を外国語として勉強する日本人学習者 (EFL 学習者) の CS 使用実態を比較した。その結果、文と文の切れ目で 2 言語コードを切り替える文間 CS において、2 つのグループの相違性が最も顕著であること

がわかった。具体的には、均衡バイリンガルの文間 CS では、日本語から英語への切り替えがより多く行われている。一方、EFL 学習者の文間 CS では、英語から日本語への CS が比較的多く見られることが明らかになった。この結果から、CS の使用パターンがバイリンガル話者の言語習得環境と密接に関わっていることがわかった。そして、黄 (1994) では、Poplack (1980) の分類を踏まえて、在日韓国人 1 世と 2 世の自然談話に行われる CS 使用を単語レベル、句・節レベル及び文レベルという 3 つのパターンに区別した。彼は日本語を基盤言語とする会話における韓国語への CS 発話の特徴について考察した。その結果、在日韓国人の CS 使用において、大きな世代差が見られることが明らかになった。具体的には、1 世の場合には、句・節レベルと文レベルに文構造要素の切り替えが数多く見られるに対して、2 世の CS 使用では、親族呼称や固有名詞など単語レベルの CS がほとんどである。この結果によって、CS の使用実態がバイリンガル・コミュニティの属性によって異なることが示唆される。

また Poplack (1980) の分類の他に、Muysken (2000) は、CS における 2 言語の相互関係という観点から、CS を挿入型 CS (Insertion CS)、交替型 CS (Alternation CS)、融合型 CS (Congruent CS) という 3 つのタイプに分類している。挿入型 CS とは 1 つの言語を主体とする文法枠組みに、もう一方の言語の要素を埋め込むことである。これは Poplack (1980) の文内 CS と付加的 CS に相当する。一方、交替型 CS とは完全な文法構造を備えている文と文の間で行われた 2 言語の切り替えである。このような交替型 CS は Poplack (1980) の文間 CS に相当する。そして、融合型 CS では、文全体の文法的枠組みが 2 言語から作り上げられ、どちらの言語が主体であるのかが区別できない。CS の使用形態に関わる Muysken (2000) の分類は、多様な言語の組み合わせの実例に応用された。吉田 (2005) は Muysken (2000) の分類を基に、韓国系民族学校の高校生の CS の使用実態について考察した。その結果として、来日時期の早いグループの発話では、2 言語が同程度使用される交替型 CS の傾向が強い。それに対し、臨界期以後に来日したグループの CS 発話は、韓国語を基盤言語として日本語の言語要素を組み込む挿入型 CS に偏っている。また、吉田 (2005) の調査結果に基づき、吉田 (2014) では、滞日期間の比較的短い留学生と臨界期以後に来日した高校生の CS 使用を取り上げ、滞日期間が CS 使用に及ぼす影響を明らかにした。彼は、臨界期以後に来日した高校生と比べて、留学生は韓国語が使用言語の中心となるため、韓国語の会話に日本語の単語を挿し入れる挿入型 CS の割合が比較的低いことを指摘した。吉田の研究から、来日時間と在日期間が在日韓国人

のCS使用実態に強く影響することが示唆される。また、Namba(2012)はMuysken(2000)によって提唱されたCSの3つのパターンを援用し、バイリンガルの子供の言語発達に現れたCS使用に焦点を当てて、日英バイリンガル児のCS使用実態について分析した。彼は国際結婚家庭に育てられた2人の日英バイリンガルの子供(1人は5歳9ヶ月、1人は9歳3ヶ月)を対象に、同時バイリンガルのCS使用に関するケーススタディー調査を行い、会話資料に現れた500例のCS発話文を挿入型、交替型と融合型に分類した。その結果、2人のバイリンガルの子供のCS使用で、単語や節がもう一方の言語に差し入れられる挿入パターンが58%を占め、交替型CSと融合型CSと比べて圧倒的に多いことがわかった。それに対して、融合型CSは13%と少ない割合であった。このことから、バイリンガル話者のCS使用が挿入型CSと交替型CSの方に傾き、融合型CSの出現頻度が比較的少ないことがわかった。特に第3章の実証調査でも分かるように、本研究で取り扱う在日中国人留学生と在中日本語学習者のCS使用には、融合型CSがほとんど見られない。そのため、本研究では、Poplack(1980)の分類に基づき、2つの言語能力を持つバイリンガル話者の会話で行われた2言語コードの切り替えをCSと捉える。

以上では、CSの定義と分類について考察した。上で議論したように、バイリンガルの言語活動において、1つの会話で2言語コードを切り替えて使用するCSはスピーチパターンとして頻繁に見られる。また、CSと言っても、言語コミュニティの言語能力、言語習得の環境、属性などの様々な要因によってその特徴が変わってくる。次には、CSがなぜ起こるかという問題点を取り上げ、社会言語学と語用論的アプローチから、CS使用の社会的背景、談話的機能について検討していく。

1.2 社会言語学的側面からみたCSの言語機能

上でも論じたように、バイリンガルの日常会話において2言語コードを切り替えて使用するCS言語現象が頻繁に見られる。バイリンガルの社会的言語行動と見なされるCS使用に関する先行研究では、CSの社会的背景に注目する社会言語学的視点と、会話の構成におけるCSの談話的機能に関心を持つ語用論的視点という2つの側面から論じてきた。社会言語学は言語記号に隠された社会的コンテキストを重視する研究分野である。そのため、社会言語学的アプローチからのCS研究は、主に社会環境、話者の価値観などCS使用に関わる社会的な諸要素の側面から論じたものである。そして、会話の構成自体に注目する語用論的視点からみたCS研究では、CSと会話場面、話題など会話の構成要素との関

係性のような、言語活動における CS の談話的機能を論じている。以下では、まず、社会言語学的な立場から CS を論じた研究をもとに、なぜ CS が起こるのかという疑問を解明する。次に、語用論的視点からみた CS 研究を踏まえ、CS 使用がバイリンガルの言語コミュニケーションに果たす役割について検討する。

1.2.1 CS 使用に関わる社会的な諸要素

2 言語・2 文化で生活しているバイリンガル話者にとっては、それぞれの言語が異なる社会的機能を担い、言語使用の社会的規則をもとに特定の状況に応じて使用言語を切り替えることが重要である。ガンパーズ (2004) によると、多言語社会に暮らしているバイリンガル話者は話し相手の立場、会話場面や言語の社会的機能など社会的な要素に配慮しながら 2 言語コードを切り替えて使用する。また、彼はこのような CS 使用を「状況的 CS」と名付けている。そして、状況的 CS はバイリンガル集団のコミュニケーション規則及び彼らの民族的価値観と密接に関わっている。バイリンガル話者は、多民族、多文化の環境に生活しているため、彼らの友人関係や親族関係など社会的ネットワークの構築も文化的な差異によって強く影響される。また、民族的価値観によって、このような社会的ネットワークはグループ内の対人関係とグループ外の対人関係に大別できる。前者は同じ家族や友人などのような、互いに仲間意識を持ち、自分の属するウチのグループである。それに対して、後者は職場やビジネス関係のような、話者にとって所属感を抱いていないソトのグループを指している。モノリンガルと比べて、バイリンガル話者の人間関係のネットワークにおいては、こうした内外の対人関係により明確な違いが見られる。そして、ガンパーズ (2004) によると、バイリンガル話者が日常生活に使用する 2 言語は、それに対応する対人ネットワークによって、We-Code と They-Code に分けられる。We-Code はグループ内の言語活動に関連付けられる傾向が強いという特徴を持つ。一方で、They-Code はグループ外の対人関係で使われると考えられる。即ち、We-Code と They-Code の使い分けがバイリンガル話者の対人態度とアイデンティティを反映しているということである。例えば、在日韓国人の 2 言語行動を調査した生越 (2005) では、在日韓国人による日本語文脈における韓国語への切り替えがアイデンティティ確認の機能を持つことが確認され、ガンパーズの論点を支持する結果となった。

また、状況的 CS を論じた研究において、言語の使用領域という概念がよく言及される。多言語社会における言語使用について論じてきた研究では、Fishman (1972) によって提

唱されたドメイン (Domain) という概念がよく援用される。Fishman (1972) のドメインとは、特定の言語活動と結びついている使用領域ということである。また、彼によると、言語の使用場面には家庭、友人、宗教、教育、職場という 5 つのドメインがあげられる。そして、この 5 つのドメインで行われる社会的言語行動の性質によって、宗教、教育、職場などのような公的なドメインと、家庭、友人を含む私的なドメインという 2 種類に大別される。即ち、公的なドメインにおいて、話者はビジネスや会議などグループ外の間人関係で、フォーマルな言語活動を行う。私的なドメインでは、家族や友人などとの雑談などグループ内の人間関係で、インフォーマルな言語コミュニケーションを営む。このような多様な言語の使用場面は、バイリンガル話者の言語使用に強く影響する社会的要素である。例えば、多言語・多民族が共存するシンガポールの言語状況と言語教育について現地調査を実施した矢頭 (2014) では、教育レベルが高いシンガポール人が使用言語を以下のようにドメインによって使い分けている (表 2-1) ということを報告した。

表 2-1 ドメインとシンガポール人の言語使用

	中華系	マレー系	インド系
フォーマルなドメイン	シンガポール標準英語		
インフォーマルなドメイン	マンダリンシン ガポール口語体英語 中国語諸方言	マレー語 シンガポール口語体英語	タミル語 シンガポール口語体英語

(矢頭, 2014 に基づき筆者が作成)

さらに、高学歴のシンガポール人の言語使用状況について、矢頭 (2014) によると、家庭において、高齢者とは福建語を話し、親兄弟とはマンダリンあるいは英語を話す。同民族の友人とは福建語、マンダリン、シンガポール口語体英語のいずれか、異民族の友人とはシンガポール口語体英語を話す。大学あるいは大手企業の職場では標準シンガポール英語を使う。以上のことから、ドメインが言語の社会的役割と密接に関わり、家庭や友人関係などインフォーマルな場面で低位言語が使われ、教育、職場、宗教などの公式の場で社会的地位が高い言語が使われる傾向が見られる。また、バイリンガル話者がこのような社会上のコミュニケーション規則に従う上で、特定の言語使用領域に応じて適切な言語を選択し、切り替えることは状況的 CS である。つまり、状況的 CS の考えでは、CS 使用は社会的規範に合わせるために受動的に行われた言語活動であると考えられる。

次に、言語行動の社会的心理に目を向け、CS 使用に関わるバイリンガル話者の心理的要因について考察する。ここで、アコモデーション理論 (Giles et al., 1991) を取り上げて議論してみる。アコモデーション理論とは、人とコミュニケーションする際に、話し相手に注目し、相手によって自分の話し方を調節することを強調する理論である。そして、アコモデーション理論によると、コミュニケーションにおいて、言語的収束と言語的拡散という 2 つのことが起きる。言語的収束とは、コミュニケーションがうまく進展するために、自分の話し方を相手のスピーチ・スタイルに合わせるプラス方向のことである。例えば、フォリナー・トーク (Foreigner Talk) ⁷ やティーチャー・トーク (Teacher Talk) ⁸ が言語的収束の典型例として挙げられる。それに対し、言語的拡散とは、相手が使わない話し方、言葉を選択し、相手の話し方から遠ざけることである。バイリンガル話者の場合に、2 言語を使い分けることを通じて、言語的収束と言語的拡散の機能を実現することができる。このことは、在日韓国人の言語運用における 2 言語の機能を考察した黄 (1994) の調査研究で議論された。彼によると、在日韓国人同士の談話において、文レベルの「問い-答え」とあいづちで韓国語を使用することが頻繁に現れる。このような言語使用を通じて、話者の認識や態度など心理的側面が強く働く。このことから、CS 使用は相手の話し方に近づける言語的収束の機能を担っていることが示唆される。アコモデーション理論の考えでは、バイリンガル話者の CS 使用はコミュニケーションをスムーズに進めるために、相手との関係を配慮した上で能動的に行う言語使用のストラテジーである。まさに、ガンパーズ (2004) が指摘したように、人間同士の言語的コミュニケーションは、社会的規範や規則をもとに行われた相互行為であり、話し手が自分の発した語をよりよく聞き手に伝えるために、様々なストラテジーを使用している。そして、CS 使用はバイリンガル話者の特有なストラテジーである。

一方、Myers-Scotton (1993) によって提唱された有標モデル (The Markedness Model) は、社会的規則及び発話者の言語使用心理という 2 つの要因を CS 使用の分析に同時に導入している。Myers-Scotton (1993) によると、話し手が言語コミュニケーションを行う際に、具体的な会話状況に合わせて、自分の位置付けを判断しながら適切な言語表現、ふるまいを選んでいく。つまり、話者は社会的規則をもとに、どんな言葉を使っていいのか、

⁷ 母語話者がその言語を学習している外国人に対して、簡単な表現や単語を用いたり、ゆっくり話したりするような、相手の言語能力を配慮する話し方である。

⁸ 教師が外国語学習者の言語能力に合わせて、相手が理解できる表現や話し方を工夫することである。

どんな行動をとってはいけないのか、「権利と義務のセット」という規範によって自分の言語行動を調整していく。また、ある言語集団に存在する社会的規範は社会的背景やコミュニティの特徴などによって決まる。このような社会的規範に従い、予測された権利と義務セットを選んだ言語行動は無標的な言語行動と呼ばれる。一方で、話者が言語コミュニケーションにおいて、自分の必要、意志に応じて、社会的規範とすれ違った言語表現をとるのは有標的な言語行動である。例えば、会議やビジネスなどの公的場面において、話者が礼儀正しくビジネス用語を使用するのは無標的な言語行動である。しかしながら、堅苦しい雰囲気や和らげるなど、話者が自分の意志に応じて、タメ口などを話す場合は有標的な言語行動の例である。そして、Myers-Scotton (1993) は、有標性モデルに基づき、バイリンガル話者の動機付けによって、CS 使用を有標 CS、無標 CS および探索的 CS に分けていく。無標 CS とは、話し手が多言語社会や言語コミュニティにある暗黙的なルールを配慮した上で、自然に 2 言語コードを切り替えることである。このような無標 CS は、話し手が決まった社会的規範に従う義務による CS を使用するもので、前述したガンパーズ (2004) の状況的 CS に相当すると考えられる。それに対して、有標 CS とは、バイリンガル話者が 2 言語のコミュニケーションにおいて、聞き手の注意を引いたり、自分の感情を強調したりするような、自分の意志に合わせて 2 言語を切り替えることである。例えば、多民族からの話者がいるグループ会話において、会話参加者が自分の民族意識を示したい場合に、同民族の人と話す際に民族語に切り替えるということは有標 CS と考えられる。そして、探索的 CS とは、話者の言語能力や言語使用の好みに影響され、有標 CS なのか、無標 CS なのかという判断はできない 2 言語コードの切り替えである。Myers-Scotton (1993) の有標モデルは、CS 使用現象の社会言語学的な特徴に関して、2 言語使用の社会的規範及びバイリンガル話者の社会的心理という 2 つの側面から説明するものとして、その後の CS 研究に大きな影響を与えている。

以上の考察から、CS 使用は社会環境でのコミュニケーション規則とバイリンガル話者の個人的意志によって影響されるということがわかった。まさに上で論じてきた Myers-Scotton (1993) の有標モデルで指摘したように、バイリンガル話者には社会的規範に従う義務と言語を選択する権利がある。社会的規範に合わせるために行われた 2 言語コードの切り替えは無標 CS で、話者が自分の必要や意志に応じて適切な言語コードを選択することは有標 CS と考えられてきた。しかしながら、バイリンガル話者がこのような義務と権利のセットによって 2 言語の表現を切り替えて使用する前提としては、2 言語を

自由に運用する能力が必要である。その中で、社会的規範をもとに行われた無標 CS は、各言語個別が有するコミュニケーション規則に合わせる必要であるため、言語能力的に固有な部分と密接に関わると考えている。一方で、言語選択の権利に関わる有標 CS は、バイリンガル話者がすでに有する 2 言語の知識から、自分の意志に応じて適切な表現を選ぶので、2 言語の能力で重なる部分と深く関与していると推察される。

1.2.2 会話内 CS の談話的機能

上で論じたように、人間の言語コミュニケーションは、周りの社会環境や言語集団で形成されている社会的規範によって影響される。その他に、我々は言葉で他人とコミュニケーションする際に、会話場面や話題などに応じて、適切な言語行動を行っていく。そのため、バイリンガル話者の言語使用において、特定の社会的背景に合わせた状況的 CS だけではなく、会話の流れで起こる会話内 CS も見られる。即ち、バイリンガルの CS 使用が会話参加者の親密度、相互関係、場面、話題など談話的要素によって影響されると考えられる。まさに、Liwei (1995) が指摘したように、CS はバイリンガル話者が会話場面、聞き手への考慮、話題への適切さなどの要素を配慮した上で選んだ合理的な発話行為である。そして、社会的規範を反映できる状況的 CS に対して、会話内 CS は話し手の意図、感情、立場など様々な隠喩的な情報を反映している。そのため、外からの刺激によって起こる状況的 CS を論じた研究は、社会言語学の立場からその CS 使用に関わる社会的背景及び話者の心理的要因を解明することに関心を持っている。それに対して、会話内 CS に関する研究では、話し相手、場面、話題など会話の構成要素との関わりで、CS の談話上の位置付けやコミュニケーション機能などミクロなレベルで CS 使用を論じている。以下では、会話内の CS 使用に関して論じた Gumperz (1982) の議論を参考に、バイリンガル話者の日常会話における CS 使用の談話的機能について検討する。

Gumperz (1982) によると、会話内 CS はコンテキスト化の合図として使われる。コンテキスト化の合図とは、会話のプロセスの中で使われている言葉そのもの以外の文脈的情報である (Gumperz, 1982)。例えば、言語活動において、話し手は自分の意志や伝達内容をよりよく伝えるために、ポーズの取り方、イントネーション、表情、ジェスチャーなど、非言語的なストラテジーを合図として使っている。そして、バイリンガル話者の場合では、2 つの言語能力を持っているため、2 つの言語コードを切り替えることによって、何らかの文脈的メッセージを伝える。即ち、CS 使用をバイリンガル話者特有の談話スト

ラテージと見なすことができる。また、Gumperz (1982) では、談話分析の方法を取り上げ、会話内 CS の談話的機能について、表 2-2 で示したような機能リストを提示した。

表 2-2 会話内 CS の談話的機能

機能項目	具体的内容
引用 (quotation)	CSによって他の人が言った内容を直接的に引用する。
聞き手の特定化 (addressee specification)	複数の聞き手によるグループ会話で、CSによって特定の人に話を向ける。
挿入 (interjections)	CSが話の空白部分を補うフィラー、間投詞、感嘆詞として使われる。
繰り返し (reiteration)	すでに話された内容に関して、他の言語でもう一回繰り返す。
メッセージの限定 (message qualification)	CSによって主要な部分を限定し、その部分の内容を強調し、際立せる。
個人的・客観的情報の区別 (personalization versus objectivization)	2つの言語コードの差異を利用し、CSによって個人的な内容と客観的事実の間に区別をつけていく。

(Gumperz, 1982 に基づき筆者が作成)

まず、CS の引用機能は、第三者の話したことをそのまま報告するために、CS を行うことである。このような引用的 CS によって、特定の話者の口調を演じたり、話し方を真似したりして会話内容にリアリティーをもたせることができる。また、聞き手の特定化という機能は、言語コードの切り替えによって、聞き手の注意を引き起こし、話し相手とのインターアクションを促進することであると考えられる。CS の挿入機能については、例えば、「ええと」、「あう」などのような実質的な意味がない、発話の空白部分を穴埋めの際に行われる CS が間投詞、感嘆詞の機能を果たす。CS の繰り返し機能は、話の内容をより明確に、より強調したい場合に、その部分の内容を 2 つの言語コードで繰り返すことである。メッセージの限定という機能は、言語コードの切り替えによって、その内容に焦点を絞って強調していくことである。そして、バイリンガル話者が操る 2 言語は、話者との使用距離、社会的位置付けなど、それぞれ異なる社会的性質を有する。バイリンガル話者はこのような 2 言語間の差異を用いて、発話状況に応じて言語コードを切り替えることによって、伝えたいメタ言語的なメッセージを表示していく。このことは、上記の 6 番目の個人的・客観的情報の区別という機能である。

以上に紹介した Gumperz (1982) の機能分類は CS の談話的機能を議論する研究に大きな影響を与えている。その後の CS 研究では、Gumperz (1982) の機能分類を基盤として、会話の途中で生起する CS の機能について多様な議論が行なわれた。その中に、日英バイリンガル話者の会話における CS 使用の機能を議論したものとして Fotos (1990)、Nishimura (1997)、服部 (2001)、宮原 (2012) などの研究があげられる。

まず、Fotos (1990) は、日本に在住している日本語-英語バイリンガル児を対象として、彼らの会話に生起する CS 使用の談話的機能を分析した。また、CS 使用の談話的機能とし

て、彼は注意の維持、語彙知識の補足、内容の強調や話題化などの機能を抽出した。Nishimura (1997) は、Gumperz (1982) の機能的リストを議論した上で、海外に移住した日本人の日常会話における CS の機能的特徴を考察した。まず、彼は、話者同士が共有する知識や経験などのコンテキスト要素を考慮した上で、CS 使用を会話参加者の相互行為として捉えている。そして、CS 使用の談話的機能について、ディスコース・マーカ、語彙キャップの補い及び英語ベース会話における日本語の象徴的な使用という 3 つの機能項目を指摘した。ディスコース・マーカとは、接続詞や副詞などの言葉によって、話題の転換、対比、因果関係など文と文の論理的関係を示すことである。Nishimura (1997) によると、日本語をベース言語とするインタビューにおいて、「I think」、「Yeah」、「Well」など、英語のディスコース・マーカ表現が頻繁に挿入されることが観察された。このようなディスコース・マーカとして使われる CS は、発話内容が自分自身に関わることなのか、あるいは聞き手に関わることなのか、ということを区別する役割を果たすことが Nishimura (1997) によって指摘された。ここでの CS のディスコース・マーカ機能は Gumperz (1982) で挙げられた個人的・客観的情報の区別の機能と類似している。そして、Nishimura (1997) によると、CS のもう 1 つの重要な役割として、言語間の語彙ギャップを補うということが考えられる。海外に生まれ育った 2 世の日本人の場合には、日本語の語彙力が不足しているため、日本語をベースとする会話に英語の語彙を差し入れることが頻繁に現れる。また、Nishimura (1997) によると、カナダに在住する 2 世の日本人にとっては、英語をベースとする日常会話に日本語を使用することは、彼らの民族的価値観を示す機能を持つ。その他、Nishimura (1997) では、日英バイリンガルの CS 使用が話者の談話戦略として使われ、その談話的機能は相互作用的功能、構成的機能と文体効果的功能という 3 つの種類に分けられている。相互作用的功能は、コードを切り替えることによって、言いたい内容や自分の気持ちをよりはっきり伝えていくことである。相互作用的功能を果たす CS は、話者が聞き手とのインターアクションを配慮した上で行われることである。Nishimura (1997) の考えでは、CS によって発話の重要な部分を強調すること、及び「ね」、「よね」などの感嘆詞の CS によって聞き手との関与を強化するという 2 つのことが、相互作用的功能として考えられる。また、CS の構成的機能は、コミュニケーション活動の枠組みを構築する役割を果たすことを指している。構成的機能には、フレームの作り上げ及び話題の提示という 2 つの項目が含まれている。さらに、Nishimura (1997) によると、日英バイリンガル話者の会話では、引用的な CS が演技的

な効果を持っている。そのため、CS 使用によって、生き生きした会話にすることができるということを指摘した。このような CS によって話内容にリアリティーをもたせることを、彼は CS の文体効果的機能として論じている。

以上の Fotos (1990) と Nishimura (1997) の研究は、相互行為という社会言語学の視点から、海外に在住するバイリンガル・コミュニティにおける日本語と英語の CS 使用の機能に焦点を当てて分析を行ってきた。その他、服部 (2001) は、臨界期以後に L2 を学習し始めた言語学習者の CS 使用について、第 2 言語習得の観点から CS の機能を考察している。服部 (2001) では、Fotos (1990) と Nishimura (1997) における CS の機能に関する分類をもとに、社会言語学と第 2 言語習得研究の双方の視点から、外国人日本語学習者と日本語母語話者との接触場面で行われた CS の機能を考察した。服部 (2001) によると、接触場面で行われる CS には、言語的な知識不足を補う補償的機能以外に、言語行動の構造や展開に関わる伝達機能、談話調整機能などの社会言語学的な動機に基づく機能も見られる。

上では、社会言語学と語用論の分野で行われた CS 研究を踏まえて、バイリンガルの CS 使用に関わる社会的な諸要素と談話的機能について検討してきた。本節で述べたように、CS 使用が生起する原因としては、言語集団に存在する社会的規範と、バイリンガル話者の個人的意志と深く関連していることが考えられた。特に、会話の流れで起こる CS は会話参与者、話題など談話的要素と密接に関わり、発話者の自己伝達、会話参与者のインターアクション、談話的構造の作り上げなど、言語活動において重要な談話的機能を果たすことがわかった。以上の CS 研究では、CS をバイリンガルの社会的発話行為として捉えており、CS 使用に関する言語的要因が議論されていない。しかも、2 言語を混ぜて使用する CS の場合は、2 つの言語システムが同時に働き、それぞれの言語システムに有する構造的規則によって制限されると言える。即ち、CS が起こることは 2 言語そのものにある諸要素と密接に関わっている。そのため、CS 使用の仕組みを解明することに、2 言語コードがどのような文法的規則に従って組み合わせられるのかという言語学的な視点が不可欠である。以下では、言語学の視点から見た CS 研究を踏まえながら、CS 使用に関わる言語学的メカニズムについて検討してみたい。

1.3. 言語学的側面からみた CS の文法的規則

言語学の観点からみた CS 研究は、主にバイリンガル話者の会話で 2 言語のコードがど

のような文法的規則に従って切り替えられるのかということを中心に議論を行ってきた。本項では、このような言語学的分析視点から CS 使用を論じた先行研究を踏まえながら、CS の文法的規則について検討する。

1.3.1 語順制約と自由形態素の制約

CS の文法的規則を検討する研究においてよく取り上げられるのは、Poplack (1978) の知見である。上述したように、Poplack (1978) は英語とスペイン語が混ざっている会話で観察された CS を、コードの切り替えの文中位置によって、付加的 CS、文間 CS 及び文内 CS という 3 つのパターンに分けている。そして、一つの文構造の中に 2 つの言語コードを切り替える文内 CS では 2 つの文法システムがぶつかりあうため、その文法構造規則に関する考察が必要である。彼は文内 CS の文法的規則に関して、語順同等の制約 (Equivalence Constraint) と自由形態素の制約 (Free Morpheme Constraint) という 2 つの仮説を提唱した。Snakoff & Poplack (1981) は Poplack (1978) の知見を踏まえながら、これらの 2 つの制約についてより詳細に検討してきた。彼らは、語順同等の制約と自由形態素の制約に関して、以下のように述べている。

The Equivalence Constraint: The order of sentence constituents immediately adjacent to and on both sides of the switch point must be grammatical with both languages involved simultaneously. This requires some specification the local co-grammaticality or equivalence of the two languages in the vicinity of the switch holds as long as the order of any two sentence elements, one before and one after the switch points, is not excluded in either language.

The Free Morpheme Constraint: A switch may not occur between a bound morpheme and a lexical form unless the latter has been phonologically integrated into the language of the bound morpheme.

(Snakoff & Poplack, 1981, p.5 より引用)

Snakoff & Poplack (1981) で述べているように、CS の生起は、語順及び形態素の組み合わせという 2 つの条件によって制限される。具体的には、CS の引き起こしは、語順が同じ、統語規則が似た両言語の間に限られる。そして、語を構成する形態素には、自由形態素と拘束形態素がある。自由形態素は名詞や動詞など独立に使えるものである。それに対し、拘束形態素は、助詞や語尾など自由形態素に付け加えて使うものである。Poplack

の自由形態素の制約では、拘束形態素が常に自由形態素と組み合わせて、1つの固まりとして使われるため、拘束形態素と自由形態素の間に CS が生起できないと考える。Poplack (1978)、Snakoff & Poplack (1981) は、統語論の視点からバイリンガル話者の CS 使用における文法的規則について本格的に論じた初期の研究であり、後の研究にも大きなインパクトを与えてきた。

ところが、Poplack の仮説が、英語とスペイン語の会話データから導きだされたものであるため、別の言語の組み合わせに適用し難いと反論している研究者も少なくない。まず、Poplack (1978) の語順同等制約から見れば、SOV の文構造を持っている日本語は、SVO である中国語や英語などとの間で 2 言語コードの切り替えが生起しにくいということになる。しかしながら、日本語と英語の間でも、日本語と中国語の間でも、CS 使用現象が頻繁に現れることは事実であり、このことは数多くの実証研究でも検証されている。例えば、海外に在住している日本人 (Nishimura, 1997)、日米国際家庭で育てられた子供 (Namba, 2012)、国際学校の日本人生徒 (Kite, 2001) など、日英バイリンガルの CS 使用を観察する調査研究では、多様な日英バイリンガルの日常会話において日本語と英語の切り替え使用が頻繁に現れることを検証した。また、Lyu et al. (2015) は、中英バイリンガルを対象として CS 使用調査を実施した。彼らは日常会話に出現した中国語と英語の CS 使用を記録し、中英バイリンガルの CS 使用に関わるコーパスを作り上げてきた。

そして、拘束形態素と自由形態素の間に CS が生起できないという規則について、すべての言語の組み合わせに一般化できないということも、数多くの CS 研究によって指摘された (Nishimura, 1985, 1997 ; Azuma, 1993 ; 難波, 2014b)。例えば、Nishimura (1985) では、具体的な会話例を用いて、自由形態素の制約の限界を説明した。この点について、彼は下記の例を用いて説明している。

She-wa took her a month to come home-yo (彼女は家へ帰ってくるのに1ヶ月
かかったわよ) (Nishimura, 1985, p77 より引用)

上の例文で示しているように、海外に在住する日本人の会話では、日本語の助詞「は」や語気助詞「よ」は拘束形態素であるにもかかわらず、英語の文脈に挿し入れられる状況もある。このような拘束形態素において CS が生起できる会話例は、自由形態素の制約の妥当性に対して疑問を投げかけている (Nishimura, 1985)。また、日中バイリンガルの CS 使用について調査を行った Meng & Miyamoto (2009) は、中国語をベースとした日中バイリンガル子供の日常会話において、主題を表す「は」、「って」、補語を表す「から」、

「で」、「ね」、「だよ」など日本語の語気助詞の CS 使用が頻繁に見られることを報告した。これらの調査結果から、自由形態素の制約が日中バイリンガルの CS 使用にも適用できないということが示唆される。

1.3.2 FCH に基づく CS の文法的規則

拘束形態素の制約の限界を突破するために、Azuma (1993) は Garret (1975) の文産出仮説 (Frame-Content Hypothesis : FCH) を援用し、CS に関する文法的規則を提示した。FCH はモノリンガルの言い間違いを分析する Garret (1975) によって初めて提唱された。Garret (1975) の FCH によると、言葉を構成する形態素には機能語と内容語という 2 種類のものがある。機能語とは、時制、態などを示す接尾辞、冠詞、助動詞、前置詞などのような、文法的な働きをするものである。一方で、内容語とは、名詞、動詞、形容詞など、ある程度の意味内容を持っているものである。こうした機能語と内容語に関する分け方は、形態素が言葉の産出において果たす機能の差異に基づく分類方法である。そして、FCH では、文の産出プロセスが、2 段階作業を経て進んでいくと考えられる。まず、話者が文法的な働きをする機能語を用い、大まかな文の枠組みを構築していく。Garret (1975) では、この段階をフレーム (Frame) 構築ステージと呼ぶ。そして、次のステップでは、機能語で組み立てられたフレームに実質的な意味を持つ内容語が挿入され、話者が具体的なコンテンツ (Content) を作っていく。これについて、Garret (1975) はコンテンツ挿入ステージと名付けている。2 つのステージを経て作り上げられた言語情報のプランニングは音声器官に送られ、口や舌などの発声器官を経て音声化される。

Azuma (1993) はこのような Garret (1975) が提示した FCH を援用して CS 使用現象について以下のように説明している。彼によると、CS はフレーム (Frame) 構築レベルとコンテンツ (Content) 挿入レベルという 2 つのレベルで起こる可能性があると考えられる。そして、コンテンツ挿入レベルで起こる CS の場合には、名詞、動詞など実質的な意味を持つ内容語だけが切り替えられる。また、フレーム構築レベルでは内容語だけではなく、句や節など機能語を含む文法的ユニットも CS されることもありうる。そして、Azuma (1993) の考えでは、バイリンガルの 2 言語活動において、文を作ることに役割を果たす機能語と比べて、内容語の CS がコンテンツ挿入レベルで生起されやすいということになる。言い換えると、Azuma (1993) によると、コンテンツ挿入レベルで実質的な意味を持つ内容語の CS が多く起こり、文の枠組みを作り上げることに働く機能語が CS

されにくい。

このような CS の文法的枠組みに関する Azuma (1993) の知見が日本語と他言語間の CS に通用できるルールとして、その後の数多くの調査研究によって検証されてきた(郭, 2006 ; 宮原, 2012)。例えば、郭 (2006) は、韓国の帰国女子を対象に、彼らの CS 使用現象を考察した。調査結果として、日本語と韓国語間に現れた CS が単語や文節など実質的な意味を持つ内容語の切り替えが中心であることがわかった。そして、宮原 (2012) は日英バイリンガル大学生による CS 使用の形態的特徴を分析した。その結果、名詞、動詞、形容詞などの内容語の文中 CS が主にコンテンツ挿入レベルで起きることが観察され、これも Azuma (1993) の主張と合致している。ところで、Azuma (1993) の仮説について異なった分析結果を出した研究もある。Nishimura (1997) はカナダに在住している日系人の CS 使用を分析し、日本語で文法枠組みが作られた文に英語の内容語が挿入される場合にはこの仮説を支持するが、英語の名詞句に日本語の関係節が挿入されるケースについてはこの仮説に合わない、と指摘している。そのため、このような Azuma (1993) の仮説で CS 使用の文法的規則をどこまで説明できるかという問題については、議論の余地も残り、さらなる実証をおこなう必要があると考えられる。

1.3.3 MLF モデルと 4-M モデル

Myers-Scotton (1997) は以上に言及した文産出の理論を踏まえながら、文内 CS の文法構造を説明するための母体言語フレームモデル (Matrix Language Frame Model : MLF モデル) を提唱した。Myers-Scotton (2006) は MLF モデルに関してさらに詳細に検討し、CS 使用における文法的枠組みについて以下の語順の原則と機能語の原則という 2 つの原則を提示した。

The Morpheme Order Principle : In a mixed constituent consisting of at least one EL word and any number of ML morphemes, surface word order (and morpheme) order are from the ML.

The System Morpheme Principle : In ML + EL constituents, all system morphemes which have grammatical relations external to their constituents (i.e. which participate in the sentence thematic role grid) will come from the ML.

(Myers-Scotton, 2006, p.244より引用)

彼によると、文内 CS が起こっている文は、文法的な枠組みを作り上げた母体言語 (Matrix Language : ML) とそこに差し入れた挿入言語 (Embedded Language : EL) によって作られる。文内 CS において、母体言語は文法的な機能を持っている拘束形態素を提供し、文の語順を決定する。また、母体言語によって作られた文法的フレームの中に、挿入言語の語彙や節が埋め込まれる。このような母体言語フレームモデルでは、母体言語と挿入言語の区別によって、文内 CS の文法的構造を明確にすることができる。

また、Myers-Scotton & Jake (2000) は文の産出原理における形態素に関する分類を踏まえつつ、機能語をさらに意味的機能語 (Early System Morphemes)、連結的機能語 (Late Bridge System Morphemes) と文法的機能語 (Late Outsider System Morphemes) という 3 種類に細分化し、そして、内容語 (Content Morphemes) と合わせて 4 種類の形態素を想定した 4-M モデルを提示した (図 2-1)。

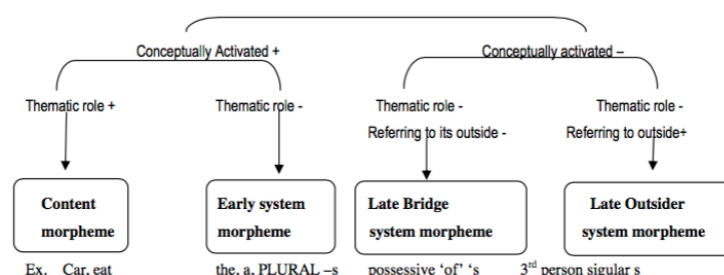


図 2-1 4-M モデルにおける 4 種類の形態素 (Myers-Scotton, 2002, p.73 より引用)

図 2-1 で示しているように、彼らは形態素を実質的な意味要素が含まれるかどうかによって、2 つのグループに分けていく。実質的な意味を含むグループには、内容語 (Content Morpheme) と意味的機能語 (Early System Morpheme) を含む。内容語は、名詞 (ex. Car) や動詞 (ex. Eat) など文のコンテンツになれるものである。それに対して、意味的機能語は英語の複数形「-s」、日本語の過去形「-た」などのように内容語に付けて使われ、ある程度の意味を表すものである。そして、実質的な意味を表すことができない機能語は、文中の働き方によって、連結機能語 (Late Bridge System Morpheme) と文法的機能語 (Late Outsider System Morpheme) のように大別される。連結機能語は、英語の「of」、日本語における「の」のような、単語と単語を結びつける橋の役割を果たすものである。文法的機能語は、英語における第 3 人称の「-s」、日本語での「は」、「が」などのような、文法的な枠組みを作り上げることに不可欠なものである。そして、Myers-Scotton & Jake (2000) はこのような 4-M モデルに基づき、CS の文法的規則について考察した。彼らによると、語自体にほとんど意味がない、文の骨組みを作るための連結機能語と文法的機能語は母体

言語から来て、埋め込み言語として他の言語に転移されにくい、と考えられる。それに対し、具体的な意味内容を表す内容語が最も CS されやすい。そして、内容語だけでなく、意味的機能語が埋め込み言語として CS されることも可能である。そして、4 種類の形態素が埋め込み言語として切り替えられやすい可能性について、Myers-Scotton (2002) では、内容語、意味的機能語、連結機能語、文法的機能語の順で低くなることを想定した。このような MFL モデルと 4-M モデルは、多様な言語の組み合わせに現れた CS に適用できるルールであり、その後の数多くの調査研究によっても検証された (Yu, 2008; Namba, 2007; Ihemere, 2016)。つまり、MFL モデルと 4-M モデルは、特定言語間の CS のみに適合した Poplack (1980) の仮説の限界を克服し、汎用性の高い CS の文法的規則として、その後の研究に大きな影響を与えている。

1.4 結び

本研究は、バイリンガル話者の言語使用について、CS という典型的な使用現象を取り上げて考察していくものである。本節では、日中バイリンガル話者の母語から学習言語への CS 研究に必要な知見を得るために、社会言語学、語用論、統語論という 3 つのアプローチから、CS 使用に関する先行研究を概観した。まず、借用とコードミキシングとの相違点を議論する上で、CS の定義と形態的分類を明確にした。そして、CS 使用状況に対する調査研究を紹介し、多様なバイリンガル話者による CS 使用の多様性について検討した。また、CS をバイリンガル話者の社会的言語行動として捉えて、社会言語学と語用論の分野で行われた CS 研究に基づき、CS 使用に関わる社会的要素と会話内の CS の談話的機能について検討した。最後に、言語学的アプローチによる CS 研究では、CS が起きる文法的規則に焦点を絞り、Poplack (1980) の語順制約と自由形態素制約、Azuma (1993) の FCH モデル、Myers-Scotton (1997) の MLF モデルと Myers-Scotton & Jake (2000) の 4-M モデルを紹介した。以上のように、CS 使用現象に関する言語学的分析を踏まえ、2 言語の切り替え使用の文法的メカニズムを考察した。このように多様な視点から CS 研究を概観することにより、本論文で取り扱う日中バイリンガルの CS 使用研究に必要な視点と分析方法を提示する。

2 バイリンガルの言語記憶システム

前節では、従来の CS に関する研究を、社会言語学、語用論、統語論という 3 つの視点

から考察した。これらの研究では、CS 使用に関わる社会的要素、談話的機能と文法的規則に焦点を当て、CS 使用現象が生起する社会的・言語的メカニズムを盛んに議論してきた。しかしながら、これまでの CS 研究では、CS 使用現象に内在する認知的要素については十分論じていない。例えば、バイリンガル話者がどのような認知的仕組み、どのような脳内処理メカニズムによって 2 言語を切り替えて使用するのかという問題を十分説明できない。しかも、心理言語学の観点から言語知識の記憶システムを検討することが、言語使用や言語習得で観察された言語現象の共通原理を説明する上で有効であると考えられる。そのため、本節では、言語知識の記憶形式に目を向け、バイリンガルの 2 言語使用を支える認知的仕組みを考察していく。まず、認知心理学の分野で扱われてきた記憶研究の成果を取り入れ、言語活動に関わる多種類の記憶情報とそれぞれの特徴を検討する。そして、言語情報の記憶システムに焦点を絞り、心理言語学で広く認知されるようになったメンタルレキシコンに関する知見に基づき、言葉に関わる諸要素の記憶形態を考察する。さらに、母語獲得と第 2 言語習得における語彙記憶システムの構築を議論した研究を踏まえ、バイリンガルの言語記憶システムについて検討する。

2.1 記憶研究からみた言語情報

心理言語学の視点から言語行動に関わる認知の仕組みを議論する際に、語彙や文法などの言語知識がどのように脳内に記憶されていくのかという問題がよく取り上げられる。ここでは、まず、これまでの認知心理学で扱われてきた記憶の仕組みに関する先行研究を概観する。これらの記憶研究の分野の研究成果を踏まえながら、言語行動に関わる多種類の記憶情報について考察する。そして、認知心理学の分野において行われた長期記憶の種類に関する議論に基づき、語彙知識と文法知識、母語知識と外国語知識など多様な言語知識の貯蔵形態を記憶の観点から検討する。

2.1.1 記憶の仕組み

人間の記憶の仕組みに関して、従来の認知心理学に関する研究分野では、様々な観点から複数のシステムが想定された。その中でも、記憶を保持期間の長さによって区分した短期記憶と長期記憶という 2 つの記憶システムは幅広く知られる。長期記憶と短期記憶という 2 つの概念について、19 世紀に活躍し、有名な心理学者 James.W によって初めて提唱された。James (1890) では、人間の記憶を瞬時的に保持される一次的記憶 (Primary

Memory) と長期にわたって保持される二次的記憶 (Secondary Memory) という 2 つのシステムに分けていく。これは、短期記憶と長期記憶という記憶システムに関する知見の始まりである。短期記憶と長期記憶の差異に関して、人間の記憶の構造的特徴を論じてきた Lachman , Lachman & Butterfield (1979) の知見をまとめると、以下のようになる。短期記憶とは、注意を向けた情報が短時間で保持されるものである。一般には、短期記憶の保持時間は 15 秒から 30 秒までに限られ、容量にも制限がある。これに対して、長期記憶には、リハーサルなどの記銘作業を受けた情報が永続的に貯蔵され、ほぼ無限の容量を持っている。そして、Milner (1966)、Shallice & Warrington (1970) など、健忘症患者の記憶障害を観察する神経心理学の研究は、短期記憶と長期記憶の差異を証明する根拠として広く引用されてきた。過去の出来事や知識などのような長期記憶に障害を示すものは逆行性健忘症と呼ばれる。一方で、短期記憶に障害が出る場合には、新しい内容、知識を学習することができなくなり、前向性健忘症と呼ばれる。この 2 種類の健忘症は短期記憶と長期記憶という 2 つのシステムの実在性を支持した。しかしながら、保持期間によって区別された長期記憶と短期記憶の考え方では、記憶情報が静的なものとして扱われ、各処理段階に生起する変化について検討されていない。1960 年代以後の記憶研究では、記憶の形成が記銘、保持、想起からなる一連の情報処理過程であると考えられる。このような考え方は人間の脳を一つの処理機構として捉え、動的な視点から記憶の貯蔵システムを検討する方向に向かうことになった。その中で、最も影響力を持つのは、Atkinson & Shiffrin (1971) によって提唱された記憶の二重貯蔵モデルである (図 2-2)。

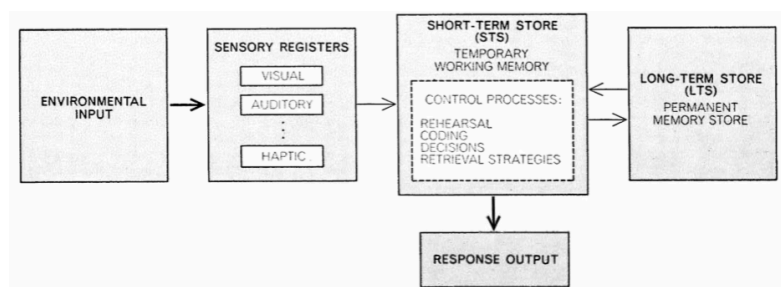


図 2-2 記憶の二重貯蔵モデル (Atkinson & Shiffrin, 1971, pp.3 より引用)

図 2-2 で示しているように、記憶の二重貯蔵モデルでは、短期記憶を保持する貯蔵庫 (Short-term Store) と長期記憶を保持する貯蔵庫 (Long-term Store) の以外に、感覚情報を扱う感覚登録器 (Sensory Registers) という機構が加えられる。外部からの情報は最初に感覚登録器に入力され、そこで感覚記憶としてごく短時間だけで保持される。そして、感覚登録器で一瞬だけ保持される感覚記憶は、視覚刺激 (Visual)、聴覚刺激 (Auditory)、

触覚（Haptic）など感覚の種類によって異なる様式を持っている。また、感覚登録器は符号化という処理機能を担う。符号化とは、外界から入力された刺激を、脳内処理が可能になる形式に変換することである。目や耳など我々の感覚器官によって受け取った感覚情報は量的に莫大である。多量な感覚情報の中で注意を向けられたものが感覚登録器で符号化され、短期貯蔵庫に転送される。そして、短期記憶として貯蔵された情報がリハーサルや関連づけなどの記録処理により、長期貯蔵庫に入力され、長期間的に定着されることになる。Atkinson & Shiffrin（1971）の二重貯蔵モデルはその後の記憶研究に理論的な枠組みを提示したということで、高く評価されている。しかしながら、二重貯蔵モデルでは、記憶情報の保持時間と内容によって、長期記憶と短期記憶の差異について論じているが、短期記憶は情報の短期的な貯蔵機構として捉えられた。換言すれば、二重貯蔵モデルでは、短期記憶システムに関して、情報の短期的な保持機能のみに注目し、認知活動を遂行する短期記憶の処理機能について十分に論じていない。

Baddeley & Hitch（1974）は、短期記憶の概念を拡大し、言語理解や推論などより高次的な認知活動に関わる処理機能を加え、ワーキングメモリという概念を提唱した。ワーキングメモリの概念では、短期記憶は入力された情報を受動的に受け取って貯蔵するだけでなく、能動的に認知活動を行う処理機構であると考えられる。ワーキングメモリのモデルについて、よく引用されるのは Baddeley & Logie（1999）の議論である（図 2-3）。

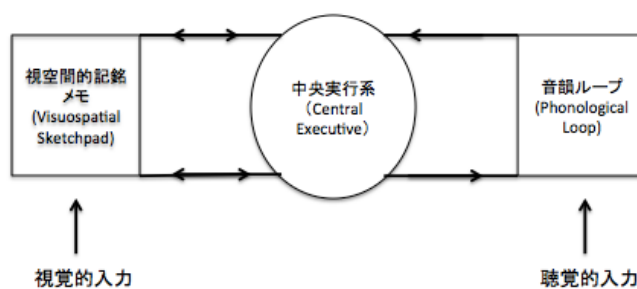


図 2-3 第 1 世代のワーキングメモリ・モデル（Baddeley & Logie, 1999 に基づき筆者が作成）

図 2-3 で示しているように、Baddeley & Logie（1999）のモデルでは、音韻ループ（Phonological Loop）、視空間的記銘メモ（Visuospatial Sketchpad）という 2 つのサブシステムの以外に、2 つのサブシステムを制御する中央実行系（Central Executive）もある。音韻ループは音声情報の保持、活性化する機構を持ち、音声言語の処理活動と密接に関連しているシステムである。そして、視空間的記銘メモは目から受け取る視覚情報を扱うシステムである。また、中央実行系は 2 つのサブシステムを管理し、認知資源の分配や

処理方略の作成など統制的機能を果たす大切な処理機構である。また、Baddeley (2000) は、Baddeley & Logie (1999) の知見のモデルにエピソードバッファというもう一つのサブシステムを加え、ワーキングメモリ・モデルの改訂版を提案する (図 2-4)。

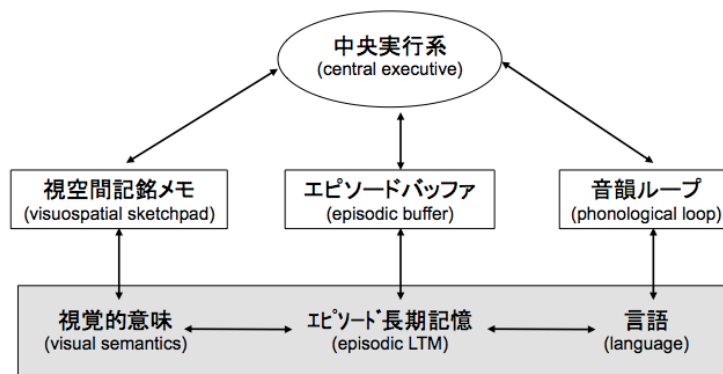


図 2-4 ワーキングメモリ・モデルの改訂版 (Baddeley, 2000)

エピソードバッファは長期記憶にアクセスする機能を持ち、認知活動に必要な長期記憶を活性化し、また活性化した情報を一時的に保持する役割も担っている。こうした Baddeley (2000) によって提唱されたワーキングメモリに関する新たなモデルは、認知活動における長期記憶の役割を取り込んでいることで評価されている。また、彼のモデルはエピソードバッファを追加することにより、その場で受け取った新情報と既存の情報を照合しながら、旧情報を更新していく、という記憶活動の本質を説明できた。

以上みてきたように、記憶の仕組みを議論した先行研究では、人間の記憶を認知処理の内容や深さによって、感覚記憶、ワーキングメモリ、長期記憶という 3 つのシステムに大別した。これらの記憶研究の観点から人間の言語活動を考察してみると、以下のようなことが考えられる。我々は言語活動をする際に、まず、体で受け取る感覚情報を脳で処理できる形式情報に符号化していく。そして、符号化された情報によって脳内に蓄えている意味情報を活性化する。この形式情報に意味情報を素早く付与していくことが、言語活動を成立させるポイントとなる。また、このような言語活動によって脳内に貯蔵された言語知識が更新されていく。つまり、言語知識の学習は、感覚情報によって記憶システムを起動し、短時間で保持された新情報を脳内に既存された旧情報に照合しながら、脳内で言語知識の記憶システムを再構築する過程である。そして、このような処理過程において、感覚記憶、ワーキングメモリと長期記憶という 3 つの記憶システムの連携が必要不可欠であると考えられる。

2.1.2 言語活動に関わる多様な記憶情報

以上の議論から、人間の言語活動が感覚記憶、ワーキングメモリ、長期記憶という3つの記憶システムによって支えられることがわかった。次に、我々の言語コミュニケーションに関わる多様な記憶情報について検討してみる。まず、言語活動は言葉を中心に行われる高次的な認知活動であるため、言語情報と離れると言語活動が成立できない。そして、言語活動に必要な不可欠な言葉の知識が長期記憶として脳内に貯蔵されるということが公認される（門田，2003）。また、言語は音声や文字など形式に関する情報と、概念や認知に関わる意味情報からなるものである。言語形式に関する情報は、耳で聞こえたり、目で見えたりするような、客観的に知覚することができるものである。それには、視覚処理に依存する文字情報と聴覚処理に頼る音声情報に大別される。音声情報にせよ文字情報にせよ、外界に存在する言語記号として、我々の感覚器官で受け取り、客観的に処理されるものである。それに対して、意味情報は思考や認知と密接に関わるものであり、五感で感じる客観的な対象物に主観的なイメージ、感情を加えて処理されたものである（井狩，2009）。例えば、「いちご」という語を思いついた時に、いちごの形、色、味など視覚的、味覚的表象はもちろん、昨日八百屋で買ったいちごがまずかったことや、先週友達と農園でいちご狩りをしたことなど個人的な経験も想起される。そして、「いちご」からは、いちごケーキ、アイスクリーム、ブルーベリー、など意味的に関連している事物も思いつく。このことから、言葉の意味は独立に脳内に記録されるものではなく、その語を表す事物に関連する多様な情報の集合体であると考えられる。この意味の集合体は、その事物に関する感覚情報、認知的な情報、個人的経験など様々な記憶情報によって編成されるものである。井狩（2009）は、言語活動は五感と動作を活用しながら脳内に意味世界を構築し、記憶を基に意味世界を脳内で再生する過程であると指摘した。即ち、言語活動のポイントは記憶システムに基づく意味情報の処理であると考えられる。

ところで、言語活動を支える記憶情報では、以上に議論した音声、文字、意味などの言語情報だけではなく、活動場面に存在する文脈的信息と一般的な認知情報が重要な役割を果たすと考える。まず、我々の言語活動は、個々の出来事や具体的な状況の中で行われるため、文脈や場面から離れることができない。即ち、実際の使用状況に依存する言語使用では、会話場面や言語環境に関わる文脈的信息が必要不可欠である。文脈的信息は、言語活動に客観的に存在する状況的な要素である。例えば、面と向かって会話する際に、相手の表情や身振りなどを目で観察したり、会話場面にある環境的な要素を気かけたりする

必要がある。発話者はこれらの文脈的情報を考慮しながら、効率的でかつ適切な言語行動を捉えていく（小林，2012）。上で指摘した記憶の仕組みに関する知見を取り入れて、文脈的情報の記憶的性質を検討してみよう。我々は日常的な言語活動に、話し手あるいは聞き手として身をもって参加する。話し相手や会話場面など言語活動の構成要素に関わる様々な情報が、話者の五感から自然に入力される。このような感覚器官の特性に依存し、偶発的に視覚的、聴覚的あるいは筋肉感覚的に行われる記憶は感覚記憶である（梅本，1984）。例えば、会話場面にある事物、音を視聴覚的情報として目や耳から入力したり、その場の温度や匂いなどを感覚的情報として感覚器官から無意識的に感じ取ったりするように、これらの感覚記憶は発話内容や話者の気分にも強く影響している。そして、日常的な会話場面の中に、体で自然に感じ取る感覚記憶の量は莫大である。その中で注意が向けられたもののみが短期記憶として一時的に貯蔵され、言語使用に影響を与える（大石，2006）。このことから、言語使用場面に客観的に存在する文脈的情報の中で、会話参加者の感覚器官によって受け取られ、注意が向けられたもののみが言語活動に影響を与えていくと考えられる。

そして、私たちは言語活動を行う際に、言語情報と文脈的情報以外に、一般的な認知情報を利用することも大切である。このことに関して、言語的な情報を取り込む際には、言語的な知識以外に様々な知識を用いる必要があり、このような知識は認知科学ではスキーマ（Schema）と呼ばれる（伊東，1994）。また、伊東（1994）によると、スキーマとは、個人が取り込む世界の様々な事柄に関する体系的な知識のまとまりのことである。換言すれば、スキーマ知識は、ある事物や出来事に関する一般的な認知情報が日常生活で実際に見たり体験したりすることによって長期記憶として脳内に貯蔵されたものである。スキーマ知識として学習された一般的な認知情報は言葉で再現することができ、他の認知活動に必要とされれば意図的に想起される。言語活動においては、話し相手との関係、ある事物に関する知識、社会的なコミュニケーション規則など、日々の生活の経験によって形成される一般的な認知情報がスキーマ知識である。上でも言及したように、我々の言語活動は、言語使用環境や社会的規則などの社会的背景に従う上で行われるものである。そのため、日常的なコミュニケーション活動では、話し相手、会話場面、社会的システムに関連した背景知識は、適切な言語表現を選択する上で重要な役割を果たすと考えられる。つまり、話者の脳内に貯蔵される一般的な認知情報は言語活動を常にサポートしていると言える。以上で議論してきたように、言語によるコミュニケーション活動は長期記憶の中に貯蔵さ

れる言語情報とスキーマ知識、コミュニケーション場面に存在する感覚的な記憶情報によって支えられ、進展していく。次に、言語活動の根幹をなす言語情報に焦点を当て、長期記憶のシステムの分類に基づき、多様な言語知識の記憶形式について検討する。

2.1.3 記憶の種類と言語知識

前項で議論したように、言語知識は音声・文字などの形式情報と意味・文法などの意味情報からなる。そして、言語情報は言語習得環境や習得方略によって母語知識と外国語知識に区別される。母語であれ、外国語であれ、言語に関わる情報は生活の中で意識的あるいは無意識的に学習された知識として、脳内に定着される長期記憶である。また、認知心理学の分野では、記憶情報の内容や記銘方略によって、長期記憶について幾つかの分類を行ってきた。ここでは、記憶の分類に関する知見を踏まえ、多様な言語知識の記憶形式について検討してみる。

まず、従来の記憶研究では、記憶内容の差異によって、長期記憶を手続き記憶 (Procedural Memory) と宣言的記憶 (Declarative Memory) に分けていく (Cohen & Squire, 1980 ; Squire, 1987)。『心理学辞典』によると、言語的に記述可能な事実に関する記憶は宣言的記憶であり、必ずしも言語的に記述できるとは限らない手続きに関する記憶は手続き記憶である。具体的に解釈してみると、手続き記憶は、自転車の乗り方や料理の作り方など、実践的な作業に参加するうちに身につけた技能的な知識である。そして、その特性は、記憶の分類について議論した記憶研究の知見 (伊東, 1994 ; 湯舟, 2007 ; 田中, 2011) を踏まえ、以下の4点にまとめられる。まず、手続き記憶は場面依存性が高い記憶情報である。例えば、自転車の乗り方やピアノの弾き方を学習する際に、実際の場面で操作しないと熟達できるはずがない。これらの技能学習は実践的に使用状況から切り離されにくいものである。そして、手続き記憶の2つ目の特性は連続性が高いということである。例えば、ピアノを弾く際には、音符やリズムを一個一個に分けて想起するのではなく、指の動作が一連になりスムーズに演奏する。3つ目の特性は、獲得された手続き記憶は無意識的に想起されることができる。ここでまた、自転車に乗ることを例にして説明する。我々は自転車を運転する際に、足の動かし方やハンドルの操作方法など1ステップずつ意識的に想起する必要がなく、自動的に操作していくということである。最後に、手続き記憶は言葉で詳細に解釈することが難しいものである。それは、手続き記憶は実際の場面で身をもって学習し、体で覚えたものであるため、ほとんどが非言語的な記憶として脳内に

蓄えられるからである。その一方で、宣言的記憶は、子供時代の出来事や歴史、地理に関わる知識など、明確に言葉で説明できるものである。手続き記憶と比べて、宣言的記憶は体に対する依存性が低く、意識的に記銘し、意図的に想起することができるという特徴がある (Surprenant & Neath, 2009 ; 井上, 2001)。さらに、Tulving (1972) は宣言的記憶を、文脈依存性の強弱によって、エピソード記憶 (Episodic Memory) と意味記憶 (Semantic Memory) に区別してきた。エピソード記憶とは、過去の出来事や経験など特定の場所や時空間的要素に対する依存性が高いものである。それに対して、意味記憶とは、単語の意味や周りの事物に関わる百科事典的な知識など、文脈から切り離され独立して存在できるものである。

次に、上述した手続き記憶と宣言的記憶に関する議論を踏まえ、言語知識の諸要素に関わる記憶形式を検討してみる。言語知識というと、日本語、英語、中国語など個別言語に関わらず、いずれの言語にも音声、意味などの構成要素が含まれている。そして、言語使用は個々の語彙が一定の秩序に基づいて構築されたものである。このような文を構築する規則性が文法である。ことばを建築物に例えてみると、個々の語彙はレンガのような建物を構築する材料になり、文法は建築設計図のような存在になる。以上のことから、言語知識は語彙知識と文法知識という 2 つの部分に大別できる。まず、長期記憶のシステムの種類に基づき、文法知識の特性について検討してみる。言語獲得から文法知識の性質を推察してみると、子供が生得的なパターン認識能力を機能させ、周りの言語環境と接触するうちに、繰り返した言語使用経験から無意識に抽出された規則的なものが文法である (針生, 2010)。即ち、文法知識は具体的な言語使用場面に依存し、多量な言語使用経験から自動的に習得されたものである。また、我々は母語でコミュニケーションする際に、すでに習得した文法知識について、無意識に正しく運用できる。このような自然に習得し、無意識に使う母語の文法知識の中には、言葉で明確に説明できないものも多い。そのため、我々が母語獲得過程で身につけた文法知識は手続き記憶だと考えられる。それに対し、単語の読み方、文字表現、意味など、語彙に関わる知識は言葉で表現しやすいものである。そして、これらの知識は特定の事物に対応することができ、使用場面から独立に存在することが可能である。母語獲得における文法知識の習得と比べて、こうした語彙に関わる知識については、話者が親など周りの人々、学校の教育から教えられ、常に意識的に学習している。そして、言語コミュニケーションにおいて、話者は何を表現しようとするのか意識し、語彙知識を意図的に想起できる。以上のことから、語彙知識は言葉で解釈するような宣言

的記憶になると言える。

また、語彙知識には、音声や文字など語彙の表現形式の情報とその語彙の意味概念に関わる情報がある。単語の発音や文字表現は一種の記号として、人間のコミュニケーション活動に具体的な形式を与える。記憶研究の視点から見ると、音声記号や文字表現は我々の耳で聞いたり目で見たりするような視聴覚イメージとして具現化されるものであり、コミュニケーション場面から切り離され、常に意識的に取り扱われるものである(福田, 2012)。このような性質を持っている語彙の形式情報は、文脈依存性の低い意味記憶であると考えられる。一方で、意味情報は形式情報のような静的で固定化されたものではない。言葉の意味は話者の感覚、認知、感情と深く関わり、個人の生活経験で絶えず変化しているものである(井狩, 2009)。そして、意味情報の中には、その語を表す概念に関する客観的な知識と個人的な体験に関わる主観的な記憶が含まれる。例えば、「犬」という語を思い出す際に、「犬は頭、4足、尻尾を持つ動物である」、「犬は哺乳類である」、「犬は猫と類似している動物である」など「犬」に関する百科事典的な知識が想起できる。それと同時に、自分の子供時代には「ジジ」というワンちゃんを飼ったことや、犬に追われた恐怖の経験を想起する場合もある。前者のような、ある語彙に関する一般の百科事典的知識は具体的な場面や文脈から分離できる意味記憶である。それに対し、後者のような個人的な経験と密接に関連した語彙情報は、特定の場所や時間などのコンテキストに存在しているため、出来事に関するエピソード記憶である。以上の議論をまとめると、文法知識は言語使用から抽象化された言語の規則性であり、手続き記憶として脳内に貯蔵される。音声、文字など語彙の形式的知識は文脈から独立した客観的な存在であり、意味記憶として脳内に蓄えられている。そして、語彙の意味情報は、特定の概念に関する一般の百科事典的知識と個人の経験、感情に関わるものを含め、意味記憶とエピソード記憶という2つの記憶システムによって構築されている。

記憶の種類について、上記の記憶情報の性質に基づく分類以外に、記憶に関する先行研究では、検索過程における意識の働き方によって、記憶を潜在的記憶 (Implicit Memory) と顕在的記憶 (Explicit Memory) のように分けている (Tulving, 1984 ; 太田, 1995 ; 小松, 2001)。そして、言語知識の諸要素を考える際にこのような潜在的記憶と顕在的記憶の概念を援用することによって、母語知識と外国語知識の差異を説明することができる。従来の記憶に関する研究では、記憶情報を想起する際に意識を伴うかどうかという問題に焦点を当て、潜在的記憶と顕在的記憶という2つの記憶システムを提唱した。小松(2001)

では、意図や意識を伴わずに想起される記憶が潜在的記憶とされ、再生や再認など意図や意識を伴って想起される記憶を顕在的記憶と見なしている。潜在的記憶について、ここで日常生活の具体例を用いて解釈してみる。私たちは1日の始まりから、起きて、顔を洗い、歯を磨く。そして、朝ごはんを食べたり、電車に乗って仕事に行ったりする。われわれはこれらの活動を遂行する際に、意識を払わなくても自然に行動していく。即ち、日常生活を営む際に利用する記憶情報は、ほとんど無意識的に想起できる潜在的記憶であると考えられる。また、これらの潜在的記憶は日常生活で無意識的に身につけられる暗黙知である。それに対し、地理的知識、歴史上の大事件や子供時代の出来事など、意図的に想起される記憶は顕在的記憶に属する。これらの顕在的記憶の学習過程に関して、学校で歴史的知識や地理的知識などを学習した経験を振り返ってみると、授業で先生が口頭で説明してくれた後に、各自のペースで意図的に暗記していく。百科事典的な知識のような顕在的記憶の記銘は、身体や五感に依存するだけではなく、脳の高次的認知機能を利用し、意図的に学習する認知処理過程である。つまり、小松（2001）で指摘されたように、無意識的に記銘、想起できる潜在的記憶と比べて、顕在的記憶はより高次レベルの認知的処理であるため、実行に際してより多くの認知資源を消費する必要がある。そして、言語学習における意識と無意識の記憶について論じてきた中森（2013）によると、無意識に行われた学習は暗黙的学習であり、そこで獲得された知識は暗黙知と呼ばれる。それに対し、意識を伴う学習は明示的学習であり、学習された内容は意識に上らせることができる形式知である。

次に、潜在的記憶と顕在的記憶という2つの記憶システムに関する議論を踏まえ、母語獲得と外国語学習の差異について検討してみる。母語を獲得する際に、子供は五感や身体運動を通して周りの言語環境と接触するうちに、無意識に言語知識を学習していく。このような母語獲得過程で行われたことは、意図を伴わない暗黙的学習である。母語知識は言語環境と相互作用しているうちに自動的に定着した暗黙知である。そのため、我々は母語でコミュニケーションする際に、発音の仕方や文の構造規則など、意識的に想起しない状態で言語活動を遂行していく。一方、外国語学習の場合は、学習者が人為的に作り上げられた教室で先生の説明を聞き、文型練習を繰り返すことによって学習していく。外国語学習者は、外国語知識を自然な言語使用環境から切り離された客観的な対象物として捉える。そのため、外国語知識は意識的に注意を払いながら学習された形式知である。そして、井狩（2016）では、言語習得における意識の働き方について、次のようなモデル（図 2-5）を提案し、言語情報の処理メカニズムを考察した。

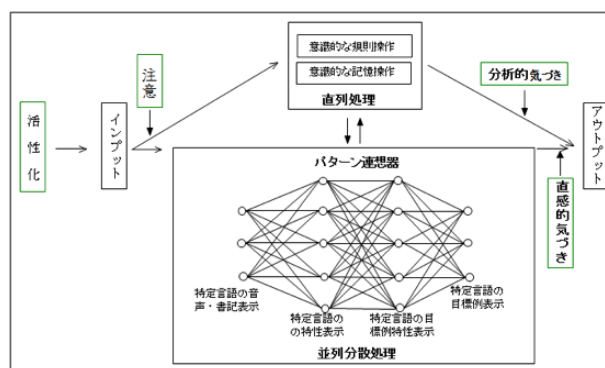


図 2-5 言語習得における意識の働き方 (井狩, 2016, p.8 より引用)

図 2-5 で示したように、井狩 (2016) は、言語情報の処理方略が並列分散処理と直列処理に分けられると指摘している。並列性を持つ無意識処理では、多量な情報が同時に処理され、その処理は意識の高次のレベルにのぼらないため処理速度が早い。それに対し、直列性を持つ意識処理では、個々の情報が順次的に処理されるため、処理速度が比較的遅く、処理の容量にも制限がある。また、直列処理は、高次の認知活動に向いている継時的整合性を持つ処理方式であるため、意識的注意が必要であり、より多くの認知資源が消費される。そして、前述したように、母語知識は、無意識のうちに複数の言語情報が同時に高速で処理されることに対して、第 2 言語の学習は言語情報が意識上で順次的に処理され、容量限界を持ちかつ効率が悪い直列的な処理過程である。そのため、第 2 言語の知識を学習・運用する際に、より多くの認知資源が必要である。しかしながら、意識的なプロセスで学習された第 2 言語の知識が母語知識のように自動的処理に移行できることは必ずしも不可能ではない。言語使用経験を積み重ねることによって言語能力が熟達するうちに、外国語知識が無意識化、自動化されることができ (木下・大石, 2010 ; 横川, 2014)。話者が形式知である外国語知識を自動化させることによって外国語を運用する際に意識的な認知処理の必要性がなくなり、認知的負荷を減少させることができる。つまり、第 2 言語習得において、このような順次直列処理から並列分散処理へ移行していく自動化の過程が非常に重要である。

2.2 言語情報の記憶システム - メンタルレキシコン

上では、記憶の仕組みと分類に関する記憶研究を踏まえ、言語活動に関与する記憶情報と各種の言語知識の記憶形式について全般的に検討した。ここでは、言語活動を支える言語情報に関して、特に語彙情報の蓄えに焦点を当てて検討する。その原因として、語彙情報は言語知識の根本的な部分であり、語彙情報の蓄積は我々のコミュニケーション活動を

成功する鍵であると考えられる。特に、第2言語習得において、語彙力の高さは4技能の運用能力と強く関わり、言語学習者の言語能力を測る重要な要素になり得る(島本, 1998)。そこで、本項では、言葉がどのように脳内に蓄えられているのかという問題に迫り、心理言語学の研究分野で提唱されたメンタルレキシコンという概念を取り上げて議論する。具体的には、メンタルレキシコンの構造とその特性をめぐって議論した心理言語学の知見を踏まえ、言語習得における語彙知識の貯蔵プロセスについて検討していく。

2.2.1 メンタルレキシコンの構成要素

心理言語学の枠組みでは、我々の脳内には様々な言語情報を蓄えている辞書が存在しているとされ、この辞書がメンタルレキシコンと呼ばれる。言語を運用する際に、我々はメンタルレキシコンから必要な語彙情報を検索する。メンタルレキシコンには、音韻情報、文字情報、文法情報、意味情報など語彙項目に関わる諸要素が含まれる。その中で、音声、文字など言葉の表現形式に関連する形態的な情報を担う部門は形態部門である。一方、意味や品詞など語彙の意味的な情報を担う部門は意味部門である。

また、玉岡(2013)によると、これらの言語情報がメンタルレキシコンに記憶イメージとして記録されれば、それは脳内の言語表象と呼ばれる。また、彼の考えでは、1つの語が少なくとも、音韻的表象、書字的表象と意味的表象という3種類の記憶表象と関わる。そして、前述したように、音韻的表象と書字的表象は言葉の表現形式に関わるものであるため、メンタルレキシコンの形態部門に含まれる。ここでは、まず、心理言語学の研究成果を踏まえ、形態部門に含まれる音韻的表象と書字的表象の処理について見てみる。音韻的表象は聴覚イメージとして、聴覚器官によって処理される。上で言及したワーキングメモリの知見から、音韻的表象の処理機構は音韻ループというサブシステムである(Baddeley, 2000)。音韻ループにおいては、音声知覚のための音韻的分析と発話行動のための構音プランニングという作業が行われる(斎藤, 2001)。それに対し、書字的表象は視覚的イメージとして目から受け取られ、視覚情報の処理機能を担う視覚野で符号化処理される。そのため、書字的表象の処理を担う脳部位が損傷を受けると、話者は文字という言語の視覚的イメージを認識することができなくなり、難読症という言語障害になる(浅川, 2012)。また、ワーキングメモリを議論したBaddeley(2000)の知見から、書字的表象を処理するシステムは視空間的記銘メモである。そして、メンタルレキシコンにおいて、音韻的表象と書字的表象は互いに関連性を持って存在している。特に、これまでに心理言

語学の研究者らは、書記言語の処理過程について考察を行ってきた（メアリアン・ウルフ，2008；井狩，2009）。これらの知見から、書記言語の処理過程において、書字的表象が意味にアクセスする前に、音韻的表象に変換される必要があるということが言われている。つまり、文字情報を処理する際に、視覚的イメージが音声的言語コードに変換された後に、意味とのマッピングができるようになるのである。また、音韻的表象や書字的表象は、単語の読み方や文字表記などのように目や耳で見聞きできる言語のシンボルである（玉岡，2013）。そのため、形態部門に蓄えられている言葉の形式情報は、言語運用の具体的な場面から切り離される客観的な対象物である。即ち、書籍辞書に記載されている単語の読み方や文字表現などのように、形式情報は言語で表示され、紙の上に固定化されることができる。

ところで、メンタルレキシコンは、意味の取り扱いの点で、紙ベースの辞書と大きく異なる。一般の辞書では、語彙の意味が文字で記述されている。それに対し、メンタルレキシコンに蓄えられた意味情報は、文字で説明しきれない広範囲の意味世界である。意味部門の構成に関して、Aitchison（2003）は、ことばの意味を地図の中の町にたとえて説明している。それによると、意味領域は地上に現れている町のほんの一部だけであり、地下のトンネルのような一般的な認知能力や記憶と結びつくネットワークが大部分であると指摘した（図 2-6）。

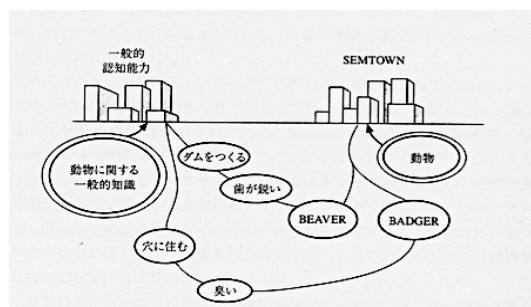


図 2-6 SEM-TOWN の地下リンク（Aitchison, 2003 より引用）

つまり、メンタルレキシコンが扱う意味は、個人の感覚や記憶、認知と深く関わっており、文字で表現される情報を遙かに超えている。このことは、幼児の語彙獲得過程からも推察できる。幼児は、五感や身体運動を通して、身近な出来事や物と関連付けながら語彙を覚えていく。1つの語を覚えるのに、自分の置かれている環境に積極的に関わって様々な経験を積み重ね、そこから得られる動的な意味情報を静的な形式情報に付与する。即ち、語彙発達は意味情報と形式情報をマッピングする過程である。このような意味の発達過程について、井狩（2009）は、意味部門と脳の記憶システムの関連性に焦点を当て、言語の

意味は時間・空間の変化の中で絶えず変化しながら構築されると同時に、記憶された意味情報を基に関係する神経細胞が結びつくことで再生されると指摘している。

そして、形態部門と意味部門の関係について、福田（2012）は、この2つの部門に独立性があると指摘する。彼によると、言葉の形態と意味は切り離され、独立した存在である。また、このことについて、Aitchison（2003）では、意味部門では同じ意味領域の言葉が密に繋がり、便利に産出できるように構成されているのに対して、形態部門では類似した音を持つ言葉が強く結びつき、発話理解において音声をすばやく同定できるように構成されていると述べられている。つまり、意味部門はアウトプットに合わせて、形態部門はインプットに向けて構成されているということである。次に、語彙情報の貯蔵に関する心理言語学の知見を踏まえながら、意味部門の構築に焦点を当てて考察していく。

2.2.2 メンタルレキシコンにおける意味部門の構造

上で論じたように、意味部門は人間の認知機能と密接に関連しているため、言語の形式情報を担う形態部門と比べて、その構造が遥かに複雑である。ここでは、言語知識に関連する意味記憶の形成を議論する心理言語学の知見を踏まえながら、メンタルレキシコンにおける意味部門の構造形態とその特性について考察する。

まず、我々の記憶において、語彙知識に関わる意味情報は独立したものではなく、互いに関連性を持つ情報がグループ化されるものと考えられる。このような言語知識の意味的関連性に関して、Collins & Loftus（1975）は意味ネットワークという概念を提示した。彼らの考えでは、言葉の意味要素に関わる情報は、個々の単位で無秩序に蓄えられるものではなく、互いに繋がるネットワークとして貯蔵される。即ち、1つの語彙に関連する意味は、ある関係性によって互いに結びつけられている意味要素の集合体である（図2-7）。

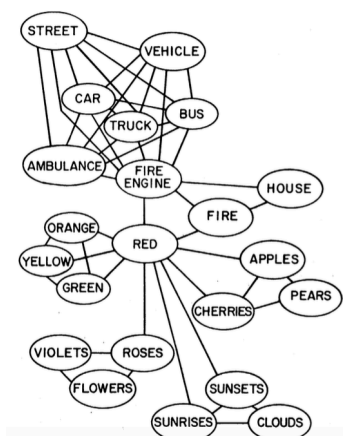


図 2-7 意味ネットワークの構築 (Collins & Loftus, 1975)

図 2-7 で示しているように、意味ネットワークにおいて、それぞれの意味要素が線によって連結され、語彙項目の網を形成する。そして、この意味ネットワークにおいて、各意味要素は他の複数の意味要素と結びついている。また、意味要素間の関係について、直接的に連結しているものと（例えば、「red（赤い）」と「sunsets（夕日）」）、他の意味要素を経由して間接的に繋がっているものがある（例えば、「red（赤い）」と「clouds（雲）」は「sunsets（夕日）」を通じて結びつく）。即ち、意味ネットワークにある各要素の間には、リンクの距離によって意味的関連性の強弱がある。

そして、意味ネットワークに含まれる各意味要素は無秩序に貯蔵されるのではなく、一定の規則に従いつつ意味的集合体にある個々の要素を、互いに関連付けていくということである（Aitchison, 2003 ; 秋山・内海, 2010 ; 石川, 2005）。以下では、主に、メンタルレキシコンに関する有力な知見と考えられる Aitchison (2003) の議論を参考に、意味ネットワークにおける意味要素間の関係性について検討する。Aitchison (2003) はこうした意味ネットワークにある語彙項目間の結びつき方について、等位語、上位語、同義語、共起語という 4 つの意味関係を想定した。それによると、言葉の意味部門には、乗り物、車、救急車のような意味の階層的な構造がある。そして、下位概念は上位概念のすべての特性を持ちながら、独自の個性を有するより具体的な概念である。意味ネットワークに含まれる個々の意味要素が上位、下位、等位などの関係性によって互いに連結する。Aitchison (2003) で提示された等位語とは、同じレベルのカテゴリーに属する語彙項目のことである。例えば、「りんご」、「なし」、「スイカ」、「桃」など、すべてが「果物」という大きなグループに含まれる具体的な概念である。そして、Aitchison (2003) の考えでは、「高い」と「低い」、「太い」と「遅い」のような対立的な意味を持つ反意語も等位語の分類に属する。それに対し、「上位語」とは、「りんご」と「果物」のような、2 つの単語が概念的に上下関係を持っているものである。そして、同義語とは、「りんご」と「アップル」のような、ほぼ同じ意味を表現する語彙項目である。共起語とは、「ご飯」と「食べる」のような、日常生活でペアとして出現しやすい、強い連合関係を持っている 2 つの語彙項目のことを指している。2 つの語彙が共起語である場合には、一方の語彙が刺激されると、もう一方の語彙も自動的に共起される。そして、語彙項目に関わる意味要素はこのような多様なリンク関係によって体制化される。また、このような多種類の意味的関係性においては、語彙項目間の結合の強弱が異なっている。Aitchison (2003) によると、等位語と共起語という 2 種類のリンク関係にある語彙項目では、それらの 2 つの語彙項目の間の結

合が極めて強いことが考えられる。また、語彙項目とは別に、秋山・内海（2010）は、文章における単語同士の共起頻度を観察することを通じて、概念間の意味関係を考察した。彼らは Aitchison（2003）の語彙項目間の意味的関連性に関する分類を細分化した（表 2-3）。

表 2-3 意味要素間の関係の分類と例（秋山・内海，2010）

関係		
大分類	小分類	例
類義関係	類義語	宣伝⇔広告
	反意語	戦争⇔平和
	事例-事例	赤⇔青⇔緑<色
上位下位関係	全体-部分	手>指
	カテゴリー-事例	動物>犬
近接関係	熟語	満員-電車
	随伴	タバコ⇔煙
	統語	友人-紹介

表 2-3 によると、秋山・内海（2010）の分類では、意味要素間に存在する意味関係が類義関係、上位下位関係、近接関係という 3 つの種類に大別された。そして、彼らは類義関係を「類義語」、「反意語」、「事例-事例」に、上位下位関係を「全体-部分」と「カテゴリー-事例」に、近接関係を「熟語」、「随伴」、「統語」に分けて、それぞれの大分類は下位分類を持っている。彼らの要素間の意味的関係性に関するこの分類は、Aitchison（2003）の分類を体系的にまとめると同時に、さらに細分化するものであると考えられる。

以上に議論してきたように、意味ネットワークにおいて、意味要素間は特定の意味関係に従って体制化されている。つまり、このような様々な論理的関係が意味ネットワークの構築に一定の秩序を提供する。また、メンタルレキシコンにある大量の語彙項目にもう 1 つの分類枠組みを提示するものとして、品詞が挙げられる。品詞とは、語彙項目が文中で果たしている機能である。上で述べたように、言語を建物にたとえてみれば、個々の語彙項目が建物を構築する材料になる。もちろん、建築用の材料にもレンガや土など、様々な役割を果たしているものがある。同じように、文にも名詞、動詞、形容詞など、実質的な意味を持ち、文の主要な表示意味を表す言葉が存在する。こうした内容語はレンガに相当し、言語という建物を構築する主要な材料になる。Aitchison（2003）は、品詞は言葉の抽象的な意味と密接に関わるものであることも指摘している。例えば、名詞は物事の名前を表し、動詞は動作や事物間の関係を示し、形容詞は物事の性質や状態を表す。このことに関して、今井（2004）では、品詞は特定の種類の語の汎用規則として、メンタルレキシコンに関するメタ知識であるということを指摘した。そして、今井・針生（2007）による

と、品詞という意味情報の性質に関わるメタ知識が子供の語彙獲得に手がかりを提供し、メンタルレキシコンを効率的に構築することに役立つ。つまり、莫大な数の意味要素からなる意味ネットワークが品詞によって整然と整理される。このことを通じて、言語活動における意味情報の理解、検索などの効率的な処理が可能になると考えられる。

また、このような意味ネットワークの構築は個人的・文化的な要因によって強く影響されている（井狩，2009；三宅，2002，2003；Paradis，2000）。まず、意味ネットワークの個人的要因について見てみる。上で議論したように、子供における意味の習得は、身をもって周りの世界と接触するうちに、言語形式と生活環境にある事物との関係性を理解した上で、各自の意味世界を拡大していく過程である。そのため、意味ネットワークは、子供が置かれている生活環境、個人的経験、認知スタイルに基づいて形成されるものである。その具体的な構造形態は個人によって大きな相違性を持っている。また、個人的経験に依存する意味世界の発達は、成人になっても継続しつつあり、絶えず変化、更新されていく。このことに関して、井狩（2009）によると、幼児は不完全な知識を用い言語を使い始め、動作と五感から得られる情報をもとに、少しずつ言語の意味世界を広げていく。そして、一生を通してこのような意味世界が広がり、精緻化、抽象化が進んでいく、とも述べている。彼の考察から、意味ネットワークは静的なものではなく、個人的な経験に基づいて絶えず変化していくような動的なものであることが示唆されている。次に、意味ネットワークの構築に影響する文化的要因について考察していく。ある言葉に関わる意味ネットワークの構成要素が言語や文化によって異なる場合が珍しくない。例えば、「赤い」という概念から連想される内容に関して、中国人では「結婚式」という概念を思いつきやすい。それに対し、日本人では「郵便ポスト」と意味的に関連しやすい。それは、中国では、結婚式で使われる飾りはすべて赤いものであり、また、郵便ポストについては日本では赤色であるのに対して中国では緑であるからである。そして、このことに関して、三宅（2003）では、単語の意味はその言語の話し手が属する文化の中で獲得されるため、文化の規定力が同じ文化に所属する人たちの間に似たような背景、経験、関心を呼び起こしている、とされる。その結果として、同じ文化に所属する人たちの持つ単語の意味はよく似たものになると考えられる。彼の考察から、意味ネットワークにおける意味要素の関連性は言語や文化によって異なってくるのがわかる。

2.2.3 母語獲得におけるメンタルレキシコンの構築

上記では、意味情報を担う意味部門の構造形態について検討してきた。ここでは、子供の言語獲得過程において言語情報がどのように現実世界にある概念とマッピングされていくのかを考察し、メンタルレキシコンの構築について検討する。

まず、乳幼児の言語発達過程に注目した江尻（2000）によると、子供は反射的発声期、クーイング期、拡張期、喃語期などおよそ1年間の時間を経て、発声システムを完成させていく。江尻（2000）の知見から、1歳前の乳幼児の発声運動は意味を伴わない発声器官の筋肉運動であることがわかった。換言すると、子供の1歳以降に、音声と意味との結びつきという意味づけ段階が開始される。しかしながら、子供がどのように連続する音を指示対象に付与していくのかを解明することは容易ではない。子供の語彙獲得に関して、Aitchison（2003）では、以下のような過程を経て発達していくことが指摘されている。まず、乳幼児の初期の語彙獲得は状況全体に依存し、習慣的に伴われる発声行動である。そして、類似的な状況で同じ言語表現を繰り返すことによって、その言葉の使用場面が次第に拡大されていく。最終的に、その言葉は全体的な使用状況から切り離され、特定の物事に同定されるようになる。このことによって、乳幼児の語彙発達の初期段階では、状況全体から特定の意味概念を分離する認知能力をもとに、それに音声情報を付与していくことが重要である。そして、乳幼児が状況全体にある特定の意味概念を音声の組み合わせで同定する能力について、Markman（1989）は子供が事物全体バイアス、事物カテゴリーバイアス、形バイアスと相互排他バイアス、という4つのバイアスを持つという制約仮説を提唱した。今井・針生（2007）はMarkman（1989）の制約仮説について、以下のような考察を行ってきた。事物全体バイアスとは、子供は新しい語の意味と出会う際に、その語が事物の全体を指すと自動的に認知することである。事物カテゴリーバイアスとは、子供は最初に名付けられた対象はカテゴリー名を表示するものと想定することを指している。形バイアスとは、子供は、形が類似しているものは同じ名前を持つと考えることを指している。相互排他バイアスとは、子供は1つの物事に1つの名前しかないという考えをもとに、言葉と指示対象の関係を整理していくことである。

上記で論じてきた乳幼児における語彙獲得に関する考え方は、子供がどのように新しい概念を言葉で素早く同定するのかをある程度説明できるため、先行研究において評価されている。同時に、それについての批判的な声も少なくない（小林，1997；今井・針生，2007；井狩，2009）。たとえば、今井・針生（2007）では、事物全体バイアス、事物カテゴリー

バイアス及び相互排他バイアスに関して、以下のように批判している。事物全体バイアスは具体的な形状を持たない物質の名前の学習に汎用できない。それは、液体と空気などのような物質の場合には、形態が固定されていないため、全体と部分の区別が容易ではないからである。また、子供が学習する新しい語はカテゴリー名を表すという事物カテゴリーバイアスの考え方では、具体的な人名、地名などのような固有名詞の意味獲得ができなくなる。また、相互排他性バイアスに関して、1つのものはただ1つのカテゴリー名しか持たないということが現実的には合理ではないと今井・針生（2007）は指摘している。そして、乳幼児の語彙概念の獲得に関して、井狩（2009）は、幼児が身体運動に関係するパターン認識を利用し、音声情報と同期させることにより単語を覚えていくと指摘し、Markman（1989）の制約仮説と反対する立場を唱えている。つまり、子供の初期語彙の発達段階において音声情報を意味概念とマッピングすることは、身を持って周りの世界を探求すると同時に、生得的なパターン認知能力に基づき、言葉と現実世界の関係性を認識することである。そのため、子供の語彙獲得は生得的なパターン認知能力及び周りの言語環境と密接に関わり、両者の相互作用の中で発達しつつあると考えられる。

また、子供の語彙発達の全体的な過程に関して、Aitchison（2003）は、「ラベリング」、「パッケージング」と「ネットワーク構築」という3つの段階を経て発達していくと想定した。「ラベリング」とは、耳から受け取った連続音声は現実世界にある物事を表すものであるということを認知する過程である。即ち、上で論じたように、ラベリングは物理的な音声情報と意味情報と結びつける能力を身につける過程である。「パッケージング」とは、音声でラベル付けした意味情報をもとに、それに関連する他の意味情報を集めて、1つの箱にまとめていく過程である。そして、「ネットワーク構築」の段階では、音声、文字、意味、文法的素性など語彙項目に関連する諸要素を理解し、語彙間の関係性を認識した上で、語彙のネットワークを作り上げていく。彼によると、物事に音声情報でラベル付けするという語彙の初期発達は1歳から2歳の間に観察され、またそれはその発達段階に現れる語彙爆発現象⁹と密接に関わっている。このラベリング段階で獲得した言葉は、互いに関連していない独立した存在である。そして、次のパッケージング段階に入ると、すでに蓄積された多くの意味要素を互いに関係付けて、特定のカテゴリーの下に組み合わせて分類していく。この発達段階における子供の言語使用では、過剰縮小と過剰拡大などの間違いが頻繁に生起する。過剰縮小は、子供が家で飼っている犬に対して「ワンワン」というが、他

⁹ 語彙爆発とは、子供が2歳頃から、話せる語彙が一気に増える現象である。

の犬に対して言わないというような、言葉を実際より狭い範囲で捉える言葉の扱い方である。それに対し、過剰拡大は、子供がすべての四足の動物を「ワンワン」と名付けるように、言葉の適用範囲を実際より広げていくことである。また、ネットワークの構築という最後の発達段階では、獲得された言葉を多様な意味関係に基づいて統合し、効率的な言語処理に適応する語彙記憶システムを形成していく。そして、Aitchison (2003) によると、「ネットワーク構築」の段階における語彙の発達は一生涯続いていく。

2.3 バイリンガルにおけるメンタルレキシコンの構築

1つの言語システムしか持たないモノリンガルと比べて、2つまたは2つ以上の言語能力を持つバイリンガルのメンタルレキシコンはより複雑になる。従来のバイリンガリズム研究では、バイリンガルの2言語知識の記憶方法に関して、形態部門に含まれる音声・音韻情報が各言語別のシステムに貯蔵されると思われてきた。一方、意味部門の構築についてはこれまで数多くの研究がなされてきたが、それについて共通的な結論に至っていない現状である。ここでは、バイリンガルの語彙記憶の仕組みに焦点を合わせ、改訂階層モデル (Kroll & Stewart, 1994) と特徴要素モデル (De Groot, 1995) を取り上げて、バイリンガルがどのように2言語の語彙情報をメンタルレキシコンに蓄えていくのかについて検討する。

まず、Kroll & Stewart (1994) が提示した改訂階層モデル (図 2-8) は、偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおける2言語情報の貯蔵プロセスを明示的に示している。

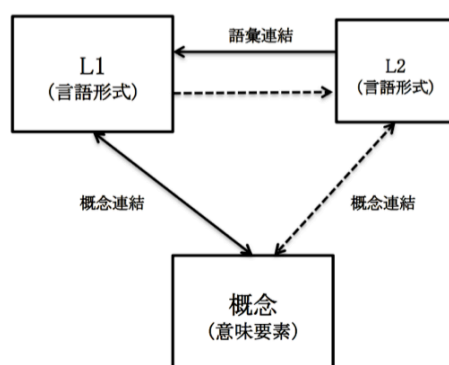


図 2-8 改訂階層モデル (Kroll & Stewart, 1994 に基づき筆者が作成)

図 2-8 の L1 と L2 のボックスは音韻情報や文字情報など形式に関わる内容を表し、「概念」に関するボックスは意味要素を表している。偏重バイリンガルのメンタルレキシコンでは、L2 の語彙数より L1 の語彙数の方が多いため、このことを図 2-8 で表すと L2 のボ

ックスに比べて L1 のボックスがより大きくなる。Kroll & Stewart によると、メンタルレキシコンの形態部門に属する両言語の情報は相互に独立した言語形式システムに貯蔵され、意味部門に属する情報は 2 言語に共通したシステムに貯蔵される。図 2-8 では、バイリンガルの語彙処理に関して、概念連結と語彙連結という 2 つの処理方法が想定されている。概念連結は言語形式と意味要素の直接の結びつきを表す。それに対し、語彙連結は、言語形式間の語彙情報の変換を指す。母語獲得では、L1 の言語形式から直接意味要素にアクセスすることによって L1 の語彙をメンタルレキシコンに蓄えていく。第 2 言語習得では、L2 の言語形式から意味要素に直接アクセスする言語環境が不足しているため、L2 の言語形式と意味要素の結びつきが弱い。その結果、L2 の言語形式が L1 の言語形式を経由して意味要素に辿り着く。このことから、Kroll & Stewart のモデルでは、L1 から L2 へよりも L2 から L1 への方が形式情報の変換可能性が高くなると説明される。

このモデルに関して、3 つの欠点があると考えられる。まず、Kroll & Stewart (1994) の語彙処理モデルでは、L2 の学習環境がバイリンガルの語彙習得と語彙検索に与える影響についてほとんど検討されていない。Kroll & Stewart (1994) によると、バイリンガルの第 2 言語習得の初期の段階において、L2 の言語形式からその意味要素へのつながりができず、L2 の言語能力が高くなるにつれて、その概念連結が形成されていく。このことに関して、筆者は、L2 を外国語として学習する環境にいる第 2 言語習得者の語彙習得には当てはまるが、L2 の国で生活している第 2 言語習得者には適用されないと考える。特に、文化的共通性が低い L2 の意味要素の場合、それに対応する L1 の言語形式が既存の言語システムに貯蔵されていない。そのため、これらの意味要素を表す L2 の言語形式を学習する際、L1 の言語システムを経由せずに意味要素に直接アクセスすることにより、語彙連結より概念連結の方が先に進む可能性が考えられる。次に、語彙連結の不均衡に関する問題である。Kroll & Stewart (1994) は、2 つの言語形式を結びつける語彙連結において、L1 から L2 へのリンクより L2 から L1 へのリンクの方が強いと考える。しかし、本論では、2 方向の語彙連結の強弱は 2 言語の言語的距離から影響を受け、従って言語の組み合わせごとに異なる結果が出てくる可能性があると考えられる。

そして、最後に、Kroll & Stewart のモデルは、意味部門と形式部門との結びつき方に焦点を合わせて議論したものであり、語彙処理形式に強く影響する意味部門の特性に関しては検討していない。上で言及したように、意味に関わる情報は個々の単位で無秩序に蓄えられるのではなく、互いに繋がったネットワークの形で貯蔵されると考えられる。即

ち、1つの語彙に関連する意味とは互いに関連する意味要素の集合である。そして、バイリンガルのメンタルレキシコンにおいて、2つの言語体系で構築された意味ネットワークに含まれる意味要素が完全に一致することは非常に少ない。例えば、日本語の「花」と中国語の「花」は、植物の花を指すという点では両言語で共通している。しかし、中国語の「花」には、「お金や時間を使う」という動詞の使い方もある。また、意味のネットワークでは、意味要素間の連結の強弱が言語システムによって違う場合もよくある。例えば、先述した「赤い」と「結婚式」の意味的関連性の例でもみられるように、日本人より中国人の方がこれらの2つの語彙間の関連性を強く捉えると考えられる。なぜなら、中国式の結婚式で使われる飾りはすべて赤いからである。

このような両言語の意味部門の不一致に関して、従来の認知心理学の研究分野では、語彙連想課題という実験手法を用いて検証したものが多く (Ervin-Tripp, 1967; 三宅, 2003; 藪内, 2014; 小森, 2014; 堀場他, 2011)。これらの実証研究では、連想語調査を実施することにより、意味部門の構築に影響する要因を考察した。例えば、Ervin-Tripp (1967) は、意味ネットワークの構成要素が使用言語によって異なるということを検証するために、アメリカに在住している日本人を対象に、日本語と英語で語彙連想課題を実施した。その結果以下の表 2-4 で示されているように、日本語と英語によって連想する内容には大きな相違が見られた。

表 2-4 Ervin-Tripp (1967) における日英バイリンガルの語彙連想

刺激語	日本語での連想語	英語での連想語
月 (Moon)	お月見、きりん草、満月、雲	Sky, Rocket, Cloud
元旦(New Year's Day)	門松、お餅、ご馳走、着物、七草がゆ、羽根つき、みかん、こたつ、友達	New clothes, Party, Holiday
お茶(Tea)	お茶碗、緑、茶菓子	Teapot, Kettle, Tea leaf, Party, Green tea, Lemon, Sugar, Cookies

(芳賀, 1979 に基づき筆者が作成)

三宅 (2003) は日本語とドイツ語における意味ネットワークの文化的差異を検証するために、日本人とドイツ人を調査対象として連想テスト調査を実施した。その調査結果から、日本文化に特有の連想語のペアとドイツ語圏文化に特有の連想語のペアが存在することがわかった。以上の連想語調査による実証研究の分析結果から、意味ネットワークの構造形態が使用言語と文化的要因によって強く影響されることが示唆されている。また、藪内

(2014) は外国語習得における語彙項目ネットワークの形成と特徴を考察するために、日本人英語学習者を対象として、日本語と英語の、両言語で自由連想課題を実施した。その調査結果から、抽象語に対する連想において、日本人学習者は意味にアクセスできないので、音韻的連想や形態的連想をする傾向が見られ、母語話者での連想項目とかなり異なることが観察された。つまり、日本人学習者と英語母語話者の文化背景の相違が2言語の意味ネットワークの構築に強く影響すると考えられる。以上の検証研究から、意味ネットワークに含まれる意味要素は言語、文化によって異なっていることが示唆される。このような両言語の意味要素領域の特性をうまく説明できるのは、De Groot (1995) によって提唱された特徴要素モデルである (図 2-9)。

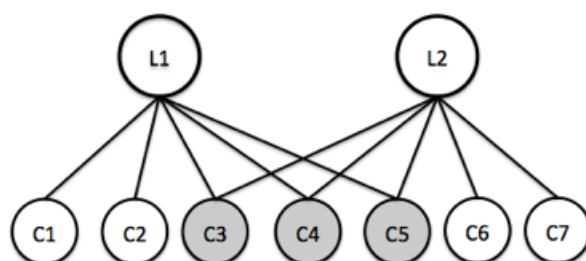


図 2-9 特徴要素モデル (De Groot, 1995 に基づき筆者が作成)

De Groot (1995) によると、音声・音韻情報など言語形式に関わる言語知識が、各言語別の記憶装置に分立的に貯蔵される。一方、言語形式に対応する意味部門は1つの単位ではなく、多数の意味要素の集まりであり、両言語で共有する部分があるとともに、各言語が個別に有する部分もある。図 2-9 で示されるように、言語形式と意味要素との結びつきは1対1の関係ではなく、それぞれの言語形式が多数の意味要素と繋がっている。多数の意味要素の中で、両言語で共通している部分は3つだけである。つまり、言葉の意味部門に含まれた意味要素は共通の意味要素と両言語に固有の意味要素に分かれる。また、筆者の考えでは、言語固有の意味要素の中に、両国の文化交流によって互いに融合しているもの (例えば、餃子、コンビニなど) とそうでないもの (例えば、鏡餅、こたつなど) があり、それに対応する両言語の言語形式も大きく異なる。この意味要素に関係する文化の共通性が、バイリンガルの語彙習得と語彙検索に強く影響していると考えられる。このことに関して、第 4 章での検証実験を用いて検討していく。

2.4 結び

本節では、まず、記憶の仕組みと分類に関して、認知心理学の分野で行われた研究を概

観した。記憶に関する研究の成果を踏まえながら、言語活動における記憶の役割、言語知識に関わる諸要素の記憶形式という2つの視点から、言語活動と記憶の関係について考察した。そこでは、我々の言語活動が言語情報だけではなく、文脈的な情報、一般的な認知情報など多様な記憶情報によって支えられ、また感覚記憶、ワーキングメモリと長期記憶という3つの記憶システムと密接に関わっていることも明らかにされた。または心理言語学の研究分野におけるメンタルレキシコンの構築と特性に関する先行研究を踏まえながら、言葉がどのように脳内に貯蔵されるのかということについても検討してきた。特に母語獲得における語彙知識の習得と貯蔵の問題を、子供の言語発達の視点から検討した。最後に、2つの言語システムを持つバイリンガルのメンタルレキシコンの構造に関して、Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデルと De Groot (1995) の特徴要素モデルを検討し、それらの既存モデルの特徴と限界を明らかにした。

3 まとめ

以上、本章では、まずバイリンガルの言語使用におけるCSという2言語コードの切り替え現象について分析してきた既存の研究について、CSがなぜ、どのように起こるのかという2つの観点から検討してきた。CSがなぜ起こるのかという問題点に関心を持つ既存の研究において、CSはバイリンガル話者の社会的発話行為として捉えられてきた。具体的には、社会言語学と語用論的なアプローチから、CS使用に関わる社会的背景と談話的機能について論じてきた。そして、CSがどのように生起するのかということに目を向けた先行研究では、2つの言語システムがぶつかるCS使用における文法的メカニズムに関して、言語学的観点から言語学的な分析を行ってきた。第3章の日中バイリンガルのCS使用の実態に関するデータ分析に役立てるため、ここでは社会言語学、言語学的な側面からCS使用現象を分析した先行研究を概観し、その談話的機能と文法的規則を明らかにした。しかしながら、これらの研究では、バイリンガルの2言語使用に関わる認知的なメカニズムという視点が欠落し、CSという2言語使用現象を支えるバイリンガル話者の認知的な諸要素が議論されていない。そのため、本章の後半の部分では認知心理学の分野における記憶に関する研究を起点として、言語活動に必要な多様な記憶情報とその役割について検討した。そして、母語獲得と第2言語習得において、言語活動を支える必要不可欠な語彙情報がどのようなプロセスで習得され、どのような形態で貯蔵されるのかということについて検討した。このように、バイリンガル話者における言語記憶システムの

構築と特性を議論すると同時に、既存モデルの限界と不足点について検討を行ってきた。これら既存の研究を踏まえ、第4章では、バイリンガルのCS使用現象を説明する語彙記憶システムのモデルを提示し、日中バイリンガルを対象に実施する語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題解という心理言語学実験を通じて検証していく。また、第4章に入る前に、まず第3章では日中バイリンガル話者の自然会話データに基づき、彼らの日常生活におけるCS使用の談話的機能と使用形態を分析していく。

第3章 日中バイリンガルのCS使用に関する調査

本章では、日中バイリンガルの日常会話に現れた母語から学習言語へのCS使用現象に目を向け、実際に収集された会話データをもとに、彼らのCS使用の談話的機能と使用形態について実証分析を行う。今回の調査では、日本語を第2言語として学習する在日中国人留学生（以下JSLと略す）と中国で日本語を外国語として学習する中国人大学生（以下JFLと略す）を対象として、彼らの中国語を基盤とする日常会話を録音する。以下では、まず、第2章で概観したCS使用に関する先行研究、特にCSの談話的機能と使用形態を論じてきた知見を踏まえ、本データ分析の理論的枠組みを示す。次に、分析的枠組みに基づくCS発話のデータ分析を通じて、日中バイリンガルの母語から学習言語へのCSに関する談話的機能と使用形態を明らかにする。そして、JSLとJFLのCS発話に見られた機能的特徴と形態的特徴に関する比較分析を通じて、習得環境によって分類された両グループにおけるCS発話の相違点を考察していく。さらに、両グループのCS発話に観察された機能的・形態的な差異を引き起こす原因に関して、社会言語学と心理言語学の観点を取り入れて検討していく。

1 調査概要

今回の調査では、中国語と日本語の、両言語とも話せる日中バイリンガルを対象として、彼らの中国語を基盤言語とする日常会話を録音した。具体的には、本調査の目的を知らない調査協力者に、中国語を基盤言語として1対1で30分程度の自然な会話をしてもらった。録音の場所は教室や談話室など静かなところである。会話の内容は、「最も受け入れられない日本人の思考方式」、「日本人と付き合った時にあった面白いこと」、「最近びっくりしたこと」、「日本の食べ物の好き嫌い」などのような身近な事柄に関する話題である¹⁰。そして、バイリンガル話者は互いに仲間意識を持っているグループ内の人間関係で、インフォーマルな言語活動を行う際に、CSをしやすい(Hoffman, 1991)。そのため、本調査では、ペアになる会話参加者の2人は友人関係に限定される。

今回の調査協力者は2言語を話せる日中バイリンガルであり、日本語の習得環境によって、JSLとJFLという2つのグループに分ける。第1グループの在日中国人留学生(JSL)は、中国の高等学校または大学を卒業した後、日本の大学(大学院)に進学している。彼

¹⁰ 会話データを収録する際に調査協力者に配布した会話トピックに関する調査質問紙は、巻末の附録資料1参照。

らは上級レベルの日本語能力（日本語能力試験 N2 に合格した人は 9 名、N1 に合格した人は 35 名）¹¹を持ち、日本の滞在期間が比較的長いために、日本語のコミュニケーション能力もかなり高い。なお、録音する前に、調査協力者の日常言語使用状況について簡単な調査を行った¹²。その結果、彼らが日常のコミュニケーション活動において、日本語 30%、中国語 70%の割合で使用していることがわかった。主な日本語の使用は、大学の授業、グループ活動、アルバイト先でのコミュニケーションにおいてである。但し、中国人同士の会話は、ほとんど中国語で行われる。それに対し、第 2 グループの在中日本語学習者（JFL）は中国の大学で日本語を学習している学生である。彼らの日本語学習歴は 3～6 年に及び、上級レベルの学習者（N2 に合格した人は 16 名、N1 に合格した人は 10 名）である。調査協力者の基本情報は表 3-1 で表示されている。

表 3-1. 調査協力者の基本情報

調査協力者	人数	身分	年齢層	日本語能力	在日期間
在日中国人留学生 (JSL)	44名	大学生 (9名) 大学院生 (35名)	20代	N2合格 (9名) N1合格 (35名)	3年<Y<5年 (20名) 5年<Y<7年 (24名)
在中日本語学習者 (JFL)	26名	大学生 (16名) 大学院生 (10名)	20代	N2合格 (16名) N1合格 (10名)	—

表 3-1 で示したように、今回の調査では、日本で生活している JSL44 名と中国の大学に在籍している JFL26 名の協力を得て、1 対 1 で 35 ペアの 929 分の会話データを収録した。そして、収録した会話データを文字化し、本研究の談話資料とした。会話データの収集は 2015 年 6 月から 10 月と 2017 年 3 月から 6 月にかけて 2 回実施した。収録された会話データに見られた CS の発話総数は 1549 回¹³であり、日中バイリンガルの会話に頻繁に生起する言語現象であると言える。なお、調査協力者のプライバシーに関わる会話内容を研究資料として使用するにあたり、調査協力者の同意を得た¹⁴。

2 分析方法

2.1 本研究で扱う CS

第 2 章で議論したように、CS の定義について、バイリンガリズム研究者の間で多様な議

¹¹ 日本語能力試験とは日本国際教育支援協会と国際交流基金が主催し、日本語を母語としない外国人を対象として世界中で実施する日本語能力の認定試験である。日本語能力試験には、N1 から N5 まで 5 つのレベルに分かれ、N1 は「幅広い場面で使われる日本語が理解できる」ことを基準とした、一番難しいレベルである。

¹² 調査協力者の日常言語使用状況を調査するために、会話データを収録する際に調査協力者に個人プロフィールに関する調査質問紙を配布する。具体的には、巻末の付録資料 2 参照。

¹³ その中に、JSL の CS 発話数は 1312 回、JFL の CS 発話数は 237 回を含む。本研究は中日偏重バイリンガルの CS 使用現象について実証分析を行うものである。そのため、今回の調査で収録した会話データに現れた CS 発話に注目して文字化し、談話資料とした。具体的には、巻末の付録資料 3 参照。

¹⁴ 調査協力者に配布した調査協力承諾書の具体的内容は、巻末の付録資料 4 参照。

論が行われてきた（ガンパーズ,2004；Grosjean,1982；Myers-Scotton,1993）。本稿では、ガンパーズ（2004）の定義に基づき、2 言語能力を持っているバイリンガル話者が一連の会話の中で 2 つの言語システムに属する言語コードを、意識的あるいは無意識的に使用することを CS として捉える。

また、CS 研究において、CS は借用とコードミキシングという 2 つの概念とよく混同されやすい。Poplack（1980）は切り替えられた言語要素の音韻的、形態的及び統語的という 3 つの側面から、基盤言語への適応程度によって、CS を借用やコードミキシングと区別し認定していった（表 3-2）。

表 3-2 CS の認定基準

タイプ	基盤言語への適合性 (Level of integration into base Language)			CS ?
	音韻面 (Phonologically)	形態面 (Morphologically)	統語面 (Syntactically)	
1	◎	◎	◎	NO
2	×	×	◎	YES
3	◎	×	×	YES
4	×	×	×	YES

（Poplack,1980 に基づき筆者が作成）

表 3-2 で示しているように、切り替わる言語要素が、音韻的、形態的、統語的の 3 つの面で基盤言語に適応するタイプ 1 は CS と認められない。そして、基盤言語の統語面のみに適応するタイプ 2、音韻面のみに適応するタイプ 3、及びどちらにも適応していないタイプ 4 は CS として捉えられる。Poplack（1980）の知見に基づき、本稿では、CS と借用を区別する際に、基盤言語への音韻的な適合性のみを基準として判断する。日本語と中国語の、両言語システムとも漢字という文字表記を有するため、2 言語でやりとりする日中バイリンガル話者の会話において、切り替えられた言語要素が音韻的な面で基盤言語に適応する場合は、借用として捉え、CS とみなさない。

例えば、中国語によって文法的枠組みを作り上げる例 1 では、「はなびたいかい」、「さしみ」など日本文化に関わる物事を表す単語が、日本語のままで発音された。これらの語彙項目は音韻的に中国語の言語システムに適合されていないため、CS とみなされる。一方で、例 2 では、「花火大会」「刺身」などの語彙表現は、同じ漢字表記を持つ中国語のまま（「花火大会 (hua-huo-da-hui)」、「刺身 (ci-shen)」）で発音されるので、音韻的に中国語の言語体系に適合されたものと考えられる。そのため、例 2 のような言語使用は借用として判断し、CS として扱わない。

例 1 日本到了夏天到处都是 はなびたいかい

「訳：日本では夏になると、あちこちで花火大会が開催される」

我很喜欢吃さしみ和かいてんすし

「訳：私は刺身と回転寿司が大好き」

例 2 日本到了夏天到处都是花火大会

「訳：日本では夏になると、あちこちで花火大会が開催される」

我很喜欢吃刺身和回转寿司

「訳：私は刺身と回転寿司が大好き」

2.2 CS の談話的機能に関する分析枠組み

第 2 章では、なぜ CS が起こるのかという疑問点をめぐって、社会言語学と語用論の観点から、状況的 CS と会話内 CS に関する議論を概観した。特に、会話の流れで起こる会話内 CS の談話的機能に関して、Gumperz (1982) や Nishimura (1995, 1997) などの機能分類を検討した。ここでは、これらの議論をもとに、言語のメタ機能を議論する Halliday (1985, 1994) の知見を取り入れ、CS の談話的機能に関する分類を再検討する。

人間社会において言語がどのような働き、機能を果たすのかということが、言語研究における重要な課題として数多くの研究で論じられてきた。その中で、Halliday の選択体系機能言語学 (Systemic Functional Linguistics) が言語の機能を解明する分析法として注目されてきた。言語の機能を重視した Halliday の言語観では、人間の言語活動を対人的相互作用の意味活動として取り扱う (山口, 1998)。また、Halliday の機能主義的な言語理論によると、言語的な記号が人間同士のやり取りの中で、観念構成的機能 (Ideational Function)、対人関係形成的機能 (Interpersonal Function) とテキスト形成的機能 (Textual Function) という 3 つのメタ機能を果たしている (児玉, 2011 ; 小林, 2017)。この 3 つのメタ機能に関して、福田 (2010) は以下のように解釈した。観念構成的機能とは、言語主体が現実世界や感情の世界における自らの経験をどのように言語化するか、に関わる部門である。そして、対人関係形成的機能とは、言語主体が聞き手との間で情報が交換する時にどのような言語表現を選択するか、に関わる部門であると福田 (2010) は考えている。また、福田 (2010) は、テキスト形成的機能とは、文を超えたテキストという言語単位において、言語主体が伝えるメッセージをどのように組み立てるか、に関わる部門であると述べている。つまり、観念構成的機能は、話者が自分自身に視点を置き、自分の考えや思いを外界に伝達することに関わる機能である。自己伝達に注目した観念構成的機能に対し、

対人関係形成的機能は会話参加者の人間関係を重視し、話し手と聞き手の相互作用に視点を置いているものである。会話参加者の視点から考える観念構成的機能及び対人関係形成的機能と違って、テキスト形成的機能は談話自体に目を向け、新旧情報や結末など談話構造に焦点を当てた機能である。そして、CS 使用はバイリンガル話者特有の言語活動であり、上で述べてきた言語記号の 3 つのメタ機能を果たすと考えられる。そのため、ここでは、以上に議論した 3 つのメタ機能を参考にした上で、日中バイリンガルの発話で行われた CS の談話的機能を「意味的機能 (Ideational Function)」、「対人的機能 (Interpersonal Function)」及び「文体的機能 (Textual Function)」という 3 つのカテゴリ¹⁵に大別した。また、第 2 章で議論した CS の談話的機能に関する Gumperz (1982)、Nishimura (1995, 1997) などの知見を参考にした上で、本調査データに合わせて、各機能カテゴリーの下位項目を決定した (表 3-3)。具体的には、以下の 3.1 に会話例を挙げて検討する。

表 3-3 CS の機能的分類

CSの機能分類	下位分類
A. 意味的機能 (Ideational Function)	A1. 習慣的表示
	A2. 語彙キャップの補い
	A3. 情報の明確化
B. 対人的機能 (Interpersonal Function)	B1. 感情の表出
	B2. 語気の緩和
	B3. 発話意志の表示
	B4. 関与の強化
C. 文体的機能 (Textual Function)	C1. 話題の提出・再提出
	C2. 引用を明示する
	C3. コードの繰り返し

まず、「意味的機能」を果たす CS に関しては、CS の談話的機能を議論した Nishimura (1995) において、カナダに在住する日本人が日本語による会話で、日常的に使い慣れた英語の表現をそのまま使用し、日本語の語彙表現がわからない際に英語の表現で補うことが報告されている。このような〔習慣的表示〕の CS と〔語彙キャップの補い〕の CS は、発話内容をスムーズに伝達するために行われるものであるので、「意味的機能」の下位項目として挙げられる。そして、会話内 CS の談話的機能に関して、Gumperz (1982) では、CS 使用は切り替わった発話内容を際立たせ、明確に伝達する機能を果たすことが指摘された。これらの知見を参考として、本調査の枠組みでは情報の伝達に焦点を当てた「意味的機能」を〔習慣的表示〕、〔語彙キャップの補い〕及び〔情報の明確化〕という 3 つの項目に分類する。次に、会話参加者のインターアクションに目を向けた「対人的機能」に関して、Nishimura (1997)

¹⁵ Halliday の選択体系機能言語学理論 (Systemic Functional Linguistics) で提唱された言語の 3 つのメタ機能に関して、本研究では、「意味的機能 (Ideational Function)」、「対人的機能 (Interpersonal Function)」及び「文体的機能 (Textual Function)」というように翻訳し取り上げられた。

で議論した CS の「相互作用的功能」と類似している。Nishimura (1997) では、「相互作用的功能」を果たす CS は話者の気持ちを強調し、聞き手との関与を強化する役割を持つことが指摘された。ここでは、「対人的機能」というカテゴリーの中に、Nishimura (1997) で提示された〔感情の表出〕、〔関与の強化〕以外に、CS によって言いづらいこと婉曲的に伝えるという〔語気の緩和〕と CS によって自分の発話権を維持する〔発話意志の表示〕という 2 つの機能項目を加えた。最後の「文体的機能」を果たす CS は、談話の構造と運営に関わるものである。Nishimura (1995, 1997) によると、CS は談話活動を効果的に促進し、談話の枠組みを構築することに役割を果たす。談話の構造や運営に関わる CS の機能について、彼は、CS が新しいトピックの提示や枠組みの構築に役割を果たすことを指摘した。そして、CS には引用的な内容を生き生きと表現する機能があることは数多くの CS 研究で指摘された (Gumperz, 1982 ; Nishimura, 1995, 1997)。また、本調査で収集された談話資料から、日中バイリンガル話者が 2 つの言語コードで同じ内容を繰り返すことによって、自分の発話を確認しながら適切な言語を選ぶことが観察された。このような談話構成に関連した〔コードの繰り返し〕を 1 つの機能項目として、「文体的機能」というカテゴリーに入れている。即ち、ここでは、「文体的機能」に、Nishimura (1995, 1997) で言及された〔話題の提出・再提出〕以外に、〔引用を明示する〕、〔コードの繰り返し〕を加え、3 つの下位項目とする。

2.3 CS の使用形態に関する分析の枠組み

第 2 章で述べたように、Poplack (1980) はコード切り替えの文中位置によって、CS を、付加的 CS (Tag Switching)、文間 CS (Inter-Switching) 及び文内 CS (Intra-Switching) という 3 つのパターンに分けている。ここでは、Poplack (1980) により提示された CS の 3 つのパターンに基づき、日中バイリンガルの会話データに見られた CS 発話を分類する。また、言語の働き方を重視した Halliday (1985, 1994) の階層構成素分析を参考として、各 CS パターンに切り替わる内容の構成素単位を検討する。

Halliday (1985) によると、言語と社会構造の関係に関心を持っている機能文法で捉える言語の機能とは、単に言語の使用だけでなく、言語自体の基礎的特性であると解釈されるべきである。即ち、言語機能は言語自体の構造形式と密接に関連している。したがって、自然言語を構成する仕組みに関する言語分析において、機能指向の階層構成素分析が最も推奨されている。具体的な方法として、言語の構造を段落、文、節、群、フレーズ、語、

形態素という構成素単位に階層的に振り分け、それぞれの階層の単位を次の階層の単位と構成関係によって関係づけている。即ち、Halliday (1985) の視点では、言語には階層的な関係があり、様々な構成素からなる建物のようなものである。まず、形態素は言語を組み立てる最も小さい部品として、「flower」、「make」のような単独で語として使える自由形態素と、複数の「-es」や進行形の「-ing」など他の形態素に付けると使えない拘束形態素に分けられる。例えば、日本語の場合に、「お水」の「水」が実質的な意味を持って、単独で一語として使用される一方で、丁寧さを表す「お-」は他の語と一緒に使う必要がある拘束形態素である。そして、形態素より大きな文法単位は語であり、文を構成する基本的な単位である。膠着語である日本語には、名詞、動詞、形容詞など単独で実質的な意味概念を表す自立語、及び助詞、助動詞など自立語に付けて使用され、構文に役割を果たす付属語がある。自立語は単独で1つの文の成分になれるものであり、物事の命名、関係、性質など実際に表している意味の異なりにより、名詞、動詞、形容詞、副詞、感動詞、接続詞など、様々な品詞に分類される。一方で、「が」、「に」のような助詞や「お」、「ご」のような接尾辞などの付属語は、直接に文を構成することができず、自立語と結びつき、1つのフレーズになれる。フレーズは様々な関係で組み合わせられた自立語と付属語のまとまりとして、直接的に文を構成できる文法単位である。そして、構成する語の性質やまとまりの関係により、名詞フレーズ、動詞フレーズ、形容詞フレーズ、連体修飾フレーズなどに分類される。また、Halliday (1985) の機能文法の分析手法では、言葉を構成する単位として、フレーズと文の中間に群という構成素単位を設定する。彼によると、「群」は複数の単語によって作られた語のかたまりで、語から拡大した構成素単位である。例えば、「名詞群」は名詞から拡大され、複数の名詞からなるグループであるものを指す。そして、文は語のまとまりであるフレーズ及び群によって構成される。構成する成分の関係によって、文は1つの文節を含む単文と2つの文節からなる複文に分けられる。複文の構成単位を考える際に、節という文法単位がよく言及される。複文を構成する節は、フレーズによって構成される。

また、個別言語の特性によって言葉を構成する単位にも相違性が見られる。例えば、Halliday (1985) で示された複数の単語の連鎖である「群」という単位について、中国語と日本語の場合には、漢字という表意文字の造語機能が高いので、複数の名詞を組み合わせたものが複合語として取り扱われている。そのため、本稿では、群は複合名詞という文法単位カテゴリーに入れる。そして、「節」という文法単位の境界性に関して、膠着語であ

る日本語及び独立語である中国語の複文においては、英語などの屈折語ほど明確ではないと考えられる。ここでは、ATR（Advanced Telecommunications Research Institute International）音声言語コミュニケーション研究所によって開発された節境界検出プログラム CBAP-csj¹⁶を利用し、節単位の認定を行っている。坊農・高梨（2009）では、CBAP-csjで検出される節境界ラベルは表 3-4 に示したように「絶対境界」、「強境界」、「弱境界」という 3 つの種類に分けられる。

表 3-4 CBAP-csj で検出される日本語の節境界ラベル

境界	絶対境界	強境界	弱境界
説明	文末表現に相当する境界	文末表現ではないが、構造的に大きな切れ目をなす境界	デフォルトは発話の切れ目にならない境界
ラベル	文末 文末候補	並列節が並列節けれども 並列節けれども 並列節けれども 並列節し 並列節し ように節	条件節（たら、たらば、ならば、レバ） 理由節（から、からには、ので） てば節、ても節、てから節、て節、助詞、 とか節、のに節、連用節、 引用節、という節、間接疑問節、 連体節、並列節（だの、で、なり）

（坊農・高梨，2009 に基づき筆者が作成）

以上に議論したように、本稿では、Poplack（1980）の知見をもとに、CS を付加的 CS、文内 CS と文間 CS という 3 つの種類に大別した。そして、Halliday（1994）による機能文法の構成素単位の分析手法を参考にした上で、本調査データに合わせて、各パターンの CS に観察される切り替え項目の構成素単位について、3 つの CS パターンを下位分類する（表 3-5）。

表 3-5 構成素単位により分類された CS の切り替え項目

CSのパターン	切り替え項目
A. 付加的CS	A1. フィラー文
	A2. あいづち
	A3. 感動詞
	A4. あいさつ
	A5. 呼びかけ
B. 文内CS	B1. 名詞・名詞相当語句
	B2. 動詞・動詞相当語句
	B3. 形容（動）詞・ 形容（動）詞相当語句
	B4. 副詞・副詞相当語句
	B5. 定型表現
C. 文間CS	C1. 引用節
	C2. 従属節
	C3. 単文

まず、「付加的 CS」は談話の付加的要素が他の言語に切り替えられることと考えられる

¹⁶ CBAP とは Clause Boundary Annotation Program であり、ATR 音声言語コミュニケーション研究所によって、開発された節境界検出プログラムである。また、CSJ とは Corpus of Spontaneous Japanese 『日本語話し言葉コーパス』である（坊農・高梨 2009）。

(Poplack,1980)。談話の付加的要素というのは、感動詞やフィラー文など構造的に文としては独立した成分で、1語のみで文の機能を果たすものである。「付加的CS」の切り替え内容については、スペイン語と英語のCSを議論したPoplack(1980)では「umm」のようなフィラー文(Filler)、「oh my god」のような感嘆語(Interjection)、「you know」のようなタグ(Tag)、「no way」のような慣用表現(Idiomatic Expression)という4つの項目を提示した。ここでは、日本語の言語システムにある談話の付加的要素を考慮した上で、付加的CSの切り替え内容を「ええと」、「あのう」などのフィラー、「はい」、「うん」、「なるほど」などのあいづち、「おはよう」、「こんにちは」、「じゃあね」、「お疲れ」などの挨拶、「ああ」、「まあね」などの感動詞、「ちょっと」、「もしもし」などの呼びかけ、という5つの項目に分けた。

次に、単語あるいはフレーズレベルの切り替えを指す「文内CS」に関して、Poplack(1980)は統語論的な観点から、文内CSの切り替え項目を、限定詞、名詞、主格名詞節、目的格名詞節、助動詞など15の統語的範疇に分けている。本稿では、統語的な構造より言語の社会性を重視するHalliday(1994)の機能指向的な構造分析を参考にして、文内CSの切り替え項目を分類した。具体的には、語彙の品詞分類によって、「名詞・名詞相当語句」、「動詞・動詞相当語句」、「形容(動)詞・形容(動)詞相当語句」、「副詞・副詞相当語句」に分けた。そのほか、「ピンとこない」、「倍返し」などの定型表現は、複数の単語を組み合わせたものであっても、話し手の頭の中にコロケーションとして記憶され、1つの単語と同じように使われる。そのため、「定型表現」は「文内CS」の一項目として取り扱う。また、中国語あるいは日本語の語彙システムにおいて、名詞の連鎖である群という単位は複合名詞として扱われるため、本研究では、名詞・名詞相当語句というカテゴリーに入れる。即ち、表3-5で表示しているように、文内CSを「名詞・名詞相当語句」、「動詞・動詞相当語句」、「形容(動)詞、形容(動)詞相当語句」、「副詞・副詞相当語句」、「定型表現」という5つの項目に分けた。

最後に、文と文の切れ目に生起する「文間CS」について、Poplack(1980)では文レベルで言語を切り替えることと考えられている。「文間CS」の切り替え項目に関して、Poplack(1980)では文(Sentence)、引用語(Quotation)という2つの項目に分類した。ここでは、Halliday(1994)の機能文法における言語の文法的構成素単位の分析方法を参考として、単文と複文の区別を考える上で、節境界でのコード切り替えも「文間CS」として捉える。具体的には、「単文」、「引用節」、「従属節」という3つの項目に分けた。以上に提示し

た構成素単位により分類された CS の切り替え項目について、以下の 4.1 で会話例を挙げて詳細に検討する。そして、表 3-5 で示した分析枠組みに基づき、収集した会話データに対する実証分析を通して、日中バイリンガルの CS の使用形態を明らかにすることを目指す。

3 CS の談話的機能に関する分析

本節では、日中バイリンガル同士が中国語で会話する際に、なぜ日本語へ CS するのかという問題に注目し、本調査で収集された談話資料をもとに CS の談話的機能について検討する。まず、3.1 では、CS の談話的機能に関する 2.2 での議論を分析枠組みとして、談話資料に現れた CS 発話の具体例を用い、表 3-3 で示した各機能項目について詳細に考察する。そして、3.2 において、表 3-3 で提示した CS の機能カテゴリーに基づき、JSL と JFL の会話データに生起する CS の機能的特徴を分析する。各機能項目における CS 発話の割合に関して、JSL と JFL の調査結果を比較分析することによって、両グループの CS 発話に現れる機能的特徴の相違点を観察する。また、このような差異を引き起こす原因について、社会言語学の観点から考察する。

3.1 日中バイリンガルの CS 発話における各機能項目の使用実例

表 3-3 で示したように、CS の機能を「意味的機能」、「対人的機能」、「文体的機能」という 3 つのカテゴリーに分類した。それぞれのカテゴリーには下位項目がある。以下では、談話資料に現れた CS 発話の実例を挙げながら、CS の各機能項目について詳細に検討する。以下の例において、中国語を簡体字、日本語を仮名で示し、該当する機能項目の発話を太字で表示する¹⁷。

3.1.1 CS の意味的機能について

まず、意味情報の伝達に焦点を当てた「意味的機能」というカテゴリーについて、ここでは、〔習慣的表示〕、〔語彙キャップの補い〕と〔情報の明確化〕という 3 つの下位分類に分けた。以下では、日中バイリンガル話者の CS 使用の具体例を用い、それぞれの機能項目を詳しく説明していく。

〔習慣的表示〕

17 本文においては、実例としてあげられた以下の会話データに関して、宇佐美（1997）と宇佐美・肖等（2007）の基本的な文字化原則に従った上で文字化した。

〔習慣的表示〕とは日中バイリンガルが中国語を基盤言語とする会話において、日常生活で使いたれた日本語の表現を用いて、物事を言い表すことである。以下の例 3 のような〔習慣的表示〕の CS 使用が本調査で頻繁に見られた発話例である。例 3 で示したように、話者 JSL29 が話し相手に自分の研究内容を説明する時に、「アンケート調査」や「インタビュー」など調査方法に関わる用語が中国語のかわりに、日本語で表現された。日本に留学している JSL は、学校やアルバイト先などフォーマルな場面において、常に日本語母語話者を話し相手として、日本語でコミュニケーションする。即ち、彼らの日常生活において、「アンケート調査」、「インタビュー」など、自分の専門や仕事に関する表現が日本語の形式で頻出し、習慣的に使われる。そのため、JSL が中国人同士との会話でも、使い慣れた表現を発話しようとする際に、中国語より日本語のほうがアウトプットしやすい。

例 3 〔習慣的表示〕の CS 使用例

JSL29: 我做的主要就是アンケートちょうさ再加上后面的インタビュー了。【訳：私の研究は主にアンケート調査とインタビューを中心としてやっています】

〔語彙キャップの補い〕

例 3 で示した〔習慣的表示〕以外に、例 4 のような〔語彙キャップの補い〕が「意味的機能」のもう一つの項目として挙げられる。ここでは、バイリンガル話者が母語を基盤言語とする会話において、母語知識の不足を学習言語で補うことが CS の〔語彙キャップの補い〕機能と考えられる。一般的には、母語の語彙キャップを学習言語で補うことはあり得ないと思われる。しかしながら、それはバイリンガルの会話において頻繁に行われることである。例えば、カナダに在住する日系人の CS 使用を議論した Nishimura (1995) では、2 世が日本語でコミュニケーションする際に、わからない言葉を英語で補うことが頻繁に見られる、ということを指摘した。本調査で収集された日中バイリンガルの会話データにも、〔語彙キャップの補い〕の CS 発話が数多く観察された。例えば、この例 4 で示した「かにコロッケ」などのような表現は日本の食べ物を表す語彙である。中国語の語彙システムにおいて、それに対応する語彙表現がない。そのため、日中バイリンガルがこのような日本特有の概念に関わる語彙や表現を伝達する際に、翻訳語とする中国語で話せば違和感が感じられ、日本語で発話するほうがより自然である。

例 4 〔語彙キャップの補い〕の CS 使用例

JSL32: 我相对来说不是很爱吃炸的，但是かにコロッケ，かにクリームコロッケ特别好吃。【訳：私はフライとかあんまり好きではないですが、かにコロッケやかに

クリームコロッケは本当に美味しいです。】

〔情報の明確化〕

「意味的機能」というカテゴリーには、〔情報の明確化〕という機能項目が含まれる。〔情報の明確化〕とは話し手が発話内容を明確に聞き手に伝えるために、母語から学習言語に切り替えることである。下の例 5 は〔情報の明確化〕を機能とする CS の使用実例である。例 5 では、話者 JSL39 は好きな先生のことについて話しているときに、「やさしい」という形容詞を日本語のまま使用した。中国語においては、「溫柔（やさしい）」という単語は女性の性格を表す表現として使われることが多い。男性の先生に使用するのは非常にまれである。そのため、話者 JSL39 は語彙の意味範囲に関わる両言語のニュアンスに気づいて、言い表したいことをはっきり伝達するために、日本語のまま発話した。このように日本語に切り替えることによって、聞き手に誤解を招くことを避けると同時に、伝えた情報をより明確化することも期待できる。

例 5 〔情報の明確化〕の CS 使用例

JSL39: 喜欢的日本老师 那就是我们老师啊 我们老师还挺やさしい的。【訳：好きな日本人の先生というと、うちのゼミの先生です。うちの先生は本当にやさしいです。】

3.1.2 CS 使用の対人的機能について

会話参加者の相互作用に注目した「対人的機能」という CS の機能カテゴリーは、〔感情の表出〕、〔語気の緩和〕、〔発話意志の表示〕と〔関与の強化〕という 4 つの項目に分けた。以下では、それぞれの機能項目に関する CS の使用実例を紹介していく。

〔感情の表出〕

〔感情の表出〕とは CS によって、切り替わった内容にインパクト感を与え、驚きや感嘆などの気持ちを強調することである。以下の例 6 で見られた「いっぱいあるよ」という日本語への CS は、日本のドラマに話し手が感情的に反応しているものである。話者 JSL26 は、中国語をベース言語とする会話において、日本語に切り替えることによって、日本のドラマに対する好意を強調したと考えられる。

例 6 〔感情の表出〕の CS 使用例

JSL26: 喜欢的日本的ドラマム, いっぱいあるよ[↑]。你喜欢哪个ドラマ呀? 【訳：好きな日本のドラマというと、いっぱいあるよ！君は好きなドラマ何がある？】

〔語気の緩和〕

日中バイリンガルの CS 発話では、言いづらいことを CS によって婉曲的に伝えるという〔語気の緩和〕の機能が見られた。ここの例 7 では、話し手は「セクハラ」や「痴漢」などのようなネガティブなイメージを強く持っている語彙を日本語に切り替えて言い出した。このような CS によって、言葉自身に含まれる否定的な印象を和らげ、話の内容を受け入れやすくすることができる。つまり、〔語気の緩和〕の CS は、聞き手への配慮を取り入れて、聞き手の不快感を取り除くために行われるものである。

例 7 〔語気の緩和〕の CS 使用例

JSL31: 她说她知道有人在跟她, 但是没有想到是セクハラ或是ちかん。【訳: 彼女はあの人にあとをつけられたと知っているけど、セクハラやちかんまで思わなかったと言いました。】

〔発話意志の表示〕

〔発話意志の表示〕というのは、話し手が伝達内容を考えている時に、自分の発話権を維持するために、CS によって続けて言いたい意志を表すことである。例 8 では、話者 JSL19 は日本語で会話の話題を繰り返すことにより、話したい内容を探しているという発話の意志を聞き手に伝えようとしている、と考えられる。即ち、バイリンガル話者が発話内容を考えている際に行う CS は、聞き手に自分の発話がまだ終了していないというメタメッセージを伝達することができる。

例 8 〔発話意志の表示〕の CS 使用例

JSL19: 我呢...さいきんびっくりされた...びっくりされたこと...びっくり...让我想一想 好像没有什么びっくりされた的。【訳: 私はね、最近びっくりしたことか、ちょっと考えさせてね、びっくりしたことはとくにないようです。】

〔関与の強化〕

「対人的機能」というカテゴリーにおいて、会話参加者の相互作用を最も明確に表している機能項目は〔関与の強化〕である。コミュニケーションを達成するために会話参加者のインターアクションが必要不可欠である。それゆえ、会話参加者が会話をスムーズに進めるために、会話の内容に対する自分の関与を示すのは非常に重要なことである。例 9 において、JSL6 は「そば」という言葉を繰り返し、会話の内容に対する自分の関心を示した。そして、JSL5 は「やきそばが好き?」ということを問いかけ、会話を発展させた。例 9 で示したように、CS によって話し相手の話を繰り返し、補充するという話者の発話行為は、

会話の話題に対する自分の興味を表明し、話し相手の関与を促すという「関与の強化」の機能を持っている。

例 9 「関与の強化」の CS 使用例

JSL5: 你喜欢吃日本的そば么?【訳: 日本のそばが好き?】

JSL6: そば...そば啊[↑]还行吧[↓]。要看哪种そば。【訳: そばか、まあまあですね、そばの種類によってですね】

JSL5: やき、やきそば?

JSL6: やきそば也还行。【訳: 焼きそばならいいと思う】

3.1.3 CS 使用の文体的機能について

談話構造の仕組みに関わる「文体的機能」について、ここでは、〔話題提出・再提出〕、〔引用を明示する〕と〔コードの繰り返し〕の 3 つの機能項目に下位分類した。次に、各機能項目に関して、具体的な発話例を挙げながら考察していく。

〔話題提出・再提出〕

〔話題提出・再提出〕の CS は文字通りに、コードの切り替えによって新しい話題を持ち出したり、提出した話題を再度言い出すなど、談話の流れの運営に役立つものである。例 10 では、話者 JSL33 は日本語「では」によって前の話を終わらせ、新しい話題を始めようというメタメッセージを伝えてきた。その次に、話者 JSL33 は、会話のトピックを書いている調査質問紙を見ながら、新しい話題を日本語のままに言い出した。例 10 で示したような CS は、一つ的话题を終了させ、新しい談話の骨組みを構成する機能を果たしている。

例 10 「話題提出・再提出」の CS 使用例

JSL33: では、にほんでのりょこうについて,你在日本去哪玩了?【訳: では、日本での旅行についてですね、日本ではどこに遊びにいきましたか?】

JSL34: 好多的,冲绳 北海道 还有那叫什么岛根しまねけん这类的。【訳: 結構多いですよ、沖縄、北海道や島根県というところとか】

〔引用を明示する〕

談話の構造に関わる CS の機能において、〔引用を明示する〕がもう 1 つの機能項目として挙げられる。〔引用を明示する〕というのは、話し手が引用した内容を生き生きと伝えるために、引用された人の話し方を真似し、意図的に言語コードを切り替えることである。〔引用を明示する〕の CS について、本研究のデータでは、例 11 のようなものが見られた。例

11 では、話者 JSL32 は先生の話聞き手に伝える時に、わざと先生の口調にして、先生の話内容をそのまま日本語で話し出した。このような CS により引用の部分を明示し、際立てる効果をもたらした。

例 11 「引用を明示する」の CS の使用例

JSL32: 我们老师特别爱研究, 他就觉得历史特别有趣, 整天跟我们说「このしりょう, おもしろいですね」【訳: うちの先生は研究が大好きで、歴史がとても面白いと思うっておられます。よく私たちにこの資料、おもしろいですねって言います。】

[コードの繰り返し]

以上に議論した 2 つの下位分類以外に、「文体的機能」のカテゴリーには、[コードの繰り返し] という項目が含まれる。例 12 で示したように、話者 JSL19 は「堺雅人」という芸能人の名前を日本語で話した後に、中国語で再度説明した。このように 2 つの言語コードで同じ内容を説明することにより、自分自身の発話内容を確認すると同時に、適切な言語表現を選択する自己調整ができる。このような [コードの繰り返し] の CS は談話を円滑に進めて、テキストの構成を促進する効果を持つ。

例 12 「コードの繰り返し」の CS 使用例

JSL19: 喜欢的日本艺人[↑]さかいまさと、堺雅人。他的演技就是靠表情取胜。【訳: 好きな日本の芸能人というと、さかいまさと、堺雅人ですね。彼の演技は表情がポイントですよ】

3.2 会話データにおける各 CS 機能項目の使用状況

本項では、表 3-3 で提示した CS の機能的カテゴリーに基づき、JSL と JFL の会話データにおける CS の各機能項目の出現比率を分析することによって、両グループの CS 発話に見られる機能的特徴を考察する。言語習得環境によって分類された 2 つの調査グループの分析結果を比較することを通じて、言語習得環境が日中バイリンガルの CS の談話的機能に与える影響を検討する。

3.2.1 JSL の発話における CS の談話的機能

ここでは、日本で生活している JSL の CS 発話に見られる機能的特徴に関して、JSL の会話データをもとに、CS 発話における各機能項目の出現比率を分析していく。まず、図 3-1

は JSL の CS 発話全体における各機能カテゴリーの出現比率を表すものである。図 3-1 によると、JSL の CS 発話において、情報の伝達を重視した「意味的機能」を果たす CS の割合が、圧倒的に高く、CS 発話総数の 65%を占めていた。その次に、「対人的機能」の CS が 18%、「文体的機能」の CS が 17%を占めて、2 つの機能カテゴリーには大きな割合差が見られなかった。

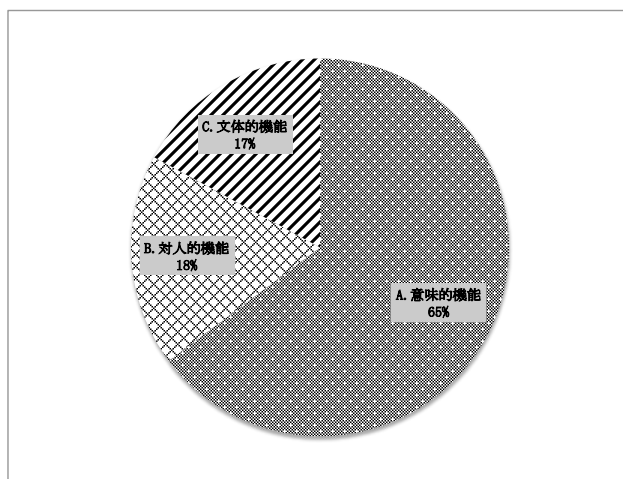


図 3-1 JSL の CS 発話における各機能カテゴリーの割合

そして、それぞれの機能カテゴリーに含まれる各機能項目の割合が図 3-2、図 3-3、図 3-4 によって表示されている。図 3-2 によると、「意味的機能」において、専門用語や日常生活に関わる語彙を日本語のまま使用する〔習慣的表示〕の CS の割合が最も高く、41%を占めていた。また、伝達内容を明確に伝える〔情報の明確化〕という機能項目の CS が 35%、を占めていた。中国語の語彙キャップを日本語で補う〔語彙キャップの補い〕の CS が 24%を占めていたことが分かった。次に、「対人的機能」における各機能項目の割合を示した図 3-3 を見ると、話し相手の発話に興味や関心を示す〔関与の強化〕という機能項目の割合が最も高く、「対人的機能」CS 発話総数の半分を超えた (52%)。次いで、日本語への CS によって自分の気持ちを強調する〔感情の表出〕が「対人的機能」CS 発話総数の 35%を占めていた。このことから、「対人的機能」に関わる JSL の CS 発話は、〔関与の強化〕と〔感情の表出〕という 2 つの機能項目に集中し、「対人的機能」CS 発話総数のおよそ 9 割を占めていることが分かった。最後に、「文体的機能」における 3 つの機能項目の割合を表す図 3-4 を見ていく。「文体的機能」が含まれる JSL の CS 発話では、CS により新たな話題を持ち出し、談話の発展を促す〔話題提出・再提出〕という機能項目が 51%を占めていた。その次に、〔引用を明示する〕の CS 発話が 33%、〔コードの繰り返し〕の CS 発話が 16%を占めていることが見てとれる。

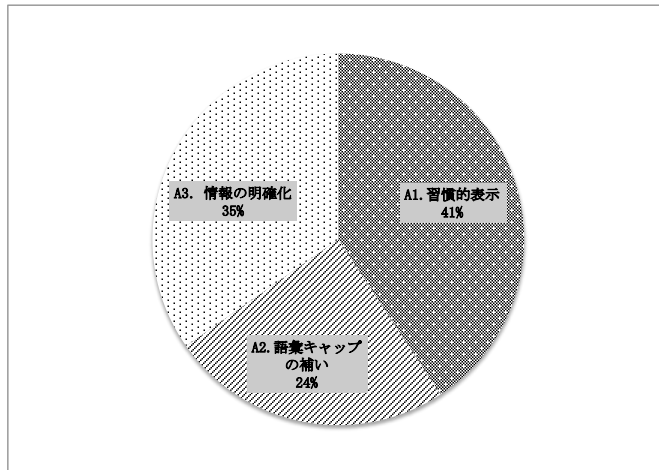


図 3-2 「意味的機能」における各機能項目の割合 (JSL)

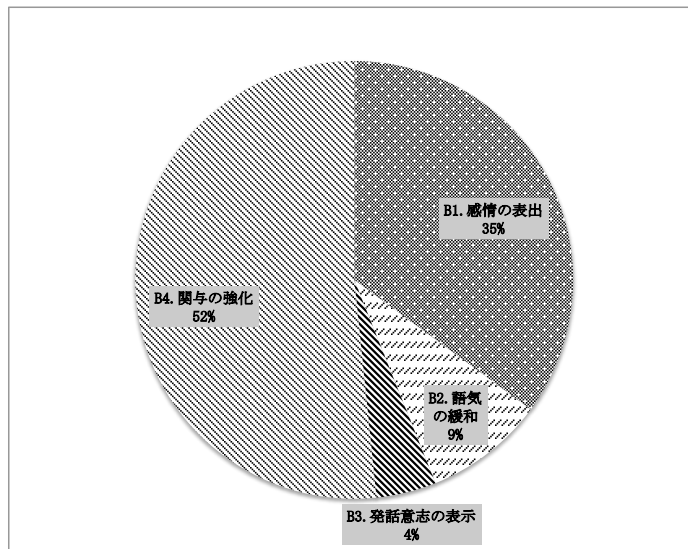


図 3-3 「対人的機能」における各機能項目の割合 (JSL)

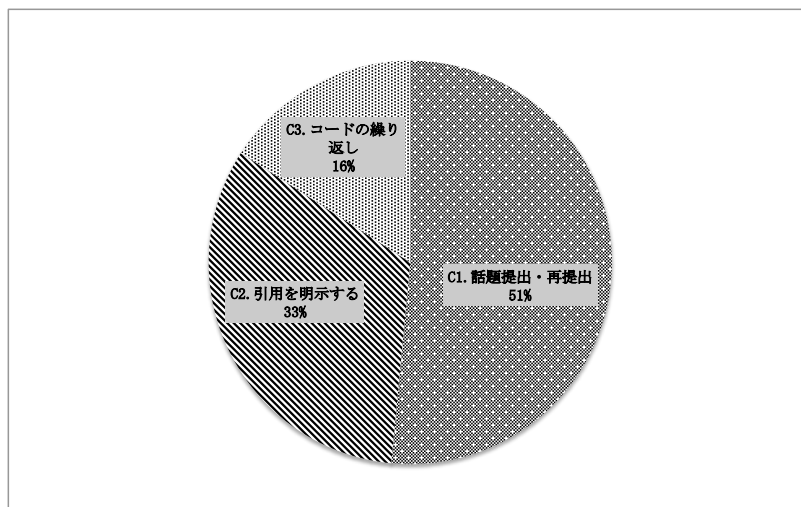


図 3-4 「文体的機能」における各機能項目の割合 (JSL)

3.2.2 JFL の発話における各 CS 機能項目の使用状況

次に、日本語を外国語として学習する JFL の会話で行われた CS の談話的機能の特徴について分析していく。図 3-5 は JFL の会話データにおける各機能カテゴリーの CS 発話の割合を示したものである。図 3-5 からわかるように、JFL の CS 発話において、会話参加者の相互作用に関わる「対人的機能」の CS は割合が最も高く、CS 発話全体の 47% を占めていた。それに対して、「意味的機能」の CS が CS 発話全体の 33% を占め、「文体的機能」の CS が CS 発話全体の 20% を占めていることが示された。

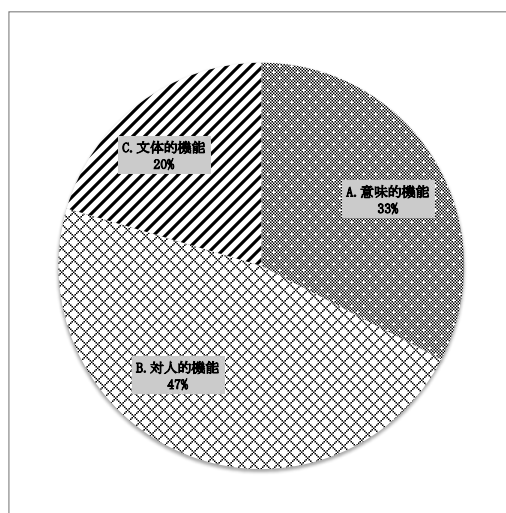


図 3-5 JFL の CS 発話における各機能カテゴリーの割合

次に、それぞれの機能カテゴリーにおいて、各機能項目がどのぐらいの割合を占めているのか、ということに関して見ていく。「対人的機能」の CS 発話における各機能項目の割合を示した図 3-6 によると、「感情の表出」の CS 発話が最も高い割合（50%）を占めていた。次いで、「関与の強化」が 28%、「語気の緩和」が 13%、「発話意志の表示」が 9% を占めていることが示された。図 3-7 は「意味的機能」に含まれる各機能項目の出現比率を表すものである。図 3-7 で示したように、JFL の「意味的機能」の CS 発話において、「情報の明確化（63%）」の機能を果たす CS 発話が、「習慣的表示（37%）」より高い割合で行なわれた。特に注目したいのは、母語知識の不足を日本語で補う「語彙キャップの補い」の CS 発話が JFL の会話データでは観察されなかったことである。最後に、「文体的機能」における各機能項目がどのような割合で行なわれるのかということに関して、図 3-8 で表示した。図 3-8 から見ると、「文体的機能」に関わる JFL の CS 発話においては、「引用を明示する」CS は割合が最も高く、「文体的機能」の CS 発話総数の 49% を占めていた。それに対して、「コードの繰り返し」が 30%、「話題提出・再提出」が 21% を占めて、「引用を明

示する] CS の割合より大幅に低くなることが示された。

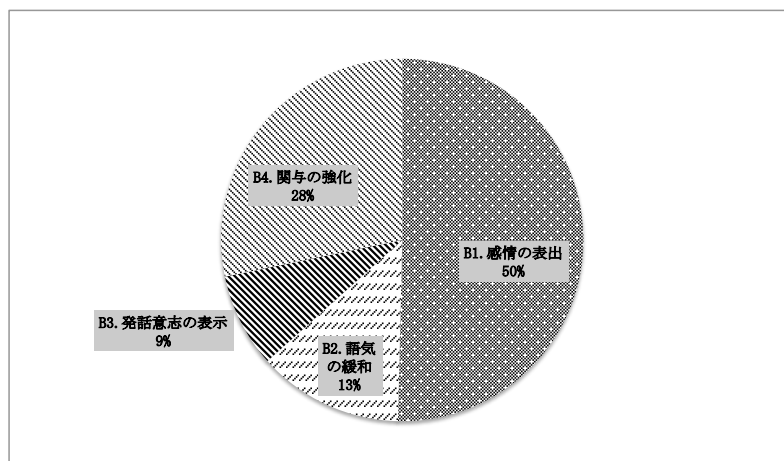


図 3-6 「対人的機能」における各機能項目の割合 (JFL)

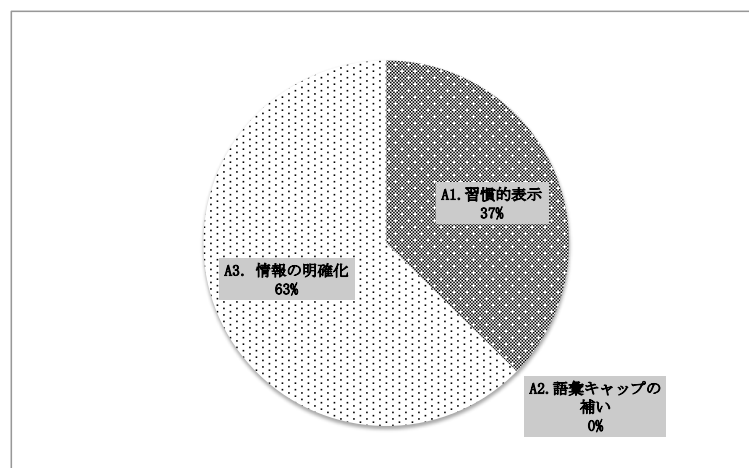


図 3-7 「意味的機能」における各機能項目の割合 (JFL)

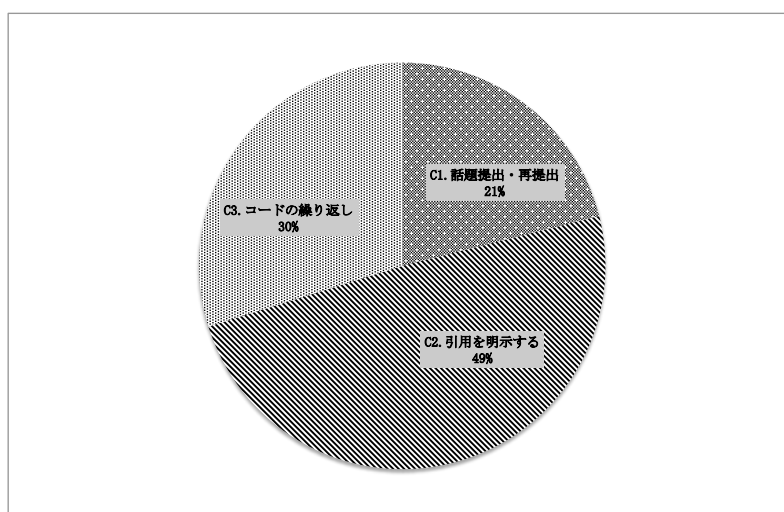


図 3-8 「文体的機能」における各機能項目の割合 (JFL)

3.2.3 CS の機能的特徴における両グループの共通点と相違点

以下では、JSL と JFL の CS 発話における各機能項目の出現比率を比較することによって、CS の談話的機能に関わる両グループの相違点を考察する。この図 3-9 は、JSL と JFL の会話データに現れた各機能項目の CS の割合を比較したものである。図 3-9 によると、発話内容の伝達に注目した「意味的機能」に含まれる〔習慣的表示〕、〔語彙キャップの補い〕、〔情報の明確化〕という 3 つの機能項目において、JSL の CS 発話の割合のほうが JFL より高い。特に、習慣的に使用される日本語の語彙をそのまま言い出す〔習慣的表示〕と語彙知識の不足を補償する〔語彙キャップの補い〕という 2 つの機能項目では、JSL の CS 発話の割合が JFL の CS 発話の割合を大幅に上回ることが示された。それに対して、「対人的機能」というカテゴリーに属する〔感情の表出〕、〔語気の緩和〕、〔発話意志の表示〕、〔関与の強化〕という 4 つの下位項目において、JFL のほうが CS 発話の割合が高い。その中でも、日本語への CS による話者の感情的反応を強化する〔感情の表出〕という機能項目において、JFL の CS 発話の割合が JSL より 13.7%高くなり、両グループで大きな割合差が見られた。そして、「文体的機能」に含まれる各機能項目の CS 発話の割合を見ると、〔話題の提出・再提出〕において JSL のほうが CS 発話の割合が高いが、〔引用を明示する〕と〔コードの繰り返し〕という 2 つの機能項目において、JFL のほうが CS 発話の割合が高い。談話の構造や運営に関わる「文体的機能」の中に含まれる各機能項目において、両グループの CS 発話の割合には、特に大きな差が見られなかった。

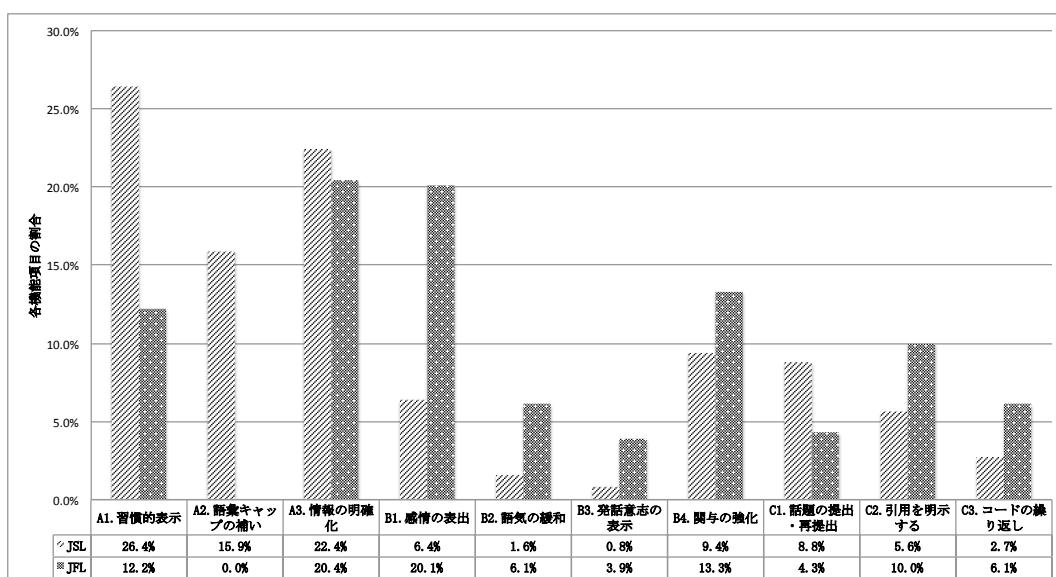


図 3-9 JSL と JFL の CS 発話における各機能項目の割合差

以上の分析結果から、JSL の会話で行われた CS には、話し手が言いたい内容や伝えたい

考えをスムーズ、かつ明確に伝達する「意味的機能」を担っているものが非常に多いことがわかる。つまり、JSLのCS発話は発話者の意味伝達に重点を置くものと考えられる。それに対して、JFLの会話で行われたCSには、会話参与者間の相互関係を重視する「対人的機能」を果たす日本語へのCSが一番多いことが分かった。つまり、JFLのCS発話は、話し相手との相互作用の視点から、聞き手がどのように発話内容を受け取るかに注目するものと考えられる。

3.2.4 社会言語学的観点から見た両グループのCS使用の機能的相違点

上で議論したように、JSLとJFLという2つのグループのCS発話に現れた機能的特徴には大きな相違点があることがわかった。次に、社会言語学の立場からCSを議論した知見を踏まえ、このような両グループのCS発話に見られる機能の差異を引き起こす原因について検討していく。

以上の両グループの会話データに基づく機能的分析から、JSLとJFLのCS発話に現れる機能的特徴に関して次のような差異が観察された。JSLの会話では、意味情報の伝達に関連した「意味的機能」を担うCSの割合が最も高い傾向が現れる。それに対して、JFLのCS使用では、自分の気持ちや感情を強調したり、聞き手の注意を引き起こしたりなどの「対人的機能」を持っているCS使用が多く見られる。このようなCSの機能上の差異が見られる原因は、調査協力者の言語習得・使用環境と密接に関わると考えられる。以下では、社会言語学の観点からCS使用に関わる社会的要因を論じてきたMyers-Scotton (1993)の有標モデルを取り入れて、このような差異を引き起こす原因について詳しく考察する。

第2章でも議論したように、バイリンガリズム研究において、なぜCSが起きるのかという問題が重要な課題として、社会言語学と語用論の立場から論じられてきた。その中で、Myers-Scotton (1993)によって提唱された有標モデルでは、CS使用に関わる社会的要因とバイリンガル話者の心理的要因という2つの問題が同時に論じられてきた。そのため、Myers-Scotton (1993)の有標モデルは、CS使用現象に関わる社会言語学的な特徴を解明する上で、1つの有力な知見と考えられる。Myers-Scotton (1993)によると、ある言語集団は、特定の社会的規範やコミュニケーションのルールを持っている。社会言語活動において、話者がこのような社会的規範やルールに従う上で、具体的な会話状況、会話参与者に合わせて適切な言語行動を選択するのは無標的である。それに対し、話し手が言語コミュニケーションする際に、話し相手の注意や共感を喚起したり、自分の気持ちや感情を強

調したりなど、自分の意志に応じて社会的規範と外れる言語行動をとるのは有標的である。

ここでは、このような有標モデルを援用し、JSL と JFL の CS 使用に現れた異なる機能的特徴の社会的要因を考察していく。JFL の言語活動に関わる社会的背景について、言語使用の場面や会話参加者にかかわらず、ほとんどの社会言語活動では中国人コミュニティを対象として、中国語でコミュニケーションする。即ち、中国で日本語を学習する JFL は主流派言語を母語とする主流派バイリンガル話者であり、日本語を母語以外の少数派言語として習得する。このような社会的環境においては、日本語使用そのものは有標性が高い言語行動である。そのため、JFL 学習者が中国人同士のコミュニケーションにおいて、有標性が高い日本語を用いることは、自分の気持ちや感情を強調したり、相手の注意や共感を喚起したり、発話の意志を表したり、などの動機付けを明確に表示するために非常に有効である。そして、JSL 学習者の言語使用環境を考えると、日本人コミュニティが主流派言語集団とする日本社会で生活している。彼らの母語である中国語は社会的威信性が低い少数派言語とみなされる。このような社会的環境で暮らしている JSL 学習者が中国人同士のコミュニケーション活動で日本語を使用することは無標的な言語行動である。そのため、JSL の会話では、感情表出や関与強化などの意図的な CS 使用より、発話内容を便宜的に伝達する役割を果たす CS の方が多く見られる。

4 CS の使用形態に関する分析

本節では、表 3-5 で提示した CS の切り替え項目に関わる分類に基づき、収集された日中バイリンガル同士の会話データに現れた中国語から日本語への CS を分析する。まず、4.1 では、日中バイリンガルの日常会話に生起する CS の会話例を挙げながら、各パターンと切り替え項目の使用実態について検討する。そして、4.2 において、各切り替え項目における JSL と JFL の CS 使用状況を分析する。また、両グループの分析結果を比較する上で、日中バイリンガルの習得環境による CS の形態的特徴の相違点について考察する。さらに、JSL と JFL の CS 発話に観察された異なる形態的特徴を引き起こす原因について、心理言語学の観点から検討する。

4.1 日中バイリンガルの CS 発話における各切り替え項目の使用実例

本項では、CS 使用の会話例を挙げることによって、日中バイリンガルの日常会話における各切り替え項目の使用実態を詳細に検討する。以下の例において、中国語を簡体字、日

本語を仮名で示し、該当する切り替え項目の発話内容を斜体の太字で表示する。

4.1.1 付加的 CS について

まず、表 3-5 で示したように、1 語のみで文の機能を果たす談話の付加的要素を他の言語に切り替える「付加的 CS」の切り替え内容を〔フィラー文〕、〔あいづち〕、〔挨拶〕、〔感嘆語〕、〔呼びかけ〕、という 5 つの項目に分けた。以下では、具体的な会話例によって、それぞれの切り替え項目について詳しく説明していく。例えば、例 13 では、話者 JFL9 が元彼女との出来事を提示する際に、自分のプライベートに関わる内容を明確に相手に伝えたくないで、使用言語を日本語に切り替え、「あのう」という日本語のフィラーが使われた。例 14 では、2 人の話者は中国人と日本人の思考様式について議論している。話者 JSL2 は「なるほど」という日本語のあいづちを用いて、相手の話を納得していることを表している。例 15 は、話者 JSL28 が日本語の感嘆語「いいなあ」に切り替え、感嘆の気持ちを表現するものである。例 16 で示しているように、「お疲れ」など日本語の挨拶文は在日中国人同士の中国語ベースの会話において頻繁に見られる。その他、例 17 では、話者 JSL39 は「つぎ」を用いることによって、相手の注意を喚起し、会話の展開を催促する。以上に紹介した「付加的 CS」における各切り替え項目の具体例で示したように、挨拶やあいづちなどのような文の独立的な要素は発話文の文法構造に影響を与えないため、文中に挿入する位置が特定されていないと考えられる。

例 13 フィラー文の CS 使用例

JFL9:びっくりしたこと...有什么吓到我的...我想想哈 [↓]。这个涉及到个人隐私啦
[↓] 就是我跟前女友发生了点事情。【訳：びっくりしたこと、何かびっくりされるのかなあ、ちょっと考えさせてね、これはプライベートな話になる元彼女といろいろなことがあった。】

JFL10:跟什么? 【訳：誰と?】

JFL9:モトカノ...モトカノ...あのう...ふたりのあいだにちょっと...あのう...

例 14 あいづちの CS 使用例

JSL1: 其实我觉得中国人也会，比如说不太熟的人，这个时候他说很好很好，换一个场景他就会说也不怎么样嘛 [↓]。也许不限于日本人。【訳：実は中国人の間でも同じ、例えば、よく知らない人と付き合う際に、その時はいいなあと言い、場面が変わると、そんなに良くないと言うじゃないか。】

JSL2: うんうん、なるほど。

例 15 感動詞の CS 使用例

JSL27: 我买了个墨镜，在ジズ买的。【訳：サングラスを買った、ジズで】

JSL28: ジズ...好看么？【訳：ジズか、かっこいい？】

JSL27: 然后顺便在ニークエンド买了一个装眼镜的袋儿，专门装眼镜的。【訳：ちなみに、ニークエンドでサングラス専用のケースも買った。】

JSL28: 专门装眼镜啊 [↓] 不错啊 [↓] いいなあ～ 【訳：サングラス専用か、悪くないね、いいなあ～】

例 16 あいさつの CS 使用例

JSL7: 没有别的话题啦 [↑]。【訳：他のトピックはないの？】

JSL8: 行了 [↓] おつかれ [↓]。【訳：もういいよ、お疲れ】

例 17 呼びかけの CS 使用例

JSL39: おっけー、つぎ。你自己的研究内容。じぶんのけんきゅうないよう。【訳：オッケー、次。自分の研究内容、自分の研究内容】

JSL40: 研究内容啊... 【訳：研究内容か～】

4.1.2 文内 CS について

次に、本調査で収集された談話資料をもとに、単語あるいはフレーズレベルの切り替えを指す「文内 CS」について検討する。表 3-5 で表示したように、文内 CS を [名詞・名詞相当語句]、[動詞・動詞相当語句]、[形容（動）詞、形容（動）詞相当語句]、[副詞・副詞相当語句]、[定型表現] という 5 つの項目に分けた。以下では、日中バイリンガル話者の会話に生起する CS 使用の具体例を取り上げ、「文内 CS」の各切り替え項目について詳細に説明する。

[名詞・名詞相当語句]

文内 CS において、[名詞・名詞相当語句] の切り替えが最も起きやすいということが数多くの CS に関わる調査研究によって報告された (Poplack, 1980; 都, 2001; 吉田 2014)。スペイン語と英語の CS を議論した Poplack (1980) の調査結果によると、文内 CS において、名詞類の言葉が最も頻繁に行われた切り替え項目である。本調査でも、[名詞・名詞相当語句] の CS は、中国人日本語学習者の会話で極めて頻繁に行われたものである。本研究では、例 18 で見られた「たこ焼き」、「お好み焼き」など単語一つ限りの切り替えと、例 19

で示した「好きな日本の映画」のような修飾語を伴っている名詞フレーズの切り替えを〔名詞・名詞相当語句〕という項目にする。

例 18 名詞の CS 使用例

JSL5: 你觉得日本有什么好吃的 [↑] 【訳: 日本では何か美味しいものがある?】

JSL6: 大阪的话不就是たこやきとおこのみやき么 [↓] 【訳: 大阪ならたこ焼きとお好み焼きがあるじゃないか】

例 19 名詞相当語句の CS 使用例

JSL35: 比如说这个すきなにほんのえいが吧 [↓] 你平时去电影院么? 【訳: た
えば、この好きな日本の映画というと、よく映画館に行くのか】

次に、語彙的意味の分類に基づき、〔名詞・名詞相当語句〕の CS に見られた切り替え内容の特徴について考察する。ここでは、日中バイリンガル話者同士の中国語基盤発話に挿入された日本語の名詞を、表現する意味的内容によって、(1) 固有名詞、(2) 専門分野に関わる用語、(3) 文化固有概念、(4) 日常生活に関わる語、(5) 学習生活に関わる語、(6) 流行語・慣用語、(7) 複合名詞 (8) その他という 8 つのカテゴリーに分類する。まず、例 20、例 21、例 22 では、「ユニバーサルシティ」、「よどやばし」などの地名、「りさん」、「たかはしさん」などの人名、「ニトリ」という会社名が日本語のまま使用されている。このように、日中バイリンガルの会話において、地名、人名、ブランド名などある特定の事物、場所、人物を命名する固有名詞が、中国語から日本語に切り替えられることが多く見られる。そして、例 23 は、経営学を専門としている 2 人の話者が、「玉出」というスーパーの経営形態について議論する会話である。このような会話において、「フランチャイズ」、「自営店」など経営学に関連する専門用語が日本語で表現される。例 24 において、日本の食べ物について話している 2 人が、「たこやき」や「おこのみやき」など日本固有の食べ物を言い出す際に、日本語をそのまま用いることになる。例 25 では、「アルバイト」、「あらいば」など日常生活に関する語が日本語で表現された。また、例 26 は、「プレゼンテーション」、「授業」、「レジュメ」などの学習生活に関する語を日本語に切り替えて表現することを示す。例 25 と例 26 で示した例文から見ると、学校生活のようなフォーマルな話題でも、普通の日常生活であるインフォーマルな話題でも、日中バイリンガル話者の会話で日本語の名詞への切り替えが頻繁に生起するということがわかった。例 27 と例 28 は、談話資料に見られた流行語と慣用語の CS を示す会話例である。例 27 で CS された「壁ドン」という語は日本の人気ドラマから生まれ、流行された言葉である。中国語ベースの会話において、

話者 JSL25 はその流行語を日本語のままで使用した。例 28 では、話者 JFL1 は日本人の行動様式について述べている際に、友人関係のニュアンスを明確に伝えていくために、「以心伝心」という日本語の慣用語を用いた。例 29 は、複数の名詞によって作られた複合名詞の CS を表す会話例である。例 29 で示したような、「ものづくり研究センター」という複数の名詞が一つのかたまりとして、日本語のままで中国語ベースの会話に挿入されることが、日中バイリンガルの会話データに頻繁に観察された。

例 20 固有名詞（地名）の CS 使用例

JSL27: 櫻島在哪啊? 【訳: 桜島はどこ?】

JSL28: 就是ユニバーサルシティ再往前。【訳: ユニバーサルシティより前】

JSL27: よどやばし?

JSL28: ユニバーサルシティ还是コスモスクエア, 反正是大阪港那边。【訳: ユニバーサルシティか、コスモスクエアか、どうせ大阪港の方】

JSL27: 哦哦, 我知道我知道, 那边好像有一个ドーム。【訳: そうか、わかったわかった、そこには何らかのドームがあるよね】

JSL28: 不是那个。【訳: あそこじゃない】

例 21 固有名詞（人名）の CS 使用例

JSL29: 你们ゼミ几个人啊? 【訳: あなたのゼミには何人いる?】

JSL30: 除了我跟りさん、还有たかはしさん、りゅうさん。【訳: 私と李さんの他に、高橋さん、りゅうさんがいる。】

JSL29: 我听とさん说他今天晚上可以帮我录。【訳: とさんから、今夜には録音してくれると言われた】

例 22 固有名詞（会社名）の CS 使用例

JSL23: 我之前就想就算拿到ニトリ的内定我也不会去。【訳: ニトリの内定をもらっても、あきらめたいと前から考えてきた】

例 23 専門用語の CS 使用例

JSL25: 哎 [↑] たまでは什么フランチャイズ么? 【訳: そうか、玉出は何か、フランチャイズかなあ】

JSL26: たまで...

JSL25: 还是就是连锁? 【訳: 普通のチェーン店かなあ】

JSL26: 这种应该都是フランチャイズ吧 [↓]。【訳: 玉出ならフランチャイズだと】

思う】

JSL25: 是么 [↑] 就是店长自己管就行了。【訳：そうなの、店长一人で管理する店だね】

JSL26: 不，店长的那种叫 じえいてん。フランチャイズ就是那种【訳：いいえ、店长で管理するのは自営店と呼ばれて、フランチャイズなら……】

JSL25: 就是卖商标的那种感觉呗 [↑]。【訳：ブランドを売るイメージだよ】

例 24 文化固有概念の CS 使用例

JSL5: 你觉得日本有什么好吃的？【訳：日本では美味しいものは何があると思う？】

JSL6: 大阪的话不就是 たこやき 和 おこのみやき 么 [↑]。【訳：大阪ならたこ焼きとおこのみやきがあるじゃないか】

JSL5: たこやき 不是全日本都有么 [↑]。【訳：日本どこでもたこ焼きがあるじゃない】

JSL6: 但是也没觉得多好吃。【訳：ところで、そんなに美味しいと思わない】

JSL5: 我们家旁边有一家たこやき，是我吃过 たこやき 里面最好吃的一家。然后 おこのみやき 吧，我喜欢吃糊的。【訳：家の隣にたこ焼きの店が一軒ある、そこは今まで食べたたこ焼きの中で一番美味しい店と思う。おこのみやきなら、焦げたものが好き】

例 25 日常生活（インフォーマル場面）に関わる語の CS 使用例

JSL3: アルバイト 的 事 啊... 【訳：アルバイトのことか〜】

JSL4: 你肯定有事，你那くらずし一会看这个一会看那个的。【訳：絶対面白い話あると思うよ、くらずしで働いた時にあっちを見たりこっちを見たり】

JSL3: 我在那块也干了一年零几个月。一开始的时候，他们都在前面干，就我一个人那干 あらいば 【訳：あそこで1年何ヶ月働いた。最初は、みんなホールで接客し、私1人が洗い場で働いた。】

JSL4: 】【 あらいば (<笑>)

例 26 学校生活（フォーマル場面）に関わる語の CS 使用例

JSL1: 比如今天下午要做 プレゼンテーション，然后一点开始じゅぎょう 嘛 [↓]。

我就会 12 点 45 打印我的 レジメ。【訳：例えば、今日午後にはプレゼンテーションがある、授業が午後1時から始まるじゃないか、12時45分に自分のレジメをプリントアウトしていく。】

例 27 流行語・慣用語の CS 使用例

JSL25: 对啦, 我喜欢小栗旬。【訳: そうか、小栗旬が好き】

JSL26: 啊, 那个壁咚的那个。小栗旬 [↑] 不错 【訳: そう、あの壁ドンの人、小栗旬、悪くないわ】

JSL25: かべドン

例 28 流行語・慣用語の CS 使用例

JFL1: 因为我没去过日本具体怎么样也不知道。但是通过看文章, 就感觉他们也是很表面的那种うつわりの感觉。【訳: 日本に行ったことがないから、具体的にはよく知らない。けど、文章を読むと、彼らは表面だけでうつわりのイメージだと思う】

JFL2: 都很独立是么? 【訳: 皆がとてもヨソヨソしい感じか?】

JFL1: 都是那种たてまえ嘛 [↓] 就是那种表面上处的好。我从来不知道有一个日本好朋友是什么感觉。从来没有那种いしんでんしん的感觉。【訳: みんなが建前の感じかな、表面で仲良く付き合っているような感じ。日本人の親友がいたらどんな気持ちか全然わからない。その以心伝心の感覚が全然わからない】

例 29 複合語の CS 使用例

JSL36: 他就是从那个ふじもとせんせいの那个ものづくりけんきゅうセンター里面出来的【訳: 彼は藤本先生が創られたものづくり研究センターの出身です。】

〔動詞・動詞相当語句〕

バイリンガル話者の会話において動詞や動詞相当語句の CS が現れるという事実が、数多くの CS 実証研究で指摘された (Poplack, 1980 ; 黄, 1994)。ここでは、日中バイリンガル話者の中国語から日本語への CS 発話に見られた、動詞・動詞相当語句のコード切り替えについて見ていく。本調査では〔動詞・動詞相当語句〕の CS を、例 30 で示した「びっくり」という動詞のみの切り替えと、例 31 での「げんきを出す」のような目的語を伴う動詞フレーズの切り替えに分類した。日中バイリンガルの CS 発話に見られた動詞・動詞相当語句の切り替えは、中国語で作られた文法枠組みのなかに日本語の動詞や動詞句を挿入するという形で行われた。つまり、挿入言語の〔動詞・動詞相当語句〕が、母体言語とする中国語の文法規則に従った上で埋め込まれると考えられる。

例 30 : 動詞の CS 使用例

JSL23: 这件事也挺让我**びっくり**的。【訳：わたしもびっくりしました。】

JSL24: 太**びっくり**了。【訳：本当にびっくりしました。】

例 31 : 動詞相当句の CS 使用例

JSL28: 我说因为是打早工，所以更应该**げんきをだす**。【訳：朝のバイトなので、もっと元気を出すべきだと言いました】

そして、切り替わった日本語の動詞が、語彙的意味により動作や運動を表す動作動詞、物事の状態や性質を表す状態動詞に分類される。具体的な会話例として、例 32 と例 33 が挙げられる。例 32 では、話者 JSL32 は相手に「そうとしより」という専門用語を解釈する際に、「勤める」という動作動詞を日本語に切り替えて使用した。そして、例 33 では、「円安」という状態を表す日本語の動詞が日本語のまま用いられる。

例 32 : 動作動詞の CS 使用例

JSL31: 你研究的是そうとしより这个人是么？【訳：お前はそうとしよりという人を研究するの？】

JSL32: 不是，そうとしより是一个整体。そうとしより是一堆人嘛 [↓] 就是研究这一堆人是干什么的。就是相当于そうとしより有十几个人**つとめ****っている**这个やくめ嘛 [↓]。【訳：違うよ、そうとしよりは1つの団体だよ。そうとしよりはたくさんの人からなるグループだ。このグループにいる人たちが何をするのかについて研究している。つまり、十何人がこの役目を務めっている感じ。】

例 33 : 状態動詞の CS 使用例

JSL31: 因为**えんやす**了，所以我觉得消費税涨了，这个对我的生活是翻天覆地的变化。以前吃西瓜都不用想，现在都得想一下了。【訳：円安になったから、消費税も増やしたんだと思う。このことは私の生活に大きな影響を与えた。前は、スイカを食べるのは全然ためらわなかったけど、今ならちょっと考えなきゃ】

〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕

バイリンガル話者の CS 使用に関する調査研究では、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕の切り替えが観察されることも報告されてきた。例えば、ナカミズ（2003）は、在日ブラジル人のポルトガル語を基盤言語とする会話において、話し手が感情やその瞬間の

主観的印象を表す際に日本語からの形容詞を使用する傾向があると指摘した。ここでは、形容（動）詞や形容（動）詞相当語句の CS を示した用例として、例 34 と例 35 を挙げる。例 34 では、話し手が日本人の先生に対するイメージを「やさしい」という日本語の形容詞で表現した。例 35 は、研究調査の対象をどんな社会的グループにするのかということについてディスカッションした会話である。話者 JSL30 は「サンプル外」という複合的な日本語の形容動詞を用いて、「社会人の会話」の調査価値に対する主観的な評価を話し相手に伝えた。〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕の CS を表す例 34 と例 35 から見ると、中国語を基盤言語とする会話に日本語の形容詞や形容動詞を挿入する場合、日本語の言語内容が中国語の文法規則に従った上で挿入される。切り替わった日本語の形容詞は、常に「的」という中国語の形容詞の接続語尾をつけて使用される。

例 34：形容詞・形容動詞の CS 使用例

JSL39: 我们老师还挺やさしい的。【訳：うちの先生は本当にやさしいです。】

例 35：形容詞・形容動詞相当語句の CS

JSL30: 你研究的是留学生，录社会人有什么用呢，都是サンプルが的。【訳：君は留学生を研究しているのじゃないか、社会人の会話を録音するのはなんのためですか。けっきょくサンプル外なものなのに】

次に、形容詞の切り替えにおいて、どのような形容詞が切り替えられるのかについて見ていく。形容詞の語彙的意味を議論する細川（1993）によると、形容詞に属する単語の意味は、事物の性質・状態を表すこと及び人の感情・感覚を表すこと、という 2 つの側面を持っている。それと同時に、形容詞には、言語主体の判断や評価を表す意味的側面もある。ここでは、細川（1993）の知見を参考にした上で、日中バイリンガルの会話で切り替えられた日本語の形容詞を、意味的な分類基準により、属性形容詞、評価性形容詞、感情形容詞、感覚形容詞に分けていく。例 36 で示したように、話者 JFL1 は「あいまい」という属性形容詞を日本語に切り替えて、日本人の女子留学生との関係が普通の後輩関係であるという状態を強調した。例 37 において、2 人の話者は日本人に対する主観的な印象を表す際に、「優しい」、「厳しい」などの評価性形容詞を日本語のまま言い表した。例 38 は、2 人の話者の今後の進路に関する談話である。話者 JSL23 は、感情形容詞「辛い」を日本語に切り替えることによって、大変プレッシャーを感じるという感情を表出した。そして、日中バイリンガルによる中国語ベースの会話では、人間の感覚モダリティ（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）で感じ取った知覚を表す感覚形容詞の CS が見られなかった。それに対

して、物事に対する主観的な評価や感情を表す形容詞の CS が頻繁に起こることが観察される。

例 36 属性形容詞の CS 使用例

JFL1: 之前和一个日本留学生处的挺好的。他回国之后说她喜欢我。我一直觉得异国恋特别 ridiculous。【訳：前には、一人の日本人留学生と仲良く付き合った。彼女が日本に帰国した後に、私のことが好きだと言われた。両国にまたがる恋は現実性が非常に低いと思う】

JFL2: 你们相处了多长时间啊？【訳：君たちはどのくらい付き合ったのか？】

JFL1: 半年不到吧 [↓] 不是那种 あいまい 的关系哈 [↓] 我就觉得他是我的こうはい。【訳：半年未満かな、けど、曖昧な関係ではないよ。私にとっては、彼女はただの後輩だ。】

例 37 評価性形容詞の CS 使用例

JFL3: 你接触的日本人平时是比较 やさしい 还是 きびしい 呢？【訳：普段付き合っている日本人は優しいか、あるいは厳しいと思う？】

JFL4: 感觉他还是比较 やさしい，不是很 きびしい 的那种。【訳：わりと優しいと思う、とても厳しい人ではない】

例 38 感情形容詞の CS 使用例

JSL24: 感觉到了考虑前途的时候啦。【訳：未来のことを考えなきゃならない時期だなあ】

JSL23: 感觉其实日本提前一年找工作真的很累。今年又推迟了，感觉今年好 つらい 啊。【訳：日本では1年前から就職活動をするなんて辛いなあ。今年もまた延長した、今年は本当に辛いなあ】

〔副詞・副詞相当語句〕

副詞は、中国語と日本語のいずれの言語でも、動詞や形容詞を修飾し、物事の程度や状態を表現するものである。ここでの例 39 と例 40 で示したような、日本語の副詞・副詞相当語句を中国語の会話に差し入れることが、日中バイリンガル同士の会話にも見られる。例 39 では、「まだまだ」を用いて、「你（きみ）」という主語の状態を表している。そして、例 40 では、「わらいながら」が「会計する」という動作を修飾し、副詞の機能を担っている。

例 39 : 副詞の CS 使用例

JSL27: 就是他们投エントリーシート啊, 投个六七十份都很正常, 我现在才投 20 多份啊。【訳: エントリーシートを提出するときには、六、七十部を提出するのは本当に普通なことですけど、私は 20 部しか提出しなかったです】

JSL28: 对啊 那你还まだまだ呢 [↓]。【訳: たしかにそうですね、そういえば、君はまだまだですね】

例 40: 副詞相当句の CS 使用例

JSL27: 我现在也练出来了, 基本都是わらいながら然后かいけい。【訳: 今の私はこちら慣れて、にっこりしながらレジの仕事ができますようになりました。】

[定型表現]

以上に紹介した「文内 CS」の切り替え項目以外に、例 41 で挙げた [定型表現] の CS が日中バイリンガルの会話にも見られた。例 41 で示した「おめでとうございます」や「ありがとうございます」などの表現は、話し手の日常生活において、挨拶言葉として定着した使い方である。難波 (2014b) によると、このような複数の単語が一つの組み合わせになった定型表現が、話し手の頭の中で一つの単語と同じように処理されている。そのため、[定型表現] を単語レベルの切り替え項目として「文内 CS」というカテゴリーに入れた。

例 41: 定型表現の CS 使用例

JSL41: 他跟我说おめでとうございます。【訳: 彼は私におめでとうございますと言いました】

JSL42: 然后你就说ありがとうございます了? 【訳: それで、君はありがとうございますと返事しましたか】

4.1.3 文間 CS について

以上に紹介した「付加的 CS」と「文内 CS」以外に、日中バイリンガルの CS 発話では、文と文の間で言語コードを変換する「文間 CS」も見られた。ここでは、Halliday (1994) の機能文法における言語の文法的構成素単位の分析方法を参考として、「節」という単位を使用し、「節」レベル以上の言語項目の切り替えを「文間 CS」とする。即ち、表 3-5 で示したように、「文間 CS」を単文の CS、節レベルの CS (データでは、従属節と引用節の CS が見られた) というように分類している。

[単文 CS]

文は述語の数によって、単文と複文という 2 種類に大別されている。単文とは述語を一

つか持たないものである。このような主語、述語など文法構造の必須要素を備え、完全な文法枠組みを持っている単文の CS が本調査の談話資料に観察された。ここでの例 42 で示したように、話者 JSL39 は研究室での出来事について話している際に、中国語で色々話した後に、最後に「ストレスが結構多い」という日本語の単文によって、話した内容をまとめた。

例 42：単文の CS 使用例

JSL39: 然后是研究室でのできごとについて、研究室就是整天的起早爬黑的、如果去打工的话、那真是周一到周五是脑力活动、周六周天是体力活动。ストレスがけっこうおおい【訳：あとは研究室でのできごとについて、研究室での出来事なら、朝は早起きして夜は遅くに帰ります。もしバイトすると、月曜日から金曜日まで頭で仕事をして、土日は体で働いている感じです。ストレスが結構多い。】

〔従属節〕

2つ以上の述語を持っている複文は、主節と従属節によって構成されている。益岡(2008)は、複文の構成について、主要な出来事を表す主節に対して、従属節は主要な出来事以外のものを表す部分である、というように説明している。このような主節の補足として存在している従属節の CS が、日中バイリンガルの会話にも観察された。例 43 は日中バイリンガルの発話データに現れた「従属節」の CS の会話例である。話者 JSL32 は「先生のように見える」という話者 JSL31 からのコメントについて、「先生めざしているから」という日本語で返事し、自分が先生のように話していることの原因を強調した。つまり、例 43 で示したような従属節の CS により、主節と従属節の因果関係を際立たせる効果があると考えられる。

例 43：従属節の CS 使用例

JSL31: 你说的像老师一样【訳：先生のように見えますね】

JSL32: <(笑)>、せんせいめざしているから

〔引用節〕

引用節というのは、他人の言葉や考えを引用することを表す複文の補足節である。日本語の引用節では、「言う」や「思う」などの動詞の引用部分に「と」という助詞の伴いが不可欠である。中国語の引用節では、「说（言う）」、「想（思う）」などの動詞の後に、引用部分の内容を直接的に接続できる。中国語をベース言語とする会話において、日中バイリン

ガル話者が引用した内容を際立たせるために、引用部分を日本語に切り替えることはよく見られる。例えば、例 44 では、話者 JSL27 はアルバイト先のできことについて話す際に、発話内容に臨場感を加えるために、店の同僚たちの話し方を真似し、職場で実際に発話された内容を日本語のまま引用した。具体的には、例 44 で示したように、「说(言う)」という中国語の後ろに日本語のままで「とって来ていい」、「お願いします」などの引用部分の内容を付けている。

例 44 : 引用節の CS

JSL27: 我们店里来了个新人, 他想要别人帮忙的时候就直接说「とって来ていい?」然后日本人就不乐意了就说「です、おねがいです」这样的。

【訳：うちの店に、ある新人がきた。彼は他の人に頼む時に、「とって来ていい」というタメ口で言いました。それで、店の日本人達が怒って、「です」を付けて、「お願いします」と言うように教えてあげた。】

4.2 会話データにおける各切り替え項目の使用実態

前項では、本調査で収集された談話資料に現れる具体的な CS 会話例を取り上げ、表 3-5 でまとめた CS の各切り替え項目について詳しく説明した。本項では、日中バイリンガル話者の CS 発話における各切り替え項目の使用状況について分析する。まず、JSL と JFL の日常会話ではどのような CS 発話が行われるのかという問題に関して、それぞれの調査グループの会話データを分析する。そして、2 つの調査グループにおける CS の各切り替え項目の使用比率を比較することによって、言語習得環境による CS の形態的特徴の違いを考察する。最後に、これらの違いを引き起こす原因に関して、心理言語学の知見を踏まえながら検討する。

4.2.1 JSL の発話における各切り替え項目の使用実態

ここでは、表 3-5 で提示した CS の切り替え項目のカテゴリーに基づき、日本で生活している JSL の日常会話で行われた CS の使用形態を見ていく。JSL の会話データを見ると、中国語で文法的な枠組みを作った文に日本語の語句を挿入する「文内 CS」以外に、間投詞や感嘆語など文の付加的要素を挿入する「付加的 CS」と、文の境界でコードを切り替える「文間 CS」も行われた。JSL の CS 発話全体における 3 つの CS パターンの割合を示した図 3-10 によると、JSL の CS 発話において、「文内 CS」が CS 発話全体の 9 割以上になり、

圧倒的に高い割合を占めていた。それに対して、「文間 CS」と「付加的 CS」の割合がいずれも 1 割以内に止まった。

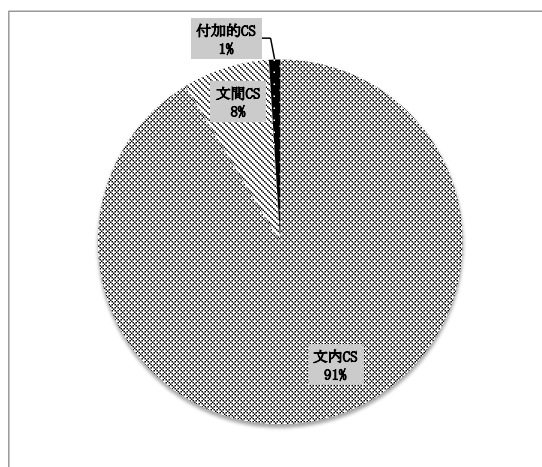


図 3-10. JSL 学習者の会話における各 CS パターンの割合

次に、「文内 CS」のみに目を向け、各切り替え項目がどのような割合で行われるのか、について見ていく。「文内 CS」の発話における各切り替え項目の割合を表している図 3-11 によると、[名詞・名詞相当語句] の CS の割合が最も高く、文内 CS 発話総数の 85% を占めていた。他の「文内 CS」での切り替え項目の割合を見ると、[動詞・動詞相当語句 (7%)]、[形容詞・形容動詞、形容詞・形容動詞相当語句 (5%)]、[副詞・副詞相当語句 (2%)]、[定型表現 (1%)] であり、[名詞・名詞相当語句] と比べて非常に低い割合であった。

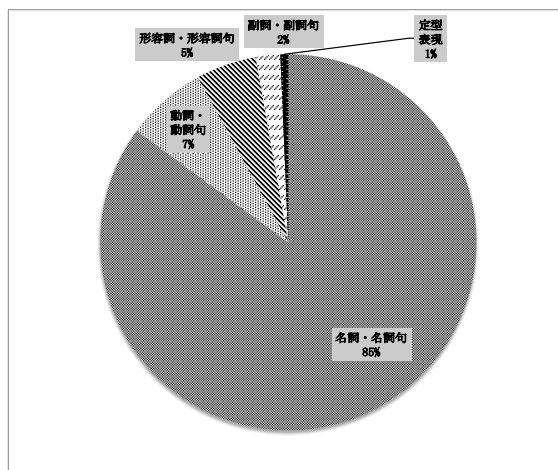


図 3-11. 文内 CS における各切り替え項目の割合 (JSL)

また、JSL の中国語基盤の会話で最も多く切り替えられた日本語の名詞に注目すると、意味カテゴリーごとの名詞 CS の出現比率は図 3-12 で示したとおりである。図 3-12 から、[名詞・名詞相当語句] という切り替え項目において、日本の人名、地名、会社名などの固有名詞の切り替えが最も多く見られた (25%)。次いで、「日常生活に関する語 (19%)」、

「日本文化の固有概念（18%）」、「専門分野に関する用語（17%）」、「学習生活に関する語（10%）」、「複合名詞（8%）」、「流行語（1%）」という順に並んだ。そして、動詞の CS における各意味的カテゴリーの割合を示す図 3-13 によると、動作動詞（44%）より状態動詞（56%）の出現比率の方が高いことが分かった。最後に、語彙の意味により分類された感情形容詞、評価性形容詞、属性形容詞の CS 使用比率を示した図 3-14 から、JSL 学習者の会話で行われた形容詞の CS において、言語主体の主観的評価を表す評価性形容詞への切り替えが半分以上の割合（58%）を占めて、比較的頻繁に行われていることがわかる。これらの分析結果から見ると、JSL 学習者の会話で行われた CS は実際概念や身近の物事を表示する〔名詞・名詞相当句〕の「文内 CS」に集中し、CS 発話総数のおよそ 8 割を占めていることが分かった。

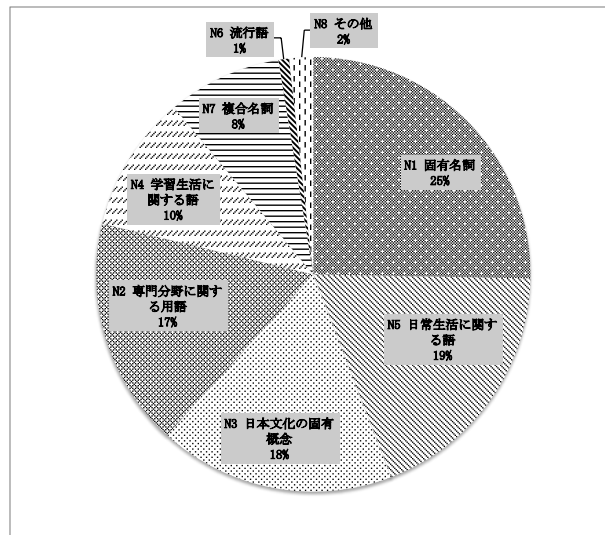


図 3-12. 名詞類 CS における各意味カテゴリーの割合 (JSL)

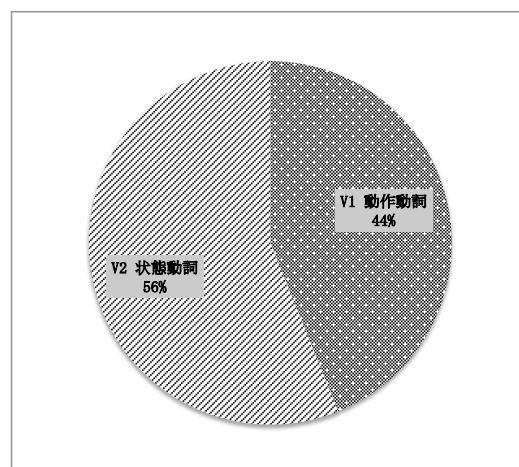


図 3-13. 動詞類 CS における各意味カテゴリーの割合 (JSL)

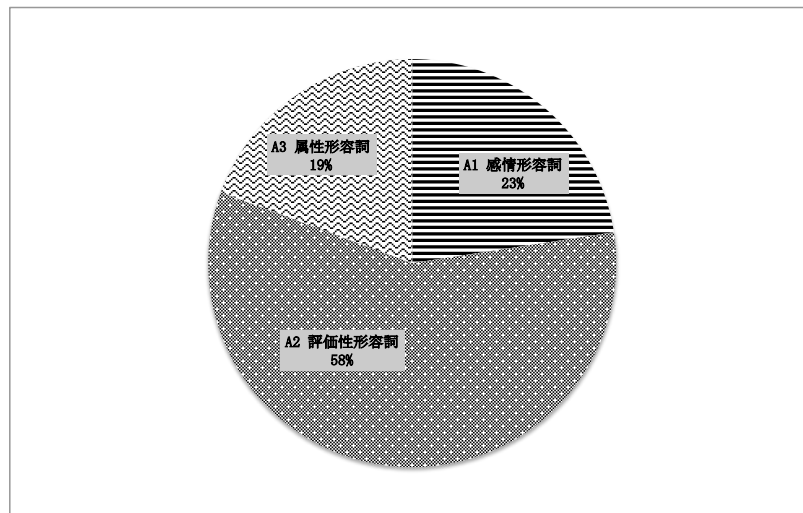


図 3-14. 形容詞類 CS における各意味カテゴリーの割合 (JSL)

4.2.2 JFL の発話における各切り替え項目の使用実態

次に、中国で日本語を学習している JFL の会話データをもとに、各切り替え項目の使用状況について分析していく。JFL の日常会話にも、「付加的 CS」、「文内 CS」と「文間 CS」という 3つのパターンの CS 発話が見られた。JFL の CS 発話全体における付加的・文内・文間 CS 発話の出現比率に関しては、図 3-15 で示したとおりである。図 3-15 のように、JFL の CS 発話では、「文内 CS」が 69%を占めて、高い割合で見られた。一方で、「文間 CS」が CS 発話総数の 25%、「付加的 CS」が 6%を占めていることが分かった。

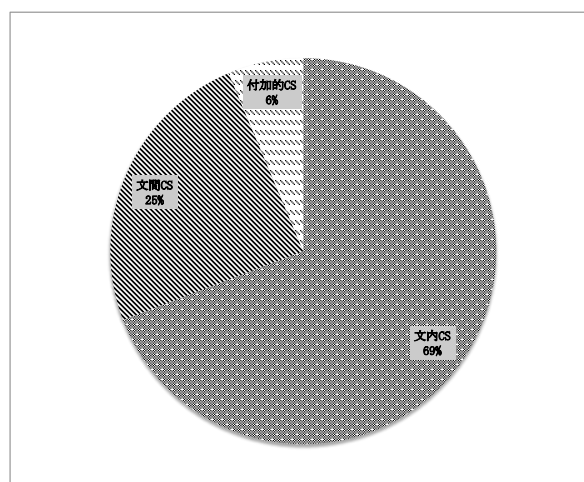


図 3-15. JFL 学習者の会話における各 CS パターンの割合

また、図 3-16 は JFL の会話で行われた「文内 CS」のみに注目し、「文内 CS」に含まれる各切り替え項目の割合を示した。図 3-16 によると、[名詞・名詞相当語句] の CS の割

合が最も高く、「文内 CS」発話の 57%を占めていた。次いで、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句（29%）〕、〔定型表現（8%）〕、〔動詞・動詞相当語句（4%）〕、〔副詞・副詞相当語句（2%）〕という順に並んだ。

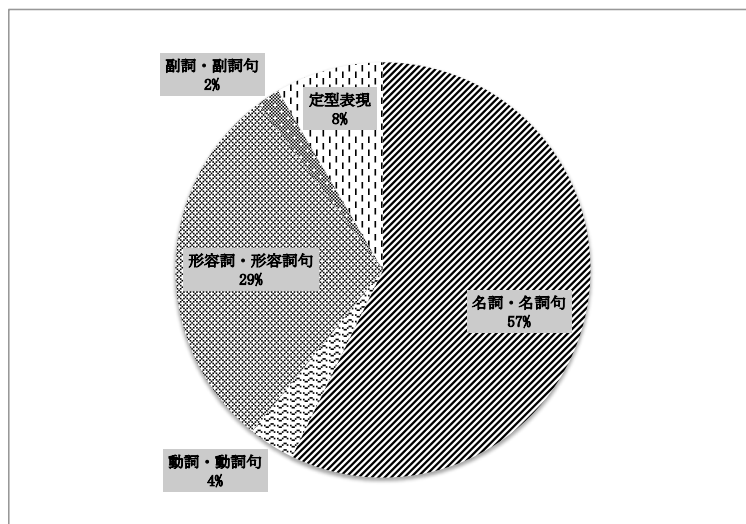


図 3-16. 文内 CS における各切り替え項目の割合 (JFL)

また、図 3-17 は JFL の会話における意味分類ごとの名詞類 CS の使用比率を表したものである。この図 3-17 によると、JFL の CS 発話において、「固有名詞（39%）」、「日本文化の固有概念（36%）」、「日常生活に関する語（20%）」という 3 種類の名詞が頻繁に切り替わった。この 3 種類の語彙表現は〔名詞・名詞相当語句〕の CS 発話の 9 割以上を占めていた。それに対して、JFL の CS 発話において、「学習生活に関する語」、「専門分野に関する語」、「流行語」という 3 種類の名詞の CS が見られなかった。この結果から、日本で生活している JSL と比べて、中国で日本語を学習する JFL の会話に行われた日本語の名詞への切り替えは、バリエーションが少ないことが分かった。そして、JFL の CS 発話において、〔名詞・名詞相当語句〕の次に、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕への CS の割合が各切り替え項目の第 2 位である。切り替わった各種類の形容詞の割合を示した図 3-18 から、「評価性形容詞」の切り替えが比較的が多くて、(JSL の結果と一致する)、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕CS 発話の 83%と高い割合を占めていることが見てとれる。ここで特に強調したいのは、JFL の会話において、〔動詞・動詞相当語句〕の CS が行われたのは 6 回だけで、その中に動作動詞の切り替えが見られず、全て状態動詞への切り替えであった、ということである。

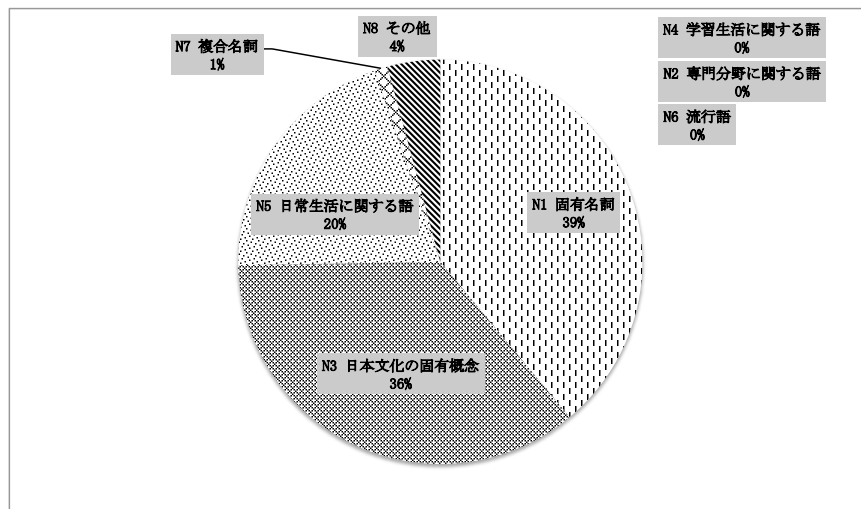


図 3-17. 名詞類 CS における各意味カテゴリーの割合 (JFL)

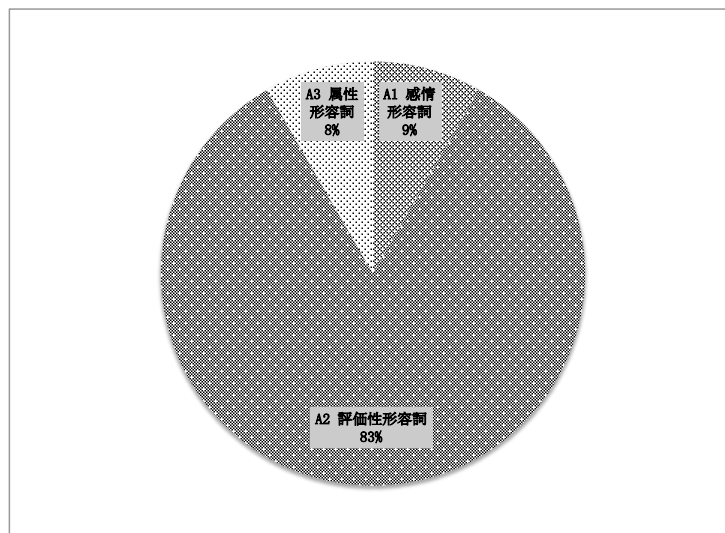


図 3-18. 形容（動）詞類 CS における各意味カテゴリーの割合 (JFL)

4.2.3 CS の使用形態における両グループの相違点

次に、上述した 2 つの調査グループの会話データに対する分析結果を踏まえながら、両グループの CS の使用実態の相違点について考察する。まず、図 3-19 は JSL と JFL の CS 発話における 3 つのパターンの出現比率を比較したものである。図 3-19 からみると、「文内 CS」の割合について、JSL のほうが JFL より高い。一方で、「文間 CS」と「付加的 CS」において、JFL の CS 発話の割合のほうが高いということが分かった。具体的には、JSL の CS 発話における「文内 CS」が 9 割以上を占めて、JFL の「文内 CS」の割合 (69%) をおよそ 2 割と大幅に上回ったことが分かった。それに対して、JFL の CS 発話全体の 25% を占めた「文間 CS」と比べて、JSL の場合では、「文間 CS」が CS 発話全体の 8%しか占

めなかった。つまり、JFL と比べて、JSL の CS 発話が「文内 CS」に集中し、3つの CS パターンの割合差がより大きいということが見られた。

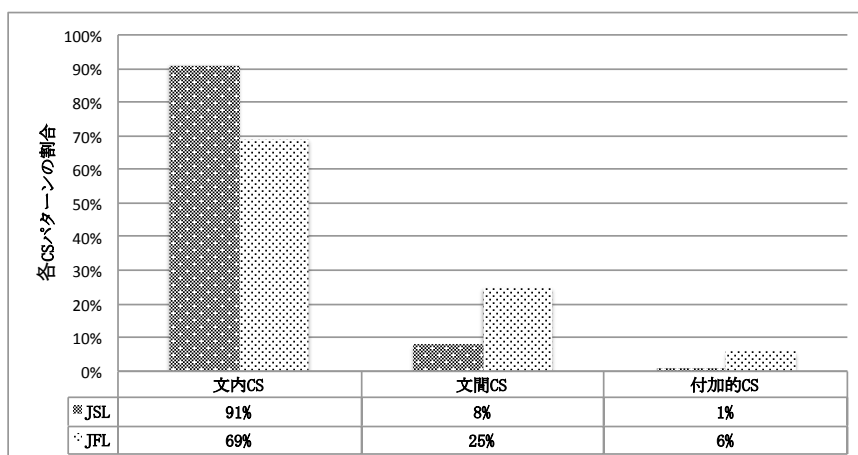


図 3-19. JSL と JFL の会話における各 CS パターンの割合差

次に、両グループの CS 発話において大きな割合差を持っている「文内 CS」と「文間 CS」に注目した図 3-20 では、この 2つの CS パターンに含まれる各切り替え項目の割合差を示した。

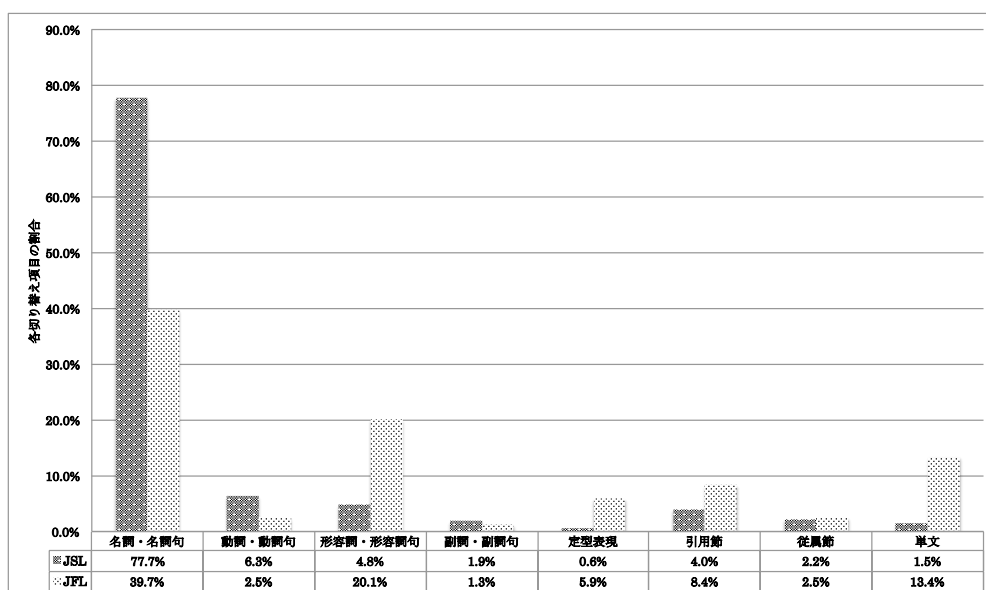


図 3-20. JSL と JFL の CS 発話における各切り替え項目の割合差

図 3-20 によると、〔名詞・名詞相当語句〕、〔動詞・動詞相当語句〕及び〔副詞・副詞相当語句〕という 3つの切り替え項目において、JSL の CS 発話の割合が JFL の CS 発話の割合より高く、一方、その他のいずれの切り替え項目の割合についても、JFL の方が JSL より高いということが分かった。特に、「文間 CS」の〔単文〕及び「文内 CS」に含まれる〔名詞・名詞相当語句〕、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕という 3つの切り替え

項目では、両グループの CS 発話の割合差が大きいことが見られた。図 3-20 によると、JFL の CS 発話全体では、〔単文〕の CS が 13.4%を占めたことに対して、JSL の場合では〔単文〕の CS が CS 発話全体の 1.5%しか占めなかった。次に、両グループの「文内 CS」発話における大きな割合差が見られた〔名詞・名詞相当語句〕と〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕という 2 つの切り替え項目を見ていく。図 3-20 によると、〔名詞・名詞相当語句〕において JSL の CS 発話の割合（77.7%）が JFL の CS の割合（39.7%）を 3 割以上と大幅に上回ったことが分かった。その一方で、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕での両グループの CS 発話の割合を見ると、JSL の CS 発話全体では、〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕の CS は 4.8%を占めるにとどまり、JFL の〔形容（動）詞・形容（動）詞相当語句〕の CS の割合（20.1%）より 15.3%低くなることが分かった。

次に、名詞類と形容（動）詞類の CS における切り替わった内容の語彙的意味に目を向け、両グループの相違点について考察していく。まず、図 3-21 は名詞類 CS における各意味的分類の割合に関して、JSL と JFL を比較するものである。図 3-21 によると、日本で生活している JSL の名詞類 CS において、「専門分野に関する語（17%）」、「学習生活に関する語（10%）」、「流行語（1%）」という 3 種類の名詞への切り替えが観察された。それに対して、JFL の CS 発話では、この 3 種類の名詞への切り替えが見られず、JFL の名詞類 CS が、「固有名詞（39%）」、「日本文化の固有概念（36%）」及び「日常生活に関する語（20%）」という 3 種類の語彙表現に集中することが、図 3-21 からわかった。以上の分析結果から、名詞類 CS における切り替わった内容の意味の種類に関して、中国で日本語を学習する JFL と比べて、日本で生活している JSL の方が、より多くのバリエーションを示すことが分かった。

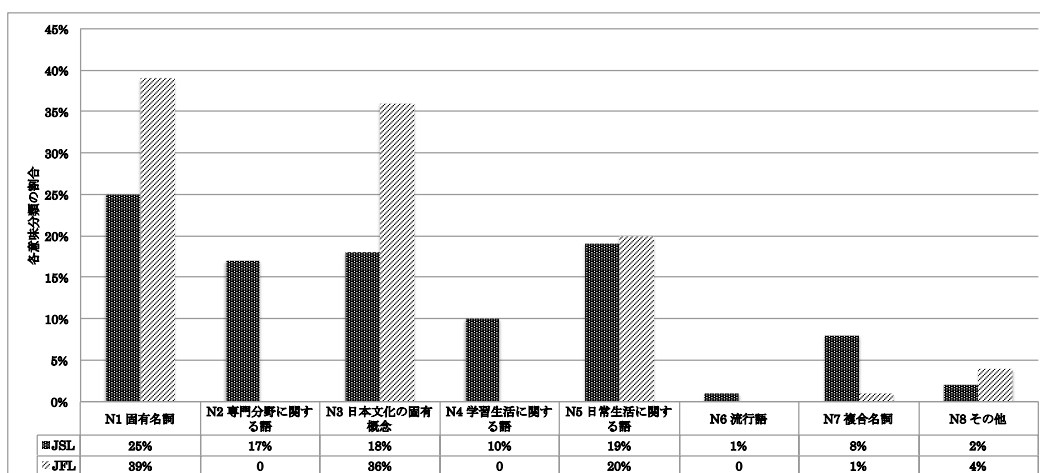


図 3-21. 名詞類 CS における各意味的カテゴリーの割合差（両グループ間の比較）

さらに、形容（動）詞類の CS における各意味的分類の割合について、JSL と JFL を比較する図 3-22 を見ていく。図 3-22 で示したように、感情形容詞と属性形容詞の割合について、JSL の方が JFL より高いことが認められた。それに対して、JFL の形容（動）詞類 CS では、評価性形容詞の CS が 83% を占めて、JSL の形容（動）詞類の CS における評価性形容詞の割合（58%）より大きく上回っている。この結果により、JSL と比べて、JFL の会話で行われた形容詞への CS は、物事に対する話者の判断や考えを表す評価性形容詞に集中する傾向が強いと考えられる。

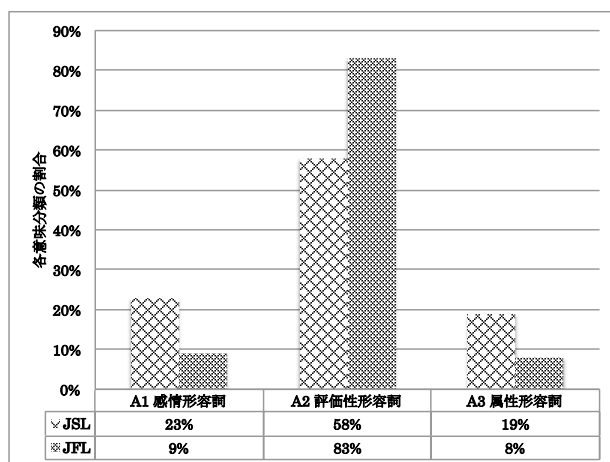


図 3-22. 形容（動）詞類 CS における各意味的カテゴリーの割合差（両グループ間の比較）

さらに、JSL と JFL の形容（動）詞類の CS における使用語彙の豊富さを考察するために、それぞれの意味的分類の異なり語数¹⁸を以下の表 3-6 で示した。両グループの形容詞類 CS の異なり語数を意味的分類別に示した表 3-6 によると、言語習得環境に関わらず、両方のグループとも、評価性形容詞の方は異なり語数が最も高いことが見られた。そして、JSL の場合においては、感情形容詞より属性形容詞の方は異なり語数の値が高い、一方、JFL の場合においては、感情形容詞の方は異なり語数がより高いことが観察された。このような結果から、評価性形容詞の種類が豊富であることが両グループの形容詞類 CS に見られる共通点である。そして、両グループの形容詞類 CS で見られる相違点に関して、JSL の場合では感情形容詞より属性形容詞の方が語彙的バリエーションに富んでいる一方で、JFL の場合、感情形容詞の種類に富むという傾向が見られた。また、形容詞類 CS での使用語彙の全体における両グループを比較する結果として、JFL と比べて、JSL の方が異なり語数が高く、語彙的に豊かであることがわかった。

¹⁸ 異なり語数は重複で使用する単語を一語として数え、テキスト全体で用いられた異なる語彙の数である。異なり語数は使用語彙の豊富さを表す重要な指標である。

表 3-6 形容詞類 CS における異なり語数

	JSL	JFL
A1 感情形容詞	6	7
A2 評価性形容詞	12	9
A3 属性形容詞	11	3
合計	29	19

4.2.4 心理言語学的観点からの両グループの CS 使用実態に関する考察

以上では、日中バイリンガルの CS 発話における各切り替え項目の使用状況に関して、JSL と JFL という 2 つのグループの会話データを分析した。ここでは、以上に紹介した調査結果を踏まえて、習得環境が日中バイリンガルの（母語から学習言語への）CS 発話に与える影響について考察していく。具体的には、両グループの CS 使用に見られた共通点と相違点を観察するとともに、心理言語学的観点を取り入れ、その差異を引き起こす原因について検討する。

まず、前項で行った調査データの分析から、JSL と JFL の会話データに現れた CS 使用形態に関する共通点と相違点をまとめると、次のようになる。

〈共通点〉

(1) JSL、JFL という 2 つの調査グループの中国語基盤発話において、両方のグループとも 3 つのパターン（付加的・文内・文間）の CS が見られた。

(2) そして、両方のグループとも、「文内 CS」の割合は圧倒的に高く、非常に多く行われた。特に、両方のグループとも中国語で文法的な枠組みを作った文に日本語の〔名詞・名詞相当語句〕を挿入することが最も頻繁に行われた。

〈相違点〉

(1) 3 つの CS パターンにおける割合の差について、JFL と比べて、JSL の CS 発話では 3 つの CS パターンの割合差がより大きいことが見られた。

(2) JSL の会話で行われた CS は、実際概念や身近な物事を表示する〔名詞・名詞相当語句〕の「文内 CS」に集中し、CS 発話総数のおよそ 8 割を占めていた。それに対して、JFL の会話において、〔名詞・名詞相当語句〕の CS の割合は最も高いが、CS 発話総数の半分以下にとどまり、JSL より大幅に低くなった。

(3) 名詞類 CS における意味の種類に関して、JFL と比べて、JSL の CS 発話では、「専門分野に関する語」、「学校生活に関する語」、「流行語」に関わる日本語の語彙の切り替え使用が観察され、より多様性を持つことがわかった。

(4) 相違点 (2) に対して、感情や主観的な印象を表す〔形容 (動) 詞・形容 (動) 詞相当語句〕という切り替え項目において、JFL の CS 発話の割合が JSL より大幅に上回った。一方で、形容詞類 CS における両グループの使用語彙の豊かさについて、JFL と比べて、JSL の方が異なり語数が高く、語彙的バリエーションに富んでいることがわかった。

次に、上でまとめられた共通点と相違点を引き起こした要因について、バイリンガルの 2 言語習得・使用に関わる心理言語学的な知見を踏まえながら、以下の 2 点から考察していく。(1) メンタルレキシコンに記憶している異種類の語彙に関わる処理の仕方 (2) メンタルレキシコンの構築と概念世界の発達との相互関係。

まず、JSL と JFL のいずれのグループでも、〔名詞・名詞相当語句〕の CS が最も起こりやすいということでは共通している。その理由としては、名詞はモノの名前や事物のカテゴリーを指示する語彙であるため、周囲の意味世界と容易にマッピングすることができるということが考えられる。ところで、今井・針生 (2007) によると、異なるタイプの概念に対応するために、ことばは品詞という統語的カテゴリーによって細分化される。言葉の記憶システムであるメンタルレキシコンは、事物カテゴリーを示す名詞や行為のカテゴリーを示す動詞、モノの属性を表す形容詞など様々な種類の語によって構成される。そして、今井・針生 (2007) では、このような語の意味的性質が言葉の学習と使用に強く影響を与えることが考えられる。つまり、異なる性質の概念に対応する言葉は異なる処理方略によって学習、使用される。その中で、事物の命名や記述に用いられる名詞類は即時マッピング¹⁹という性質を持っている語彙である。それに対して、動詞や形容詞など名詞以外の語は名詞のように概念や意味への即時マッピングができないと考えられる (今井・針生, 2007)。そして、これに関して、バイリンガルの言語運用と関連して検討してみると、以下のように考えることができる。我々は言葉を産出する際に、まず、思考レベルで相手に伝えたい内容を概念的メッセージとして生み出す。具体的言語形態を持っていない概念的メッセージを言語化するために、メンタルレキシコンから適切な意味・語彙情報を検索する。このような概念的メッセージが語彙情報とマッピングする処理段階では、L2 の名詞の情報が即時マッピングできるため、動詞、形容詞より活性化されやすいと考えられる。したがって、日中バイリンガルの会話において、他の切り替え項目と比べて、〔名詞・名詞相当語句〕の CS がより頻繁に行われるのである。

¹⁹ 即時マッピングとは、たった一度、語が使われるのを見ただけで即座にその語の正しい概念と対応づけができてしまうことである (今井・針生 2007)。

次に、JSL と JFL の CS 発話に見られた最も大きな相違点は、実際概念や事物を伝達する際に、JSL のほうが頻繁に CS することに対して、感情を表出する際に、JFL のほうが CS しやすいということである。その理由は、言語習得環境が言語学習者の概念世界の構築に大きな影響を与えるからと考えられる。今井・針生（2007）は、ことばの学習が精緻な概念体系の構築に大きく役立つと同時に、学習された概念が語の理解を深め、語意を正確に推論することに貢献していると指摘している。つまり、ことばの学習と概念の学習が相補的に発達していくと考えられている。このことは子供の母語発達だけでなく、外国語学習者の第 2 言語習得にも適用すると考えられる。子供の母語獲得と比べて、外国語学習者が L2 を学習する際に、母語の語彙以外に、L2 の語彙を用いて、2 つのルートで概念世界を構築することができる。換言すると、外国語学習者たちは L2 の語彙を学習すると同時に、L2 の学習を通して、母語で接触したことがない概念世界を構築していく。このことから、JSL と JFL の CS 発話の相違点を容易に解釈できると思われる。JSL たちは日本語を L2 として日本で生活しているうちに、身をもって周りの物事を体験し、日本語で概念世界を作り上げる機会が多くなる。そのため、物事や概念を表している名詞が日本語の意味・語彙へマッピングし、メンタルレキシコンに蓄積される。そして、このような概念的メッセージの伝達に合わせて意味・語彙情報を検索する際に、日本語の形式で記憶された意味・語彙を活性化しやすい。そのため、JSL の CS 発話において、「日本文化の固有概念」、「固有名詞」だけではなく、専門用語、流行語、日常生活に関する語など多様な日本語の切り替え使用が観察され、名詞類の CS はバリエーションに富んでいる。また、JSL と比べて、JFL は上で述べたような「生の日本語」と接触する機会が少ない。そのため、母語で作上げた概念を通じて、学習言語（日本語）に対応する概念を理解していく。従って、JFL の会話では、事物の命名や記述に用いられる名詞類の CS の割合が JSL より大幅に低く、意味の種類も多様性に欠けている。

最後に、感情や主観的な印象を表すための形容詞・形容動詞という切り替え項目において、JFL のほうが日本語の形容詞を使用する割合がより高いという傾向が見られた。特に、評価性形容詞と感情形容詞の方は異なり語数が高く、語彙的バラエティに富むことがわかった。その理由として、外国語学習者にとっては、学習言語のインパクトが習得環境の違いに影響されるためと考えられる。日本語を外国語として学習している JFL は、一般的に、日本語母語話者と頻繁にコミュニケーションする機会が少ない。そのため、日本語で日常生活をしている JSL と比べて、JFL には、外国語としての日本語のインパクトが強いと推

察される。このことから、中国語が基盤となる会話において、JFL はインパクトが強い日本語の形容詞・形容動詞を使用することにより、自分の感情や主観的な評価を強調することができる。これは JFL が形容詞・形容動詞の CS を多用する原因ではないかと考えられる。

5 まとめ

本章では、習得環境によって分類された JSL と JFL という 2 つの調査グループの会話データを用いて、彼らの CS 発話に現れた機能的特徴と形態的特徴を分析した。そして、両グループの CS 発話に見られた相違点を観察するとともに、社会言語学と心理言語学の観点を取り入れ、その差異を引き起こす原因について考察した。

まず、本調査で収集した会話データをもとに、両グループの CS 発話に現れた機能的特徴について分析した。その分析の結果から、JSL 学習者の CS 発話では、話者が発話内容をスムーズかつ明確に伝達することに重点を置き、発話者の自己伝達に関連した「意味的機能」を担う CS の割合が最も高い傾向が観察された。それに対して、JFL 学習者の CS 使用は、話者が自分の気持ちや感情を強調したり、聞き手の注意を喚起するために行われ、話し手と聞き手のインターアクションを重視した「対人的機能」の CS に集中することがわかった。そして、このような機能的差異を引き起こす社会的要因に関する議論を通じて、以下のようなことが明らかになった。日本語を母語以外の少数派言語として習得する JFL 学習者の場合に、日本語を使用することは有標性が高い言語行動であるので、感情表出や意志表示など、聞き手に言語外のメタメッセージを伝えるために非常に有効である。一方、JSL 学習者の場合には、日本人コミュニティが主流派言語集団である日本社会で生活しているため、彼らの CS 使用は発話内容を効率的に伝えることを主な目的と、効果的な情報伝達を達成するために行われる。

そして、CS の使用実態に関して両グループの会話データを分析した結果として、習得環境と拘らず、いずれのグループの会話でも「文内 CS」の割合が圧倒的に高かった。また、両方のグループともに、「文内 CS」において、日本語の〔名詞・名詞相当語句〕が最も頻繁に CS された。メンタルレキシコンの構築の仕方からその原因を考察すると、世界に存在しているモノの名前や事物のカテゴリーを表す名詞は他種類の語彙より意味、概念を対応づけやすいからである。次に、両グループの CS 発話に見られた相違点は、名詞類の CS では、JSL のほうが日本語の名詞により頻繁に切り替え、感情表出と評価性の形容詞類の CS

では、JFL のほうが日本語の形容詞を CS しやすいということである。その理由として、ここで次の 2 つのことが考えられる。まず、ことばの学習が概念世界の構築と影響し合うことである。特に、名詞類のことばが概念へ即時マッピングできる語彙であるため、外国語学習者は外国語の名詞を学習すると同時に、母語で接触したことがない概念世界を作り上げていく。JFL の場合は、JSL と比べて、中国語で作りに上げたことがない概念を日本語の形式で獲得する機会が少ない。それ故、JFL の CS 発話における名詞類 CS の割合が、JSL より非常に低いと考えられる。次に、日本で生活している JSL と比べ、教室で日本語を学習している JFL にとって、日本語のインパクトはより強いと考えられる。そのため、JFL は中国語を基盤とする会話において、自分の感情を強調するため、有標性を持っている日本語への CS をする。以上のことから、習得環境が言語学習者の概念世界の構築及び学習言語の有標性に影響を与えていると考えられる。

また、本章の実証分析では、JSL と JFL の会話データを用いて、彼らの CS 発話に関する談話的機能と使用実態という 2 つの問題を中心に検討した。しかしながら、このような CS 使用現象を引き起こす根本的な原因をより深く検討するには、心理言語学及び神経言語学の観点から CS 使用に関わるバイリンガル話者の認知的メカニズムについて分析する研究が必要と考えられる。そこで、第 4 章では、バイリンガル話者の語彙記憶システムに焦点を当て、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題などの心理言語学実験による実証分析を行い、日中バイリンガルの CS 使用を支える 2 言語の語彙記憶システムの特性について詳細な検討を行う。

第4章 日中バイリンガルの言語記憶システムに関する実証分析

本章では、CS使用現象がどのような認知メカニズムによって生起するのかという問題に焦点を当て、バイリンガル話者における語彙記憶システムの特性と構造形式について実証分析を行う。以下では、第2章で概観したメンタルレキシコンという言語記憶システムに関する議論をもとに、特に、バイリンガルのメンタルレキシコンを説明した De Groot (1995) の特徴要素モデルと Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデルを理論的枠組みとして、2言語知識の記憶・処理システムについて実験的な検証を行う。具体的には、語彙近接性ランキング課題を用い、意味情報の記憶方法に焦点を当てた De Groot (1995) の特徴要素モデルを検証すると同時に、中日偏重バイリンガルにおける2言語の意味要素領域の特性について検討する。そして、偏重バイリンガルにおける言語形式と意味要素の結びつき方を議論した Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデルを参考として、翻訳課題と絵命名課題の実験データに基づき、日中バイリンガルの言語処理プロセスについて検討する。また、これらの考察を通して、日中バイリンガルにおける2言語知識の記憶方法と2言語情報処理の仕組みについて考察すると同時に、彼らの日常会話に生起するCSに関与する心理言語学的な要因を明らかにする。

1 意味要素領域の特性に関する実証実験：語彙近接性ランキング課題

1.1 理論的枠組み

第2章でも述べたように、我々の脳内には音声、文字、意味、文法的素性など言葉に関わる諸要素を蓄えているメンタルレキシコンが存在する。その中には、音韻情報、文字情報など言葉の表現形式に関連する形式的な内容を担う形態部門と、文法的素性、意味情報など語彙の意味要素に関わる内容を担う意味部門がある。特に、メンタルレキシコンの意味部門は、個人の感覚や記憶、認知と深く関わり、客観的に取り扱われる形式情報を蓄える形態部門より遙かに複雑である。このような意味部門の構造形態に関する有力な知見として、第2章では、Collins & Loftus (1975) の意味ネットワークという概念を提示した。Collins & Loftus (1975) の議論では、1つの語彙項目に関わる複数の意味要素の関連性と記憶方法が明確に検討された。それによると、言葉に関わる複数の意味要素が、一定の秩序に従った上で互いにリンクしている意味ネットワークとして記憶される。そして、このような意味ネットワークの構築は話者の文化環境、使用言語、個人的経験によって強く影

響されることが数多くの研究によって指摘された（芳賀，1971；井狩，2009；三宅，2002，2003）。即ち、異文化環境で生活する言語話者の意味ネットワークは異なる言語体系によって構築されるため、その中に含まれる意味要素も大きく相違している。そして、バイリンガル話者の意味ネットワークは、2つの言語体系によって構築され、2言語、2文化に関わる意味要素を持っている。また、バイリンガルの意味部門に含まれた複数の意味要素には、それぞれの言語システムの形式情報と個別に繋がっているものと、両言語システムで共通しているものが存在している。このことは、De Groot（1995）によって提唱された特徴要素モデルによって図式化され、わかりやすく示された（図 2-9）。第 2 章で論じてきたように、De Groot（1995）の特徴要素モデルでは、2 言語の形式情報に対応する意味要素の集合体には、両言語で共通する意味要素と各言語で個別に対応する意味要素が含まれる。このような De Groot（1995）の知見はバイリンガルの意味部門の構造形態を明確に説明した。しかしながら、筆者の考えでは、2 言語システムに関わる意味要素の中に、両国の文化交流によって互いに融合しているものとそうでないものがある。例えば、「餃子」、「漫画」などの意味要素は元々各国の文化に特有の概念で、両国の文化交流によって、互いの文化に融合してきた。それに対して、「チャイナドレス」、「とんかつ」などは両国文化に個別に存在する意味要素として、互いの言語文化システムに定着していないものである。即ち、下の図 4-1 で示したように、両言語の言語形式に対応する意味要素において、文化的に共通する程度が異なる。また、この意味要素に関係する文化の共通性がバイリンガルの語彙習得と語彙検索に強く影響すると考えられる。

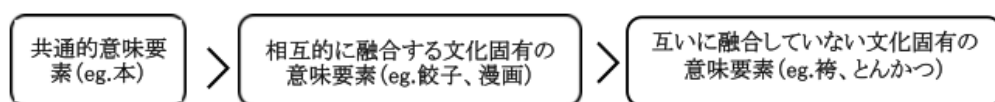


図 4-1 意味要素に含まれる文化的共通性

また、2 言語の意味部門の特性に注目した特徴要素モデルを検証するために、De Groot & Poot（1997）は、ドイツ語を L1 とするドイツ語-英語偏重バイリンガル 20 名を対象に、翻訳課題を実施した。その結果、バイリンガルの 2 言語の意味要素領域に関して、抽象語、文化的異質語、非頻出語に比べて、具体語、同族語、使用頻度の高い語の方が共通範囲の大きいことが検証され、両言語の意味要素領域が語彙の抽象度、同質性及び使用頻度から影響を受けると結論づけられた。このような実験結果の検討から、2 言語の意味部門に含まれる意味要素の不一致性が示されたと同時に、バイリンガルの意味部門の記憶方法が語の

タイプと使用頻度によって影響されることが示唆される。しかし、意味要素領域に影響する要因を議論した De Groot & Poot (1997) の実験では、名詞だけに焦点を当てて翻訳課題を行い、語彙の品詞体系の多様性を見落としている。本研究では、名詞以外に形容詞と動詞を加えた語彙近接性ランキング課題を実施し、De Groot の特徴要素モデルが日中バイリンガルにも適用されることを検証すると同時に、日中バイリンガルの意味部門の構築に影響を及ぼす使用言語、語彙の品詞体系、L2 の習得環境という 3 つの要因を検討していきたい。

1.2 調査：語彙近接性ランキング課題

1.2.1 調査目的

本研究では、日中バイリンガル話者、日本語母語話者及び中国語母語話者を対象として、質問紙調査による語彙近接性ランキング課題を実施する。調査協力者の回答結果から得たデータを多変量解析することによって、2 言語の意味部門に含まれる意味要素の多様性と不一致性を考察する。さらに、De Groot の特徴要素モデルが日中バイリンガルにも適用される可能性を検証し、語彙の品詞体系及び L2 の習得環境が 2 言語形式に対応する意味要素の記憶方法にどのような影響を与えるのか、の解明を目指す。

1.2.2 調査協力者

本研究では、調査協力者を言語の習得・使用状況によって 4 つのグループに分け、2 種類（中国語版と日本語版）の語彙近接性ランキング課題を実施した。まず、今回の調査協力者のうち、2 つのグループは 2 言語が話せる中国人日本語学習者であり、日本語の学習環境によって、在日中国人留学生（JSL）と在中日本語学習者（JFL）の 2 つのグループに分ける。第 1 グループの JSL たちは、中国の高等学校または大学を卒業した後、日本の大学（大学院）に進学している。彼らは N1 に合格するだけの上級レベルの日本語能力を持ち、日本の滞在期間が比較的に長いため、日本語のコミュニケーション能力もかなり高い。それに対し、第 2 グループの JFL は中国の大学で日本語を学習している学生である。彼らの日本語学習歴は 3～4 年で、N1 に合格した上級レベルの学習者である。第 3 グループの調査協力者は、中国の大学に在学し日本語が話せない中国語母語話者である。第 4 グループの調査協力者は、日本の大学に在学し中国語が話せない日本語母語話者である。4 種類の調査協力者の具体的な基本情報は表 4-1 の通りである。

表 4-1 調査協力者の基本情報

調査協力者	身分	年齢（歳）	人数（人）	中国語能力	日本語能力	在日期間
在日中国人留学生 (JSL)	大学（院）生	20～28	20	母語レベル	超級 (N1合格)	3～7年
在中日本語学習者 (JFL)	大学生	20～26	18	母語レベル	上級 (N1合格)	-
中国語母語話者 (C)	大学生	20～25	20	母語レベル	-	-
日本語母語話者 (J)	大学生	20～26	20	-	母語レベル	-

1.2.3 調査方法

語彙近接性ランキング課題による質問紙調査では、調査協力者に例題で示すような質問項目を提示する。下記の例題で示しているように、各質問項目には、1つの提示語彙（例えば、赤い）とその提示語彙と関連する10個の連想語彙を含む。語彙間の関係性を客観的に定量化するため、調査協力者に、提示された10個の連想語彙について、提示語彙との関係性をもとに、連想しやすい順に、1点から10点の10段階で評価してもらう。

質問項目の例題.

提示語彙：赤い

(A)病院	(B)旗	(C)郵便ポスト	(D)危険	(E)結婚式	(F)夕日	(G)糸	(H)太陽	(I)募金	(J)心
1	5	9	8	2	7	6	10	4	3

質問紙には、このような質問項目を18組提示する²⁰。そして、語彙近接性ランキング課題に使われた18個の提示語彙は、表4-2が示すように、名詞、動詞と形容詞の3つのカテゴリーに分けられ、それぞれのカテゴリーは、さらに下位分類される。名詞は、概念の抽象度と意味要素に含まれた文化要素によって、具体的概念、抽象的概念、文化要素入り共通概念、文化固有概念に分けられる。動詞は、動作の対象によって他動詞と自動詞に区別される。そして、形容詞については、表示する意味の違いにより分類される。その中には、五感で感じられることを表現する感覚形容詞、心の動きを表す感情形容詞、物事に対する主観的評価を表す評価性形容詞と事物の客観的性質を表す属性形容詞の4つの下位分類が含まれる。

²⁰ 語彙近接性ランキング課題を実施する際に調査協力者に配布した質問紙は、巻末の附録資料5と附録資料6参照。

表 4-2 提示語彙の分類

カテゴリー	下位分類	提示語彙
名詞	具体的概念	果物、お土産
	抽象的概念	人生
	文化要素入りの共通概念	祭り、サラリーマン
	文化固有概念	コンビニ、チャイナドレス
動詞	他動詞	送る、打つ、開く
	自動詞	起きる、出る
形容詞	感覚形容詞	冷たい
	感情形容詞	寂しい
	評価性形容詞	優しい、可愛い、美味しい
	属性形容詞	赤い

また、各質問項目に使われる提示語彙と連想語彙は、以下の 5 つの基準に基づき選出される。

- (1) 『外国人のための基本語用例辞典第 2 版』及び『中英日対照分類中国語基本語彙』に基づき、日常生活での使用頻度が高いものを選出する。
- (2) 提示語彙は両言語における基本的な意味要素が共通している語彙である。(例えば、伝統的な行事である「祭り」の基本的意味は中国語と日本語で共通している)。それに関連する連想語彙との組み合わせには、意味的または文化的な違いがある。(例えば、中国では、祭りの日に餃子を食べる習慣があるため、中国語の語彙システムにおいて、「祭り」と「餃子」との関係性が日本語より近い。)
- (3) 語彙近接性ランキング課題を実施する前に、パイロット調査として 3 人の日中バイリンガル²¹を対象に両言語（中国語と日本語）で自由連想課題を行う。具体的には、表 4-2 で示した 18 個の提示語彙を刺激語として、3 人の調査協力者に刺激語に関わる 10 個の語彙を連想してもらい、語彙近接性ランキング課題の連想語彙を選定する際に、このような連想語調査の結果が 1 つの重要な基準として参考にされる。
- (4) 各質問項目において、連想語彙と提示語彙との意味的な関係性の度合いを区別することが可能である。
- (5) 調査協力者の回答の信頼性をモニターするために、各質問項目には、提示語彙と全く関係ないダミー語彙を 1 つ入れる。ダミー語彙が上位にランキングされる場合、この調査協力者の回答の信頼性が低いと判断し、統計データから除外する。

今回の調査では、上で紹介した質問紙を中国語と日本語、両言語で実施した。調査の実施状況に応じて、表 4-3 で示すように、JSL-C, JSL-J, JFL-C, JFL-J, J-J, C-C の 6 つの調査グループのデータを収集する。

²¹ 3 人とも、日本の大学院で学習する中国人留学生である。長期間に日本に滞在し、高い日本語能力を有している。

表 4-3 6つの調査グループ

	在日中国人留学生 (JSL)	在中日本語学習者 (JFL)	日本語母語話者 (J)	中国語母語話者 (C)
中国語版 (C)	JSL-C	JFL-C	✖	C-C
日本語版 (J)	JSL-J	JFL-J	J-J	✖

1.3 分析

本研究においては、語彙間の関係性を得点化した1点から10点までの評価基準を基に、各質問項目での10個の連想語彙の平均点を算出し、6つの調査グループの回答データを統計した。具体的には、表4-4に示すように、調査協力者の回答結果について、それぞれの連想語彙の得点を合計した後、各調査グループの人数で割っていく。そこで算出された平均点がこの連想語彙の最終的な得点になる。

表 4-4 回答データの統計結果例

提示語彙: 開く	車	会議	ドア	運	口座	店	学校	給料	道	花
C-C	7.5	8.15	9.4	2.05	3.5	6.3	2.35	6.9	2.55	6.3
J-J	2.35	6.85	9.6	5.85	7.15	7.6	4.25	1.6	6.05	3.75
JSL-C	7.4	7.75	9.4	1.6	3.65	6.9	2.75	6.45	2.5	6.6
JSL-J	4.55	6.2	9.7	5.2	5.45	8.6	4.5	1.9	6.2	2.75
JFL-C	7.89	7.89	8.89	2.11	3.33	6	2.78	6.56	2.22	7.33
JFL-J	5.75	6.75	9.5	5.13	3.5	7.6	4.25	3.13	2.63	6.75

この統計結果について、10種類の提示語彙の下位分類（表4-2）を基に、SPSSで項目別相関分析及び因子分析を行った。この2つの分析手法を採用し、得られたデータを分析処理することによって、意味部門の構築に影響を及ぼす3要因の働き方を明らかにしていく。

1.3.1 相関分析

1.3.1.1 本研究で扱う相関分析

まず、6つの調査グループのデータに含まれる複数の変数（言語使用状況、言語習得環境、質問紙の使用言語）がどの程度の強さで回答結果に関係しているかを明らかにするために、相関分析を行う。具体的には、相関分析を用い、以下の3点について考察する。

- (1) C-C と J-J の2つのグループでの相関分析により、母語使用と意味要素領域との関係性を考察する。相関係数が高いほど、回答結果の類似性が高く、両言語形式に対応する意味要素の共通部分が大きいことを示す。

(2) J-J、JSL-J と JFL-J の 3 つのグループの相関係数から、L2 の習得環境が JSL と JFL の日本語の意味部門に及ぼす影響を量的に分析する。

(3) C-C、JSL-C と JFL-C の 3 つのグループの回答データを分析対象とする相関分析により、L2 の習得が JSL と JFL の母語（中国語）の意味部門に与える影響を考察する。

また、相関分析に際して、表 4-2 で示した提示語彙の分類を基に、名詞、動詞、形容詞の類別相関分析を実施する。算出されたピアソンの積率相関係数によって、各調査グループの相関性を分析していくと同時に、提示語彙の分類ごとの比較分析を行うなかで、意味部門における品詞体系の影響の解明を試みる。なお、相関分析の結果は、因子分析を行う上で、極めて重要な意味を持つ。

1.3.1.2 相関分析の結果

提示語彙の分類によって実施した調査グループ間の相関分析の結果を表 4-5、4-6、4-7、4-8、4-9 に示している。まず、表 4-5 は提示語彙が具体名詞であるデータ類による相関分析の結果を表している。

表 4-5 具体名詞による相関分析の結果

	C-C	J-J	JSL-C	JSL-J	JFL-C	JFL-J
C-C	1					
J-J	.836**	1				
JSL-C	.943**	.903**	1			
JSL-J	.847**	.850**	.898**	1		
JFL-C	.940**	.864**	.960**	.849**	1	
JFL-J	.837**	.756**	.875**	.956**	.860**	1

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

表 4-5 によると、全ての調査グループの間には高い相関 ($0.7 < |r| < 1.0$) が見られた。この結果から、提示語彙が具体名詞である場合に、語彙間の関係に対する全ての調査グループの回答結果が高い類似性を示し、2 言語の意味要素領域の共通範囲が広いと考えられる。そして、具体名詞だけではなく、提示語彙が抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞である場合にも、全ての調査グループの間に高い相関が示された。

中国語母語話者 (C-C) と日本語母語話者 (J-J) の回答結果を比較すると、提示語彙が動詞、文化要素入り共通概念の名詞、感覚形容詞であるデータ類は、C-C と J-J の 2 つのグループの間に低い相関性 ($0 < |r| < 0.5$) が示された (表 4-6、4-7、4-8)。この結果により、提示語彙が文化要素入り共通概念の名詞、動詞、感覚形容詞である場合には、中国語母語話者と日本語母語話者の回答結果が低い類似性を示し、2 つの調査グループの意味

要素領域には大きな違いがあると考えられる。また、各調査グループの相関係数を詳しく見ると、L2の習得環境が意味要素領域に及ぼす影響が観察される。表4-6、表4-7、表4-8によると、いずれのデータ類でも、JFL-JよりJSL-Jの方がJ-Jとの相関が高いことがわかる。このことは、JFLと比べて、日本で生活しているJSLの回答結果が日本語母語話者よりも類似性が高いことを意味する。また、C-C、JSL-C、JFL-CとJ-J、JSL-J、JFL-Jのそれぞれ3つの調査グループが高い相関を示している。この結果から、JSLとJFLの回答結果に関して、質問紙が中国語で呈示される際は、中国語母語話者(C-C)との類似性が高く、質問紙が日本語で呈示される際は、日本語母語話者(J-J)との類似性が高いと推察される。

表4-6 動詞による相関分析の結果

	C-C	J-J	JSL-C	JSL-J	JFL-C	JFL-J
C-C	1					
J-J	-0.031	1				
JSL-C	.956**	0.073	1			
JSL-J	0.252	.807**	.318*	1		
JFL-C	.951**	0.038	.953**	.312*	1	
JFL-J	.461**	.595**	.507**	.796**	.544**	1

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)。

表4-7 文化要素入り共通概念による相関分析の結果

	C-C	J-J	JSL-C	JSL-J	JFL-C	JFL-J
C-C	1					
J-J	0.14	1				
JSL-C	.923**	0.309	1			
JSL-J	0.232	.956**	0.397	1		
JFL-C	.947**	0.18	.954**	0.265	1	
JFL-J	0.283	.898**	0.393	.940**	0.306	1

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

表4-8 感覚形容詞による相関分析の結果

	C-C	J-J	JSL-C	JSL-J	JFL-C	JFL-J
C-C	1					
J-J	0.446	1				
JSL-C	.946**	0.419	1			
JSL-J	0.553	.890**	0.523	1		
JFL-C	.961**	0.502	.915**	0.574	1	
JFL-J	0.411	.862**	0.448	.948**	0.448	1

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

最後に、提示語彙が属性形容詞であるデータの相関分析の結果を見る。表4-9に示すように、J-Jにおいて、他の調査グループとの間すべてに低い相関が見られる。この結果は、提示語彙が属性形容詞である場合に、JSLとJFLの回答結果は、質問紙の使用言語に関わ

らず、中国語母語話者（C-C）と高い類似性があることを示している。つまり、日中バイリンガルの属性形容詞に関わる意味部門は、L2の語彙システムよりL1の語彙システムの方から影響を受けやすいことがわかる。

表 4-9 属性形容詞による相関分析の結果

	C-C	J-J	JSL-C	JSL-J	JFL-C	JFL-J
C-C	1					
J-J	-0.292	1				
JSL-C	.681*	-0.069	1			
JSL-J	0.527	0.084	.943**	1		
JFL-C	.724*	0.141	.938**	.917**	1	
JFL-J	0.643	-0.124	.976**	.958**	.922**	1

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

1.3.2 因子分析

1.3.2.1 本研究で扱う因子分析

各調査グループの回答結果の背後にある共通因子を探求するために、6つの調査グループの回答データに対して因子分析を行う。因子分析は、データの背後に隠された共通因子の存在を仮定し、目に見えるデータを共通因子の影響を受けた結果として解釈する統計作業である。因子分析を行うに当たり、固有値と累積寄与率の2つの係数により、影響因子として採用するかどうかを判断する。固有値とは、因子の影響力を示す数値で、因子採用の最も重要な基準である。一般的には、固有値が1以上のものが影響因子として採用される。影響因子を抽出する際に、もう1つ明確な基準とされるのは累積寄与率である。累積寄与率とは、固有値の累積構成比であり、第1因子からその因子までの説明力の合計を示す数値である（内藤・秋川,2007）。累積寄与率80%を超えるものが、影響因子として採用できる。また、因子分析の結果を解釈する際に、もう1つ不可欠な係数は因子負荷量と呼ばれるものである。因子負荷量は、観測変数（ここでは6つの調査グループ）に対する抽出因子の影響の度合いを表すパラメーターである。因子負荷量は1から-1までの数値範囲を持ち、絶対値が大きければ大きいほど、各調査グループの回答結果がその因子から受ける影響が大きいことを示す。本分析では、18個の質問項目における語彙間の近接距離を得点化したデータを分析対象として、主因子法のバリマックス回転により、提示語彙の分類ごとに因子分析を行う。因子分析で算出された固有値が1以上、累積寄与率が80%を超えたものを影響因子として採用し、因子負荷量により各調査グループの回答結果に対する抽出因子の影響の度合いについて考察する。

1.3.2.2 因子分析の結果

6つの調査グループの回答データに対して、提示語彙の分類による類別因子分析を行った結果、それぞれのデータ類に解釈可能な抽出因子を特定することができた。表4-10、表4-11は、1つの因子だけが抽出された単因子データ類の因子分析の結果を表す。提示語彙が具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞であるデータ類での因子抽出の結果を示す表4-10のとおり、固有値が1以上、累積寄与率が80%を超える因子が1つだけ抽出された。そのため、これらのデータが単因子データ類と考えられる。また、抽出された因子が各調査グループの回答結果にどのぐらいの影響を与えるのかについて、因子負荷量のパラメーター値を示す表4-11で説明できる。表4-11によると、ほとんどの調査グループで、因子負荷量の係数の絶対値が0.9以上であり、非常に高い値が示された。このことから、抽出された因子はいずれの調査グループの回答結果にも強く影響し、2言語の語彙システムに共通している「共通の意味要素システム」であることが推測できる。換言すると、提示語彙が具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞である単因子データ類の場合に、調査協力者の母語、言語学習状況に関わらず、すべての調査グループの回答結果が共通の意味要素システムによって影響される。

表4-10 因子抽出結果（単因子データ類）

提示語彙のカテゴリー	抽出因子1	
	固有値	累積寄与率
具体名詞	5.394	89.91%
抽象名詞	5.197	86.61%
文化特有概念	5.819	96.98%
感情形容詞	5.266	85.56%
評価性形容詞	4.987	79.86%

表4-11 因子負荷量（単因子データ類）

調査グループ	具体名詞	抽象名詞	文化特有概念	感情形容詞	評価性形容詞
	因子1	因子1	因子1	因子1	因子1
C-C	0.95	0.968	0.995	0.842	0.912
J-J	0.915	0.677	0.993	0.836	0.797
JSL-C	0.981	0.971	0.968	0.986	0.888
JSL-J	0.949	0.974	0.994	0.955	0.908
JFL-C	0.963	0.979	0.991	0.938	0.921
JFL-J	0.929	0.974	0.967	0.98	0.929

また、提示語彙が文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞、属性形容詞であるデータ類での因子分析を行った結果として、影響因子の採用基準を満たす因子が2つ抽出された

(表 4-12)。そのため、これらのデータ類は多因子データ類と見なされた。そして、採用基準を満たす 2 つの因子が各調査グループに与える影響を示す表 4-13 によると、文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞の 3 つのカテゴリーにおいては、中国語で実施する C-C、JSL-C、JFL-C の 3 つのグループが因子 1 から強い影響を受け、日本語で実施する J-J、JSL-J、JFL-J の回答結果が因子 2 から強く影響を受けている。この結果により、第 1 因子は「中国語意味要素システム」と、第 2 因子は「日本語意味要素システム」とそれぞれ結びつく判断することができる。そして、属性形容詞においては、因子 2 の「日本語意味要素システム」から強く影響を受ける調査グループは J-J だけで、その他の調査グループは因子 1 の「中国語意味要素システム」から大きな影響を受けていることが示された。言い換えると、提示語彙が文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞である多因子データ類の場合には、中国語意味要素システムと日本語意味要素システムの 2 つの因子が確定され、調査協力者の回答結果が 2 言語個別の意味要素システムから影響を受けている。

表 4-12 因子抽出結果 (多因子データ類)

提示語彙のカテゴリー	抽出因子1		抽出因子2	
	固有値	累積寄与率	固有値	累積寄与率
文化要素入り共通概念	3.716	48.16%	2.053	96.15%
動詞	3.611	51.56%	1.971	92.14%
感覚形容詞	4.287	47.19%	1.407	92.42%
属性形容詞	4.329	70.46%	1.159	89.03%

表 4-13 因子負荷量 (多因子データ類)

調査グループ	文化要素入り共通概念		動詞		感覚形容詞		属性形容詞	
	因子 1	因子 2	因子 1	因子 2	因子 1	因子 2	因子 1	因子 2
C-C	0.976	0.080	0.982	0.066	0.970	0.239	0.667	-0.278
J-J	0.068	0.976	-0.112	0.93	0.246	0.864	-0.009	0.998
JSL-C	0.952	0.241	0.967	0.152	0.914	0.249	0.988	-0.063
JSL-J	0.161	0.976	0.186	0.941	0.328	0.936	0.941	0.103
JFL-C	0.981	0.115	0.974	0.146	0.92	0.295	0.983	0.124
JFL-J	0.198	0.948	0.446	0.796	0.203	0.941	0.977	-0.103

1.4 考察

2 言語の意味要素領域の構築に影響する要因について、1.3 で行った調査データの分析から、次の 3 つの示唆が得られる。

(1) 6 つの調査グループの回答データに相関分析を実施した結果から、提示語彙が具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞である場合、語彙間の関係に対

するすべての調査グループの回答結果が高い類似性を示す。それに対し、提示語彙が動詞、文化要素入り共通概念、感覚形容詞、属性形容詞であるデータ類においては、C-C と J-J の 2 つの調査グループの回答結果の低い類似性が観察された。このことから、名詞、感情形容詞、属性形容詞と比べて、動詞の語彙に対応する 2 言語の意味部門の共通領域の方がより狭いことがわかる。これは、モノ同士の関係性を表す動詞の指示する意味要素領域が 2 言語間で異なることが原因と考えられる。そして、物の性質を表す形容詞において、感情形容詞、評価性形容詞よりも感覚形容詞、属性形容詞の方が各言語個別に有する意味部門の領域が大きい。これは、色や感覚のような、物質の客観的特性を表す形容詞に対応する意味部門の領域が、感情・評価性形容詞と比較してより明瞭で、各文化で該当する部分がより大きく異なるからと推察される。また、名詞では、個別文化要素入り共通概念を除き、具体名詞、抽象名詞及び文化固有概念は、2 言語で共有する意味要素領域の範囲が大きい。このことから、語の抽象度よりも語に含まれた文化要素の個別性の方が、名詞に対応する意味部門の共通領域により強く影響すると考えられる。

(2) 各調査グループ間の相関を比較すると、JFL-J の回答結果より JSL-J の方が、日本語母語話者と高い類似性を示している。一方、JSL-C の回答結果より JFL-C の方が、中国語母語話者との類似性が高くなっている。この傾向により、JSL の日本語意味要素システムが JFL に比べて、より日本語母語話者と類似していることが示唆される。その一方で、中国的意味要素システムに対する日本語習得の影響が、JFL よりも日本で生活している JSL により強く現れていることがわかる。以上の考察から、L2 の習得環境が L2 の意味部門の構築に影響する要因の一つであると判断することができる。また、L2 の学習が L1 の意味部門に影響を及ぼすことも確認された。

(3) 6 つの調査グループの回答データを分析対象として、提示語彙の分類による類別因子分析を行った結果、提示語彙が具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞のデータ類では、「共通の意味要素システム」という 1 つの共通影響因子のみ抽出された。抽出された因子は、いずれの調査グループの回答結果にも強く影響していることが示された。この結果から、提示語彙が具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞である質問項目に答える場合に、調査協力者の母語、言語学習状況に関わらず、共通語彙システムを稼働させることが示唆される。これらの語彙に対応する意味要素領域は、2 言語で共通している範囲が広いと考えられる。それに対して、提示語彙が文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞、属性形容詞であるデータ類は、「中国語意味要素シス

テム」と「日本語意味要素システム」の 2 つの影響因子が抽出されるため、多因子データ類となることが判明した。6 つの調査グループに影響する度合いを表す因子負荷量から、「中国語意味要素システム」は C-C、JSL-C、JFL-C、そして、「日本語意味要素システム」は J-J、JSL-J、JFL-J のそれぞれ 3 つのグループの回答データに強く影響することが確認できた。以上の結果から、提示語彙が文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞、属性形容詞である場合に、調査グループの回答結果が 2 言語の意味要素システムからの影響を受けていることがわかる。特に、偏重バイリンガルの JSL と JFL の場合、回答結果が 2 言語の意味要素システムから受ける影響の度合いは、質問紙の使用言語により異なると考えられる。つまり、日中バイリンガルは言語使用状況に応じて、効率的に 2 言語の意味要素システムを切り替えて利用すると推察される。

上述の 2 言語の意味部門の特性に関する考察により、De Groot のモデルが日中バイリンガルに適用できることが検証された。但し、このモデルは静的に不変なものではなく、品詞体系と L2 の習得環境によって動的な特性を表すものである。バイリンガルのメンタルレキシコンに関して、図 4-2 と図 4-3 が示すように、2 言語の意味部門の共通範囲は、{文化要素入り共通概念、動詞、感覚形容詞、属性形容詞}より{具体名詞、抽象名詞、文化固有概念、感情形容詞、評価性形容詞}の方が大きい。このことから、2 言語の意味要素領域における共通部分は語彙の品詞体系に影響されることが示唆される。

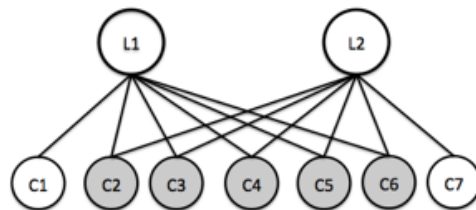


図 4-2 特徴要素モデルの変型 1 (単因子データ類)

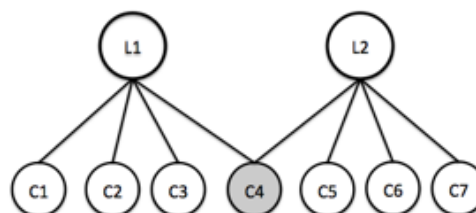


図 4-3 特徴要素モデルの変型 2 (多因子データ類)

また、上での分析結果及び考察に基づき、バイリンガルにおける 2 言語の意味部門の構築が L2 の習得環境によって影響されると考えられ、それを踏まえて、JSL と JFL の語彙システムを図式化すると、次の図 4-4 と図 4-5 のようになる。図 4-4 で示すように、JSL の

場合に、共通の意味要素は、L1 との結びつきが L2 より弱く、点線で表している。一方で、JFL の語彙システムを表す図 4-5 では、共通の意味要素が L2 とのリンクは L1 より弱く、点線で表示している。即ち、図 4-4 と図 4-5 において、L2 と着実に結びつく意味要素は、JFL より JSL の方が多く、L1 と強く結びつく意味要素は JSL より JFL の方が多いことを示している。その原因として、日本で生活している JSL の場合には、日本語による生活する経験を積み重ねることによって、共通の意味要素が日本語の言語形式との連結がだんだん強化されると同時に、L1 との結びつきが弱くなっていくからである。それに対して、日本語での生活経験が足りない JFL の場合は、日本語の言語形式が意味要素に直接的たどり着く言語使用環境が備わっていないからと考えられる。

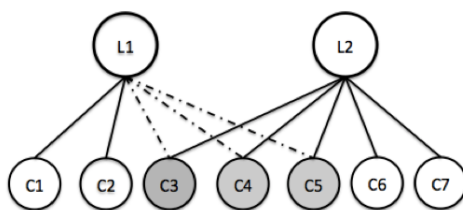


図 4-4 特徴要素モデルの変型 3 (JSL 学習者)

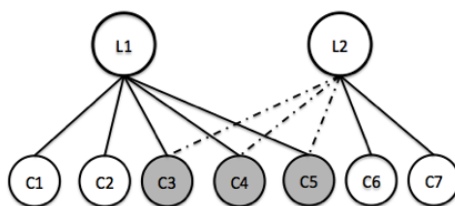


図 4-5 特徴要素モデルの変型 4 (JFL 学習者)

1.5 結び

本節では、日中バイリンガルの 2 言語の語彙システムにおける意味部門の構築に影響すると考えられる要因の解明を目的とし、中日偏重バイリンガル、日本語母語話者及び中国語母語話者を対象として、語彙近接性ランキング課題による質問紙調査を実施した。調査結果の多変量解析を行うことによって、De Groot のモデルが中日偏重バイリンガルに通用することを検証した。同時に、中日偏重バイリンガルが持っている 2 言語の意味部門の特性を検討し、2 言語の意味部門の構築に使用言語、品詞体系、L2 の習得環境の 3 つの要因が影響していることを明らかにした。具体的には、語彙近接性ランキング課題の調査結果に基づく相関分析と因子分析を通して、日中バイリンガルにおける 2 言語の意味部門の特性に関して、次の 4 点が明らかになった。

(1) バイリンガルのメンタルレキシコンに関して、言語形式に対応する意味部門は多数の意味要素の集合体である。

(2) 言語形式に対応する意味部門は、2 言語で共通している部分と各言語が個別に有する部分によって構成される。

(3) 2 言語の意味部門における共通領域は語のタイプ及び品詞に大きく影響される。名詞、形容詞より概念的・不明瞭性を持つ動詞の語彙に対応する意味要素領域においては、2 言語で共通する範囲が小さい。形容詞において、色や感覚のような物質の客観的性質を表す形容詞に対応する意味要素領域の方が、感情・評価性形容詞より各言語が個別に有する意味要素領域が大きい。名詞では、個別文化要素入り共通概念を除き、具体名詞、抽象名詞及び文化固有概念は 2 言語で共有する意味要素領域の範囲が大きい。

(4) L2 の習得環境が、日中バイリンガルの個別言語の言語形式に対応する意味要素領域に大きな影響を与える。日本語を外国語として学習する JFL と比べて、日本で生活している JSL 学習者の方が L2 の言語形式に対応する意味要素の範囲が大きい。一方で、L1 の言語形式に対応する意味要素領域の範囲に関しては、L2 の学習によって影響されると同時に、JFL と比較し、JSL の方が影響を受けやすい。

2 言語要素間の結びつき方に関する実証実験：翻訳課題と絵命名課題

2.1 理論的枠組み

ここでは、メンタルレキシコンにおいて、形式情報を担う形態部門と意味情報を担う意味部門との結びつき方に焦点を当て、日中バイリンガルが 2 言語の語彙情報をどのように処理していくのかについて考察する。第 2 章で論じてきた Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデル (図 2-8) によると、バイリンガルのメンタルレキシコンにおいて、各部門に含まれた言語情報が概念連結と語彙連結という 2 つの処理方略によって結びつけられていく。概念連結は、言語形式に関わる形態部門が意味情報を担う意味部門と直接繋がっていくことを示す。語彙連結とは、形式情報を担う両言語の形態部門のつながりである。母語獲得の場合には、子供は言語機能と認知機能がまだ十分に発達していないので、身をもって現実世界を経験し、言葉で周りの出来事や物にラベル付けしていく。即ち、L1 のメンタルレキシコンが概念連結に依存して構築されると考えられる。それに対して、敏感期以後に L2 を学習する際は、高次的な認知システムと L1 の言語システムがすでに成熟した状態になってきている。そのため、第 2 言語習得の場合には、この既存の 2 つのシステムに依

存するのが脳内言語処理として最も経済的である。つまり、L2の言語知識は、概念連結と語彙連結という2つの処理経路によって脳内に記憶される。また、バイリンガルのメンタルレキシコンの構造形態は、L2の習得環境によって異なると考えられている。例えば、中国で日本語を学習するJFL学習者の場合には、概念連結の社会的コンテキストが欠けているため、日本語の言語形式が、すでに身につけたL1を経由し、意味情報と結びつくようになる。一方で、JSL学習者は、身を持って日本社会の物事を体験することによって、その言語形式が意味情報と直接連結できるようになる。特に、元々中国語の語彙システムに存在していない日本文化の意味要素に関して、その意味部門が日本語の言語形式によって新たに構築される。そして、日本での生活経験を積み重ねることによって、共通の意味要素は日本語の言語形式で再構築される。それに対して、中国文化の意味要素は日本語の語彙システムに安定化していないため、日本語の言語形式によって再構築されない。

ここでは、以上の議論を踏まえて、特に、Kroll & Stewart (1994)の改訂階層モデル(図2-8)とDe Groot (1995)の特徴要素モデル(図2-9)を基に、JSLとJFLの語彙記憶モデルの図式化を試みる(図4-6と図4-7)。

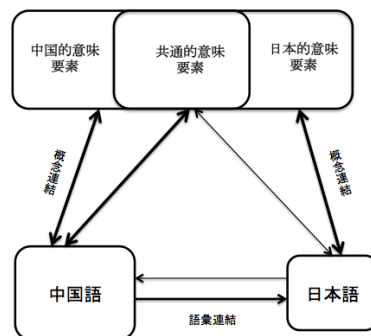


図4-6 JSLのメンタルレキシコンの構造形態

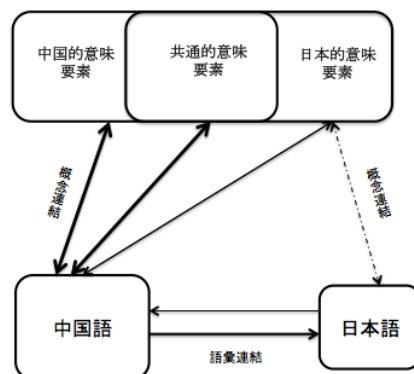


図4-7 JFLのメンタルレキシコンの構造形態

まず、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおいて、2言語の形態部門に含まれ

る音韻情報、文字情報が各言語個別の語彙システムに蓄えられる。意味部門に関わる意味情報には、それぞれの言語形式に対応する部分と 2 言語で共有される部分がある。JSL と JFL のメンタルレキシコンを図式化した図 4-6 と図 4-7 で示しているように、下の「中国語」と「日本語」と書かれたボックスは、音韻情報、文字情報など両言語の言語形式に関わる形態部門を表す。偏重バイリンガルである JSL と JFL のメンタルレキシコンには中国語の語彙数が学習言語とする日本語の語彙数より多いため、「中国語」のボックスをより大きく描く。そして、2 つの図で表しているように、言語形式に対応する意味要素は、文化的性質によって、中国語に対応する中国的意味要素、日本語に対応する日本の意味要素及び両言語で共通している共通的意思要素に分かれる。そして、上でも議論したように、バイリンガルにおける 2 言語情報の処理方略として、言語形式が意味要素と結びつく概念連結、及び両言語の言語形式間の結びつきを示す語彙連結、の 2 つがある。まず、言語形式間の結びつきを示す語彙連結に関して、中国語から日本語へのリンクが日本語から中国語へのリンクより強いことが 2 つの図で表される。それは、言語習得環境にかかわらず、日本語から中国語へのアクセスより中国語から日本語へのアクセスの方が結びつきやすいことを意味している。この点は、Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデルと逆になる。それは、中国語と日本語の、両言語のシステムが漢字という文字表記を持つことと関係していると考えられる。特に、中国人日本語学習者が日本語の語彙を学習する最初の段階では、すでに身につけた漢字表記が重要な手がかりである。日本語の語彙を知覚する際に、中国語のシステムにある漢字表記に依存して語彙処理していく。そのため、漢字表記がない日本語を中国語に翻訳する際に、その処理速度がかなり遅くなると推測できる。次に、言語形式と意味要素とのリンクを示す概念連結に関して、意味要素に含まれる文化的性質がその概念連結の強弱に強く影響している。図 4-6 と図 4-7 では、3 種類の意味要素と 2 言語の言語形式との連結の強弱を、点線及び実線の太さを変えた矢印を使って表している。具体的には、中国語の語彙システムに既存している意味要素について、母語獲得の段階では中国語の言語形式と確実に結びつくようになる。そのため、図 4-6 と図 4-7 において、中国的意味要素及び共通的意思要素と中国語との結びつきが強く、太い実線で表される。そして、第 2 言語習得の場合に、これらの意味要素がすでに中国語の語彙システムに定着しているため、それに対応する日本語の語彙が、中国語の言語形式を経由して学習される。しかしながら、日本で生活している JSL の場合には、日本語によって生活する経験を積み重ねることにより、共通的意思要素と日本語の言語形式との連結がだんだん強化される。日本語

での生活経験が足りない JFL の場合には、共通の意味要素が中国語の言語形式を経由してから、日本語にたどり着くと考えられる。そのため、図 4-6 では、共通の意味要素と日本語とのリンクを細い実線で表している、一方、図 4-7 では、この 2 つの部門の間はリンクしていない。また、JSL は日本で生活しているうちに、中国語の語彙システムに定着していない日本固有の意味要素を自分自身の言語経験によって学習する。そのため、図 4-6 では、日本語が日本の意味要素へ直接結びつくようになり、日本の意味要素と日本語が太い実線で結びつけられている。それに対して、JFL は身をもって日本の社会や文化を体験する機会が JSL より少ないので、日本の意味要素と日本語との結びつきが JSL より弱く、点線で表される。

以上、JSL と JFL の語彙記憶システムに関して、言語使用環境、意味情報に関わる文化的要素などの問題点を配慮しつつ、従来のモデルの枠を超えた新たなモデルを提案してきた。次に、翻訳課題と絵命名課題という 2 つ言語課題を用いて、この 2 つのモデルを検証していく。それと同時に、同モデルを通じて、バイリンガル話者の CS 使用現象を支える認知的仕組みを解説することを目指す。

2.2 調査

2.2.1 実験方法

本研究では、上の図 4-6 と図 4-7 で提示した中日偏重バイリンガルの語彙記憶モデルを心理言語学的手法で検証するために、日中バイリンガル 48 人²²を対象として、翻訳課題と絵命名課題という 2 つの検証実験をそれぞれ 2 種類ずつ実施した。翻訳課題では、一方の言語の単語を呈示し、もう一方の言語の単語へ口頭で翻訳してもらう。翻訳課題によって、2 言語間の語彙連結の実態を明らかにする。本実験では、中国語から日本語への翻訳（翻訳課題 I）と日本語から中国語への翻訳（翻訳課題 II）という 2 つの翻訳課題を実施した。翻訳課題 II を実施する際に、漢字の影響を避けるために、平仮名で日本語の単語を呈示した。絵命名課題では、絵を呈示し、その絵に対応する単語を口頭で言うってもらう。他方、絵命名課題では、2 言語システムにおける概念連結（意味要素と言語形式との結びつき）について考察する。今回の実験では、日本語で絵を命名する課題（絵命名課題 I）と中国語で絵を命名する課題（絵命名課題 II）という 2 種類で行った。

²² 本実験の調査協力者の基本情報は、前節で紹介した語彙近接性ランキング課題の調査グループに含まれる JSL グループと JFL グループとほとんど同じである。その中に、JSL 学習者が 30 人、JFL 学習者が 18 人含まれる。

2つの翻訳課題に使われた刺激語は合計120語で、課題ごとに60語ずつで構成される。翻訳課題Iと翻訳課題IIの刺激語は同じ使用範疇に属し、日常生活での使用頻度が近いペアである（例えば、翻訳課題I：車 VS 翻訳課題II：自転車）。また、翻訳課題に使われた120語（60ペア）の刺激語は文化的共通性の高低差によって、表4-14で示したように5つのカテゴリーに分けられる。

表4-14 翻訳課題に使われた刺激語の分類

カテゴリー	例
I. 共通の意味要素を表す語彙	パソコン、郵便局、タクシーなど
II. 中国文化の意味要素を表す語彙 (日本で使用頻度が高いもの)	餃子、マーボー豆腐など
III. 中国文化の意味要素を表す語彙 (日本で使用頻度が低いもの)	故宮、チャイナドレスなど
IV. 日本文化の意味要素を表す語彙 (中国で使用頻度が高いもの)	ラーメン、アニメなど
V. 日本文化の意味要素を表す語彙 (中国で使用頻度が低いもの)	おでん、パチンコなど

2つの絵命名課題に使われた刺激内容は、翻訳課題で使われた単語の代わりにその語を表す写真である。同じ単語を産出する際の翻訳と絵命名の反応時間の差を正確に知るため、絵命名課題Iに呈示された絵が翻訳課題Iの刺激語を表し、絵命名課題IIに呈示された刺激絵が翻訳課題IIの刺激語を表すようにする。2つの絵命名課題に使われた120枚の絵は、表4-15で示したように7つのグループに分けられる。表4-14と表4-15の違いは共通の意味要素の分類方法で、表4-15では、共通の意味要素を表す絵に特定の文化要素が入っているかどうかで、3つのカテゴリーに分けられる。

表4-15 絵命名課題に使われた刺激内容の分類

カテゴリー	例
I. 共通の意味要素を表す絵 (文化的要素を入れていない)	パソコン、扇風機の写真
II. 共通の意味要素を表す絵 (中国文化的要素を入れる)	中国の郵便局、中国の新聞の写真
III. 共通の意味要素を表す絵 (日本文化的要素を入れる)	日本のタクシー、日本の駅の写真
IV. 中国文化の意味要素を表す語彙 (日本で使用頻度が高いもの)	餃子、マーボー豆腐の写真
V. 中国文化の意味要素を表す語彙 (日本で使用頻度が低いもの)	故宮、チャイナドレスの写真
VI. 日本文化の意味要素を表す語彙 (中国で使用頻度が高いもの)	ラーメン、アニメの写真
VII. 日本文化の意味要素を表す語彙 (中国で使用頻度が低いもの)	おでん、パチンコの写真

また、絵命名課題Iに呈示された絵が翻訳課題Iの刺激語を表すものであるため、実験協力者に両課題を同時に実施すると、反応時間の正確さに大きな影響を与える可能性が高い。これを避けるために、1人の実験協力者に4つの実験課題を2回に分けて実施する。1回目には、翻訳課題Iと絵命名課題IIを実施し、1ヶ月程後に、同じ実験協力者に翻訳課題IIと絵命名課題Iを行う。実験協力者の反応時間を正確に計測するために、心理学実験

でよく使われているソフトウェア E-Prime2.0 を使用する。実験協力者が、パソコンの画面に呈示された単語（または写真）を口頭で翻訳（または命名）すると同時にキーボード上のいずれのボタンを押すと、2000ms のブラック画面に入る。2000ms のブラック画面が自動的に終わってから、新しい刺激語がパソコン画面に呈示され、新しい刺激語の翻訳（あるいは命名）に入る。実験協力者を実験の操作手順に馴染ませるために、本番の実験に入る前に、5 個の刺激語で練習させる。刺激語がパソコンの画面に出てから消えるまでの時間は、実験協力者の反応時間としてソフトウェアで記録される。また、実験協力者の反応状況を把握するために、IC レコーダーで実験の全過程を録音する。

2.2.2 仮説と分析方法

図 4-6 及び図 4-7 で示した JSL と JFL の語彙記憶モデルに基づき、2 回の検証実験の結果について以下の 6 つの仮説を立てる。

仮説 1. 2 つの翻訳課題における実験協力者の反応時間に関して、両グループとも翻訳課題 II（日⇨中）より翻訳課題 I（中⇨日）の方が反応時間が速い。

仮説 2. 2 つの絵命名課題における実験協力者の反応時間について、両グループとも絵命名課題 I（絵⇨日）より絵命名課題 II（絵⇨中）の方が反応時間が速い。

仮説 3. 中国語を産出する（日⇨中、絵⇨中）課題における実験協力者の反応時間について、両グループとも翻訳課題 II（日⇨中）より絵命名課題 II（絵⇨中）の方が反応時間が速い。

仮説 4. 日本語を産出する（中⇨日、絵⇨日）課題における JSL の反応時間について、刺激内容が共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す場合に、翻訳課題 I（中⇨日）の方は反応時間が速い。一方、刺激内容が日本文化の意味要素を表す場合に、絵命名課題 I（絵⇨日）の方が翻訳課題 I（中⇨日）より反応時間が速い。

仮説 5. 日本語を産出する（中⇨日、絵⇨日）課題における JFL の反応時間について、刺激内容のカテゴリーにかかわらず、絵命名課題 I（絵⇨日）より翻訳課題 I（中⇨日）の方は反応時間が速い。

仮説 6. 日本語を産出する（中⇨日、絵⇨日）課題における両グループの反応時間について、JFL より JSL の方が反応時間が速い。

以上の 6 つの仮説を検証するために、各実験課題の刺激内容に対する 2 つの調査グループの実験協力者の反応時間について統計的分析を行う。統計的分析を行う前に、実験内容

を録音したデータを聞くことによって、個々の刺激内容に対する反応の仕方を確認しながら、分析対象にならないものを除外する（例えば、答えられないものや答え間違っただのものなど）。そして、各課題の反応時間の平均値を比較する際に、その平均値の差が有意性を持っているかどうかを検証するために、対応する t 検定（両側）を行う。

2.3 分析結果

上では中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンの構造形態に関するモデルを想定してみた。そして、この 2 つのモデルに基づき、翻訳課題と絵命名課題における 2 つの調査グループの実験協力者の反応時間に関する仮説を立てた。ここでは、これらの仮説を検証するために、各実験課題におけるそれぞれの調査グループ（JSL と JFL）の反応時間について分析する。また、分析結果を考察することによって、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおける各部門にある言語情報間の結びつき方について検討する。

2.3.1 JSL の反応時間に関する分析結果

ここでは、まず、各実験課題における JSL の反応時間に関する分析結果を示していく。そして、表 4-14 と表 4-15 で挙げた刺激内容のカテゴリーに基づき、JSL の各課題の反応時間に関する比較分析を行う。

2.3.1.1 各実験課題における JSL の反応時間

各実験課題における JSL の反応時間の記述統計は以下の通り（表 4-16）である。

表 4-16 各課題の反応時間の平均値・最小値・最大値と標準偏差（JSL）

実験課題	度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
翻訳課題 I（中⇨日）	28	2166.43	1584	3060	357.91
翻訳課題 II（日⇨中）	28	3668.96	2338	7356	975.42
絵命名課題 I（絵⇨日）	28	2518.89	1841	3202	379.36
絵命名課題 II（絵⇨中）	28	2056.79	1572	2503	288.73

度数は記述統計の対象とする JSL の人数を指している。ここでは、28 人の反応時間のデータを対象として、記述統計を行った。なお、30 人の JSL の中で、2 人がパイロット調査の対象であるため、本調査のデータ分析に含まれていない。まず、表 4-16 では、3 つの代表値（平均値、最小値、最大値）から JSL の各実験課題の反応時間を比較している。いずれの代表値においても、JSL の反応時間が短いものから長いものまで、絵命名課題 II、翻訳課題 I、絵命名課題 I、翻訳課題 II の順になる。表 4-16 における標準偏差は、各課題における JSL

の反応時間のばらつきを示している。また、表4-16では、絵命名課題Ⅱの標準偏差が最も低く、JSLの反応時間のばらつきが最も小さいことがわかる。他方、翻訳課題Ⅱの標準偏差が他の3つの課題より大幅に上回り、翻訳課題ⅡにおけるJSLの反応時間が他の3つの課題より大きくばらついていることがわかる。このことに関して、JSLは同じレベルのL1（中国語）の言語能力を持つため、中国語で絵を命名することにかかる時間には大きな差異が見られない。それに対し、JSLが日本語から中国語へ翻訳する際に、L2（日本語）の言語能力の個人差からの影響を受けやすいため、翻訳課題Ⅱの反応時間の散らばる範囲が大きくなると考えられる。

各課題の反応時間を比較した表4-16の数値結果の差が有意かどうかを検証するために、対応のあるt検定（両側）を行った。t検定で検討した結果は表4-17の通りである。表4-17に示すように、翻訳課題Ⅰ（中⇨日）と絵命名課題Ⅱ（絵⇨中）の2つの課題の反応時間の平均値の差（ $t(27) = 1.665$, $p = 0.108 > 0.05$ ）に有意性が見られない以外は、すべての比較ペアの平均値の差が5%水準で高い有意性を持つことが分かった。

表4-17 各実験課題の反応時間を対応のあるt検定で検討した結果（JSL）

		t 値	自由度	有意確率p (両側)
ペア 1	翻訳課題Ⅰ・翻訳課題Ⅱ	-7.891	27	0.000
ペア 2	翻訳課題Ⅰ・絵命名課題Ⅰ	-4.255	27	0.000
ペア 3	翻訳課題Ⅰ・絵命名課題Ⅱ	1.665	27	0.108
ペア 4	翻訳課題Ⅱ・絵命名課題Ⅰ	7.539	27	0.000
ペア 5	翻訳課題Ⅱ・絵命名課題Ⅱ	8.533	27	0.000
ペア 6	絵命名課題Ⅰ・絵命名課題Ⅱ	5.897	27	0.000

以上の分析結果から、「翻訳課題Ⅱ（日⇨中）より翻訳課題Ⅰ（中⇨日）の方が反応時間が速い」、「絵命名課題Ⅰ（絵⇨日）より絵命名課題Ⅱ（絵⇨中）の方が反応時間が速い」及び「翻訳課題Ⅱ（日⇨中）より絵命名課題Ⅱ（絵⇨中）の方が反応時間が速い」という3つの仮説が、JSLの反応時間に関する統計結果によって検証された。

2.3.1.2 刺激内容のカテゴリーにおける JSL の反応時間

以下では、表 4-14 と表 4-15 で挙げた刺激内容のカテゴリーに基づいて、各実験課題の反応時間を分析していく。図 4-8 はカテゴリー別に、2つの翻訳課題における JSL の反応時間を比較したものである。図 4-8 から見ると、いずれのカテゴリーでも、翻訳課題Ⅱより翻訳課題Ⅰの方が JSL の反応時間が速いことが分かった。そして、同一課題におけるカテゴリー別の反応時間を比較すると、いずれの課題でも、共通の意味要素を翻訳することにかかる時間が最も短い。続いて、日本文化の意味要素、中国文化の意味要素の順序であ

る。また、文化的特性を持っている意味要素を表す 4 つのカテゴリーで、両国の文化交流によって互いの語彙システムに定着したものより定着しないものの方が反応時間が長いことが両課題でも見られた。

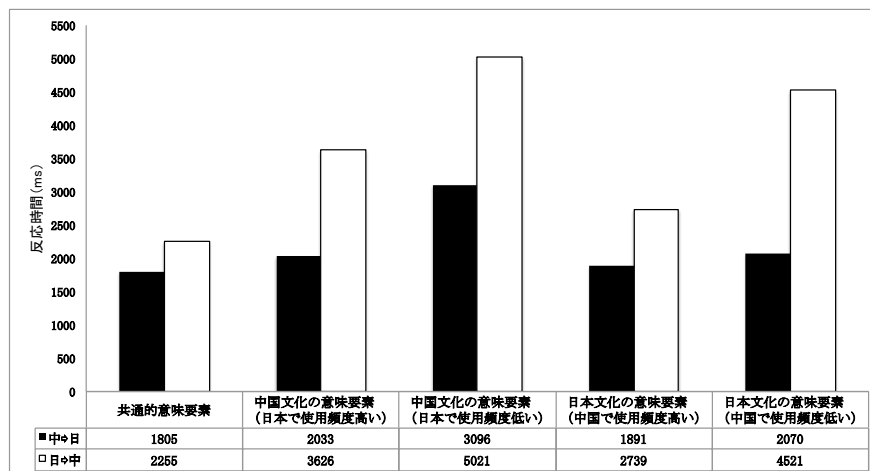


図 4-8 2 つの翻訳課題の反応時間の比較 (JSL)

次に、2 つの絵命名課題における、各カテゴリーの反応時間を比較した図 4-9 によると、両課題でも、文化要素が入らない共通の意味要素を表す絵に対するネーミングの反応時間が最も速い。そして、絵命名課題 I (絵⇔日) では、日本文化の意味要素より中国文化の意味要素を命名する方が反応時間が長い。他方、絵命名課題 II (絵⇔中) では、日本文化の意味要素を命名する方が反応時間が長い。また、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す 5 つのカテゴリーでは、中国語で絵を命名することにかかる時間がより短い一方で、日本文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリーでは、日本語で命名する方が反応時間が速い。

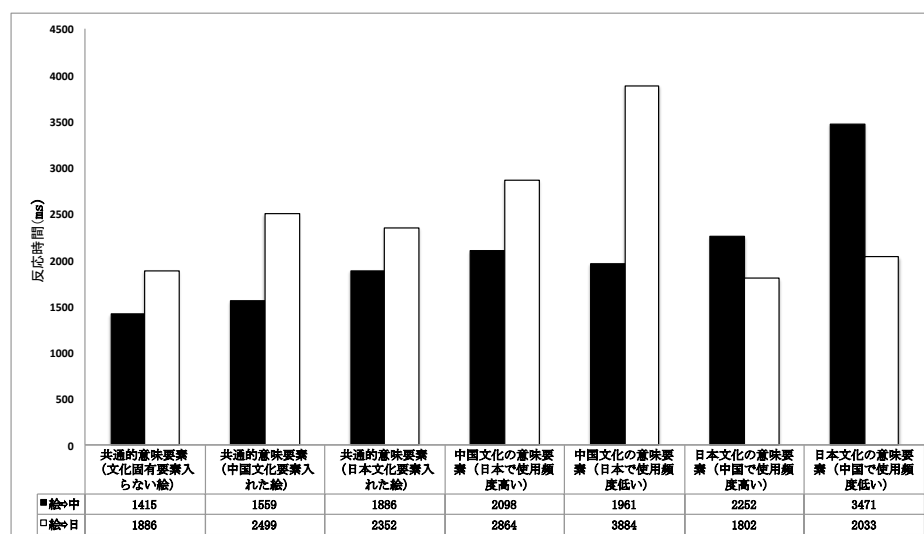


図 4-9 2 つの絵命名課題の反応時間の比較 (JSL)

続いて、中国語を産出する 2 つの課題 (翻訳課題 II と絵命名課題 II) における JSL の反

応時間を示している図 4-10 を見ていく。図 4-10 からわかるように、いずれのカテゴリにも、翻訳課題 II（日⇨中）より絵命名課題 II（絵⇨中）の方は反応時間が速い。特に、中国文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリでは、両課題の反応時間が最も大きく離れていることが窺える。

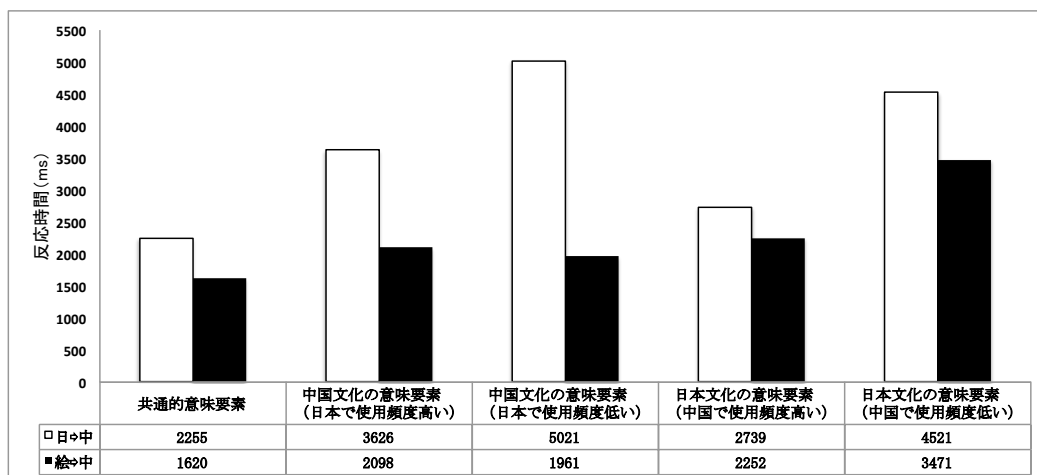


図 4-10 中国語産出課題の反応時間の比較 (JSL)

次に、以下の図 4-11 では、日本語を産出する翻訳課題 I と絵命名課題 I における JSL の反応時間を刺激内容のカテゴリ別に比較する。

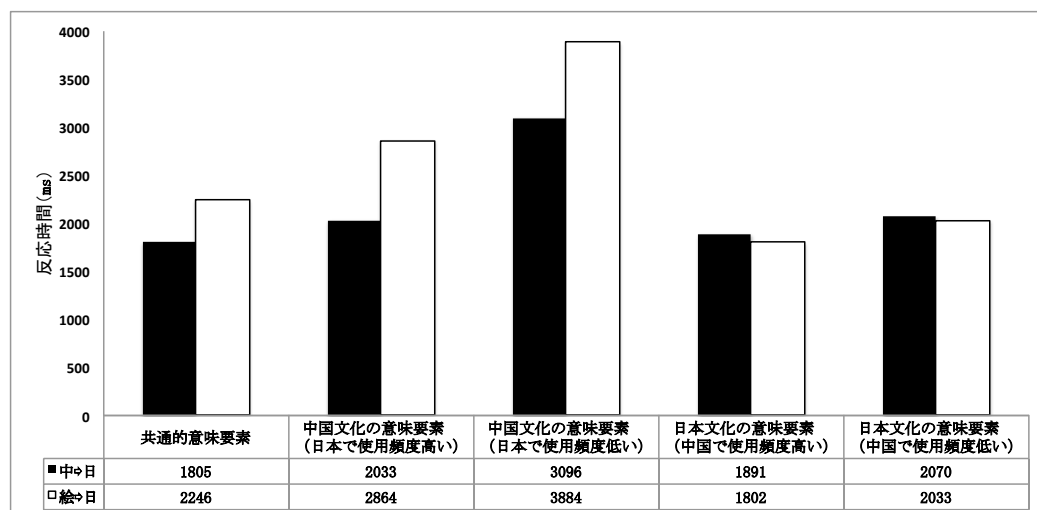


図 4-11 日本語産出課題の反応時間の比較 (JSL)

図 4-11 で示されるように、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す 3 つのカテゴリでは、翻訳課題 I（中⇨日）の方は反応時間が速い。それに対して、日本文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリでは、絵命名課題 I（絵⇨日）の方が反応時間が速いことがわかる。この結果は、2.2.2 で提示した、日本語を産出する（中⇨日、絵⇨日）両課題における JSL の反応時間に関する仮説 4「JSL が日本語を産出する（中⇨日、絵⇨日）際には、刺激内容が共

通的意义要素と中国文化の意义要素を表す場合に、翻訳課題 I の方が反応時間が速い。一方、刺激内容が日本文化の意义要素を表す場合に、絵命名課題 I（絵⇨日）のほうが翻訳課題 I（中⇨日）より反応時間が速い。」という内容を支持することになる。また、同一課題における各カテゴリーの反応時間を比較すると、いずれの課題でも、日本文化の意义要素を表す 2 つのカテゴリーの方が中国文化の意义要素の反応時間より短いことがわかる。このことから、日本文化の意义要素は共通的意义要素、中国文化の意义要素より日本語で産出されやすいと言える。

最後に、絵に含まれた文化的要素が反応時間に与える影響を示している図 4-12 によると、いずれの課題でも、文化固有的要素を含まない絵を命名することにかかる時間が最も短い。絵命名課題 II（絵⇨中）において、中国文化的要素を入れた共通的意义要素の絵を命名する時間は日本文化要素を入れた絵を命名することにかかる時間を上回る。一方で、絵命名課題 I（絵⇨日）では、日本文化的要素を入れた共通的意义要素を表す絵のネーミング時間が、より短い。即ち、中国文化的要素を入れた絵を中国語で命名する方が速い、日本文化要素を入れた絵を日本語で命名する方が速いという結果が見られた。この結果から、絵命名課題の反応時間とその絵に含まれた文化的要素との間の関係性が示された。

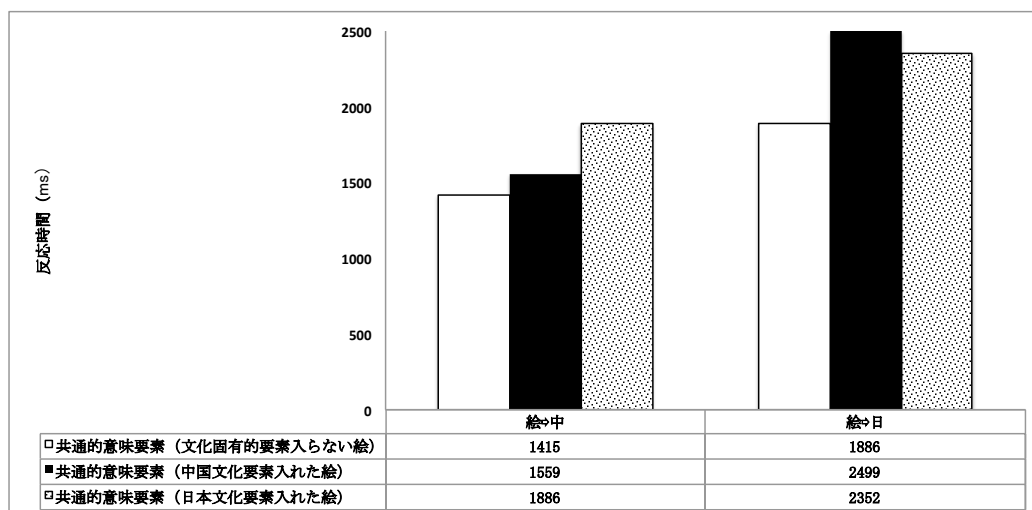


図 4-12 絵に含まれた文化的要素が反応時間に与える影響 (JSL)

2.3.2 JFL の反応時間に関する分析結果

次に、今回の実験調査における JFL の反応時間の分析結果について見ていく。2.3.2.1 では、各実験課題における JFL の反応時間に関する総合的な比較分析を行う。そして、2.3.2.2 では、各実験課題に含まれる刺激内容のカテゴリー別に、JFL の反応時間について考察し

ていく。

2.3.2.1 各実験課題における JFL の反応時間

まず、各実験課題における JFL の反応時間について、18 人の実験協力者のデータをもとに記述統計を行った。その結果は以下の表 4-18 で示している。

表 4-18 各課題の反応時間の平均値・最小値・最大値と標準偏差 (JFL)

実験課題	度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
翻訳課題 I (中⇨日)	18	2479	1607	3900	889.56
翻訳課題 II (日⇨中)	18	3784	3184	4538	410.20
絵命名課題 I (絵⇨日)	18	3092	2488	3602	506.09
絵命名課題 II (絵⇨中)	18	2218	1721	3151	358.89

まず、表 4-18 では、各実験課題における JFL の反応時間の平均値を表示した。その結果、JFL の反応時間の平均値に関して、中国語で絵を命名する絵命名課題 II の反応時間が最も短く、その次に、翻訳課題 I、絵命名課題 I、翻訳課題 II という順序で並んでいる。そして、反応時間のばらつきを表示する標準偏差に関しては、絵命名課題 II (絵⇨中) の標準偏差が最も低く、中国語で絵を命名する課題における JFL の反応時間のばらつきの範囲が最も小さいことを示している。それに対して、翻訳課題 I (中⇨日) と絵命名課題 I (絵⇨日) という 2 つの日本語の産出課題の標準偏差は大きな値を示す。この結果から、日本語を産出する翻訳課題 I と絵命名課題 I において、JFL の反応時間に大きなばらつきがあることがわかった。その理由として、本実験に参加する JFL には日本語能力の個人差があるため、翻訳課題 I と絵命名課題 I という両課題の反応時間に大きなばらつきが現れると考えられる。また、このことから、JFL が日本語を産出する際に、彼らの反応速度が日本語能力のレベルによって影響されやすいと思われる。

次に、各実験課題における JFL の反応時間の数値結果の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5% で t 検定 (両側) を行った。その結果が以下の表 4-19 である。表 4-19 が示すように、JFL の反応時間に関して 4 つの実験課題の数値結果を互いに比べて、6 つの比較ペアで t 検定を行った。その結果、翻訳課題 I と絵命名課題 I ($p=0.243>0.05$)、翻訳課題 I と絵命名課題 II ($p=0.467>0.05$) という 2 つの比較ペアでは、有意な差がないことがわかった。その他の実験課題の比較ペアでは、有意確率が 0.05 の有意水準より低く、有意差が見られた。

表 4-19 各課題の反応時間を対応のある t 検定で検討した結果 (JFL)

		t 値	自由度	有意確率p (両側)
ペア 1	翻訳課題 I - 翻訳課題 II	-3.712	17	0.010
ペア 2	翻訳課題 I - 絵命名課題 I	-1.295	17	0.243
ペア 3	翻訳課題 I - 絵命名課題 II	0.776	17	0.467
ペア 4	翻訳課題 II - 絵命名課題 I	5.255	17	0.001
ペア 5	翻訳課題 II - 絵命名課題 II	6.579	17	0.001
ペア 6	絵命名課題 I - 絵命名課題 II	3.243	17	0.018

以上の各実験課題におけるJFLの反応時間に関する記述統計の結果から、「翻訳課題 II (日⇔中) より翻訳課題 I (中⇔日) の方が反応時間が速い」、「絵命名課題 I (絵⇔日) より絵命名課題 II (絵⇔中) の方が反応時間が速い」及び「翻訳課題 II (日⇔中) より絵命名課題 II (絵⇔中) の方が反応時間が速い」という3つの仮説がJFLの実験データでも支持される、ということがわかった。

2.3.2.2 刺激内容のカテゴリーにおける JFL の反応時間

次に、表 4-14 と表 4-15 で提示した刺激内容のカテゴリーをもとに、各実験課題における JFL の反応時間に関する分析結果をみていく。まず、2つの翻訳課題における JFL の反応時間について、提示語彙のカテゴリー別に比較する図 4-13 によると、いずれのカテゴリーでも、翻訳課題 II (日⇔中) より翻訳課題 I (中⇔日) の方が反応時間が短いことが見られる。翻訳課題 I の反応時間については、中国で使用頻度が高い日本文化的意味要素が最も短い。次いで、反応時間が短いから長いまで、「日本で使用頻度が高い中国文化の意味要素」、「共通の意味要素」、「中国で使用頻度が低い日本文化的意味要素」、「日本で使用頻度が低い中国文化の意味要素」というような順番で並んでいる。翻訳課題 II において、反応時間が最も短いカテゴリーは共通の意味要素であり、その次に、反応時間が短いから長いまでの順番として、「中国で使用頻度が高い日本文化的意味要素」、「日本で使用頻度が低い中国文化的意味要素」、「日本で使用頻度が高い中国文化的意味要素」、「中国で使用頻度が低い日本文化的意味要素」である。特に、「日本で使用頻度が高い中国文化の意味要素」及び「中国で使用頻度が低い日本文化的意味要素」という 2つのカテゴリーにおいて、2つの翻訳課題の反応時間に大きな差が見られる。

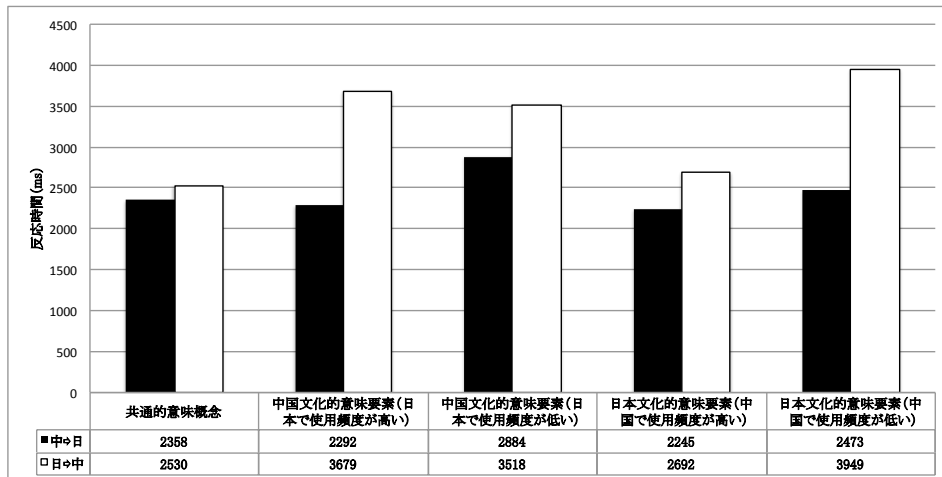


図 4-13 2つの翻訳課題の反応時間の比較 (JFL)

次に、2つの絵命名課題における各刺激内容のカテゴリーの反応時間を比較した図 4-14 を見ていく。

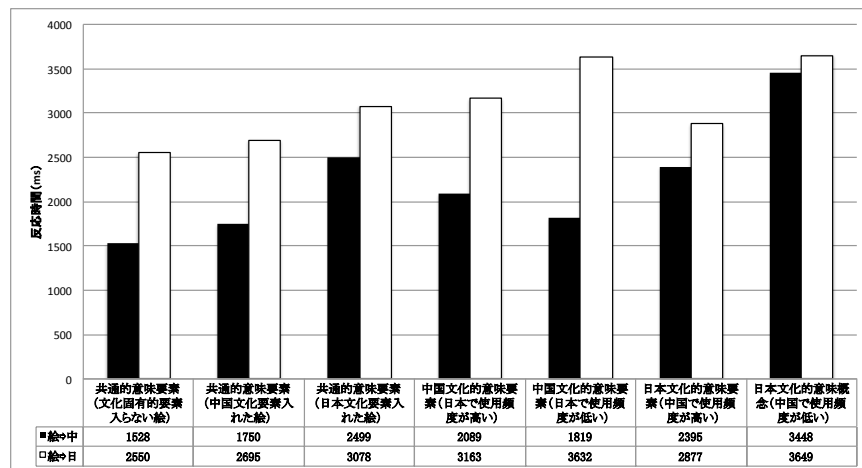


図 4-14 2つの絵命名課題の反応時間の比較 (JFL)

図 4-14 から、いずれのカテゴリーでも、絵命名課題 I (絵⇨中) の反応時間の方が絵命名課題 II (絵⇨日) より短いことがわかる。また、いずれの絵命名課題でも、固有文化の要素が入らない共通の意味要素を表す絵に対するネーミングの反応時間が最も速い。そして、中国語で絵を命名する課題 I では、中国で使用頻度が低い日本文化的意味要素の絵を命名することに最も時間がかかり、次いで、日本文化的要素を入れた共通の意味要素を表す絵に対するネーミングの反応時間が第 2 位になる。それに対して、日本語で絵を命名する課題 II においても、課題 I と同様、中国で使用頻度が低い日本文化的意味要素に対するネーミングの時間が最も長い。次いで、中国文化の意味要素を表す 2つのカテゴリーの反応時間が第 2 位と第 3 位になる。また、2つの絵命名課題における各カテゴリーの反応時間の差

異を見てみると、日本文化の意味要素に関わる 2 つのカテゴリーより、中国文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリーの方が両課題の反応時間に大きな差が見られた。その理由は、中国文化の意味要素が両言語の言語形式との結びつきに関して、中国語より日本語との結びつきの方がかなり弱いからと考えられる。

次に、中国語を産出する両課題に注目し、日本語から中国語へ翻訳する課題と中国語で絵を命名する課題にかかる反応時間について、各カテゴリーの差異を分析していく。翻訳課題Ⅱと絵命名課題Ⅱにおける各カテゴリーの反応時間を比較した図 4-15 から、いずれのカテゴリーでも、中国語で絵を命名する課題の方が反応時間が速い。特に、中国文化的意味要素に関わる 2 つのカテゴリーでは、両課題の反応時間が大幅に離れていることがわかった。この結果から、中国文化の意味要素と中国語の言語形式の概念連結は、両言語間の語彙連結よりはるかに強いと考えられる。

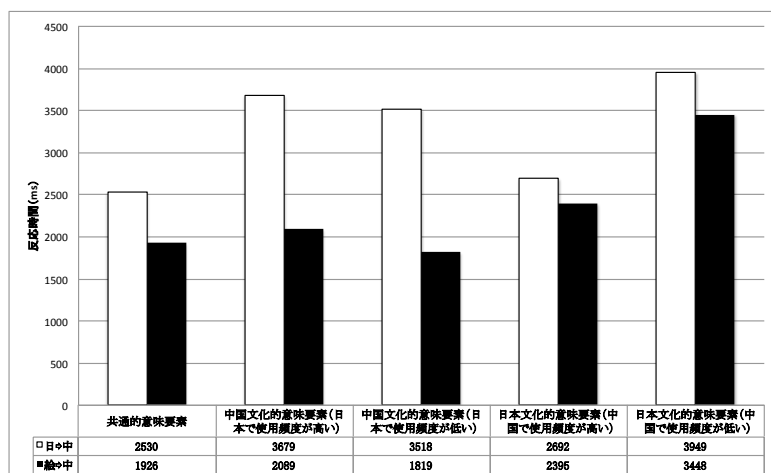


図 4-15 中国語産出課題の反応時間の比較 (JFL)

次に、日本語産出課題（翻訳課題Ⅰと絵命名課題Ⅰ）における JFL の反応時間を比較した結果について見ていく。日本語を産出する 2 つの課題の反応時間に関して、刺激内容のカテゴリー別に比較した図 4-16 によると、すべてのカテゴリーにおいて、日本語で絵を命名する課題の方が反応時間が長い。そして、特に注目したいのは、いずれの課題においても、中国で使用頻度が高い日本文化的意味要素というカテゴリーの方が中国文化的意味要素を表すカテゴリーより反応時間が短い、ということである。それは、JFL の場合、他の意味要素のカテゴリーと比べて、中国で使用頻度が高い日本文化的意味要素の方が、日本語の言語形式との結びつきがより強いことを示している。また、以上の結果により、「日本語を産出する課題における JFL の反応時間に関して、絵命名課題Ⅰより翻訳課題Ⅰの方が反応時間が早い」という仮説 5 が検証された。

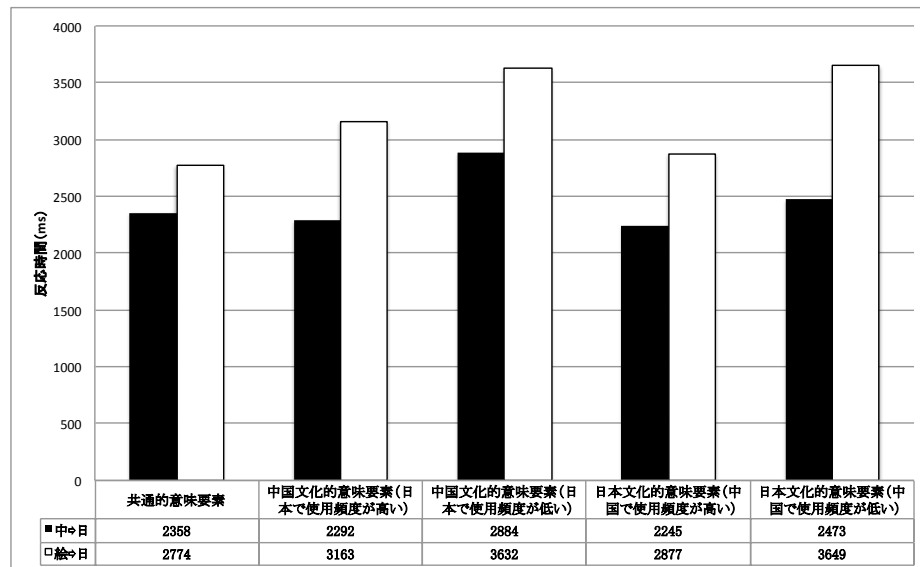


図 4-16 日本語産出課題の反応時間の比較 (JFL)

絵に入れた文化要素が JFL の反応時間に与える影響を考察するために、2 つの絵命名課題における共通の意味要素に含まれる 3 つのカテゴリーの反応時間を比較した。図 4-17 によると、いずれの課題でも、特定の文化要素が入らない絵を命名する時間が最も短い。また、2 つの絵命名課題で使用する言語に関わらず、中国文化要素を入れた絵を命名する方が日本文化的要素を入れた絵を命名することより反応時間が短い。この結果から、2 つの絵命名課題における JFL の反応時間の順序は、絵に含まれた文化的要素の種類によって影響されていないことがわかった。

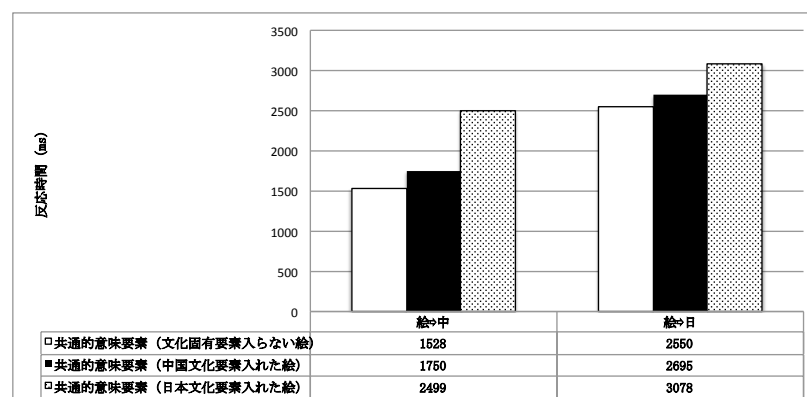


図 4-17 絵に入れた文化要素が反応時間に与える影響 (JFL)

2.3.3 各実験課題における JSL と JFL の反応時間に関する比較分析

次に、上で述べてきた各実験課題における JSL と JFL の反応時間に関する分析結果から、両グループの共通点と相違点を考察していく。

2.3.3.1 両グループの分析結果にみられる共通点

まず、上で行った両グループの実験データの分析から、各実験課題における JSL と JFL の反応時間に関して、次のような 3 つの共通点が見られる。

(1) 翻訳課題における 2 つの調査グループの反応時間について、翻訳課題Ⅱ（日⇔中）より翻訳課題Ⅰ（中⇔日）の方が反応時間が速いということがグループにおいて見られた。

(2) 中国語を産出する 2 つの課題（翻訳課題Ⅱと絵命名課題Ⅱ）におけるそれぞれの調査グループの反応時間に関する図 4-9 と図 4-14 で示したように、いずれの 카테고리でも、日本語から中国語への翻訳より、中国語で絵を命名する課題の方が反応時間が速い、という結果は両グループで共通した。

(3) そして、各実験課題における刺激内容のカテゴリ別に両グループの反応時間を比較した結果、いずれの課題でも、高い文化的共通性を持つ刺激内容の方が、文化的共通性が低いものより反応時間が速い、という点について両グループで共通した。

2.3.3.2 両グループの分析結果にみられる相違点

次に、各実験課題の反応時間に関する分析結果をもとに、言語習得環境が異なる JSL と JFL の間にはどのような違いがあるのか、について考察していく。

まず、2 つの絵命名課題の反応時間を刺激内容のカテゴリ別に比較した結果、JSL と JFL の間に幾つかの差異が見られた。JSL の場合には、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す 5 つのカテゴリで絵命名課題Ⅱ（絵⇔中）の方が反応時間が速く、一方、日本文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリで絵命名課題Ⅰ（絵⇔日）の方が反応時間が速い。それに対し、JFL の分析結果によると、いずれのカテゴリでも、絵命名課題Ⅰより絵命名課題Ⅱの方が反応時間が速い。このような分析結果の違いによると、言語形式と意味要素との結びつきを示す絵命名課題において、意味要素に含まれた文化的性質は JSL の反応時間に強く影響を与え、一方で、JFL の反応時間にはその影響がないことがわかった。

そして、2 つの絵命名課題において、絵に入れた文化要素が実験協力者の反応時間に与える影響に関して、両グループの間で違いが見られた。JSL に対する分析から、中国文化要素を入れた絵を命名する際に、中国語で命名する方が反応が速く、一方で、日本文化要素を入れた絵を命名する際に、日本語で命名する方が速いという反対の結果が見られた。それに対して、JFL の分析結果では、絵命名課題の使用言語にかかわらず、いずれの課題でも中国文化要素を入れた共通の意味要素を命名する方が速かった。このような比較分析の

結果から、絵命名課題において、刺激内容に入れた日本文化要素が、JSL の日本語で絵を命名する反応を促すのに対して、JFL の命名反応では、その促進効果がないと考えられる。

次に、日本語産出課題（翻訳課題 I と絵命名課題 I）における JSL と JFL の反応時間に焦点を当て、両グループの相違点を見ていく。まず、それぞれの調査グループの反応時間を刺激内容のカテゴリー別に比較した結果から、以下のような相違点が観察される。JFL の場合、刺激内容のいずれのカテゴリーでも、絵命名課題 I（絵⇔日）より翻訳課題 I（中⇔日）の方が反応時間が速い。それに対して、JSL が日本語の産出課題をする際に、日本文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリーでは、日本語で絵を命名の方が反応が速い。このことから、日本文化の意味要素と日本語の言語形式との概念連結に関して、JFL と比べて JSL の方がその概念連結の結びつきがより強いことがわかった。そのため、JFL より日本で生活している JSL の方が、日本語で日本文化の意味要素を産出しやすいと考えられる。

また、日本語産出課題に見られる両グループの相違点について、同一課題における JSL と JFL の反応時間を比較していく。まず、翻訳課題 I（中⇔日）における刺激内容のカテゴリー別に両グループの反応時間を比較した結果が、図 4-18 によって表示される。

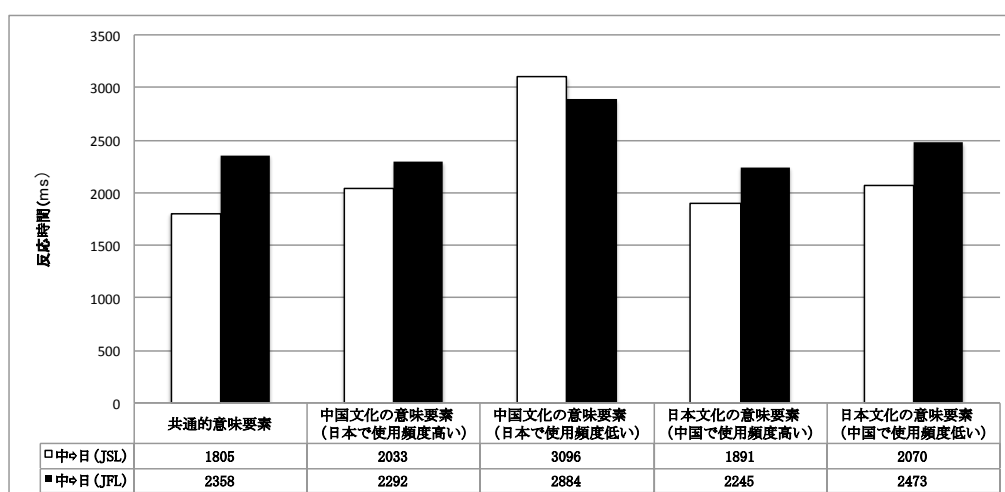


図 4-18 翻訳課題 I における両グループの反応時間の比較

図 4-18 を見て分かるように、日本で使用頻度が低い中国文化の意味要素というカテゴリー以外の、他の 4 つのカテゴリーでは、JSL の反応時間が JFL より短い²³。また、絵命名課題 I（絵⇔日）における両グループの反応時間を比較した図 4-19 によると、日本で使用頻度が低い中国文化の意味要素を除き、他のいずれのカテゴリーでも、JFL より JSL の方

²³ 日本で使用頻度が低い中国文化の意味要素を日本語へ翻訳、命名する際に、JFL の正答率が低い。このことが、このカテゴリーの反応時間の平均値に強く影響する。

が反応時間が早い。特に、日本文化の意味要素を表す 2 つのカテゴリにおいて、両グループの反応時間には顕著な差が見られ、JSL 学習者の反応速度が JFL より遥かに上回ったことがわかる。これは、中国で日本語を学習する JFL と比べて、日本で生活している JSL の方が、日本文化の意味要素と接触する経験が多いからと考えられる。

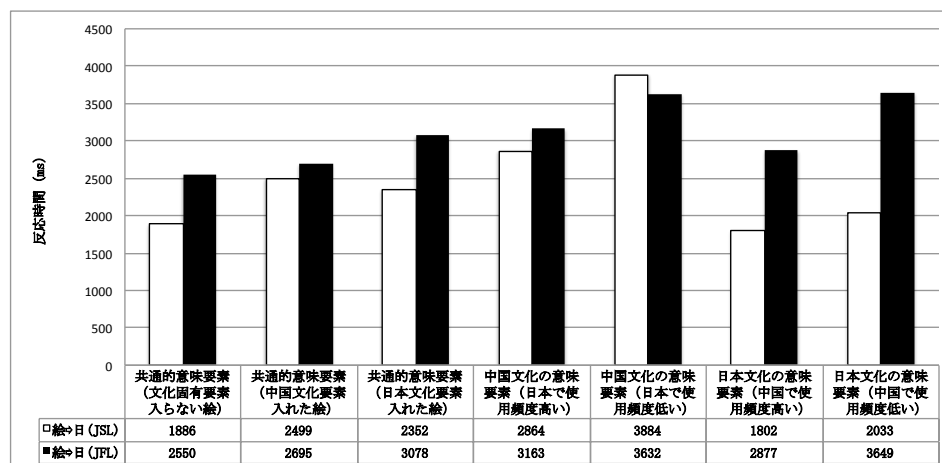


図 4-19 絵命名課題 I における両グループの反応時間の比較

2.4 考察

本項では、以上で紹介した実験結果を踏まえて、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおいて、2 言語の形態部門と意味部門に含まれた言語要素の結びつき方について考察する。そして、図 4-6 と図 4-7 で示した JSL と JFL の語彙記憶モデルを実証的に検討することにより、彼らの中国語基盤会話の語彙産出モデルを導き出していく。また、心理言語学の観点を取り入れて、絵に含まれた視覚的情報が語彙の産出に与える影響を考察する。そして最後に、これらの議論に基づいて、中日偏重バイリンガルの CS 発話に現れた特徴に関わる心理言語学的原因を探る。

2.4.1 2 言語処理における各言語要素の結びつき方

まず、中日偏重バイリンガルの語彙記憶モデルについて、2.3 で行った実験データの分析から、次の 6 つの示唆が得られる。

(1) まず、日本語から中国語への翻訳より中国語から日本語への翻訳の方が反応時間が短いことが、JSL と JFL の、両グループの分析結果で観察された。この 2 つの翻訳課題を比較した結果から、両言語の言語形式間の連結において、中国語の形式から日本語の形式へのつながりが、反対方向の結びつきより強いことが示唆される。これは JSL と JFL の双方

で共通するところである。この点は、Kroll & Stewart (1994) の語彙処理モデルと異なっている。その原因は、漢字に頼って言語処理する中国人日本語学習者にとって、ひらがなとカタカナから単語を弁別するのは難しいからと推察される。

(2) 次に、中国語を産出する両課題の反応時間の比較から、両グループに共通した結果として、中国語で絵を命名する時間が日本語から中国語へ翻訳する時間より短い、ことがわかった。この結果から、日本語学習者の言語習得環境にかかわらず、JSL と JFL が中国語を産出する際に、両言語間の語彙連結より概念連結の方が結びつきが強いと言える。

(3) いずれの実験課題でも、文化的共通性が高い刺激内容が、文化的異質性を持つ刺激内容より反応時間が速い、という分析結果が両グループで共通した。このことから、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおいて、言語形式間の語彙連結であれ、概念連結であれ、言語要素間の結びつきの強弱が意味要素の文化的性質によって影響されることがわかった。

(4) 2つの絵命名課題における JSL と JFL の反応時間に関して、刺激内容のカテゴリ別に比較した結果、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す絵を、日本語より中国語で命名する方が速いことが両グループで観察された。このことから、実験協力者の言語習得環境にかかわらず、共通の意味要素と中国文化の意味要素は中国語の言語形式へアクセスしやすいと考えられる。一方、日本文化の意味要素を表す刺激内容を命名する際に、JSL の場合では日本語で命名する方が速く、JFL の場合では中国語での反応時間の方が速いという相違点が、調査グループ間で見られた。この比較分析の結果から、JSL のメンタルレキシコンでは、日本文化の意味要素が日本語の言語形式へアクセスしやすいことがわかった。それに対して、JFL の場合には、意味要素の文化的性質にかかわらず、すべての意味要素は中国語の言語形式へアクセスしやすいと考えられる。

(5) 日本語産出課題（翻訳課題 I と絵命名課題 I）における両グループの反応時間を比較した結果、いずれの課題でも、JFL より JSL の方が反応時間が速かった。この結果から、日本語の産出が日本語学習者の言語習得環境によって強く影響されることがわかった。即ち、日本語の言語形式が意味要素との概念連結であれ、中国語の言語形式との語彙連結であれ、JFL と比較して、JSL の方がより強い連結関係を持つと考えられる。これは、JFL と比べて、JSL の方が日本語を産出しやすい理由になると考えられる。

(6) また、JSL の反応時間について翻訳課題 I と絵命名課題 I を比較した結果、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す刺激内容では、中国語から日本語への翻訳の方が反応

時間が速い。それに対して、日本文化の意味要素を表す内容が呈示されると、日本語で絵を命名する課題の方が反応時間が短いことがわかった。このような日本語の産出課題に関する分析結果から、刺激内容の文化的性質が JSL の日本語産出に強い影響を与えると考えられる。共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す内容は、中国語の言語形式を経由して、日本語の言語形式に辿り着く。つまり、日本語で共通の意味要素と中国文化の意味要素を表出する際には、両言語間の語彙連結という処理経路に頼って言語処理されることになる。それに対して、日本文化の意味要素に関わる内容を日本語で産出する際には、両言語間の語彙連結より概念連結の方が結びつきが強い。そのため、日本文化の意味要素を表す内容が、中国語の言語システムを経由せずに、直接日本語の言語形式にアクセスするようになる。しかしながら、JFL の反応時間を分析した結果、刺激内容に含まれた文化的性質にかかわらず、すべての意味要素において、中国語から日本語へ翻訳する課題の方が反応時間が速かった。このことから、JFL が日本語を産出する際に、意味要素の文化的性質にかかわらず、その意味要素は中国語の言語形式を経由して日本語の言語形式へアクセスすると言える。つまり、JFL のメンタルレキシコンでは、日本語の言語形式と意味要素との結びつきが両言語間の語彙の結びつきより弱いと考えられる。

上の中日偏重バイリンガルの言語処理経路に関する検討を踏まえ、中日偏重バイリンガルの中国語基盤会話における両言語の語彙を産出するプロセスを図式化すると、次のようになる（図 4-20 と図 4-21）。

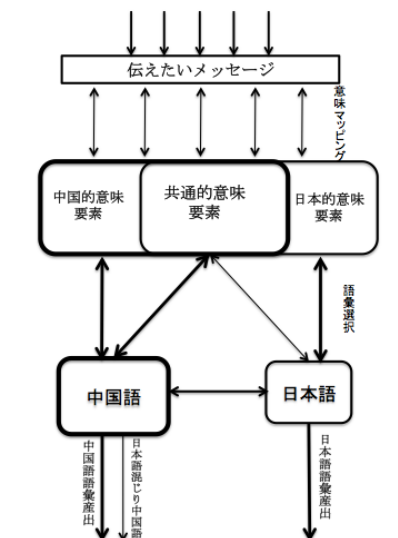


図 4-20 JSL の中国語基盤会話の語彙産出モデル

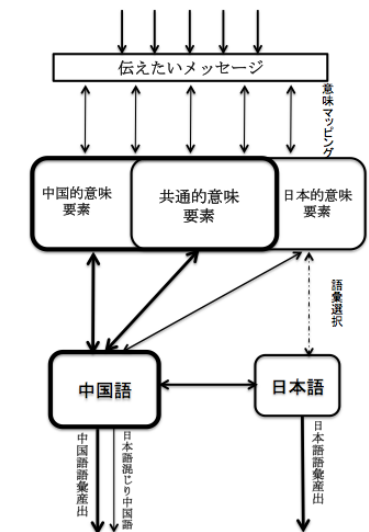


図 4-21 JFL の中国語基盤会話の語彙産出モデル

JSL と JFL の語彙産出モデルを図式化した図 4-20 と図 4-21 で示した通り、頭の中で考えたことを言葉で表す場合、意味要素から音韻、文字などの言語形式へと言語処理が進む。まず、伝えたいことを言語化するために、関連する意味要素が活性化される。この意味マッピングの段階で、思考レベルの概念的 content が言葉の意味要素と照合される。次に、活性化された意味要素が適切な言語形式を探しに行く。この語彙選択の処理段階で、選ばれる言語形式は意味要素の性質に強く影響される。JSL の語彙産出モデルを示した図 4-20 から見ると、中国文化の意味要素を表出する際には、それと強くつながる中国語の言語形式が活性化されやすく、日本文化の意味要素を表す際には、概念連結で習得した日本語の言語形式が活性化されやすい。このことにより、JSL の中国語を基盤とした会話の中で、日本文化の意味要素は日本語に CS されやすく、中国文化の意味要素が CS されにくい理由を説明することができる。そして、共通の意味要素を表出するときには、それと直接連結する両言語の言語形式が刺激され、より強い結びつきを持っている方が選ばれやすい。両言語の言語形式と共通の意味要素とのリンクの強弱は、その言語形式の使用頻度に影響を受ける。そのため、JSL の日常生活で頻繁に使われた日本語は、中国語基盤会話においても活性化されやすいと考えられる。日本での滞在期間が長ければ長いほど、意味要素と日本語の言語形式とのリンクがだんだん強くなり、日本語の語彙を中国語基盤会話に挿し入れることがより頻繁に起こると推測される。

それに対して、JFL の場合には、身をもって体験することによって日本語で概念世界を作り上げる環境が足りないため、日本語の言語形式が中国語の言語形式を経由して意味要素へ連結し、学習されている。そのため、JFL の語彙産出モデルを表す図 4-21 で示したよ

うに、日本語を産出する際に、意味要素の種類にかかわらず、中国語の言語形式を経由し、語彙連結に頼って言語処理していく。これは、JSL と比べて、JFL の中国語基盤会話で行われた日本語への CS が随分少ない理由になる。しかしながら、JFL において、日本語の言語形式が直接に意味要素へ繋がらないわけではない。JFL の日本語能力が上達するにつれて、日本語の言語形式と意味要素とのつながりが強化され、中国語を経由しなくても産出されるようになり、日本語の語彙の中国語基盤会話への挿入が起こるようになる。また、第 3 章の分析結果でも述べたように、JFL の中国語基盤会話で行われた CS は、話者の感情表出や話し相手の注意喚起など、1 つの談話ストラテジーとして使われる。そのため、このような意図的な CS 使用は、伝達内容や談話方略を計画する思考レベルで生起すると考えられる。

2.4.2 コンテキストに含まれた視覚的情報が言語産出に与える影響

次に、絵に入れた文化的要素が絵命名課題の反応時間に与える影響から、言語情報を処理する際のコンテキスト情報（特に視覚的情報）の役割について考察する。また、それにより、中日偏重バイリンガルの CS 発話と日本文化要素を含めた社会的コンテキストとの深い関与について検討する。

2.3 で報告された実験の結果、絵に入れた文化要素が 2 つの絵命名課題における刺激内容のネーミング時間に与える影響は、JSL と JFL の間で大きな異なった。JSL の分析結果から、中国文化要素を入れた絵は中国語で命名される方が時間が短く、日本文化要素を入れた絵は日本語で命名される方が速いことが観察された。このことから、JSL 学習者が中国語で意味要素を表出する際には、日本の文化要素を入れた意味的表象より中国の文化要素を入れた意味的表象の方が中国語の言語形式と結びつきやすく、日本語で意味要素を表出する際には、日本の文化要素を入れた意味的表象の方が中国の文化要素を入れた意味的表象より日本語の言語形式と結びつきやすいと考えられる。つまり、言語形式が意味要素と直接的に連結する際に、その意味的表象に入れた文化要素は言語形式の産出に促進的あるいは抑制的効果を持つことが示唆される。一方で、JFL の場合には、いずれの課題でも、中国文化要素を入れた絵を命名する方が、日本文化要素を入れた絵のネーミング時間より速いことが観察された。この結果によって、JFL の場合に、共通の意味要素を命名する際に、使用言語にかかわらず、中国文化要素を入れた意味的表象の方が言語形式と結びつきやすいことがわかった。即ち、JSL と異なり、JFL が日本語で絵を命名する際に、意味的

表象に入れた日本文化要素には、その意味要素から日本語の言語形式へのアクセスを促進する効果が見られなかった。

このことにより、中日偏重バイリンガルの CS 発話と日本文化要素を含めた社会的コンテキストとの深い関係について考察する。JSL は日本社会で生活する中で、目にするすべての物事に日本的なラベルをつけている。このような目に映る日本文化要素を含む視覚的刺激によって、中国語が基盤となる会話でも、日本語の語彙システムが活性化されるようになる。このことから、日本の社会生活に溢れている日本文化要素を含む視覚的情報が、JSL の中国語基盤発話に日本語の語彙を挿入する CS 現象を促進する 1 つの要因であると考えられる。JFL の場合には、身をもって日本社会で生活する環境が備わっていないため、日本の文化要素を含む意味的表象と接触する機会が少ない。そのため、JFL が日本語で意味要素を表出する際に、その意味的表象に入れた日本の文化的要素が日本語の産出に与える促進的効果は見られなかった。

3 まとめ

本章では、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題という 3 つの言語課題を用いて、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンにおける意味部門の特性、各部門の言語要素の結びつき方について実証分析を行った。そして、中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンの構造形態に関する考察から、彼らの中国語基盤会話の語彙産出モデルを導き出し、CS 発話に隠された 2 言語処理の仕組みについて検討した。

まず、中日偏重バイリンガルにおける 2 言語の意味部門の特性に焦点を当て、語彙近接性ランキング課題の調査結果に関して、相関分析と因子分析を行った。検証分析の結果によると、言語形式に対応する意味部門は複数の意味要素によって構築され、その中に、2 言語で共通する部分と各言語個別に有する部分がある。また、バイリンガルにおける 2 言語の意味部門の構造形態は、品詞体系と言語習得環境によって影響されることがわかった。具体的には、両言語の意味部門での共通領域に関して、モノ同士の関係性を示す動詞より、概念的な明瞭性が高い名詞、形容詞の方が 2 言語で共通する意味要素領域の範囲が大きいことが明らかになった。また、意味部門における各言語個別に有する意味要素領域について、L2 と結びつく意味要素領域が JFL より JSL の方が広い一方で、L1 と結びつく意味要素の範囲は JFL の方が大きい傾向があることが明らかになった。これは、JFL より JSL の中国語基盤会話において、日本語の語彙を挿入する CS 使用現象がより頻繁に観察される 1

つの重要な原因になると考えられる。また、このことから、2言語の意味部門の構築においては、語彙の概念的性質と話者の言語習得環境が大きな影響要因となっていると考えられる。

そして、中日偏重バイリンガルを対象に実施した翻訳課題と絵命名課題の実験データをもとに、2言語の形態部門と意味部門の結びつき方に関する検証を行った。2つの実験を通して、中日偏重バイリンガルの語彙処理に関して次の3点が明らかになった。(1) 中日偏重バイリンガルは母語獲得の段階で、概念連結に頼って中国語の語彙情報を獲得し、メンタルレキシコンを構築していく。(2) 第2言語習得において、日本語の語彙に関わる処理方略はL2の習得環境によって異なる。日本語を第2言語として学習するJSLにおいては、語彙連結と概念連結という2つ処理経路によって日本語の語彙を習得する。その中で、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す日本語の言語形式は、中国語の言語システムを経由し語彙連結により習得する。日本文化の意味要素を表す日本語の言語形式は、概念連結によってメンタルレキシコンに記憶される。それに対し、中国で日本語を学習するJFLの場合には、意味要素の種類にかかわらず、日本語の語彙が語彙連結に依存し、学習、処理される傾向がある。(3) 社会的コンテキストに含まれた日本文化要素の視覚的情報は、日本で生活するJSLの日本語の語彙産出に促進的効果をもたらす。

今回明らかになった上記の3点から、中日偏重バイリンガルの会話で起こる中国語から日本語へのCSに関わる要因を考察すると、ここで3つのことが考えられる。まず、意味要素の文化的性質がJSLのCSを含む発話に大きな影響を与える。具体的に言うと、日本社会で生活している在日中国人留学生のメンタルレキシコンにおいて、日本文化の意味要素は中国語の語彙システムに定着されていないため、概念連結でこれらの日本語の語彙を習得していく。そして、これらの日本語を産出する際に、中国語の語彙システムを媒介する必要がなく、直接的に意味要素から日本語の言語形式にアクセスできるようになる。このことにより、JSLの会話で、日本固有の食べ物や地名など日本文化に関連する意味要素を表す語彙がCSの対象になりやすいことが説明される。次に、第3章の会話データに基づく実証分析で明らかにしたように、JFLのCS使用は感情表出や関与強化など自分の意志に応じて行われた有標的な言語行動として捉えられる。つまり、JFLのCS使用は話者の意志と密接に関わり、伝達内容と談話ストラテジーを計画する思考レベルで行われたことと推測できる。しかしながら、JFLにおいて、日本語の言語形式と直接に意味要素へ繋がらないわけではない。JFLの日本語能力が上達するにつれて、日本語の言語形式が意味要素

とのつながりが強化され、中国語を経由しなくても産出されるようになり、日本語の語彙の中国語基盤会話への挿入が起こるようになる。最後に、日本社会で日常生活を営む在日中国人留学生は、日本文化要素を含む視覚的情報によって囲まれている。これらの視覚的情報の刺激によって、中国語を基盤言語とする会話でも、日本語の語彙システムが活性化されるようになる。以上のことから、在日中国人留学生の CS 発話が、意味要素の文化的特性及び日本文化要素を備えた視覚的情報に影響されることが示唆される。

本章では、中日偏重バイリンガルの中国語基盤の CS 発話に隠された 2 言語処理の仕組みを解明することを目的とし、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題、絵命名課題という 3 つの実験データをもとにして、実証分析を行った。中日偏重バイリンガルのメンタルレキシコンについて、意味部門の特性、各部門に含まれた言語要素の結びつき方という 2 つの側面に着目して検討すると同時に、彼らの中国語基盤会話の語彙産出モデルの提案を試みた。しかしながら、このバイリンガルの語彙産出モデルに関わる心理的実在性を、神経科学の観点から再検討する必要がある。即ち、バイリンガルの 2 言語処理が脳内活動においてどのように反映されるのか、さらに検討する必要がある。そこで、第 5 章では、人間の言語機能を支える脳内神経基盤に関する神経科学の先行研究に基づき、バイリンガルの 2 言語使用を支える脳内の仕組みについて検討をおこなう。バイリンガリズム研究の全体像を概観した第 1 章でも述べたように、バイリンガルの脳内言語処理に関する研究はまだ少ない。したがって、次章で行うバイリンガルの言語産出モデルの心理的実在性に関する考察は、バイリンガルの言語処理に関する脳科学研究の、これまでの成果の蓄積として意義がある。

第5章 2言語処理システムと脳内神経基盤

1 はじめに

第2章で概観した通り、従来のCS研究では、社会言語学、語用論、統語論のアプローチからバイリンガルのCS使用に関わる社会的要因、談話的機能、文法的規則を分析するのが主流である。これらの観点から行われたCS研究において残された課題の一つは、2言語の切り替え使用を支える認知メカニズムと脳内神経基盤の解明である。そして、バイリンガルのコミュニケーション活動においては、社会的規範や話者の個人的意志に応じて2言語を切り替えて使用することが自然な現象であると考えられる。ところが、このような2言語の使用を支える認知的・脳内メカニズムは極めて複雑である。この問題に関して、第4章では、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題という3つの言語課題を用いて、バイリンガルの語彙記憶システムの特性と構造形態に焦点を当て、CS使用現象に関わる認知的要因について検討を行った。同時に、日中バイリンガルの言語産出モデルの提案を試みた。本章では、神経心理言語学から得られた知見に基づき、人間の言語処理を支える認知的規則、脳内神経活動を考察したうえで、第4章で提示したバイリンガルの言語産出プロセスの認知的・神経科学的特性を明らかにすることが目的である。

人間の言語処理システムについて、井狩（2014）では、「中央実行系」と「言語情報」という2つの構成要素が脳内にあると仮定している。そして、前者は脳に備わっているシステムで、後者は外部の言語環境との相互作用によって脳内に取り込まれ、記憶される情報である。また、言語運用の世界において、「中央実行系」は言語産出の処理システムと密接に関係することに対して、「言語情報」はメンタルレキシコン（Mental Lexicon）の関連情報を扱う領域とリンクしている。第2章では、言語活動に関わる多種の記憶情報と言葉に関わる諸要素の記憶方法に焦点を当て、バイリンガルのメンタルレキシコンについて検討した。そして、第4章では、第2章での議論をもとに、メンタルレキシコンにおける意味部門の特性と各言語要素間の結びつき方に関する実験検証を行った。本章では、言語情報がどのような処理プロセスによって産出されるのかという問題をめぐって、「中央実行系」という言語産出の処理システムについて検討していく。

言語産出の処理システムに関して、最も影響力をもつのは Levelt（1989）のスピーキング・モデルである。図5-1で示したように、Levelt（1989）のモデルでは、言語情報が概念産出システム（Conceptualizer）、言語処理システム（Formulator）と調音処理システ

ム (Articulator) という 3 つの処理機構によって産出されている。まず、人間の発話行動における言語産出プロセスの初段階として、発話意図、伝達内容、談話方略などの概念的メッセージが思考レベルで形成される。このような発話の意図や伝達内容の概要に関わる概念的メッセージを形成する処理機構が、概念産出システム (Conceptualizer) と呼ばれる。そして、Levelt (1989) によると、概念産出システムにおいて、マクロ的計画とミクロ的計画という 2 段階のプランニングが行われる。マクロ的計画段階では、発話行動をとるかどうかに関わる発話者の意思決定がなされる。ミクロ的計画段階では、話し相手にどのような内容を、いかなる方法で伝えるのかという伝達内容の概要、発話のストラテジーが決定される。このような 2 段階の処理によって生み出された発話意図、伝達内容に関わる概念的メッセージは、思考レベルで形成される前言語メッセージ (Preverbal Message) である (Levelt, 1989 ; Caramazza, 1997)。そして、概念産出システムで生み出された概念的メッセージが言語処理システム (Formulator) に送られる。言語処理システムは、言語情報を記憶するメンタルレキシコンとのやり取りを通じて、概念的メッセージに意味・統語的情報、音韻的形式を付与していく言語処理を行う。言語処理システムで産出されたものは、意味、文法、音韻などの言語構造を備えている発話プログラムである。また、このような発話プログラムを音声信号の形で口から話さない限り、言語コミュニケーションは成立しない。そのため、最後に、調音処理システム (Articulator) では、いくつかの脳内処理過程を経て形成した内的言語を、口腔、鼻腔、口唇などの構音器官の調音処理を通じて、耳で聞こえる音声言語に変換していく。このような Levelt (1989) のモデルは、単一言語話者の言語産出プロセスの解釈には有効な知見であるとみなされている。

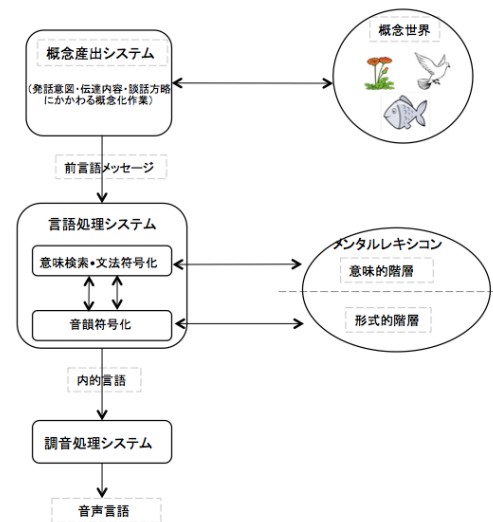


図 5-1 言語産出の処理システム (Levelt, 1989 に基づき筆者が作成)

また、De Bot (1992) は Levelt (1989) の知見を踏まえ、バイリンガルの言語産出システムに関して、以下のような考察を行った。それによると、概念産出システムのマクロ的な計画段階では、発話行動するかどうか、いつ行動し始めるのかなど、発話の意志に関わる思考が生み出される作業は、個別言語の特性と関連していない。それに対し、ミクロ的な段階では、伝えるべき内容の概要、発話のストラテジーなど概念的メッセージを形成する。そこで産出された概念的メッセージを、どちらの言語で表現するのか、どのような話し方をとるのかなど、内容面に関わる発話行動の計画は個別言語の特性と密接に関連している。そして、言語処理システムにおいて、言葉の貯蔵庫であるメンタルレキシコンにアクセスするうちに、概念的メッセージを意味・音韻構造を備える言語情報に変換する。しかも、バイリンガルにおける言語処理システムの言語化作業は2つの言語システムと深く関わっている。具体的には、バイリンガルのメンタルレキシコンは、2つの文化環境、2つの言語システムと関連し、より複雑な構造形態を持っている。バイリンガルの言語処理システムにおいては、概念的メッセージの刺激に応じて、2言語のメンタルレキシコンが活性化される可能性がある。そのため、意味情報と言語形式情報の関係がモノリンガルのメンタルレキシコンのような1対1の対応関係ではなく、多様な組み合わせを生み出す可能性がある。つまり、モノリンガルと比べて、バイリンガルにおける言語処理システムの処理メカニズムはかなり複雑であるということである。最後に、調音処理システムにおいて、一連の言語処理で策定された内的発話のプログラムをもとに、物理的な音声・韻律を生成する発声運動をする。このような調音処理の作業は概念産出システムと言語処理システムで生成された結果に従った上で行われるため、調音処理システム自体がバイリンガル話者の発話内容に及ぼす影響は少ないと言える。

以上の議論から、発話方略に関わる概念産出システムのミクロな段階、言語情報の処理を担う言語処理システムという2つの処理機構では、モノリンガルの言語産出システムと比べて、バイリンガル話者の特性が顕著に見られる。特に、言語処理システムにおいて、概念的メッセージに応じて、どのような言語情報が活性化されるのかは、バイリンガル話者の2言語使用と密接に関連している。そのため、本章では、メンタルレキシコンと脳内に備えている言語処理システムとの相互作用に焦点を当て、まず、言語処理システムにおける言語情報の処理プロセスについて考察する。そして、神経心理言語学の視点から、言語処理システムを支えるワーキングメモリの働きと脳内神経基盤について見ていく。最後に、これらの考察を踏まえて、バイリンガル話者の言語処理システムの特性、及びそれに

関わる認知的仕組みと脳内メカニズムについて詳しく検討していく。これらのことを通じて、第4章で提案した日中バイリンガルの2言語産出モデルの心理的実在性に迫ることを目指す。

2 言語処理システムにおける処理プロセス

上でも述べたように、概念産出システムにおいて、発話の意図や伝達内容、伝達方略を計画する概念化作業は発話の初段階である。そこで生み出された概念的メッセージは、発話以前の思考レベルで形成され、言語的構造を持っていない前言語メッセージである。そして、このような概念的メッセージを言葉として表現するために、言語情報を記憶するメンタルレキシコンにアクセスし、言語処理システム (Formulator) による言語情報処理を行うことが必要である。言語産出を議論する先行研究では、概念的メッセージがいかに言語化されるのかということが重要な問題として長年論じられてきた (Levelt, 1989, 1999 ; Caramazza, 1997 ; Heji, 2005)。これらの研究によると、概念的メッセージを言語化するプロセスは、意味・文法情報に関与する意味的階層 (Lemma Level) での処理と、音韻情報に関連する形式的階層 (Lexeme Level) での処理という2段階に分けることができる (図5-2)。

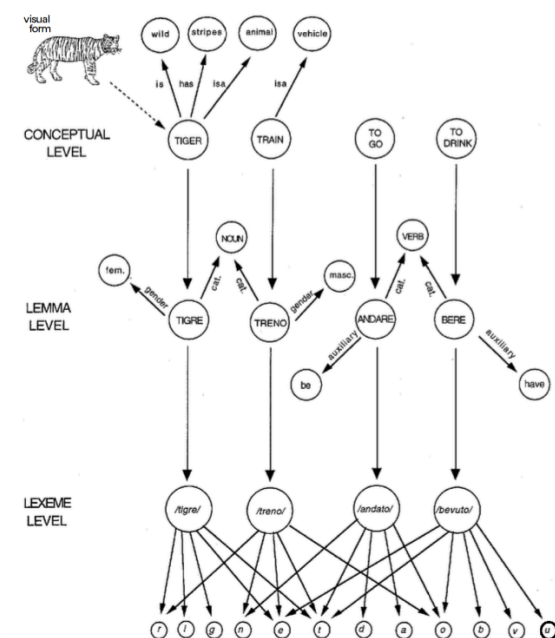


図5-2 言語処理プロセス (Caramazza,1997,p.182より引用)

図5-2で示したように、意味的階層 (Lemma Level) では、伝達内容の概念的メッセージに対応する意味情報と文法情報を選択する語彙検索が行われる。そして、形式的階層

(Lexeme Level) では、意味や文法構造を持つ抽象的な言語情報を音韻形式に変換する音韻符号化処理が行われる。本節では、概念産出システムで形成された概念的メッセージがいかに関与されるのかという問題に焦点を当て、言語処理システムの 2 つの処理段階に関わる認知プロセスについて考察する。

2.1 意味的階層における言語処理

言語処理システムにおける言語処理の最初の段階として、メンタルレキシコンの意味的階層にアクセスし、概念的メッセージに対応する意味・文法情報を選択することが挙げられる。そして、意味的階層の言語処理には、語彙検索 (Lexical Selection) と文法符号化 (Grammatical Encoding) という 2 つの処理プロセスがあると考えられる (Levelt, 1995 ; Pickering & Branigan, 1998)。語彙検索は、概念的メッセージの主要な意味内容を担う語彙情報を選択するプロセスである。そして、文法符号化の処理では、主要な意味内容が決定された情報に統語的構造を付与し、個々の語彙が文の連鎖になる。このような 2 つの処理プロセスによって、ぼんやりとした概念的メッセージを、意味的内容と文構造を持つ言語情報に変換させる。次に、意味的階層における語彙検索と文法符号化に関わる認知処理のプロセスを検討してみる。

まず、語彙検索はメンタルレキシコンに含まれる階層構造と密接に関わっている。第 2 章でも議論したように、語彙に関わる意味情報は独立的に存在するのではなく、互いに何らかの関連性を持つネットワークとして記憶される (Collins & Loftus, 1975)。そして、意味ネットワークに含まれる意味要素には「植物」、「花」、「桜」、「八重桜」などのような階層構造がある。このような階層構造によって、意味ネットワークにある数多くの意味要素が整然と整理され、効率よく言葉の検索処理が可能になる。即ち、意味要素間の関係性は、概念的メッセージに適合する意味情報の検索の重要な手がかりである。このような語彙検索における意味的関連性の影響に関しては、1970 年代から始まったプライミング研究で盛んに論じられてきた (Meyer & Schvaneveldt, 1971 ; 原田, 1987 ; 川口, 1995)。その中で、Meyer & Schvaneveldt (1971) によって実施された語彙判断課題はプライミング研究の始まりと考えられる (川口, 1995 ; 中川・猪木, 2008)。Meyer & Schvaneveldt (1971) の実験では、実験者に連続で呈示された文字列が正しい単語であるかどうか、を判断させる。その結果、最初に呈示された先行刺激 (例えば、nurse) の後に、続いてその文字列と意味的に関連している文字列 (例えば、doctor) を呈示すれば、被験者の語彙

判断の反応時間が短くなることが分かった。このような意味的関連性を持っている 2 つの刺激を短時間のうちに連続で処理する際に、先行する刺激が後続の刺激の処理に影響することをプライミング効果と呼ぶ（今井，1995）。

Collins & Loftus（1975）はプライミング効果を意味ネットワークで説明するような活性化拡散モデルを提唱した。彼らの活性化拡散モデルによると、概念的メッセージの刺激によって、それに関連する意味ネットワークにある複数の意味情報が活性化される。そして、適切な意味情報の活性化が強化されるうち、不必要な意味情報を活性化する活動が徐々に抑制され、その結果、最も際立って活性化された意味情報が選ばれるようになる。Collins & Loftus（1975）の活性化拡散モデルは、概念的メッセージに対応する意味情報を検索するメカニズムについて考察し、語彙検索の処理プロセスを説明する有力な知見と言える。また、認知言語学の分野では、プライミング効果と活性化拡散モデルをもとに、言語処理において言葉の意味情報がいかにアクセスされるのかという問題について様々な検討が行われてきた（玉岡，2013；小松・太田，1983a，1983b；井上，1991；川口，1995；岡，2001）。これらの研究から、語彙検索におけるプライミング効果は意味要素間の連結関係と音韻的類似性に依存するということが明らかになった。特に、意味情報を選択する段階では、意味的関連性と密接に関わる意味プライミングが生起すると考えられる（中川・猪木，2008；玉岡，2013）。即ち、意味ネットワーク内で連結関係が強い意味情報の間には、意味的プライミング効果が生じやすいということである。

また、意味ネットワークには、実質的な意味を表す意味要素以外に、その意味情報に関連する文法素性、品詞性質など統語情報も含まれている。玉岡（2013）によると、概念的メッセージに関する意味情報が活性化されると、その意味情報に関わる統語的特性の表象群の活性化も起こる。このことは、プライミング実験で見られる統語的なプライミング効果によって検証された。統語的なプライミング効果とは、先行刺激の統語的文脈情報が、類似の統語規則を持つ後続の刺激の処理を促すことである（今井，1995）。例えば、今井（1995）では、名詞・助詞・動詞の格関係という統語規則に注目し、語彙決定課題を用いて統語的プライミング効果の実験を行った。その結果、先行刺激と同じ格関係を持つ後続の刺激の方が反応時間が短いという統語的プライミング効果が見られた。また、彼の実験は、意味的プライミング効果と統語的プライミング効果の生起時間についても考察を行った。その結果として、意味的関連性によって生起する意味的プライミング効果は統語規則による統語的プライミング効果より早めに生起することがわかった。このような統語的プ

ライミング現象から、適切な意味情報を検索すると同時に、その意味情報に関わる文法的情報も活性化されることが分かった。そして、文法符号化という処理プロセスにおける統語情報の活性化に関して、Pickering & Branigan (1998) は図5-3のような統語情報の処理モデルを提唱した。

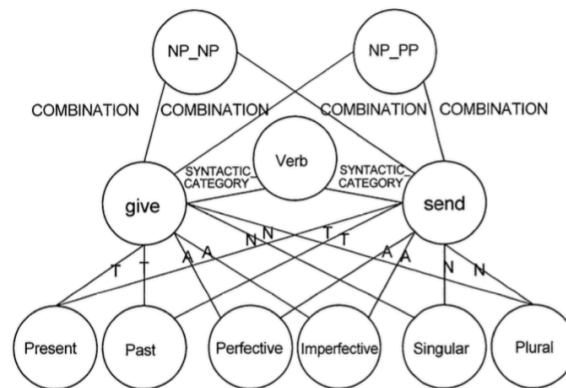


図 5-3 統語情報の処理モデル (Pickering & Branigan, 1998 より引用)

図 5-3 で示したように、メンタルレキシコンの意味的階層には、意味情報に関わる品詞範疇、時制、数、文構造の役割など、多様な統語情報が含まれる。例えば、「見る」という概念的メッセージを言語化する際に、目の動作という意味的内容を同定すると同時に、「見る」が動詞であることを品詞的に特徴づける情報、「見ている」、「見た」などの時制的信息、「見られる」、「見える」など態の情報、「～を見る」、「～が見える」など組み合わせて使われる格助詞の情報など様々な文法的知識も一緒に活性化されるようになる。そして、これらの統語情報に基づき、選出された意味情報が最適な順序で並べられ、統語的コンテキストが構築されていく。つまり、意味的階層の言語処理は語彙の意味表象を検索すると同時に、その意味情報に関連する統語情報も活性化し、選ばれた意味情報を正しい配列順序で組み合わせていく。

以上で議論したように、言語処理システムにおいては、メンタルレキシコンの意味的階層にアクセスし、意味検索と文法符号化という 2 つの処理プロセスを通じて、概念的メッセージに対応する意味情報と統語構造を付与する。玉岡 (2013) によると、語彙の意味情報と統語情報は双方向の関係を持ち、両者は切り離し難いのである。そのため、語彙検索と文法符号化という 2 つの言語化作業は相互作用的な関係を持っていると考えられる。具体的には、概念的メッセージが意味的階層にアクセスする際に、それに対応する意味情報を検索すると同時に、統語情報も活性化される。そして、意味情報は概念的メッセージの

中身となる意味内容を、統語情報は発話文になれる構造的枠組みを提供する。換言すれば、意味検索では、概念的メッセージの主要な意味内容を選出する。文法符号化では、文構造に関わる統語情報を提供し、活性化された意味情報を編成する作業を行う。また、このような編成の作業において、構文上必要な語彙情報を再度検索する。つまり、意味的階層においては、意味検索と文法符号化という 2 つの処理プロセスが連携し、互いにフィードバックしながら言語の意味・統語処理を完成する。

2.2 形式的階層における音韻符号化処理

上で議論したように、意味的階層では意味検索と文法符号化によって、概念的メッセージに対応する意味情報と統語構造を付与する。このような処理プロセスを通じて、意味・統語構造を持っている抽象的な言語情報が生み出される。その次に、言語の形式情報を記憶する形式的階層にアクセスし、抽象的な意味情報に具体的な音声シンボル、音韻体系を付与していく。このような音声・音韻構造を決定する作業は音韻符号化処理 (Phonological Encoding) と呼ばれる (Levelt, 1995)。次に、抽象的な意味情報を具体的な形式情報に変換する音韻符号化という処理プロセスについて検討していく。

斎藤 (1999) によると、メンタルレキシコンに記憶される音韻情報は、中身と構造に大別できる。音韻情報の中身とは、言葉を構成する個々の音声情報である。そして、これらの音声情報を配列する音韻規則が音韻情報の構造である。そのため、音韻符号化の処理段階においては、音韻規則の情報を活性化する音韻処理と、個々の音声情報を特定する音声処理という 2 段階の作業がある (Roelofs, 2000 ; 寺尾, 2008)。具体的には、音韻処理では、音節の結びつき方や音声の強弱、リズム、イントネーションなど韻律的特徴を決めて、音声表出の土台構造を作り上げていく。即ち、音韻処理では、音韻規則や韻律的信息に関わるパラメーターを設定することによって、発話内容の音韻枠組みを計画する。それに対して、音声処理では、音声単語を構成する個々の音節が活性化され、発音プログラムの細部まで計画していく。つまり、音韻処理で形成された音韻枠組みの中身として、音声処理で選出された個々の音節、音素が埋め込まれる。例えば、私たちの日常会話において、以下のような経験がよくある。誰かの名前を言いたい時に、その名前のリズムや発音パターンなど韻律的信息はわかるが、具体的に発音が思い出せない。このような舌先現象は、音韻枠組みは正確に構築されるが、個々の音節を検索する作業ができないからである。このような現象から、音韻符号化の処理には、音韻枠組みを作る音韻処理とその枠に埋め込む

個々の音節を検索する音声処理、という 2 つの過程が含まれると考えられる。

このような音韻符号化における 2 段階の処理プロセスは、健常者の言い間違いに関する実証研究によって検証された。例えば、寺尾（1999）では、健常者の日常会話データに現れた言い間違いに関して、以下の例文で示したように、代用、付加、欠落、交換、混合という 5 つのパターンがあることを指摘した。

代用：ものがね歌合戦（←ものまね歌合戦）

付加：まんまんと政府が乗っかっている（←まんま）

欠落：タイガー__タイガースの上田

交換：うならい（←占い）

混合：ネットのうれ（←うら+うえ）

これらの言い間違いの発生メカニズムに関して、寺尾（2006）では以下のことを指摘した。彼によると、音韻符号化においては、音韻レベルと音節レベルという 2 つの処理段階を経て、語彙レベルで活性化された意味情報に具体的な形を付与する。そして、音韻レベルでは、母語、子音の配列規則などのモーラ情報が活性化され、音節構造が決定される。そして、音節レベルでは、音節構造の枠を補完する個々の音声情報を活性化し、音の組立作業が行われる。また、寺尾（2006）は、以上のような言い間違いが、音韻的な枠を準備するレベルと候補の音を選定するレベルという 2 つの処理段階で生じたものであると指摘した。

2.3 意味的階層と形式的階層の情報処理関係

以上では、言語処理システムにおける 2 段階の言語情報処理について考察した。上で述べたように、言語処理システムにおいて、情報の処理は意味的階層から始まり、そして形式的階層に流れていく。意味的階層では、概念的メッセージに関わる数多くの意味・統語情報が候補として刺激される。形式的階層の処理段階では、意味的階層で活性化された意味情報を受け取り、それに関連する音韻・音声情報が刺激される。そして、言語処理システムは活性化された音韻・音声情報から適切なものを選出し、発話プログラムの作成作業を行う。しかしながら、このような意味的階層から形式的階層への活性化は一方通行ではなく、音韻符号化処理から意味・統語情報処理へのフィードバックも行われる（Aitchison, 2003 ; 寺尾, 2008 ; Roelofs, 2000)。このような意味的階層と形式的階層の処理関係に関して、Aitchison（2003）は以下の相互活性化モデルを提案した（図 5-4）。

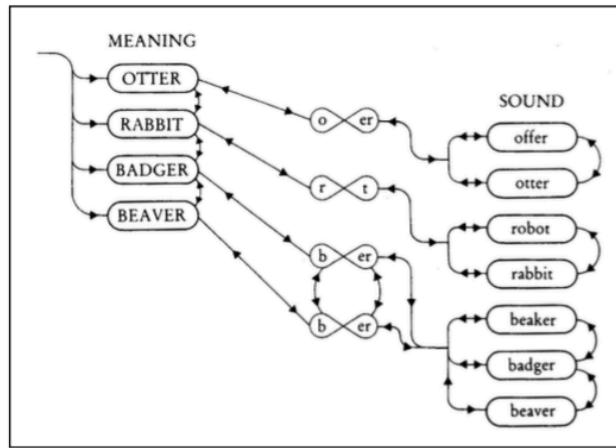


図 5-4 相互活性化モデル (Aitchison, 2003, p.298 より引用)

図 5-4 で示したように、言語産出する際に、概念的メッセージによって引き起こされるメンタルレキシコンの活性化は意味的階層 (Meaning) から始まり、形式的階層 (Sound) へ流れ込んでいく。意味的階層の言語処理において、メンタルレキシコンで蓄えられている意味・統語情報が刺激され、概念的メッセージと関連性がある内容が活性化される。そして、この活性化は形式的階層に拡散していく。形式的階層では、意味的階層から活性化された意味情報を受け取り、それに対応する音韻・音声情報を検索する。このような音韻符号化処理によって、抽象的意味情報に具体的な形式情報を与える。その後、形式的階層での音韻情報の活性化は、また意味的階層へフィードバックされていく。このような相互の活性化が生起するため、意味的階層で強く活性化された内容は、形式的階層でも大きな活性化を引き起こし、さらに逆方向の強化効果も起こる。この双方向の情報処理において、関連性の高いリンクがどんどん活性化し、不要なリンクの活性化が徐々に抑制されるようになる。そして、最終的に、必要ではない候補を諦め、最も適切な内容を選出し、発話プログラムを立てる。このような、意味的階層と形式的階層の間に起こる双方向的活性化によって、概念的メッセージを言語情報に変換していく。また、このような言語処理システムで生み出された産物はまだ口から言い出されていない内的発話 (Internal Speech) と呼ばれ、図 5-1 で示しているように、後に続く調音処理システムを通して、音声言語に変換される。

3 言語処理システムを支える脳内メカニズム

上で議論したように、言語処理システムでは、語彙検索、文法符号化と音韻符号化という一連の言語処理を経て、抽象的な概念的メッセージを具体的な言語情報に変換していく。

メンタルレキシコンに蓄えられた言語情報は意味、統語、音韻などの構造を持つと同時に、それぞれの構造内容が階層的に構成されている²⁴。そのため、複雑な階層構造を持つ言語情報を処理する際に、前段階で活性化された情報を保持するとともに、次の処理作業へ進行していくワーキングメモリという記憶処理システムが必要と考えられる。ここでは、一時的な貯蔵と情報処理機能を持つワーキングメモリは言語処理システムを支える脳内メカニズムとして、詳細に検討していく。第 2 章では、Baddeley (2000) のワーキングメモリのモデルを取り上げ、ワーキングメモリの全体像とその下位システムについて概観した。ここでは、まず、言語活動とワーキングメモリとの関係に焦点を当てた先行研究を踏まえ、言語情報処理におけるワーキングメモリの機能と働き方について検討していく。次に、脳科学の研究成果を取り入れ、言語産出を支えるワーキングメモリの神経学的基盤を考察していきたい。

3.1 言語処理システムを支えるワーキングメモリ

ワーキングメモリは、暗算、言語活動、推論などの高次的認知活動を解釈することに有用な記憶システムであるため、1980 年代に提唱されてから、多くの研究者によって様々な観点から検討されてきた。その中でも、ワーキングメモリの仕組みと機能を説明する Baddeley (2000) のモデルは、最も有力な知見として広く引用された。Baddeley (2000) のモデルは、中央実行系、音韻ループ、視空間的記銘メモ、エピソードバッファという 4 つの処理システムによって構成される (図 2-4)。中央実行系は他の 3 つの処理システムを制御する機構であり、コンピュータの CPU のような最も重要な役割を担う中心部門である。そのほかに、言語情報の保持及び処理と関わる音韻ループ、視覚情報の保持機能と処理機能を担う視空間的記銘メモ、長期記憶貯蔵庫とのやりとり機能を担うエピソードバッファという 3 つのサブシステムがある。

このようなワーキングメモリのモデルに基づく言語情報処理の仕組みを議論した井狩 (2012) によると、音韻ループが言語形式面の音声情報の処理と関係し、視空間的記銘メモが文字情報の処理と関わり、経験や認知的知識とのやりとり機能を担うエピソードバッファが意味情報の処理と密接に関連している。このことから、意味情報と音声情報の処理を中心とする発話行動では、エピソードバッファと音韻ループという 2 つのサブシステムの働きが重要である。以下では、言語処理システムによる言語情報の産出処理において、

²⁴ 具体的には、意味の範疇化、統語規則を表す構文木や音声要素の分節などである。

ワーキングメモリがいかに機能するのかについて検討していく。

3.1.1 意味的階層での言語処理に関わるワーキングメモリ

まず、意味的階層の言語処理におけるワーキングメモリの働き方について検討してみる。上でも述べたように、概念的メッセージを言語化する最初の処理作業は、メンタルレキシコンの意味部門にアクセスし、そこで記憶される意味・統語情報を検索することである。意味・統語情報は五感から入力された感覚、感情、認知的知識など様々な情報の集合体であり、直接的または間接的な経験によって獲得され、長期記憶として脳内に記憶されたものである（井狩，2009）。そして、言語情報処理では、長期記憶貯蔵庫にある意味的情報を活性化し、それを他のソースから受け取った感覚的・視聴覚的情報と統合し、適切な発話行動を行う。つまり、言語活動において、長期記憶とワーキングメモリとの連携作業は不可欠である。このような長期記憶とワーキングメモリとの統合を可能にするシステムに関して、Baddeley（2000）はエピソードバッファという概念を提唱した。エピソードバッファの中心的特性を議論したバドリー（2012）によると、エピソードバッファは音韻ループ、視空間的記銘メモ、長期記憶からの情報、あるいは全くの知覚的入力からの情報をまとまりのエピソードに一体化することができる一時的貯蔵システムである。即ち、エピソードバッファは他の下位システムと異なって多次元的な貯蔵庫を有し、多様なチャンネルからの情報を蓄える。エピソードバッファの機能について、三宅・斎藤（2001）は、異種情報の統合機能自体は中央実行系の働きであるが、その統合結果を保持して後続する統合操作を支えるのはエピソードバッファの役目であると指摘した。言語活動において、中央実行系と長期記憶の間のリンクを提供するエピソードバッファによって、音韻ループ内の音声・音韻情報が長期記憶内の意味的情報と結び付けられるようになる（三宅・斎藤，2001；バドリー，2012）。

以上の知見から、エピソードバッファは、長期記憶から概念的メッセージに対応する意味・統語情報を検索する意味的階層での言語処理に、重要な役割を担うことが推測できる。まず、エピソードバッファは中央実行系で産出された概念的メッセージの刺激によって、長期記憶貯蔵庫内の、それに対応する意味情報を活性化する。そして、言葉の意味は階層的な構造を持つため、エピソードバッファには、各階層で活性化された情報を一時的に保持し、必要な情報を継続的に活性化していく機能が必要である。それと同時に、最も適切な情報を選出するために、不必要な関連情報の活性化を抑制することによって選択する範

圏をだんだん絞っていく。そして、選択された意味的情報を中央実行系へ随時フィードバックしていく状態で、短期的に保持する。また、言語活動の場面や文脈の変化に応じて、中央実行系は各サブシステムからの情報を統合し、刻々と新しい計画を作り上げ、それぞれのサブシステムに行動指針を出す。エピソードバッファは中央実行系からの指令を受け取り、そこで行われた情報の取捨選択を次々に更新し、置換していく。

以上の議論から、意味的階層での言語情報処理におけるエピソードバッファの働き方として、以下の5つのことが予測される。(1) 中央実行系からの概念的メッセージを受け取り、それを意味的処理のために一時的に保持する。(2) 長期記憶へアクセスし、そこに記憶された関連情報を活性化する。(3) 適切な情報を取捨選択するために不要な情報を抑制する。(4) 選択された情報を中央実行系へフィードバックする。(5) 中央実行系の制御に従い処理情報を調整する、というような処理メカニズムである。しかしながら、三宅・斎藤(2001)は、エピソードバッファは提唱されたばかりの概念であるため、その存在を示す神経心理学的な支持証拠はまだほとんどないと指摘した。そのため、今後、上で議論したエピソードバッファの情報処理メカニズムに関して、認知心理学や脳科学の研究分野からの実験的検証を行う必要があると考える。

3.1.2 形式的階層での言語処理に関わるワーキングメモリ

次に、形式レベルにおける音韻符号化の処理メカニズムについて、ワーキングメモリのモデルを用いて検討していく。上で議論したように、音韻符号化処理においては、抽象的な意味情報を具体的な形式情報に変換するために、音韻的構造を決め、音節を組み立てる発話プログラムを作成する。このような音韻符号化処理が音韻ループと深く関連していることが、ワーキングメモリ研究で認められる。以下では、音韻ループの構造と機能について議論した先行研究(Logie, 1995; 斎藤, 1993, 1998, 2000, 2001; Saito, 1994, 1998; 小那覇, 2014)を踏まえながら、音韻符号化処理における音韻ループの働き方について考察していく。

まず、音韻ループのメカニズムについて、Logie(1995)は、音韻ストアと構音コントロール過程という2つの処理プロセスを想定した(図5-5)。音韻ストアは、入力された音声情報を一時的に保持する処理過程である。構音コントロール過程は、音声情報を脳内で処理できる音韻表象に符号化する機能を担う処理過程である。そして、音韻ストアは、音声・音韻表象を必要な期間保持する擬似記憶システムとして、言語の知覚処理と密接に

関連している。それに対して、構音コントロール過程は、発話のために必要となる音韻系列のプランニングという役割を果たしている（齋藤，2001）。

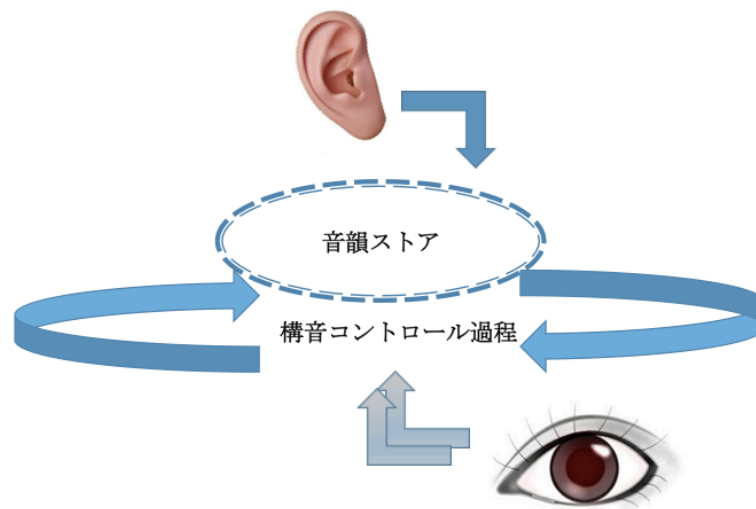


図 5-5 Logie (1995) の音韻ループモデル（齋藤，2000，p.279 より引用）

言語情報の処理過程における音韻ループの働き方を解明するため、齋藤はスピーチ・エラー課題²⁵、2重記憶課題²⁶などの言語課題を用いて一連の実験的検討を行った（Saito,1994, 1998；齋藤 1993, 1997, 1998）。例えば、齋藤（1993）、Saito（1994）では、聴覚的に提示した干渉語が記銘する文字列の再生に与える影響について観察した。その結果として、音韻的に類似していない干渉語より類似している干渉語の方が実験者のスピーチ・エラーを誘発しやすい、という事実がわかった。その原因として、類似した音素を持っている単語の間では、互いの想起を干渉し合うからであると彼は指摘した。この実験結果によって、音韻的類似性は音韻情報の一時的保持に影響を与えることがわかった。この音韻的類似性の干渉語によって誘導されたスピーチ・エラーは、発話のために音韻情報を保持する音韻ストアの機能を反映していると考えられる（齋藤，1993）。

そして、Saito（1994）では、リズムを再生する2重記憶課題を用いて、リズムの再生活動が記銘する文字列の発話過程に与える影響について検討した。その結果、リズム再生活動を行う際に、文字列の記銘成績が低下すると同時に、音韻的類似性の影響が見られなくなる。この実験結果は、リズム活動が音韻情報のコーディング、リハーサル機能を妨害することを示唆している。また、齋藤（1998）は早口ことば課題と数字を速く読み上げる課題を用いて、リズムや読み速度など発話運動プランニングに関わる要素が発話に及ぼす

²⁵ スピーチ・エラー課題とは、数唱課題において、視聴覚的な干渉語の提示や、読み速度、記憶範囲を大きくするなどの手法で実験的にスピーチ・エラーを作り出すという実験手法である。

²⁶ 2重記憶課題とは、実験者に提示された2種類の情報を同時に記銘させる課題である。

影響を検討し、言語産出過程と構音コントロール過程との関連性を検証した。

また、齋藤（2000）は、言語情報処理における音韻ループの一時的保持機構と長期記憶との関係性について検討した。彼によると、子どもを対象とする非単語反復課題の実験から、単語らしい非単語の再生率が単語らしくない非単語より高いことが観察された。この発見事実から、音韻ループの一時的保持機能が長期記憶に蓄えられた音韻知識によって支えられるという結論が導き出された。また、齋藤（2000）では、音声知覚過程における音韻ループの働き方について、Gathercole & Martin（1996）のモデルを取り上げて考察した（図 5-6）。

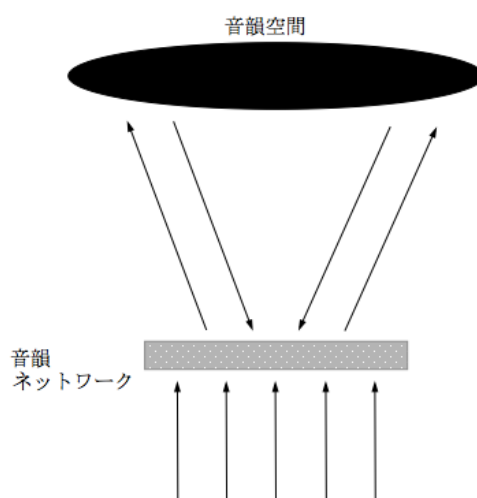


図 5-6 音声知覚過程における音韻ループの働き（齋藤，2000，p.284 より引用）

図 5-6 で示した音韻空間は、ことばの音声・音韻情報を蓄えるメンタルレキシコンの形式的階層である。そして、音韻ネットワークは、外界の刺激によって活性化された音声情報を一時的に貯蔵する音韻ストアと考えられる（齋藤，2000）。言語知覚の処理過程においては、外界から入力された音声コードによって音韻ネットワークを起動し、その音声情報を一時的に保持する。それと同時に、上の音韻空間と接近することによって、音韻空間から関連性のある音韻情報を取捨選択し、それによって、その音声コードをエンコーディングしていく。そして、形式的階層と見なされる音韻空間は、意味・統語情報を記憶する意味的階層と絡み合っているため、その音韻情報と関連する語彙表象の活性化も行われる。このような音韻空間へのアクセス、音韻情報の活性化、適切な情報の取捨選択など一連の処理過程によって選出された結果は、音韻ストアで一時的に記憶されると考えられる（齋藤，2000，2001）。また、齋藤（2000）によると、音韻ストアから音韻空間へ、音韻空間から語彙表象へ向かうリンクは単方向ではなく、互いのフィードバックがある相互的な活

性化である。

ここでは、斎藤（2000）の知見を踏まえ、言語産出処理における音韻ループの働き方に関して以下のように考える。言語産出の場合、意味的階層の処理で同定された意味情報により、言語知識として音韻・音声情報を記憶する音韻空間が刺激される。特定の意味情報に関連する音韻空間が活性化された音声情報及び取捨選択の結果は、音韻ストアの一時的貯蔵機能によって保持される。それと同時に、構音コントロール過程によって、選出された音声情報が特定の音韻規則に従った上で編成され、発話プログラムを作り上げていく。そして、作成された発話プログラムが中央実行系へフィードバックされる。また、中央実行系を媒介として、音声情報の処理を担う音韻ループは語彙表象のネットワークと結びつくと同時に、中央実行系の指令に従い発話の計画を随時に更新していく。以上の議論から、個々の音素・音節を活性化し、一時的に保持する処理機能が音韻ストアと深く関連していることがわかる。一方で、発話の強弱、リズム、音素の出力順序などの音韻的処理は構音コントロール過程と密接に関わると考えられる。つまり、音声・音韻符号化処理は音韻ストアと構音コントロール過程の相互作用によって実現されることが推測できる。

3.2 言語処理に関わるワーキングメモリの脳内神経基盤

上では、Baddeley（2000）のモデルに基づき、ワーキングメモリを言語処理の脳内システムとして、その構造と処理メカニズムを検討した。具体的には、概念的メッセージに意味・統語構造を同定する語彙アクセスはエピソードバッファと深く関わり、音韻符号化処理は音韻ループの2つ処理過程（音韻ストアと構音コントロール過程）によって実行される。そして、中央実行系は各サブシステムからの情報を統合しながら、各サブシステムにおける言語情報処理のための新しい行動指針を随時策定していくということが分かった。以下では、このような言語処理を実行するワーキングメモリの脳内神経基盤について検討していく。

上でも議論したように、音声・音韻情報の一時的保持、構音的処理が音韻ループと密接に関わることは広く認められている。そして、音韻ループは生態学的妥当性が極めて高いため、ワーキングメモリ・モデルの中で最も研究されているサブシステムである（斎藤，2000）。神経言語学の分野では、音韻ループの言語処理機能を支える神経基盤に関して、失語症患者に対する観察や脳機能イメージングを用いた実験的な検討が数多く行われてきた。例えば、相馬（1997）は、伝導性失語患者に数字復唱課題を実施し、彼らの脳機能損

傷状態を観察した。その結果、音声言語を一時的に保持する音韻ストアが上側頭回に、処理された情報のアウトプット機能を担う出力バッファが中心前回に、音声情報をリハーサルする処理ループが頭頂葉に対応することがわかった。

そして、Paulesu et al. (1993) は、音韻ループに関与する脳部位を解明するために、PET (Positron Emission Tomography) ²⁷ を利用し言語性課題遂行中の健常者の脳内活動状況を観察した。彼らは、文字情報を記録する音韻保持課題を用いて音韻ストアに関わる脳部位を観察し、音韻特徴を判断する音韻同定課題を用いて構音コントロールに関与する脳部位を検証した。音韻保持課題を行う被験者の脳内では、ブローカ領域、縁上回及び島皮質にニューロン活動が観察されたことから、音韻ストアの保持機能を担う脳部位は縁上回であることが推測された。また、音韻同定課題の測定結果では、下前頭回のブローカ領域の活動が確認され、この脳部位が構音コントロールに対応する脳内機構と考えられた。そして、縁上回の周辺領域とブローカ領域のいずれも、山鳥 (1998) で指摘された環シルビウス溝の言語領域に含まれている。つまり、言語産出、言語理解に関わる脳の機能が環シルビウス溝に局在しているという山鳥 (1998) の考えは、Paulesu et al. (1993) の実験的考察と一致していると言える。また、藤井 (2000) は、音韻ループと関連している大脳外側面の賦活部位について、脳機能イメージングによる複数の脳科学研究の結果を踏まえ、図 5-7 のようにまとめた。

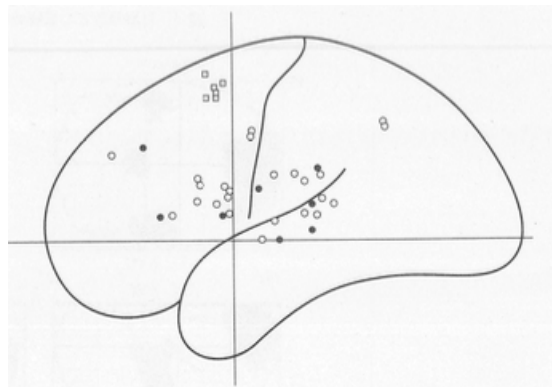


図 5-7 音韻ループに関連する脳内神経基盤 (藤井, 2000, p.99 より引用)

(○は左半球, ●は右半球, □は大脳半球内側面, 水平線は前交連と後交連を結ぶ基準線を示す)

上でも議論したように、言葉は階層的な構造を持っているものである。そのため、言語処理の各段階において、必要な情報に継続的な注意を向けたり、自動的に活性化された不

²⁷ PET は脳内神経細胞の活性化状態を画像化する脳機能イメージング技術の代表的なモダリティである。具体的には、放射性トレーサーを用いて神経細胞活動に伴う脳内血流量を計測することができる。

必要な情報を抑制するなどの実行機能が要求される。そこで、以下では、言語処理を支えるワーキングメモリの注意維持機能と抑制機能に関する脳内メカニズムを検討していく。まず、ワーキングメモリの実行機能に関わるニューロン活動に関して議論した澤口他（2001）、船橋（2002, 2005）では、情報処理機能と保持機能が同時に必要となる二重課題を遂行するサル脳内で、前頭葉外側部のニューロンに持続的な活動が観察された。この実験結果から、前頭葉外側部には、必要な情報に継続的に注意を向ける役割を果たすニューロン集団が存在すると推測される。

近年、言語処理の脳内活動を画像化する脳機能イメージングによって、言語性ワーキングメモリの実行機能を支える神経基盤が次第に解明されてきた（苧坂 2000, 2002, 2008 ; 藤井, 2000）。例えば、苧坂（2002）は、被験者に単語を記憶させると同時に文の正誤判断を要求するリーディングスパンテスト²⁸（Reading Span Test, 以下 RST と略す）という言語課題を行い、fMRI²⁹を用いて被験者の脳の活動部位を観察した。その結果、RST を遂行する実験者の脳内では、言語野（ブローカ野からウェルニッケ野、縁上回周辺にかけた領域）の活性化活動が見られる以外に、前頭領域にも活動の増強が観察された（図 5-8）。そして、前頭領域の活動においては、前頭前野背外側部（DLPFC）と前部帯状回（ACC）が主な活動領域であることも分かった。

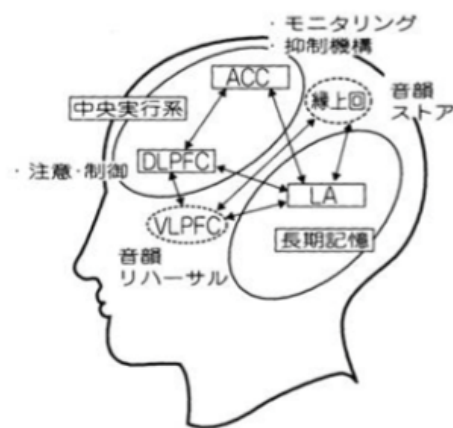


図 5-8 言語性ワーキングメモリの神経基盤（苧坂, 2002, p.175 より引用）

この実験結果に関して、苧坂（2002）は、縁上回は音韻・音声情報を保持する音韻スト

²⁸ リーディングスパンの実施方法として、16語以内の短文を音読しながら、その短文の中に明示した1単語をターゲット語として記憶させる。複数の短文を音読してから、記憶された幾つかのターゲット語を系列的に再生させる。このRSTはDaneman & Carpenter(1980)によって提唱されてから、言語性ワーキングメモリを測定する有効な実験手法として広く運用されてきた。

²⁹ fMRIは脳内神経細胞の活性化状態を画像化する脳機能イメージング技術の、もう1つの代表的なモダリティである。fMRIは神経活動により生じた生体磁場を計測することによって、脳内活動を脳波のように画像化する装置である。

アの機能を担い、ブローカ野は音素の配列やリズムのコントロールなど構音コントロールの機能を実行する脳部位であると指摘した。また、DLPFC と ACC という 2 つの前頭領域の機能に関して、DLPFC は選択的注意を制御する機能、ACC は認知活動をモニターする抑制機能をそれぞれ果たしていることを苧坂（2002）が指摘している。

また、苧坂（2008）は、RST 遂行中の被験者の脳内活動を fMRI によって測定し、言語処理過程での DLPFC と ACC の働き方に焦点を当てて実験的検討を行った。特に、ACC の抑制機能に関して、彼は表 5-1 で示したようなフォーカス語がターゲット語と一致する Focused RST (F-RST) 課題、フォーカス語がターゲット語と不一致の Non-Focused RST (NF-RST) 課題という 2 種類の RST 課題を実施した。

表 5-1 F-RST と NF-RST の例文

その子供は洋服に <u>食べ物</u> を落として <u>しみ</u> をつけた
フォーカス
F-RST
その子供は洋服に <u>食べ物</u> を落として <u>しみ</u> をつけた
ターゲット
NF-RST
その子供は洋服に <u>食べ物</u> を落として <u>しみ</u> をつけた
ターゲット

（苧坂，2008，p.92 より引用）

実験の結果として、注意を向けたフォーカス語と保持すべきターゲット語が不一致の NF-RST 条件では、ACC の活動がより増強する。この結果より、フォーカス語と保持すべきターゲット語の間で葛藤が生じる際に、ACC は自動的に活性化した単語の意味情報を抑制する役割を担うことが示唆された。また、DLPFC の注意維持機能に関しては、苧坂（2008）は F-RST と NF-RST という両条件の言語課題における脳内活動の観察結果を比較した。その結果として、フォーカス語がターゲット語と一致するかどうかに関わらず、両課題のターゲット語を言い出す場合、DLPFC に活動の増強が確認された。この結果から、DLPFC が、何らかに注意を向けてその表象を保持することと関連していることが示唆される。以上のことから、苧坂（2008）では、DLPFC は一貫した選択的注意の制御を担い、課題遂行に必要な「表象を維持する」機能を果たすのに対し、ACC は不必要な情報を抑制する機能を担う、という結論が導き出された。

以上で議論した知見を踏まえて、言語処理における DLPFC と ACC の機能に関して以下のことが推測できる。抑制機能を担う ACC は、概念的メッセージによって活性化されたメンタルレキシコンから、適切な意味・音韻情報を取捨選択することに重要な役割を果

たす。一方、DLPFC は選択された情報に継続的な注意を向けることによって、その言語情報をアクティブに保持するように機能すると考えられる。また、言語処理を支えるワーキングメモリの神経基盤が1つのモジュールだけではなく、複数の脳部位にある神経細胞の連携作業によって構築されるネットワークであることも、先行研究で指摘された。例えば、武田他（2012）は言語性ワーキングメモリを支える脳内メカニズムについて、以下のよう

に指摘している。

言語の構文作業に限らず、一般に1つの課題を行う際の作業記憶部位はただ1つの局所脳部位ではなく、複数の異なる脳部位が課題に必要な作業記憶を分担し保持し、互いに連携して作業を行っている。ある脳部位の継続活性化状態は、その脳部位が作業記憶を保持していることを示す重要な手がかりとなるが、作業記憶が必要な課題を行っている際の脳の活性化部位を画像化すると、前頭前野・運動前野などの脳部位だけではなく、これらの脳部位と入出力関係のある頭頂葉連合野・側頭葉連合野の皮質部位、あるいは視床等の皮質下の脳部位にも継続的な発火状態が見出される。これらの脳部位が相互に連携して、作業記憶を支えるネットワークを形成している。

（武田他，2012，p.287より引用）

以上の議論から、言語処理に関与するワーキングメモリの脳内活動に関して、音韻ループに関わるブローカ野と縁上回、実行機能を支える DLPFC と ACC など、複数の脳部位にある神経細胞の相互連携作業が必要であると言える。音韻符号化処理における音韻ループの一時的保持機能と発話プランニング機能は、縁上回及びブローカ野と深く関連している。具体的には、音声・音韻情報の一時的保持機能を担う音韻ストアが縁上回に、リズム、音素の配列処理など発話プランニングする構音リハーサルがブローカ領域に対応する。そして、各言語処理段階において必要な言語情報をアクティブに保持し、必要ない情報の活性化を抑制するのは、中央実行系の機能である。このような実行機能の神経基盤に関して、DLPFC と ACC という2つの領域が主な活動部位であることが検証された。DLPFC は目標内容に注意を向け、関連する情報を活性化する役割を果たす。ACC には不必要な情報の活性化を抑制し、適切な情報を選択する機能が存在する。さらに、DLPFC は取捨選択によって決定された情報に継続的に注意を向け、その情報を活性化状態に維持する脳部位である。また、これらの脳内処理システムによる言語情報の処理は、長期記憶に蓄えられた言語知識に支えられる。このような言語知識の記憶システムに対応する領域は、ウェルニッケとその周辺領域と考えられる。

4 バイリンガルの言語処理システム

上でも述べたように、概念的メッセージを言語情報に変換する役割を担う言語処理システムでは、モノリンガルの言語産出システムと比べて、バイリンガル話者の特性が顕著に見られる。本節では、モノリンガルの言語処理に関する上記の議論を踏まえ、バイリンガルの言語処理システムについて検討していく。まず、脳内に備わっている言語処理システムとメンタルレキシコンとの相互作用に焦点を当て、バイリンガル話者における言語処理システムの特性について詳しく検討していく。そして、神経科学の研究成果を踏まえ、バイリンガルの言語処理で要求される特別な実行機能及びそれに関与する脳内メカニズムの検討を試みる。これらのことを通じて、バイリンガル話者の2言語使用を支える言語処理の仕組みと脳内神経基盤を解明することを目指す。

4.1 バイリンガルにおける言語処理システムの特性

概念的メッセージがどのようなプロセスを経て言語情報に変換されるのかという言語処理システムの仕組みは、数多くの研究者によって議論されてきた (Caramazza, 1997 ; Levelt, 1995 ; Dell et al., 2014)。彼らによると、言葉を産出する際に、思考レベルで生み出された概念的メッセージは、メンタルレキシコンの意味的階層から形式的階層へ、2段階の処理プロセスを通じて言語化されていく。まず、意味的階層において、概念的メッセージに関連する意味・統語情報が数多く活性化され、その中から適切な内容を選出する語彙選択と、統語的コンテキストを構築する文法符号化という処理作業が行われる。次に、形式的階層では、音声・音韻情報が活性化され、抽象的な意味情報に具体的な音声・音韻情報を付与する音韻符号化処理によって、発話のための構音プログラムが作り上げられる。2つの言語システムを持つバイリンガルの場合、2言語情報がどのように処理されるのかという問題を、数多くの先行研究が論じてきた (Costa, 2004, 2005 ; Costa, Colomé & Caramazza, 2000)。また、バイリンガルの言語処理に関するこれらの先行研究では、主に、概念的メッセージが2言語の記憶システムにアクセスするのか、言語処理の各段階において2言語情報の活性化状態が異なるのか、という2つの問題をめぐって考察が行われてきた。

バイリンガルの言語処理システムを議論した Costa (2004) によると、バイリンガル話者が発話する際に、会話場面での使用言語に関わらず、2つの言語システムが同時に活性化される。そして、その活性化が意味・統語情報を蓄える意味的階層から音韻・音声情報

に関わる形式的階層まで拡散していく。まず、意味的階層における 2 言語情報の活性化状態については、Koroll & Gollan (2014)、Costa & Caramazza (1999) などの研究によって検討された。彼らによると、言語処理において、バイリンガル話者の 2 言語システムにある意味・統語情報の相互的活性化が見られた。また、このことに関して、先行研究では (Costa & Caramazza, 1999 ; Costa et al., 2000) 概念的イメージと言語情報とのマッピング状況を測定する絵命名課題を用いて検証を行った。例えば、Costa et al. (2000) では、バイリンガル話者を対象に 2 言語での絵命名課題を実施した。その結果、文化的あるいは意味的近似性の高い語を表す刺激内容に対するバイリンガル話者の反応時間は、2 言語間の意味的近似性の低い語より短いということがわかった。このことから、バイリンガル話者の場合には、一方の言語の意味情報を活性化すると、それに関連するもう一方の言語の意味情報も刺激されることが示唆された。

そして、意味的階層だけではなく、形式的階層の処理でも、2 言語間の相互的活性化が見られる (Colome, 2001 ; Koroll & Gollan, 2014)。2 言語の音韻的類似性がバイリンガル話者の言語産出に与える影響を検証するために、Colome (2001) はスペイン-英語バイリンガル話者を対象に絵命名課題を実施した。彼の絵命名課題では、音韻的に類似している文化的異質語を刺激内容として、実験者に 2 つの言語で命名させた。その結果、音韻的に類似している刺激内容の反応時間がそうでないものより速いことが分かった。このことから、バイリンガル話者の絵命名課題において、両言語の意味的関連性だけではなく、音韻的類似性も 2 言語間の相互的活性化を引き起こすことが指摘された。即ち、バイリンガル話者が発話する際に、一方の言語の音韻情報が刺激されると、その音韻情報と近似しているもう一方の言語の音韻情報も活性化されるということである。

また、単一言語話者の言語処理におけるこのような 2 段階処理の関係性を議論した Aitchison (2003) によると、概念的メッセージによって引き起こされるメンタルレキシコンの活性化は意味的階層から形式的階層への一方的な拡散だけではなく、逆方向のフィードバックも起こる。そして、2 つの言語処理部門において、関連するリンクの活性化をどんどん強化し、不要な活性化情報を徐々に抑制し、その中から最も適切な内容を選択する。つまり、2 つの処理段階で活性化された意味情報と音韻情報が互いに影響し合いながら、双方向的に情報処理が行われる。ここでは、Aitchison (2003) の相互活性化モデルを踏まえ、バイリンガル話者の言語処理の特性に関して、図 5-9 のようなモデルを提示する。

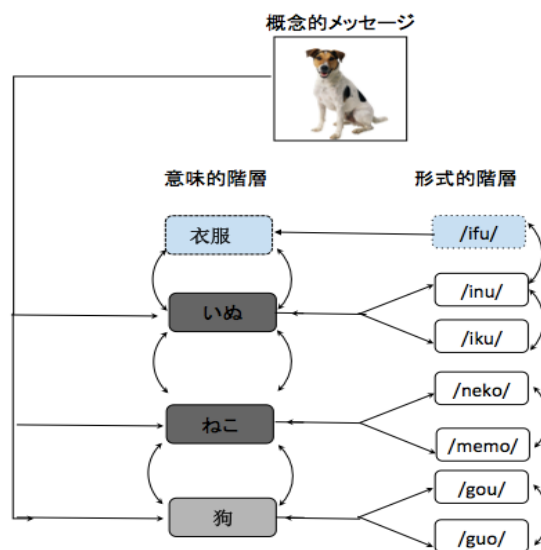


図 5-9 バイリンガルにおける 2 段階の言語処理モデル

図 5-9 で示したように、バイリンガル話者の言語処理において、概念的メッセージによる言語情報の活性化が 2 言語の言語システムで生起する。このような 2 言語情報の活性化が、意味情報の処理を担う意味的階層から音韻符号化処理に関わる形式的階層へ広がっていく。たとえば、日中バイリンガル話者が日本語でコミュニケーションする際に、「犬」という概念的メッセージによって、日本語の語彙システムに蓄える「いぬ」や「ねこ」などの意味情報が刺激されると同時に、中国語の語彙システムにある「狗」などの中国語の語彙表現も一緒に活性化される。そして、意味的階層での 2 言語の意味情報の活性化が形式的階層に流れ込み、それに関連する音韻・音声情報を刺激する。即ち、日本語の「いぬ」、「ねこ」や中国語の「狗」などの意味情報に関連する /inu/、/iku/、/neko/、/memo/、/gou/、/guo/ など数多くの音韻情報が刺激されるようになる。さらに、形式的階層での活性化は意味的階層にフィードバックされ、より多くの意味情報を刺激する。特に、バイリンガル話者の音韻符号化処理においては、使用言語の音韻情報が活性化されると同時に、その音韻情報と音韻的に類似しているもう一方の言語情報も刺激される。たとえば、/inu/ という音韻情報の刺激によって、それと類似している /ifu/ という中国語の発音も活性化してしまう。そして、このような活性化は意味的階層にフィードバックされ、そこではその音韻情報 (ex./ifu/) に対応する意味情報 (ex.「衣服」) の活性化を呼び起こす。つまり、概念的メッセージによって刺激された 2 言語の語彙・音韻情報は 2 つの処理部門の間を双方向的に流れ、互いに影響し合いながら関連する情報を活性化していくのである。また、第 4 章で検証したように、概念的メッセージによって刺激された 2 言語情報は、文化的・個人的要

因によって強く影響される。具体的には、概念的メッセージによる2言語システムの言語情報の活性化状態は、その概念情報に含まれた文化的特性及びバイリンガル話者の言語使用・習得環境と密接に関わっていることが、第4章の検証実験で明らかになった。

以上のことから、バイリンガル話者の言語処理では、概念的メッセージによって2つの言語システムの情報が同時に刺激されるため、自動的に活性化されて候補となる情報がモノリンガルと比べてより多くなることが分かった。このような無意識のうちに活性化された2言語の意味・音韻情報から、最終的に必要な情報を1つ選出する作業には、より多くの認知資源が必要となる (Caramazza & Miozzo, 1998)。つまり、バイリンガルの言語処理で行われたるより多数の候補情報の中の不必要な選択肢を抑制し、1つの言葉に絞り込んでいくというプロセスは、モノリンガルのそれと比べてより複雑になるということである。そのため、バイリンガル話者が言葉を検索する際は、より強い抑制機能が必要とされる (Finkbeiner et al., 2006 ; Kroll et al., 2008)。そして、Meuter & Allport (1999)によると、不必要な活性化情報の抑圧に消費する認知資源は言語によって異なる。具体的には、言語能力が高い母語情報の活性化を抑制するには、よく多くの認知コストが必要となる。このことに関して、Costa & Santesteban (2004) は、2種類のバイリンガル話者 (スペイン人英語学習者、韓国人スペイン語学習者) を対象に、2言語切り替えの絵命名課題を実施した。彼らの実験結果によると、いずれの調査グループでも、L2 から L1 へ切り替えて命名する方が反対方向より時間がかかる。このことから、L1 からの候補情報の抑圧に伴う認知コストの方が、より高いことが示唆される。それは、言語能力が比較的低い L2 と比べて、L1 の言語情報の方がより強く活性化されやすいため、と考えられる。次に、2言語処理に関わる抑制機能と切り替え機能に焦点を当て、神経科学の研究成果を踏まえながら、バイリンガルの言語処理に必要とされる実行機能に関わる脳内神経基盤について検討する。

4.2 バイリンガルの言語処理に関わる脳内メカニズム

前項では、概念的メッセージを言語情報に変換する言語処理におけるバイリンガルの特性について検討した。そこから、バイリンガル話者が言葉を話す際に、2つの言語システムにある語彙・音韻情報が同時に刺激されることがわかった。このような、2言語の活性化情報から最も適切な言葉を選出するバイリンガルの言語処理においては、モノリンガルと比べて、より強力な抑制機能と切り替え機能が必要となる。ここでは、抑制機能と切り

替え機能という 2 つの実行機能に焦点を当て、バイリンガルの言語処理システムに関わる脳内メカニズムについて検討していく。

脳科学の研究分野において、抑制機能と切り替え機能が 2 つの重要な実行機能として、脳の高次機能に関心を持つ先行研究で論じられてきた(船橋, 2002, 2005 ; 渡邊, 2005)。まず、抑制機能と切り替え機能を議論する研究において、ストループ課題という実験手法が広く使われる。ストループ課題というのは、色を表す文字を他の色のインクで書かれたカードで提示し、実験者にインクの色あるいは文字の意味を答えさせることである。例えば、赤いインクで書かれた「緑」という文字カードを実験者に呈示し、インクの色を答えさせる。実験者がこのようなストループ課題を遂行する際に、「赤い」というインクの色を正確に答えるためには、「緑」という文字によって刺激された意味情報を抑圧しなければならない。その際、ストループ課題を行う実験者には、文字の意味とインクの色が不一致なことから認知的な葛藤が生じるため、不要な情報の活性化を抑制する機能、及び意味情報から視覚情報への処理に素早く切り替える機能が必要となる。そして、久津木(2014)では、ストループ課題のような抑制能力、切り替え能力が必要とされる課題では、バイリンガルの子供はモノリンガルの子供より成績の良いことが見られる、と指摘した。このことに関して、バイリンガル話者が 2 言語使用の経験を蓄積するうちに、必要な情報に注意を払い不要なものを抑制する能力、コミュニケーション場面や個人の意志に応じて 2 言語情報を切り替えて使用する能力も促進されると考えられる。特に、バイリンガル話者の認知能力に関する最近のバイリンガル研究では、モノリンガルと比べて、2 言語環境で生活するバイリンガルの方が言語的・認知的柔軟性が高く、実行機能がより優れていると考える研究者が多くなってきた(久津木, 2014 ; 井狩, 2015)。

そして、このような抑制機能と切り替え機能を実行する脳部位に関しても、最近の脳科学研究で盛んに論じられている(船橋, 2002, 2005 ; 渡邊, 2005)。例えば、船橋(2005)では、抑制機能に関連する脳部位に関して、サルを用いた脳科学研究の成果から類推している。彼によると、前頭前野の外側部が破壊されたサルには、すでに記憶された不要な情報を抑制し、新しい情報に更新する作業ができなくなる障害が観察された。このことから、不必要な情報を抑制し、新しい行動に切り替える実行機能が、前頭前野の外側部と深く関与していることが示唆される(船橋, 2005)。また、人間の言語処理における実行機能に焦点を当てた最近の脳機能イメージング研究(苧坂, 2002 ; 2008)から、抑制機能が前部帯状回(ACC)などの領域と関係していることも明らかにされた。苧坂(2002, 2008)

では言語性ワーキングメモリの実行機能に関連する神経基盤を解明するために、脳機能イメージングを用いて実験的な検証が行われた。前でも議論したように、彼は、ワーキングメモリの実行機能を測定する RST と NF-RST を実施した。NF-RST では、文中で明示的に示したフォーカス語と再生すべきターゲット語を不一致にする条件を作り上げる。その結果、単語間で葛藤が生じる NF-RST 課題を遂行する実験者の脳内では、前部帯状回 (ACC) の活動が顕著に増強することが観察された。この実験の結果から、言語処理において、競合状態にある多様な言語情報の中の不必要な活性化情報を抑制する機能が、前部帯状回 (ACC) と密接に関わっていることが示唆される。

バイリンガルは言葉を発する際に、モノリンガルと同様に必要に応じて適切な語彙・音声情報を選択すると同時に、使用言語を選択し、切り替える自由度も持っている。以下では、脳科学研究を踏まえながら、特に、行動の切り替え機能に関わる脳内活動を議論した Hikosaka & Isoda (2010)、武田他 (2012) の知見を援用しながら、言語コードの切り替えと関連している脳部位について検討していく。

まず Hikosaka & Isoda (2010) では、行動の切り替え制御に関与する脳内活動について、サルを用いた動物実験を行った。彼らによると、サルが具体的な状況に応じて学習した運動を切り替える際に、前頭前野に含まれる前部帯状回と前補足運動野のニューロン活動が強く活性化される。特に、現在の行動から新しい行動へ変更しようとする切り替えの意図が生み出される時点から、前補足運動野のニューロン活動の増強が見られた。また、前部帯状回のニューロンの活性化が、新しい行動の開始後に増強することが観察された。そして、武田他 (2012) は、これらの実験結果に基づき、言語活動での切り替え機能と関わっている脳内メカニズムについて考察した。彼らによると、前部帯状回は適切な発話がされなかったことに伴う負のフィードバックによる構文の切り替え機能を制御し、前補足運動野は話し手が状況の変化をあらかじめ認知し、発話以前に構文プログラムの切り替えをする際の機能制御をしている。以上の議論から、前補足運動野は言語コードの切り替えが開始する前に、会話場面、状況に応じて適切な言語使用を選択する機能を担う。一方、前部帯状回は発話行動開始の後に、話し相手や自己モニターからのフィードバックに合わせて、より適切な発話行動への調整に関与することが示唆される。この 2 つの領域は、バイリンガル話者の 2 言語選択や 2 言語コードの切り替えと密接に関わっている脳部位であろうと考えている。

5 まとめ

本章では、まず、モノリンガルの言語産出システムを解釈した Levelt (1989) のスピーキング・モデルを援用し、概念産出システム、言語処理システム、調音処理システムという3つの言語処理機構について簡単に紹介した。その中で、バイリンガル話者の特性が顕著に見られる言語処理システムに焦点を当て、そこで行われる言語処理の仕組み、及びそれを支える脳内システムと神経基盤について考察を行った。そして、モノリンガルの言語処理システムに関する考察を踏まえ、バイリンガルの言語処理に見られる特性及び特別な実行機能をそれぞれ検討してきた。以上の考察から、バイリンガル話者の脳内に備わっている言語処理システムとメンタルレキシコンとの相互作用を明らかにした。具体的には、バイリンガルの言語処理においては、2つの言語システムが同時に活性化され、このような活性化が意味的階層と形式的階層の2つの処理部門で双方向的に生起する。また、2つの言語システムの情報が同時に活性化されるバイリンガルの言語処理では、より多くの候補情報から適切な言葉を選出することに、より強力な抑制機能と切り替え機能が要求される。そして、抑制機能と切り替え機能に関わる脳内メカニズムを議論した脳科学研究に基づき、以下のような考察を行った。即ち、不必要な反応を抑制し、新しい行動に切り替える仕組みが前頭前野の外側部に存在すると考えられる。特に、言語処理において、前補足運動野のニューロンは、具体的な状況変化をあらかじめ認知し、それに応じて適切に選択し、切り替える機能を担う。そして、前部帯状回 (ACC) のニューロンは切り替え行動のフィードバックを受け取り、競合している言語情報の中の不必要な内容を抑制し、発話行動を調整する役割を果たす。このことから、バイリンガル話者の2言語選択や2言語コードの切り替えは、前部帯状回及び前補足運動野と深く関連していると推測される。

終章

本章では、本研究においてこれまで論じてきた内容の要約と、本研究の限界及び今後の課題について述べる。

1 まとめ

バイリンガルがどのように 2 言語を習得、使用するのかについては、言語学、社会学、教育学など多様な研究分野において重要な課題として論じられてきた。従来のバイリンガリズム研究では、社会言語学や応用言語学などの観点からのアプローチから、バイリンガルの社会言語使用、2 言語能力の育成に関する研究がこれまでに数多く行われてきた。一方、近年、バイリンガルの 2 言語能力と認知的機能、脳内の神経活動との関係性に目を向ける神経心理言語学の研究が見られるが、これらの研究成果はまだ十分に蓄積されているとは言えない。特に、日本でのバイリンガリズム研究では、日英バイリンガルを対象とする研究がこれまで数多く行われてきた。一方、在日中国人や中国人日本語学習者のような日中バイリンガル話者の 2 言語処理の仕組みに関する研究は、ほとんど見られない。そこで、本研究では、中日偏重バイリンガル（在日中国人留学生：JSL と在中日本語学習者：JFL）を対象に、彼らの言語活動に頻繁に生起する CS 使用現象に焦点を当てて考察を行った。特に、彼らの 2 言語使用に関して、会話データに基づく談話分析をすると同時に、神経心理言語学の観点から 2 言語使用を支える言語処理メカニズムと脳内神経基盤について実験的・理論的な検討を行ってきた。

各章ごとの内容及び理論的・実践的な成果については以下の通りである。

第 1 章では、バイリンガルを対象とする先行研究について、社会言語学、応用言語学、心理言語学と神経言語学という 4 つの視点から検討した。このように多様な研究分野で行われてきた既存の研究を概観することによって、各研究領域におけるバイリンガルの捉え方を明確化し、バイリンガリズム研究の全体像を把握することができた。具体的にまとめると、以下の通りである。社会言語学の研究分野では、バイリンガルの言語生活に関わる社会的背景、バイリンガル話者の言語使用現象などの問題を論じてきた。言語教育のバイリンガリズム研究者は、学校におけるバイリンガルの言語能力と認知能力を持つ子供の育成に関心を持って議論を行ってきた。心理言語学におけるバイリンガリズム研究は、2 言語機能を支える認知的メカニズムに焦点を当て、バイリンガルの言語習得と言語記憶システムについて検討した。そして、近年、バイリンガリズム研究において、脳機能イメージ

ングを用いてバイリンガルの言語処理に関わる脳内活動を観察する新しい研究手法が注目されている。ただし、バイリンガリズムに関する従来の研究において、日中バイリンガルに目を向けるものが少ないのが現状である。また、これらのバイリンガリズム研究では、社会言語学と応用言語学の視点から分析したものは豊富であるが、バイリンガルの2言語使用・習得に関わる認知機能及び脳機能の問題に関して、解明されていない点がまだまだたくさん残っている。即ち、日中バイリンガルの2言語使用を支える認知的なメカニズム、脳内言語処理システムについて、まだ検討の余地があると考えられる。

第2章では、第3章と第4章で行う実証分析に向けた準備作業として、バイリンガリズム研究におけるCS使用と2言語知識の記憶システムに関する先行研究に焦点を当て、検討を行った。具体的には、CSがなぜ、いかに起こるのかという2つの問題を取り上げて、社会言語学、語用論、統語論という3つのアプローチから、CSの使用形態、談話的機能、文法的規則についてそれぞれ検討した。CSの談話的機能に注目した社会言語学的及び語用論的な研究では、CS使用はバイリンガル話者に特有のストラテジーとして、情報伝達機能、談話調整機能などのコミュニケーション機能を果たすことが議論された。そして、バイリンガル話者のCS使用形態に関して、2言語コードの切り替え位置によって付加的CS、文内CS、文間CSという3つのパターンに分けることが先行研究で指摘された。特に、2つの文法システムのぶつかり合いが生じる文内CSの文法的規則に関して、数多くの言語学者が統語論的な視点から考察してきた。また、第2章の後半では、バイリンガルの2言語習得・使用を支える認知的諸要素に関して、記憶研究を起点として、心理言語学的アプローチから考察してきた。特に、母語獲得と第2言語習得において、語彙情報の習得プロセスと記憶方法を考察し、バイリンガル話者における2言語の語彙記憶システムの構築と特性について検討した。同時に、バイリンガルの言語記憶システムに関する既存モデルの限界と不備な点について検討を行ってきた。このようなCSの談話的機能、使用形態とバイリンガルの言語記憶システムを議論した先行研究から得られた知見が、第3章以降で行う実証分析において、重要な理論的基礎として援用された。

第3章では、日中バイリンガル(JSLとJFL)の日常会話に生起する中国語から日本語へのCSに焦点を当て、実際に収集した会話データをもとに、CSの談話的機能と使用形態について談話分析を行った。まず、第2章で議論したCSの談話的機能と使用形態に関する知見を踏まえ、本データ分析の理論的枠組みを紹介した。そして、JSLとJFLのCS発話に見られた機能的特徴と形態的特徴についてデータ分析を行った。その結果、まず、両

グループの CS 発話に現れた機能的特徴として、JSL の CS 使用は発話者の自己伝達に注目した「意味的機能」を果たすものに集中し、発話内容を効率的に伝達することに重点を置くものであることがわかった。一方、JFL の CS 発話では、会話参加者のインターアクションに関連した「対人的機能」CS の割合が最も高く、JFL が自分の感情を表出したり、聞き手との関係を強化するために CS する傾向が見られた。次に、CS の使用実態に関して JSL と JFL の会話データを分析した結果、いずれの調査グループの CS 発話でも、「文内 CS」が圧倒的に多く行われ、特に、名詞類の CS が最も頻繁に見られることがわかった。その原因として、世界に存在しているモノの名前や事物のカテゴリーを表す名詞は、他種類の語彙より意味、概念を対応づけやすいことが考えられる。そして、両グループの相違点に関しては、JSL の CS 発話の場合、事物の命名や記述に用いられる名詞類の CS がより頻繁に切り替えられ、CS された名詞の意味の種類もバリエーションに富んでいることがわかった。一方、JFL の場合は、名詞類 CS の割合が JSL より大幅に低く、主観的な評価と感情表出の形容詞類の CS がより多く行われる傾向が見られた。その原因として、まず、日本語を L2 として日本で生活する JSL の場合、身をもって周りの物事を体験、学習すると同時に、母語で接触したことがない概念を日本語で獲得する機会が、JFL と比べて多いこと、また、中国で日本語を学習する JFL にとっては、有標性が高い日本語を使用することが自分の感情や主観性を強調することに極めて有効であること、が考えられる。

第 4 章では、語彙近接性ランキング課題と翻訳課題、絵命名課題の実施を通じて、日中バイリンガル話者における言語記憶システムの特性とその構造形態について実証分析を行った。このような実験的検討を通じて、CS 使用現象がどのような認知メカニズムによって生起するのかという問題の解明を目指した。まず、語彙近接性ランキング課題を用いて、意味情報の記憶形態を説明した De Groot (1995) の特徴要素モデルを検証すると同時に、中日偏重バイリンガルにおける 2 言語の意味要素領域の特性について検討した。その結果、まず、両言語の意味部門での共通領域に関して、動詞より、名詞、形容詞の方が 2 言語で共通する意味要素領域の範囲が大きいことが明らかになった。また、意味部門における言語ごとに有する意味要素領域について、L2 と結びつく意味要素領域は JSL の方が広いのに対して、L1 と結びつく意味要素の範囲は JFL の方が大きい傾向が見られた。これらの結果から、バイリンガルにおける 2 言語の意味情報の記憶形態が、品詞体系と言語習得環境によって影響されることがわかった。そして、偏重バイリンガルにおける言語形式と意味情報のつながりを議論した Kroll & Stewart (1994) の改訂階層モデルを参考として、

翻訳課題と絵命名課題の実験データに基づき、日中バイリンガルの2言語処理モデルについて検討した。2つの実験の結果から、JSLにおいて、共通の意味要素と中国文化の意味要素を表す日本語は、中国語の言語システムを経由して語彙連結で習得されるのに対し、日本文化の意味要素を表す日本語は概念連結によって直接に獲得されることがわかった。このことにより、JSLの中国語基盤会話で、日本特有の食べ物や地名など日本文化に関連する意味要素を表す日本語がCSの対象になりやすいことが説明される。それに対し、JFLの場合には、意味要素の種類にかかわらず、日本語の語彙が中国語を媒介とする語彙連結に依存し、学習、処理される傾向が見られた。以上のことは、JSLの中国語基盤会話において、日本語の語彙を挿入するCS使用現象が、JFLに比べてより頻繁に観察される1つの重要な原因になると考えられる。また、以上のことから、日中バイリンガルにおける日本語の語彙処理方略がL2の習得環境によって異なってくることも明らかになった。

第5章では、言語情報処理を支える認知的メカニズムと脳内神経基盤に関する神経心理言語学研究から得られた知見に基づき、バイリンガルの言語産出処理に関わる認知的・神経科学的な原理を追求した。まず、モノリンガルの言語産出プロセスを解釈する有力な知見とみなされた Levelt (1989) のスピーキング・モデルを用いて、そこで考案された「概念産出システム」、「言語処理システム」、「調音処理システム」という3つの処理機構について紹介した。その中の、概念的メッセージを言語情報に変換する処理を担う言語処理システムでは、バイリンガル話者の特性が顕著に見られる。そのため、言語処理システムに焦点を当てて、概念的メッセージを言語化する作業の処理プロセスと、それに関わる脳内処理システムについて詳しく考察した。まず、言語処理システムでの処理プロセスについて、以下のことが考察された。言語処理システムでは、メンタルレキシコンに記憶された意味・音韻情報が活性化され、意味的階層での語彙アクセス処理と形式的階層で行われる音韻符号化処理という2つの処理部門の連携作業によって、概念的メッセージを言語情報に変化していく。そして、言語処理システムにおける言語情報処理は、人間の高次的認知活動において役割を果たすワーキングメモリと密接に関わる。具体的には、意味的階層の意味・統語情報の処理は長期記憶とのやりとり機能を担うエピソードバッファと密接に関わり、音韻符号化処理は音声情報の処理機能を担う音韻ループによって実行される。言語情報処理では、中央実行系の情報統合機能、注意維持機能と抑制機能などの実行機能も不可欠であると考えられる。言語処理を実行するワーキングメモリの脳内神経基盤について、音韻ループの一時的保持機能は上側頭回にある縁上回と、発話プログラムの作成機能は下

前頭回のブローカ領域と深く関わると考えられる。言語処理を支えるワーキングメモリの注意維持機能は前頭前野背外側と関わり、不必要な情報の活性化を抑制する機能は前部帯状回によって実行されると、従来の脳科学研究で指摘されている。これらの考察を踏まえて、バイリンガルにおける言語処理システムの特性と特別な実行機能について検討した。その結果、バイリンガル話者が発話する際は、使用言語にかかわらず、2つの言語システムの語彙情報や音韻情報が同時に刺激されると考えられた。そのため、2つの言語システムと関わるバイリンガルの言語処理にはより優れた抑制機能、切り替え機能が必要とされると考えられた。また、抑制機能と切り替え機能について議論する脳科学研究によると、前補足運動野は言語の切り替え行動が開始する前に、状況に応じて適切な言語使用を選択し、切り替える機能に関連している、一方、前部帯状回は切り替え行動からのフィードバックに対応し、不要な活性化情報を抑制し、より適切な発話プログラムに調整する機能制御をしている。このような抑制機能と切り替え機能を実行する前部帯状回と前補足運動野は、バイリンガル話者の2言語選択や2言語コードの切り替え使用と密接に関わっている脳部位である、と推測された。

2 本研究の限界と今後の課題

最後に、本研究の限界と今後の課題について述べる。

まず、本研究の研究内容における問題点として、少なくとも以下の2点が挙げられる。第一に、本研究は日中バイリンガルの2言語使用に関わる言語記憶システムを分析するために、意味領域の特性と各構成部門の結びつき方に焦点を当て、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題の実験結果に基づき検証的分析を行った。特に、本研究の実証分析から、言語記憶システムの構造形態については、言語習得環境、使用言語、品詞体系、意味要素の文化的性質などの要因が影響していることがうかがえる。ただし、言語能力、言語意識、日常の言語使用状況、第2言語の学習年数など、調査協力者に関わる要因が言語記憶システムの構築にどのような影響を及ぼすのかについては、十分に検討されていない。おそらく、バイリンガルの言語記憶システムはこれら複数の要因によって強く影響され、ダイナミックな側面を持つと考えられる。今後は、これらの影響要因を考慮した上で、バイリンガルの言語記憶システムに関するモデルの構築に向けて、さらなる理論的・実証的な研究を行う必要がある。第二に、2言語の処理システムを支える脳内神経基盤については、従来の神経心理言語学の研究成果に基づいて検討してきたが、今後更なる実験的な検証も必

要である。たとえば、本研究で考察した結果では、バイリンガル話者の 2 言語選択や 2 言語コードの切り替えが、抑制機能と切り替え機能を実行する前部帯状回及び前補足運動野と密接に関係していると考えてきた。今後、実験の条件を整えることができれば、抑制機能と切り替え機能に関わる脳内ニューロン活動に焦点を当て、新たな研究へと発展させていきたい。

次に、本研究では、バイリンガルの言語記憶システムを考察するために、語彙近接性ランキング課題、翻訳課題と絵命名課題という 3 つの言語課題を実施した。実験課題の設計に関して、以下の 2 つの問題点が挙げられる。第一に、今回実施した語彙近接性ランキング課題に使われた提示語彙と連想語彙は、第 4 章で紹介した 5 つの選出基準に基づき選出されたものである。特に、連想語彙を選出する際に、自由連想課題というパイロット調査を実施し、その結果を重要な選出基準として用いた。しかしながら、このような自由連想課題が日中バイリンガル話者 3 人に限られて実施されたものである。そのため、連想語彙を選出する際の客観性に検討する余地がある、と言わざるを得ないだろう。今後の調査では、提示語彙と連想語彙の選出について、連想語彙間の意味的相違の明確な区別に焦点を絞って再考し、より客観性の高い選出基準を工夫していきたいと考えている。第二に、今回の翻訳課題と絵命名課題で提示された刺激内容は、その文化的性質によって、共通の意味要素とそれぞれの文化に固有の意味要素に区分した。しかしながら、特に、実験課題を設定する際に、語彙情報に含まれる文化的性質がその語彙の使用頻度に与える影響については、十分に考慮されていない。文化的性質による使用頻度の高低差が、実験協力者の反応速度に影響する可能性も十分あり得る。こういった点については、今後更なる検討の必要があるだろう。

最後に、本研究の研究対象に関して、以下の 2 つの問題点があると考えられる。まず、本研究では、日中バイリンガルの言語活動で見られた CS 使用の談話的機能と使用形態を調査するために、日本で生活している JSL と中国で日本語を学習する JFL を対象に会話データの収集を実施した。しかしながら、今回は調査条件が限られていたため、JFL の会話データ収集数 (26 名) は、JSL の調査協力者人数 (44 名) から大きくかけ離れている。このように大きな人数差は、両グループの比較分析の結果に影響をもたらす可能性が高いと言える。分析結果の蓋然性を高めるために、今後は、JFL の調査協力者を増やし、更なる調査を行う必要がある。次に、本研究はバイリンガルの 2 言語使用と語彙記憶システムに注目し実証分析を行ったが、分析対象が JSL と JFL という中日偏重バイリンガルに限られている。今後は、分析対象を在日 2 世のような均衡バイリンガルまで拡大し、より多様な日中バイ

リンガル話者に関わる問題として議論していくことが課題となる。特に、バイリンガル話者の 2 言語の習得時期、言語使用環境、言語の社会的位置づけは、2 言語の使用形態と言語処理メカニズムに強く影響をもたらすと考えられる。このような点を踏まえつつ、今後は、CS 使用実態と 2 言語処理システムという点に目を向け、均衡バイリンガルと偏重バイリンガルに関する比較分析を進めていきたい。このように多様な形態の日中バイリンガルを含めた比較分析が実現すれば、バイリンガルの言語発達における臨界期や習得環境の影響を明らかにする上で、極めて意味深い研究となるであろう。

参考文献

- 相馬芳明 (1997) 「音韻性 (構音性) ループの神経基盤」『失語症研究』第 17 号 pp.149-188.
- 秋山哲史・内海彰 (2010) 「概念間の関係に関する単語の意味空間の性質-コーパス、構築手法、文章単位による影響-」『Cognitive Studies』第 17 巻第 1 号 pp.110-128.
- 浅川伸一 (2012) 「脳損傷患者の症例から見た読字過程」川崎恵理子 (編)『認知心理学の新展開：言語と記憶』 pp.56-67 ナカニシヤ出版.
- 東照二 (2000) 『バイリンガリズム-二言語併用はいかに可能か-』講談社.
- 東照二 (2011) 『社会言語学入門：生きた言葉のおもしろさに迫る』研究社.
- アラン・バドリー (2012) 『ワーキングメモリ-思考と行為の心理学基盤-』井関龍太・斎藤智・川崎恵理子 (訳) 誠信書房.
- 井狩幸男 (2009) 『生きた言葉を習得するための英語教育-母語獲得と脳科学の研究成果を踏まえて-』「博士論文」大阪市立大学.
- 井狩幸男 (2012) 『小学校外国語活動の進め方-「ことばの教育」として-』岡秀夫、金森強 (編著) 井狩幸男、萬谷隆一他 (著) 成美堂.
- 井狩幸男 (2014) 「バイリンガリズムと第 2 言語習得」『バイリンガリズム入門』山本雅代 (編), 井狩幸男, 田浦秀幸, 難波和彦 (著) pp.37-47 大修館書店.
- 井狩幸男 (2015) 「バイリンガル児の認知発達」『日本認知科学会第 32 回大会論文集』 pp.731-733.
- 井狩幸男 (2016) 「英語学習における気づきのメカニズム」『ことばの科学研究』第 17 号 pp.5-9.
- 石川圭一 (2005) 『ことばと心理-言語の認知メカニズムを探る』くろしお出版.
- 伊東裕司 (1994) 「認知と学習の認知心理学」市川伸一・伊東裕司・渡邊邦嘉・安西祐一郎 (編)『認知科学 5：記憶と学習』 pp.2-39 岩波書店.
- 井上毅 (1991) 「意味記憶における語彙表象と音韻的プライミング効果」『心理学研究』第 62 巻 pp.244-250.
- 井上毅・佐藤浩一 (2001) 『日常認知の心理学』北大路書房.
- 今井久登 (1995) 「意味的・統語的なプライミング効果とその処理段階」『心理学研究』第 66 巻第 1 号 pp.1-9.
- 今井むつみ (2000) 『心の生得性-言語・概念獲得に生得的制約は必要か-』共立出版.
- 今井むつみ (2004) 「メンタルレキシコンの性質と獲得」『認知リハビリテーション 2004』 pp.1-7.
- 今井むつみ・針生悦子 (2007) 『レキシコンの構築-子どもはどのように語と概念を学んでいくのか-』岩波書店.
- 上野恵司 (1997) 『中英日対照分類中国語基本語彙』白帝社.
- 宇佐美まゆみ (1997) 「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) の開発について」『日本人の談話行動のスク립ト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度科学研究費補助金基盤研究 B (2) 研究成果報告書.
- 宇佐美まゆみ・肖婷婷・戴琦・高娃・李宇霞・仇曉妮 (2007) 「基本的な文字化原則の中国語版 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) の中国語への応用について」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度科学研究費補助金基盤研究 B(2)研究成果報告書 pp.83-103.
- 梅本堯夫 (1984) 「記憶の分類とその再検討」『失語症研究』第 4 巻第 2 号 pp.614-619.
- 江尻佳子 (2000) 『乳児における音声発生の基礎過程』風間書房.

- 王鑫 (2009) 「日本における華僑学校の変遷とその地域的特徴-神戸中華同文学校と横浜山手中華学校を中心に-」『教育実践学論集』第 10 号 pp.125-133.
- 王秀芳 (2004) 「中国人留学生の言語行動に関する社会言語学的研究-場面による日本語と中国語の使い分け-」『言文』第 51 号 pp. 13-25.
- 王秀芳 (2005) 「日本における中国人オールドカマーの言語使用」『言語化学論集』第 9 卷 pp.95-106.
- 王秀芳 (2009) 「在日中国人留学生の言語使用における言語意識・言語能力の影響について」『社会言語科学』第 11 巻第 2 号 pp. 83-91.
- 生越直樹 (1983) 「在日朝鮮人の言語生活」『言語生活』第 376 号 pp.26-34 筑摩書房.
- 生越直樹 (1991) 「在日韓国・朝鮮人の言語生活」『月刊言語』1991 年 8 月号 pp.43-47 大修館書店.
- 生越直樹 (2003) 「使用者の属性から見る言語の使い分け-在日コリアンの場合-」『月刊言語』2003 年 6 月号 大修館書店.
- 生越直樹 (2005) 「在日コリアンの言語使用意識とその変化」真田信治・生越直樹・任榮哲 (編)『在日コリアンの言語相』和泉書院.
- 大石晴美 (2006) 『脳科学からの第二言語習得論-英語学習と教授法開発』昭和堂.
- 太田信夫 (1995) 「潜在記憶-意識下の情報処理-」『認知科学』第 2 巻第 3 号 pp.3-11.
- 岡直樹 (2001) 「意味記憶」太田信夫・多鹿秀継 (編)『記憶研究の最前線』pp.67-97 北大路書房.
- 岡崎敏雄 (2009) 『言語生態学と言語教育-人間の存在を支えるものとしての言語』凡人社.
- 苧坂満里子 (2002) 『脳のメモ帳ワーキングメモリ』新曜社.
- 苧坂満里子 (2008) 「ワーキングメモリにおける注意のフォーカスと抑制の脳内表現」苧坂直行 (編)『ワーキングメモリの脳内表現』pp.203-224 京都大学学術出版会.
- 苧坂満里子・西崎友規子 (2000) 「ワーキングメモリの中央実行系での処理の特性」苧坂直行 (編)『脳とワーキングメモリ』pp.77-102 京都大学学術出版会.
- 小那覇洋子 (2014) 「外国語習得における記憶のメカニズムとワーキングメモリ」『琉球大学欧米文化論集』第58号 pp.1-25.
- 小野博 (1989) 「二か国語教育と言語能力」『月刊言語』第 18 巻第 10 号 pp.52-53.
- 小野博 (1994) 『バイリンガルの科学-どうすればなれるのか?-』講談社.
- 郭銀心 (2006) 「韓国の帰国子女の言語生活-日本語と韓国語間のバイリンガリズムとコード・スイッチング-」任榮哲 (編)『韓国人による日本社会言語学研究』pp.201-222 おうふう.
- 門田修平 (2003) 『英語のメンタルレキシコン-語彙の獲得・処理・学習』松柏社.
- 金庭久美子 (2003) 「韓国語母語話者の動詞の使用状況」『横浜国立大学留学生センター紀要』第 10 号 pp.53-66.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (1996) 『言語学大辞典』第 6 巻 (術語編) 三省堂.
- 川上郁雄 (2014) 「ことばとアイデンティティ-複数言語環境で成長する子どもたちの生を考える-」『日本に住む多文化の子どもと教育-ことばと文化のはざままで生きる-』宮崎幸江 (編) pp.117-144 上智大学出版.
- 川口潤 (1995) 「プライミングの認知心理学-潜在認知・潜在記憶-」『失語症研究』第 15 巻第 3 号 pp.225-229.
- Cummins, J & 中島和子 (1985) 「トロント補習校小学生の二言語能力の構造」『バイリンカガル・バイカルチュラル教育の現状と課題-在外・帰国子女教育を中心として-』東

- 京学芸大学海外子女教育センター pp.143-179.
- Kasjan, A. (2004) 「多言語習得とその使用-二言語使用児のバイリンガル言語習得と外国語授業におけるバイリンガル教授法-」『言語文化研究叢書』第9巻 pp.1-14.
- 木下徹・大石晴美 (2010) 「プライミング効果と脳活性状態：言語処理の自動性における代替指標の可能性」『JACET 中部支部紀要』第8号 pp.1-14.
- 金智英 (2006) 「在日コリアン一世の言語運用の一実態」任栄哲(編)『韓国人による日本社会言語学研究』pp.168-182 おうふう.
- 金美善 (1998) 「在日コリアン一世の日本語-大阪市生野区に居住する一世の事例-」『大阪大学日本語学報』第17号 pp.71-83.
- 金美善 (2003) 「混じり合う言葉-在日コリアン一世の混用コードについて」『月刊言語』第6号 pp.46-52 大修館書店.
- 久津木文 (2006) 「バイリンガルの言語発達について」『心理学評論』第49巻第1号 pp.158-174.
- 久津木文 (2014) 「バイリンガルとして育つということ-二言語で生きることで起きる認知的影響-」 *Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin* 第17巻 pp.47-65.
- 工藤真由美 (2004) 「ブラジル日系社会言語調査報告」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第44巻第2号 pp.1-460.
- 黄鎮杰 (1994) 「在日韓国人の言語行動-コード切り替えに見られる言語体系と言語運用-」『大阪大学日本学報』第13号 pp.45-63.
- 黄丹青 (2005) 「日本における中華学校のバイリンガル教育実践に関する一考察-横浜山手中華学校を事例として-」『国立教育政策研究所紀要』第134集 pp.143-154.
- 児玉徳美 (2011) 「機能と構造」『立命館文学』第623号 pp.269-280.
- 小林一郎 (2017) 「意味へのアプローチ:ハリデー言語学の観点から」『認知科学』第24巻第1号 pp.8-15.
- 小林春美 (1997) 「語彙の獲得」小林春美・佐々木正人 (編)『子どもたちの言語獲得』pp.85-110 大修館書店.
- 小林由紀 (2012) 「文章理解の脳内メカニズム」川崎恵理子 (編)『認知心理学の新展開：言語と記憶』pp.153-169 ナカニシヤ出版.
- 小松伸一 (2001) 「意識と無意識の記憶」太田信夫・多鹿秀継 (編)『記憶研究の最前線』pp.125-148 北大路書房.
- 小松伸一・太田信夫 (1983a) 「単語完成課題におけるPriming効果 (1)」『日本心理学会第47回大会発表論文集』 p.307.
- 小松伸一・太田信夫 (1983b) 「異なる刺激表示条件でのプライミング効果」『日本教育心理学会第25回総会発表論文集』 pp.612-613.
- 小森早江子 (2014) 「語彙連想課題における日本語と英語の相違について」『人文学部研究論集』第33号 pp.69-79.
- 小柳かおる (2004) 『日本語教師ため新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク.
- 斎藤章江 (1999) 「言語産出における音韻的符号化段階とその障害」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第45号 pp.250-262.
- 斎藤智 (1993) 「高音抑制と記憶更新が音韻的類似性に及ぼす影響」『心理学研究』第64巻 pp.289-295.
- 斎藤智 (1997) 『音韻的作動記憶に関する研究』風間書房.
- 斎藤智 (1998) 「スピーチエラー誘導法による音韻ループ研究の可能性について」『大阪教育大学紀要』第47号 pp.111-122.

- 齋藤智 (2000) 「音韻ループと長期記憶とリズム」 苧坂直行 (編) 『脳とワーキングメモリ』 pp.277-298 京都大学学術出版会.
- 齋藤智 (2001) 「作動記憶」 太田信夫・多鹿秀継 (編) 『記憶研究の最前線』 pp.15-40 北大路書房.
- 酒井邦嘉 (2002) 『言語の脳科学—脳はどのようにことばを生み出すか』 中公新書.
- 佐藤郁 (2014) 「イマージョン教育の現状と課題：アイルランドと日本の場合」 『国際地域学研究』 第 17 号 pp.55-70.
- 真田信治・生越直樹・任榮哲 (2005) 『在日コリアンの言語相』 和泉書院.
- 澤口俊之・射場美智代・依岡幸子・福士珠美 (2001) 「前頭連合野における情報統合と決断ニューロン機構—ワーキングメモリ過程と動的オペレーティングシステム仮説—」 丹治順・吉澤修治 (編) 『脳の高次機能』 朝倉書店.
- 重松由美 (2012) 「在日ブラジル人高校生・大学生の言語生活とアイデンティティ」 『椋山女学園大学教育学部紀要』 第 5 号 pp.59-68.
- 島本たい子 (1998) 「読解における語彙サイズと語彙方略について」 『The JASEC Bulletin』 pp.71-79.
- 渋谷勝己 (2010) 「移民言語研究の潮流—日系人日本語変種の言語生態論的研究に向けて—」 『待兼山論叢文化動態論篇』 第 44 号 pp.1-23.
- 朱慧玲 (1999) 『華僑社会の変貌とその将来』 日本僑報社.
- ジョン・ガンパーズ (2004) 『認知と相互行為の社会言語学:ディスコース・ストラテジー』 井上逸兵・出原健一・花崎美紀・荒木瑞夫・多々良直弘 (訳) 松柏社.
- ジョン・C・マーハ, 八代京子 (1991) 『日本のバイリンガリズム』 東京: 研究社出版.
- 沈国威 (1991) 「珊瑚の場合—在日中国人子弟の二言語併用—」 『月刊言語』 1991 年 8 月号 pp.38-40.
- 田浦秀幸 (2012) 「新国際学校における英語圏からの帰国生徒のライティング力保持に関する一考察」, 『母語・継承語・バイリンガル教育研究』 第 8 号 pp.1-15.
- 田浦秀幸 (2013). 「機能的近赤外分光法(f-NIRS)の原理とバイリンガル第 1 言語保持に関する 4 年間の縦断実験研究」 *Studies in Language Science, Working Papers* 第 3 号 pp.13-34.
- 武田暁・猪苗代盛・三宅章吾 (2012) 『脳はいかにして言語を生み出すか』 講談社.
- 田尻英三 (2010) 「日本語教育政策・機関事業仕分け」 田尻英三・大津由紀雄 (編) 『言語政策を問う!』 pp.33-49 ひつじ書房.
- 田中真知 (2011) 『ひとはどこまで記憶できるのか—すごい記憶の法則—』 技術評論社.
- 玉岡賀津雄 (2013) 「メンタルレキシコンと語彙処理—レフェルトの WEAVER++モデル—」 『レキシコンフォーラム』 第 6 号 pp.327-345.
- 張澤崇 (2005) 「日本における華僑学校の現状 (その 1)」 『教養諸学研究』 第 118 号 pp.117-146.
- 陳於華 (2005) 「在日中国人の言語使用」 『事典日本の多言語社会』 .真田信治・庄司博史 (編) pp.218-221 岩波書店.
- 寺尾康 (1999) 「音韻性錯誤と健常者の言い誤りとの比較分析」 『失語症研究』 第19巻第3号 pp.193-198.
- 寺尾康 (2006) 「言語産出メカニズムの連続性について—言い間違いからみた言語発達—」 『ことばと文化』 第9号 pp.115-131.
- 寺尾康 (2008) 「言い間違い資料による言語産出モデルの検証」 『音声研究』 第12巻第3号 pp.17-27.

- 都恩珍 (2001) 「事例研究:日本語-韓国語混合文における在日コリアンのコード切り替え」『日本文化學報』第 10 号 韓国日本文化学会.
- 豊田国夫 (1964) 『民族と言語の問題-言語政策の課題とその考察-』錦正社.
- 内藤統也・秋川卓也 (2007) 『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版.
- 中川陽子・猪木省三 (2008) 「意味的プライミング効果と音韻的プライミング効果の関連性」『県立広島大学人間文化学部紀要』第 3 号 pp.121-128.
- 中島義明・子安増生・繁梲算男・箱田裕司・安藤清志・坂野雄二・立花政夫 (編) (1999) 『心理学辞典』有斐閣.
- 中島和子 (1998) 『バイリンガル教育の方法-12 歳までに親と教師ができること-』アルク.
- ナカミズ・エレン (1997) 「日本語におけるスタイル切り替えの習得段階-ブラジル人就労者の例-」『阪大日本語研究』第 9 号 pp.77-94.
- ナカミズ・エレン (2003) 「コード切り替えを引き起こすのは何か」『言語』第 32 巻第 6 号 pp.53-61.
- 中森誉之 (2013) 『外国語はどこに記憶されるのか-学びのための言語学応用論-』開拓社.
- 難波和彦 (2014a) 「コード・スイッチング: 社会言語学的側面」山本雅代 (編) 『バイリンガリズム入門』 pp.97-114 大修館書店.
- 難波和彦 (2014b). 「コード・スイッチング: 言語学的側面」山本雅代 (編) 『バイリンガリズム入門』 pp.115-129 大修館書店.
- 西原玲子 (2010) 『言語と社会・教育』朝倉書店.
- 任榮哲 (1993) 『在日・在米韓国人及び韓国人の言語生活の実態』くろしお出版.
- 任榮哲 (2006) 『韓国人による日本社会言語学研究』おうふう.
- 野口メアリー・ゲイブル (1999) 「家庭での読字指導は可能か-22 家族に見る成功の要因-」山本雅代 (編) 『バイリンガルの世界』 pp.33-63 大修館書店.
- 芳賀純 (1979) 『二言語併用の心理-言語心理学的研究-』朝倉書店.
- 服部圭子 (2001) 「接触場面における日本語非母語話者のコード・スイッチング-機能を中心に-」, 『大阪大学留学生センター研究論集 (多文化社会と留学生交流)』第 5 号 pp.39-58.
- 原田悦子 (1987) 「単語を越える直接プライミング効果-単語対における効果の検討-」『心理学研究』第 58 巻第 5 号 pp.302-308.
- 針生悦子 (2010) 「言語力の発達」市川伸一 (編) 『現代の認知心理学 5: 発達と学習』 pp.28-53 北大路書房.
- 福田一雄 (2010) 「日本語繫辞構文の過程構成に関する覚え書き」『言語の普遍性と個別性』第 1 号 pp.3-19.
- 福田由紀 (2012) 「心的辞書」福田由紀編著『言語心理学入門-言語力を育てる-』 pp.86-107 培風館.
- 福永由佳 (2015) 「言語意識のなかの歴史と社会-在日パキスタン移民の多言語使用を事例に-」『接触場面における相互行為の蓄積と評価接触場面の言語管理研究』第 12 号 pp.71-85.
- 福永由佳 (2017) 「日本語教育における複数言語使用の研究の意義と展望」『早稲田日本語教育学』第 22 号 pp.61-80.
- 藤井俊勝 (2000) 「ワーキングメモリの神経基盤」苧坂直行 (編) 『脳とワーキングメモリ』 pp.93-116 京都大学学術出版会.
- 藤村久和 (1985) 「アイヌ語は生き残るか」『言語』第 14 巻第 2 号 pp.36-41.

- 船橋新太郎 (2002) 「前頭葉と記憶」久保田競 (編) 『記憶と脳-過去・現在・未来をつなぐ脳のメカニズム-』 pp.69-132 サイエンス社.
- 船橋新太郎 (2005) 『前頭葉の謎を解く』 京都大学学術出版会.
- 文化庁 (1978) 『外国人のための基本語用例辞典第二版』 大蔵省印刷局.
- 文化庁国語課 (1989) 『中国帰国者用日本語教育指導の手引き (仮称) 職場・対人接触場面調査報告書』.
- ヘンシュ貴雄 (2003) 『頭のいい子ってなぜなの?』 海竜社.
- 細川英雄 (1993) 「形容詞の主観性について-対象内容による形容詞の分類とその位置付け-」 『早稲田日本語研究』 第 1 巻 pp.78-65.
- 堀場裕紀江・西菜穂子・松本順子・鈴木秀明・李榮・山方純子 (2011) 「日本語学習者の語彙知識の多面性：中国語母語話者の場合」 『Scientific approaches to language』 第 10 号 pp.49-83.
- 朴浩烈 (2016) 「在日コリアンにおける言語アイデンティティと言語生活の諸相」 『人文・自然研究』 第 10 号 pp.197-227.
- 坊農真弓・高梨克也 (2009) 『多人数インタラクションの分析手法』 オーム社.
- 益岡隆志 (2008) 『新日本語文法選書 2：複文』 くろしお出版.
- 三宅晶・斎藤智 (2001) 「作動記憶研究の現状と展開」 『心理学研究』 第 72 巻第 4 号 pp.336-350.
- 三宅恭子 (2002) 「言語による心的辞書構造の違い」 『ことばの科学』 第 15 号 pp.159-178.
- 三宅恭子 (2003) 「バイリンガルにおける概念の活性化と文化的要因」 『ことばの科学』 第 16 号 pp. 67-85.
- 宮崎里司 (2009) 「センサスに見る言語政策-外国人問題に対する行政課題」 田中慎也・木村哲也・宮崎里司 (編) 『移民時代の言語教育-言語政策のフロンティア (1) -』 pp.184-211 ココ出版.
- 宮原温子 (2012) 「フレーム・コンテンツ仮説の一検証」 『目白大学総合科学研究』 第 8 号 pp.83-92.
- メアリアン・ウルフ (2008) 『プルーストとイカ-読書は脳をどのように変えるのか-』 小松淳子 (訳) インターシフト.
- 森本郁代 (2001) 「地域日本語教育の批判と再検討-ボランティアの語りに見られるカテゴリー化を通して-」 野呂香代子・山下仁 (編) 『「正しさ」への問い-批判的社会言語学の試み-』 pp.215-247 三元社.
- 矢頭典枝 (2014) 「シンガポールの言語状況と言語教育について-現地調査から-」 『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究-成果報告書(2014)-』 pp.59-75.
- 藪内智 (2014) 「自由連想課題を通して見た日本人英語学習者のメンタルレキシコン」 『京都精華大学紀要』 第 46 号 pp.120-143.
- 山口登 (1998) 「選択体系機能理論による自然言語モデルの構図(その 2)-メタ機能-」 『日本ファジィ学会誌』 第 10 巻第 5 号 pp.764-774.
- 山下栄 (2003) 「継承言語を学習する子どもたち」 JACET バイリンガリズム研究会 (編) 『日本のバイリンガル教育-学校事例から学ぶ-』 pp.145-162 三修社.
- 山鳥重 (1998) 『ヒトはなぜことばを使えるか脳と心のふしぎ』 講談社.
- 山本雅代 (1991) 『バイリンガル-その実像と問題点-』 大修館書店.
- 山本雅代 (1994) 「バイリンガルの意味記憶貯蔵-その初期形態についての一考察」 『英米評論』 第 9 号 pp.61-77.

- 山本雅代 (1999) 『バイリンガルの世界』 大修館書店.
- 山本雅代 (2003) 『バイリンガルはどのように言語を習得するのか』 明石書店.
- 山本雅代 (2010) 「バイリンガル幼児-『受容バイリンガル』はどのように言語を使用しているか」, 『日本語学』 第 29 巻第 14 号 pp.170-182
- 山本雅代 (2013) 「『日本語-フィリピン諸語』異言語間家族の言語使用状況-『言語の威信性』を枠組みに-」 『国際学研究』 第 2 巻第 1 号 pp.9-19.
- 山本雅代 (2014a) 「バイリンガリズム・バイリンガルとは」 『バイリンガリズム入門』 山本雅代 (編) pp.3-15 大修館書店.
- 山本雅代 (2014b) 「異言語間家族の言語選択・使用」 『バイリンガリズム入門』 山本雅代 (編) pp.81-92 大修館書店.
- 湯川笑子 (2005) 「バイリンガルの言語喪失を語るための基礎知識」 『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』 創刊号 pp.1-24.
- 湯舟英一 (2007) 「長期記憶と英語教育 (1) -海馬と記憶の生成、記憶システムの分類、手続記憶と第二言語習得理論-」 『東洋大学人間科学総合研究所紀要』 第 7 号 pp.147-162.
- 湯本和子 (2003a) 「カナダのバイリンガル教育・日本のバイリンガル教育-イマージョン・プログラムの概略と評価-」 『奈川県立外語短期大学紀要. 総合篇』 第 26 号 pp.1-29.
- 湯本和子 (2003b) 「英語漬けプログラム: イマージョン教育」 JACET バイリンガリズム研究会 (編) 『日本のバイリンガル教育-学校事例から学ぶ-』 pp.67-88 三修社.
- 吉田さち (2005) 「二言語の能力とコード・スイッチング-韓国系民族学校の高校生を対象として-」 『社会言語科学』 第 8 巻第 1 号 pp.43-53.
- 吉田さち (2014) 「集団内のコードとしてのコード・スイッチング発話-日本在住コリアンのニューカマーにおける言語シフトの実態把握に向けての予備調査-」 『跡見学園女子大学文学部紀要』 第 49 号 pp.149-165.
- 横川博一・定藤規弘・吉田晴世 (2014) 『外国語運用能力はいかに熟達化するか-言語情報処理の自動化プロセスを探る-』 松柏社.
- 吉川敏博 (2017) 「バイリンガル脳の中の二つの言語」 『天理大学学報』 第 68 巻第 2 号 pp.21-34.
- 李美静 (2002) 「第 2 言語習得に関する概観-中日二言語を中心に-」 『人間文化論叢』 第 5 巻 pp.189-196.
- 渡邊正孝 (1994) 「記憶・学習行動と脳」 市川伸一・伊東裕司・渡邊邦嘉・安西祐一郎 (著) 『認知科学 5: 記憶と学習』 pp.46-95 岩波書店.
- 渡邊正孝 (2005) 『思考と脳-考える脳のしくみ-』 サイエンス社.
- Aitchison, J. (2003). *Words in the Mind: An Introduction to the Mental Lexicon*. Oxford: Blackwell. Third edition. 宮谷真人・酒井弘(訳) (2010) 『心のなかの言葉』 培風館.
- Atkinson R. C. & Shiffrin, R. M. (1971). The Control of Short-term Memory. *Scientific American*, 225, 82-90.
- Appel, R. & Muysken, P. (1987). *Language Contact and Bilingualism*. London: Edward Arnold.
- Asher, J. J. & Garcia, R. (1969). The Optimal Age to Learn a Foreign Language. *The Modern Language Journal*, 53, 334-341.
- Azuma, S. (1993). The Frame Content Hypothesis in Speech Production: Evidence from Intra-sentential Code Switching. *Linguistics* 31, 1071-1093.
- Baddeley, A. D. (2000). The Episodic Buffer: A New Component of Working Memory?. *Trends in Cognitive Sciences*, 4(11). 417-423.

- Baddeley, A. D. & Hitch, G.J. (1974). Working Memory. In G.A. Bower (eds.). *Recent Advances in learning and Motivation*, (8), 47-89. New York : Academic Press.
- Baddeley, A. D. & Logie, R.(1999). Working memory : The Multiple Component Model. In Miyake, A. & Shah, P. (eds.). *Models of Working Memory : An Introduction*, 28-61, New York : Cambridge University Press.
- Baker, C. (1996) *Foundations of Bilingual Education and Bilingualism*. Clevedon : Multilingual Matters. 岡秀夫 (訳・編) (2003) 『バイリンガル教育と第二言語習得』大修館書店.
- Baker, O. R. (1980) . Categories of Code-switching in Hispanic Communities : Untangling the Terminology. In *Sociolinguistics Working Papers*. 76, The University of Texas at Austin.
- Benson, J. F. (1987). *Working More Creatively With Groups*. London : Tavistock Publications.
- Bloomfield, L. (1935). *Language*. NewYork : Holt. 三宅鴻・日野資純 (訳) (1962) 『言語』大修館書店.
- Bokamba, E. (1989). Are There Syntactic Constraints on Code-mixing? *World English*, 8(3). 277-192.
- Caramazza, A. (1997). How Many Levels of Processing are There in Lexical Access?. *Cognitive Neuropsychology*, 14, 177-208.
- Caramazza, A. & Borones, I. (1980). Semantic Classification by Bilinguals. *Canadian Journal of Psychology*, 34, 77-81.
- Caramazza, A. & Miozzo, M. (1998). More is not Always Better : A Response to Roelofs, Meyer, and Levelt. *Cognition*, 69, 231-241.
- Cohen, N.J. & Squire, L.R. (1980). Preserved Learning and Retention of Pattern-analyzing Skill in Amnesia : Dissociation of Knowing How and Knowing That. *Science New Series*, 210(4466), 207-210.
- Collins, A. M. & Loftus, E. F. (1975). A Spreading Activation Theory of Semantic Processing. *Psychological Review*, 82(6), 407-428.
- Colomé, A. (2001). Lexical Activation in Bilinguals' Speech Production : Language-Specific or Language-independent? . *Journal of Memory and Language*, 45, 721-736.
- Cook, V. (1992). Evidence of Multicompetence. *Language Learning*, 42(4), 557-591.
- Costa, A. (2004). Speech Production in Bilinguals. In Bhatia, T. K. & Ritchie, W. C. (eds.), *The Handbook of Bilingualism*, Blackwell Publishing Ltd.
- Costa, A. (2005). Lexical Access in Bilingual Production. In Kroll, F.J. & De Groot, B.M.A. (eds.), *Handbook of Bilingualism : Psycholinguistic Approaches*, 308-325, Oxford University Press.
- Costa, A., & Caramazza, A. (1999). Is Lexical Selection Language Specific? Further Evidence from Spanish-English Bilinguals. *Bilingualism : Language and Cognition*, 2, 231-244.
- Costa, A., Caramazza, A. & Sebastian, N. (2000). The Cognate Facilitation Effect : Implications for Models of Lexical Access. *Journal of Experimental Psychology : Learning, Memory and Cognition*, 26, 1283-1296.
- Costa, A. , Colome, A. & Caramazza, A. (2000). Lexical Access in Speech Production :

- The Bilingual Case. *Psicológica*, 21, 403-437.
- Costa, A., Miozzo, M., & Caramazza, A. (1999). Lexical Selection in Bilinguals : Do Words in the Bilingual's Two Lexicons Compete for Selection? *Journal of Memory and Language*, 41(3), 365-397.
- Costa, A. & Santesteban, M. (2004). Lexical Access in Bilingual Speech Production : Evidence from Language Switching in Highly Proficient Bilinguals and L2 Learners. *Journal of Memory and Language*, 50, 491-511.
- Cummins, J. (1978). Educational Implications of Mother Tongue Maintenance in Minority-language Groups. *The Canadian Modern Language Review*, 34, 395-416.
- Cummins, J. (1979). Cognitive/Academic Language Proficiency, Linguistic Interdependence, the Optimum Age Question and Some Other Matters. *Working Papers on Bilingualism*, 19, 121-129.
- Cummins, J. (1984). Wanted : A Theoretical Framework for Relating Language Proficiency to Academic Achievement among Bilingual Students In Revera, C. (eds.), *Language Proficiency and Academic Achievement*. Clevedon : Multilingual Matters.
- Cummins, J. (1986). Empowering Minority Students : A Framework for Intervention. *Harvard Educational Review*, 56(1), 18-37.
- Cummins, J. & Swain, M. (1986). *Bilingualism in Education*. London: Longman.
- Daneman, M., & Carpenter, P. A. (1980). Individual Differences in Working Memory and Reading. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 19, 450-466.
- Darlrlymple-Alford, E.C. & Aamiry, A. (1970) . Word Associations of Bilinguals. *Psychonomic Science*, 21(6), 319-320.
- De-Bot, K. (1992). A Bilingual Production Model : Levelt's Speaking Model Adapted. *Applied Linguistics*, 13(1), 1-24.
- De Groot, A. M. B. (1995). Determinations of Bilingual Lexicon Semantic Organization. *Computer Assisted Language Learning*, 8, 151-180.
- De Groot, A. M. B. & Poot, R. (1997). Word Translation at Three Levels of Proficiency in a Second Language : The Ubiquitous Involvement of Conceptual Memory. *Language Learning*, 47, 215-264.
- De Houwer, A. (2009). An Introduction to Bilingual Development. *Bristol : Multilingual Matters*.
- Dopke, S. (1992). A Bilingual Child's Struggle to Comply with the "One Parent - One Language" Rule. *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 13, 467-485.
- Dell, G. S. , Nozari, N. & Oppenheim, G. M. (2014). Word Production : Behavioral and Computational Considerations. Nathan, P, E. (eds.), *The Oxford Handbook of Language Production*, 88-104, Oxford University Press.
- Deucher, M., & Quarry, S. (2000). Bilingual Acquisition : Theoretical Implications of a Case Study. Oxford : Oxford University Press.
- Eastman, M. C. (1992). Code-switching as an Urban Language-contact Phenomenon. In Eastman, M. C. (eds.), *Code-switching*, 1-19, Multilingual Matters.
- Ervin-Tripp, S. (1967). An Issei Learns English. *Journal of Social Issues*. 13(2), 78-90 .
- Ferguson. C. A. (1959). Diglossia, *Word*, 15(2), 325-340.

- Finkbeiner, M. , Almeida, J. , Janssen, N. & Caramazza, A. (2006). Lexical Selection in Bilingual Speech Production Does not Involve Language Suppression. *Journal of Experimental Psychology: Memory, and Cognition*. 32(5). 1075-1089.
- Fishman, J. A. (1971). *Sociolinguistics*. Newbury House.
- Fishman, J. A. (1972). *Language in Sociocultural Change*. In Dil, Anwar S, (eds.). California : Stanford University Press.
- Fishman, J. A. (1989). *Language and Ethnicity in Minority Sociolinguistic Perspective*. Multilingual Matters.
- Fotos. S. (1990). Japanese-English Code-switching in Bilingual Children. *JALT Journal*, 12(1), 75-98.
- Fotos. S. (1995). Japanese-English Conversational Code-switching in Balanced and Limited Proficiency Bilinguals. *Japan Journal of Multilingualism and Multiculturalism*. 1(1), 2-15.
- Garret, M. F. (1975). The Analysis of Sentence Production. In G. Bower (eds.) *Psychology of Learning and Motivation*, 9, 133-177. New York : Academic Press.
- Gathercole, S. E. & Martin, A. J. (1996). Interactive Processes in Phonological Memory. In Gathercole, S. E. (eds.), *Models of Short-term Memory* , 73-100. Hove, England : Psychology Press.
- Giles, H. et al., (1991). Accommodation Theory : Communication, Context, and Consequence. *Context of Accommodation : Developments in Applied Sociolinguistics*, 1-68.
- Grosjean, F. (1982). *Life with Two Languages : An Introduction to Bilingualism*. Cambridge, MA : Harvard University Press.
- Gumperz, J. J. (1982). *Discourse Strategies*. Cambridge University Press.
- Halliday, M. A. K. , McIntosh, A. & Stevens, P. (1968). The User and Use of Language. In Fishman, J. A. (eds.), *Readings in the Sociology of Language*, 139-169, The Hague: Mouton de Gruyter.
- Halliday, M. A. K. (1985). *Language, Context, and Text : Aspects of Language in a Social-semiotic Perspective*. Deakin University : Deakin University Press. 笥寿雄 (訳) (1991) 『機能文法のすすめ』大修館書店.
- Halliday, M. A. K. (1994). *An Introduction to Functional Grammar. (2nd.ed.)*, Arnold : London.
- Hamers, J. F. & Blanc, M. (1983). *Bilinguality & Bilingualism*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Haugen, E. (1953). *The Norwegian Language in America*. Pennsylvania University Press.
- Heji, W. L. (2005). Selection Process in Monolingual and Bilingual Lexical Access. In Kroll, F. J. & De Groot, B. M.A. (eds.), *Handbook of Bilingualism: Psycholinguistic Approaches*, 289-307, Oxford University Press.
- Hikosaka, O. & Isoda, M. (2010). Switching from Automatic to Controlled Behavior : Cortico-basal Ganglia Mechanisms. *Trends in Cognitive Sciences*, 14(4), 154-161.
- Hoffman, C. (1991). *An Introduction to Bilingualism*. New York : Longman.
- Holmes, J. (2008). *An Introduction to Sociolinguistics (3rd edition)*. English. Pearson, London.

- Ihemere, K. (2016). Igbo-English Intra-sentential Code-switching and the Matrix Language Frame Model. In D. L. Payne, S. Pacchiarotti & M. Bosire (eds.), *Diversity in African languages*, 539–559. Berlin : Language Science Press.
- James, W. (1890). *The Principles of Psychology*. New York : Holt. 今田寛 (訳) (1992) 『心理学 (上・下)』岩波書店.
- Johnson, J. S. & Newport, E. L. (1989). Critical Period Effects in Second Language Learning : The Influence of Maturational State on the Acquisition of ESL. *Cognitive Psychology*, 21, 60-99.
- Kim, K. H. S. & Hirsch, J. (1997). Distinct Cortical Areas Associated with Native and Second Languages. *Nature*, 388(6638), 171-174.
- Kite, Y. (2001). English/Japanese Code-switching among Students in an International High School. In Noguchi, M.G. & Fotos, S (eds.) *Studies in Japanese Bilingualism*. Clevedon : Multilingual Matters, 312–328.
- Kolers, P. (1968). Bilingualism and Information Processing. *Scientific American (March)*, 218, 78-86.
- Kroll, J. F. , Bobb, S. C. , Misra, M. & Guo, T. (2008). Language Selection in Bilingual Speech : Evidence for Inhibitory Processes. *Acta Psychol (Amst)*. 128(3), 416-430.
- Kroll , J. F. & Gollan, T. H. (2014). Speech Planning in Two Languages : What Bilinguals Tell Us about Language Production. Nathan, P. E. (eds.) *The Oxford Handbook of Language Production*, 165-181, Oxford University Press.
- Kroll, J. F. & Stewart, E. (1994). Category Interference in Translation and Picture Naming : Evidence for Asymmetric Connections Between Bilingual Memory Representations. *Journal of Memory and Language*. 33, 149-174.
- Lachman,R. , Lachman, J. L. & Butterfield, E. C. (1979). *Cognitive Psychology and Information Processing : An Introduction*. Lawrence Erlbaum Associates. 箱田裕司, 鈴木光太郎 (訳) (1988) 『意識と記憶』サイエンス社.
- Lambert, W. E. & Tucker, R. (1972). *Bilingual Education of Children. The St. Lambert Experiment*. Rowley. MA : Newbury House.
- Lamendaella, J. T. (1977). General Principles of Neurofunctional Organization and Their Manifestation in Primary and Non-primary Language Acquisition. *Language Learning*, 27, 155-196.
- Levelt, W. J. M. (1989). *Speaking : From Intention to Articulation*. Cambridge, Mass: The MIT Press.
- Levelt, W. J. M. (1995). The Ability to Speak : From Intentions to Spoken Words. *European Review*, 3(1), 13-23.
- Levelt, J. M. W., Roelofs, A., & Meyer, A. S. (1999). A Theory of Lexical Access in Speech Production. *Behavioral and Brain Sciences*, 22, 1-75.
- Lindhom, K. J. & Padilla, A. M. (1978). Language Mixing in Bilingual Children. *Journal of Child Language*, 5, 247-264.
- Li, Wei. (1995). Conversational Code-switching in a Chinese Community in Britain : A Sequential Analysis. *Journal of Pragmatics*, 23(3), 281-299.
- Logie, R. H. (1995). *Visuo-spatial Working Memory*. Hove : Lawrence Erlbaum Associates.
- Lyu, D. C. et al. (2015). Mandarin-English Code-switching Speech Corpus in

- South-East Asia : *SEAME. LRE*, 49(3), 581-600.
- Maschler, Y. (1998). The Tradition to a Mixed Code. In Auer, P. (eds.) *Code-switching in Conversation*. London : Routledge, 125-149.
- MacLeod, C. M. (1976). Bilingual Episodic Memory : Acquisition and Forgetting. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 15, 247-264.
- Macnamara, J. (1967). The Bilingual's Linguistic Performance : A psychological Overview. *Journal of Social Issues*, 23(2), 58-77.
- MacWhinney, B. (2004). A Multiple Process Solution to the Logical Problem of Language Acquisition. *Journal of Child Language*. 31(4), 883-914.
- Markman, E. M. (1989). *Categorization in Children : Problems of Induction*. MIT Press.
- McLaughlin, B. (1978). *Second Language Acquisition in Childhood*. Hillsdale, N. J. : Lawrence Erlbaum Associates.
- Meng, H.R., & Miyamoto, T. (2009). Code Switching in a Japanese Chinese Bilingual Infant : A Study on Language Dominance. In *Proceedings in the 138th conference of the Linguistic Society of Japan*, June 20 , 258-263. Kyoto : Linguistic Society of Japan.
- Meuter, R. F. I. & Allport, A. (1999). Bilingual Language Switching in Naming : Asymmetrical Costs of Language Selection. *Journal of Memory and Language*, 40, 25-40.
- Meyer, D. E. & Schvaneveldt, R. W. (1971). Facilitation in Recognizing Pairs of Words : Evidence of a Dependence Between Retrieval Operations. *Journal of Experimental Psychology*, 90, 227-234.
- Milner, B. (1966). Amnesia Following Operations on the Temporal Lobes, In Zangwill, O. L. & Whitty, C. W. (eds.) *Amnesia*, 109-133, London : Butter-worth.
- Muysken, P. (2000). *Bilingual Speech : A Typology of Code-switching*. Oxford: Cambridge University Press.
- Myers-Scotton, C. (1993 [1997]). *Duelling Languages : Grammatical Structure in Code-switching*. (1997 edition with a new Afterword). Oxford : Clarendon Press.
- Myers-Scotton, C. (2002). *Contact Linguistics : Bilingual Encounters and Grammatical Out-comes*. Oxford : Oxford University Press.
- Myers-Scotton, C. (2006). *Multiple Voices: An Introduction to Bilingualism*. Malden, MA : Blackwell Publishers.
- Myers-Scotton, C. & Jake, J. L. (1995). Matching Lemmas in a Bilingual Language Competence and Production Model : Evidence from Intra-sentential Code-switching . *Linguistics*, 33, 981-1024.
- Myers-Scotton, C. & Jake, J. L. (2000). Testing a Model of Morpheme Classification with Language Contact Data. *International Journal of Bilingualism*, 4(1), 1-8.
- Nakada, T. , Fujii, Y. & Kwee, I. L. (2001). Brain Strategies for Reading in the Second Language are Determined by the First Language. *Neuroscience Research*, 40, 351-358.
- Namba, K. (2007). Japanese-English Children's Code-switching : Applying the MLF Model to Two Siblings' Data. *SIS English Department*, 1-49.
- Namba, K. (2012). Non-insertional Code-switching in English-Japanese Bilingual

- Children : Alternation and Congruent Lexicalization. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 15(4), 455-473.
- Nishimura, M. (1985). *Intra-sentential Code-switching in Japanese and English*. Doctoral Dissertation. University of Pennsylvania.
- Nishimura, M. (1995). A Functional Analysis of Japanese/English Code-switching. *Journal of Pragmatics*, 23(2), 157-181.
- Nishimura, M. (1997). *Japanese/English Code-switching : Syntax and Pragmatics*. NY : Peter Lang.
- Oyama, S. (1976). A Sensitive Period for the Acquisition of a Nonnative Phonological System. *Journal of Psycholinguistic Research*, 5, 261-285.
- Paradis, M. (1977). Bilingualism and Aphasia. In Whitaker, H.A. & Whitaker, H. (eds.) *Studies in Neurolinguistics*, 3, 65-121. New York: Academic Press.
- Paradis, M. (1981). Neurolinguistic Organization of a Bilingual's Two Languages. *LACUS Forum*, 7, 486-494.
- Paradis, M. (2000). Cerebral Representation of Bilingual Concepts. *Bilingualism : Language and Cognition*, 3(1), 22-24.
- Patkowski, M. S. (1980). The Sensitive Period for the Acquisition of Syntax in a Second Language. *Language Learning*, 30, 449-472.
- Paulesu, E. , Firth, C. D. & Frackowiak, R. S. (1993). The Neural Correlates of the Verbal Component of Working Memory. *Nature*, 362(6418), 342-345.
- Pickering, M. J. & Branigan, H. R. (1998). The Representation of Verbs : Evidence from Syntactic Priming in Language Production. *Journal of Memory and Language*, 39, 633-651.
- Poplack, S. (1978). Syntactic Structure and Social Function of Code-switching. In Duran, R. P. (eds.), *Latino Language and Communicative Behavior*, 169-184. New Jersey : Ablex Publishing Corporation,
- Poplack, S. (1980). Sometimes I'll Start a Sentence in Spanish y Termino Espanol : Toward a Typology of Code-switching. *Linguistics*, 18, 581-618.
- Posner, M. I., & Raichle, M. E. (1994). *Images of mind*. New York : Scientific American Library.
- Roelofs, A. (2000). Attention to Action : Securing Task-relevant Control in Spoken Word Production. Gleitman, L. R. & Joshi, A. K. (eds.) *Proceedings of the 22nd Annual Conference of the Cognitive Science Society*, 411-416.
- Saito, S. (1994). What Effect Can Rhythmic Finger Tapping Have on the Phonological Similarity Effect?. *Memory & Cognition*, 22, 181-187.
- Saito, S. (1998). Effects of Articulatory Suppression on Immediate Serial Recall of Temporally Grouped and Intonated Lists. *Psychologia*, 41(2), 95-101.
- Sankoff, D., & Poplack, S. (1981). A Formal Grammar for Code-switching. *Papers in Linguistics: International Journal of Human Communication*, 14(1), 3-45.
- Saur, D. et al. (2009). Ventral and Dorsal Pathways for Language. *Proceeding of The National Academy of Sciences of the USA*, 105(46), 18035-18040.
- Shallice, T., & Warrington, E. K. (1970). Independent Functioning of Verbal Memory Stores : A Neuropsychological Study. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 22(2), 261-273.

- Skutnabb-Kangas, T. (1984). *Bilingualism or not : The Education of Minorities*. Clevedon : Multilingual Matters 7.
- Squire, L. R. (1987). *Memory and Brain*. New York. Oxford University Press.
- Surprenant, A. M., & Neath, I. (2009). The 9 Lives of Short-term Memory. In A. Thorn & M. Page (eds.) *Interactions Between Short-term and Long-term Memory in the Verbal Domain*, 16-43, Hove, UK : Psychology Press.
- Swain. M. (1972). *Bilingualism as a First Language*. University of California, Irvine.
- Taylor, I. & Taylor, M. M. (1990) . *Psycholinguistics : Learning and Using Language*. Englewood Cliffs, NJ : Prentice Hall.
- Tulving, E. (1972). Episodic and Semantic Memory. In Tulving, E. & Donaldson, W. (eds.) *Organization of Memory*. 382-403, Academic Press.
- Tulving, E. (1984). Relations among Components Process of Memory. *Behavioral and Brain Science*, 7, 223-238.
- Volterra, V. & Taeschner, R. (1978). The Acquisition and Development of Language by Bilingual Children. *Journal of Child Language*, 5, 311-326.
- Wei, L. (2000). Types of Morphemes and Their Implications for Second Language Morpheme Acquisition. *International Journal of Bilingualism*, 4(1), 29-43.
- Weinreich, U. (1967). *Language in Contact : Findings and Problems*. The Hague : Mouton de Gruyter.
- Yamamoto, M. (2001). *Language Use in Inter-lingual Families : A Japanese-English Sociolinguistic Study*. Clevedon : Multilingual Matters.
- Yamamoto, M. (2002). Language Use in Families with Parents of Different Native Languages : An Investigation of Japanese-non-English and Japanese-English Families. *Journal of Multilingual Development*, 23(6), 531-554.
- Yamamoto.M. (2005). What Makes Who Choose What Languages to Whom? : Language Use in Japanese-Filipino Inter-lingual Families in Japan. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 8(6), 588-606.
- Yip, V. (2013). Simultaneous Language Acquisition. In Grosjean, F. & Ping, L. (eds.) *The Psycholinguistics of Bilingualism*, 119-144, Blackwell.
- Yu, L. (2008). Evaluation of the Matrix Language Hypothesis : Evidence from Chinese-English Code-switching Phenomena in Blogs. *Journal of Chinese Language and Computing*, 18 (2), 75-92.

ホームページ資料 :

- 「Ethnologue: Languages of the World, Twentieth edition. Dallas, Texas: SIL International.」 Simons, Gary F. & Charles D. Fennig (eds.). 2017. Online Version : <http://www.ethnologue.com>. (2017年4月3日参照) .
- 「Multilingual People」 2016 ilanguages.org : <http://ilanguages.org/bilingual.php> (2017年4月3日参照) .
- 「2012年度日本語教育機関調査」、国際交流基金ホームページ : <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey12.html> (2017年4月6日参照) .
- 「2016年6月末在留外国人統計-国籍別・地域別・在留資格別 在留外国人」、法務省ホームページ : <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001127507> (2017

- 年 4 月 8 日参照) .
- 「2017 年度児童・生徒構成」, 横浜山手中華学校のホームページ :
<http://www.yycs.jp/school/info/info.html#f> (2017 年 4 月 20 日参照) .
- 「今後の日本語教育施策の推進について-日本語教育の新たな展開を目指して-」, 文化庁
ホームページ :
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_suishin/nihongokyoiku_tenkai/hokokusho/ (2017 年 5 月 2 日参照) .
- 「平成 26 年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業 -地域日本語教育の総合的な推進体制の整備に関する調査研究-報告書」, 文化庁ホームページ :
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_suishin/pdf/gaikokujin_nihongokyoikujigyo.pdf (2017 年 5 月 2 日参照) .
- 「2006 年 3 月 多文化共生の推進に関する研究会報告書-地域における多文化共生の推進に向けて -」, 総務省ホームページ :
http://www.soumu.go.jp/kokusai/pdf/sonota_b5.pdf (2017 年 5 月 2 日参照) .

付録資料 1：会話トピックに関する調査質問紙

以下の会話トピックをめぐって、30分～45分ほど自由会話しましょう！（いくつかの好きなトピックを選んでパートナーと会話してください）

1. 最も受けられない日本人の思考方式について話してください。
2. 日本人の彼氏（彼女）を心理的に受け入れますか？どうしてですか？
3. 周りの日本人と付き合う時に、出来上がった面白いことについて話してください。
4. 周りの日本人について、どのように思っていますか？やさしいですか？きびしいですか？親切ですか？何か感想を持っていますか？（例えば：日本人の先生とか）
5. 日本へ旅行することができれば、どこに行きたいですか？どうしてですか？
6. 日本の大学へ留学できれば、どのように留学生活を送りたいですか？
7. 安倍晋三と会話するチャンスがあれば、彼に何を言いたいですか？
8. 好きな日本の食べ物と嫌いな日本の食べ物について話してください。
9. 好きな日本の芸能人、歌、映画について話してください。
10. 最近びっくりしたことについて話してください。
11. 10年後の自分を想像してください、どのような暮らしを送っていますか？

付録資料 2 : 個人プロフィールに関する調査質問紙

個人プロフィール

出身国 (母語) : _____

日本語学習歴 : _____年 _____国 _____教育機関

_____年 _____国 _____教育機関

在日期间 : _____年 _____月

日本語能力試験 N _____合格 または _____級合格

_____年 (例 2011 年) に _____ (国) で合格した

日常的な日本語使用状況 :

聞く : 1 日 _____時間

話す : 1 日 _____時間

読む : 1 日 _____時間

書く : 1 日 _____時間

日本語能力の自己評価 :

聞く : 超級・上級・中級・初級

話す : 超級・上級・中級・初級

読む : 超級・上級・中級・初級

書く : 超級・上級・中級・初級

付録資料 3：調査協力承諾書

調査協力承諾書

1. 調査の目的

この調査は、在日中国人留学生である協力者に中国語で自然会話してもらい、その中国語をベースとする会話の中に日本語へのコードスイッチングする現象を記録することが目的です。

2. 調査協力について

この調査への参加は協力者の自由意思によるものであり、調査への参加を随時、拒否・撤回できます。また、拒否・撤回によって協力者が不利な扱いを受けることはありません。

3. データの管理

プライバシーの保護には十分に配慮し、収集したデータと個人情報は学術的な研究以外の目的には用いません。

4. 調査結果の公開

調査によって得られたデータは、研究発表や学術論文に使用されたり、ウェブ上で公開されたりすることがあります。調査結果を公開する場合は、協力者のプライバシーに十分配慮し、協力者が特定されないようにします。なお、調査結果の公開は、収集された音声文字化したもの（日本語以外の場合は日本語に翻訳したものを含む）に限り、収集された音声そのものは公開しません。

5. 調査実施責任者

大阪市立大学文学研究科 後期博士課程 李敏

Email: libin0824@gmail.com

私は、上記の内容を理解した上で、自らの意思にもとづいて、調査への協力およびデータの取り扱いについて承諾します。

____年 ____月 ____日

調査協力者名： _____

署名： _____

付録資料 4 : 日中バイリンガルの日常会話データに観察された CS 発話

Pair1

時間	話者	会話内容
4:30	JSL1	比如说中国的朋友 男生的话 比如他今天穿的比较土 就开玩笑的说 好丑啊快回去换一件吧都没关系的 但是如果日本人 你和他说话 <u>きょうださいなあとか</u> 如果我稍微带一点 <u>おおきなこえ</u> 对方会以为我好像生气了
5:02	JSL2	就比如说用日语说的嘛 ↓ 音调加重啊 <u>イントネーション</u> 突然一下加重了 然后对方就会突然吓一跳
6:10	JSL2	日本人说话是不是有一种拐弯抹角的那种感觉 <u>あいまい</u> 的那种感觉哈
6:14	JSL1	嗯嗯嗯 有有有 他们不会说的很 <u>はっきり</u>
7:35	JSL1	前段时间我说我喜欢吃 <u>キムチ</u> 然后我问他你要不要尝一下啊 他说好啊 他尝了 我问他你也喜欢 <u>キムチ</u> 然后他说我也喜欢 过了一段时间我在别的话题里谈到 <u>キムチ</u> 的时候他就说 我不喜欢 <u>キムチ</u>
7:47	JSL2	当时是你自己做的 <u>キムチ</u>
7:51	JSL1	不是我自己做的
7:54	JSL2	第二次是我自己看了一篇文章 说日本卖的 <u>キムチ</u> 里面有很多都是有色素的 所以我就把这个 <u>きじ</u> 跟他说了下 然后他说 <u>ああ〜そうか</u> 我其实也不是很喜欢 <u>キムチ</u> 的
8:41	JSL2	其实我觉得中国人也会 比如说不太熟的人 这个时候他说很好很好 换个场景他就会说也不怎么样嘛 也许不限于日本人的
8:49	JSL1	恩恩恩 <u>なるほど〜</u>
10:51	JSL2	可能是音乐的这方面覆盖了其他的方面吧 我是不是有点 <u>おかしい</u> 啊
11:32	JSL2	然后 <u>にほんでうけられたさべつ</u>
11:36	JSL1	<u>さべつ</u> 啊 我觉得 <u>さべつ</u> 倒没什么 就是我受到感动到蛮多的
12:08	JSL1	<u>にほんへいみんするチャンスがあれば</u> 我觉得有机会的话 我会把永住权拿来 但是我不会变国籍
14:45	JSL1	<u>すきなにほんのたべもの きらいなにほんのたべもの</u>
14:52	JSL2	我都无所谓 有什么就吃什么
14:57	JSL1	其实我忌讳的也不多 蛮喜欢去那个 <u>くらすし</u> 的 寿司啊
15:03	JSL2	我有一样 就是便当里面的 <u>うめ</u>
15:07	JSL1	<u>うめぼし</u> 啊
15:10	JSL2	恩 那个 不是很喜欢
15:14	JSL1	我吃那个 <u>うに</u> 我不知道中文叫什么
15:20	JSL2	<u>うに</u> 是鱼吗
15:23	JSL1	<u>うに</u> 就是海胆还是什么
15:27	JSL2	什么味道的
15:30	JSL1	就是那种暗暗的黄绿色 然后放在 <u>すし</u> 上面 跟饭团一起吃的我就不敢吃 还有那个 <u>うなどん</u> 就是 <u>うなぎ</u>
15:42	JSL2	哦 <u>うなぎ</u> 那个也不喜欢啊
15:47	JSL1	我喜欢我喜欢 <u>うなどん きらい</u> 我也挺喜欢 <u>なつとう</u> 的
15:54	JSL2	哦~ <u>なつとう</u> 还可以 我也觉得可以
17:34	JSL1	我觉得我们以后回国了 长期住在国内到时候也会很想吃日本的东西 比如说 <u>すし</u> 呀 <u>なつとう</u> 呀 就是想吃那样子做出了的东西
17:45	JSL2	就是说觉得日本的东西还是很有日本特色的 像 <u>すし</u> 啊之类的
18:02	JSL2	<u>びっくりされたこと</u> 我好像不怎么有哎
18:06	JSL1	我也不怎么有 <u>びっくり</u> 的

19:34	JSL1	那个呢 <u>すきなにほんのげいのうじん、うた、えいが</u>
19:39	JSL2	哦 这个啊 我高中的时候就觉得 <u>アニメ</u> 这些还可以 大学也喜欢 但是慢慢就没有特别喜欢的日本的流行文化了
19:47	JSL1	我对日本的歌 哦 就是那个 <u>おおつかあい</u>
19:53	JSL2	哦~ 她比较熟
19:57	JSL1	<u>はまさきあゆみ</u> 应该也比较熟
20:02	JSL2	对对对 很熟 来日本之后知道的是那个 <u>みすちる</u> Mr Children
21:32	JSL2	你是喜欢那种很忙的生活呢 还是喜欢那种很 <u>のんびり</u> 的感觉
21:38	JSL1	我内心是很想开开心心舒舒服服的过日子的
22:37	JSL2	我其实很想让自己停下来 但是一旦停下来就会想东想西 那种很 <u>もうそう</u> 的感觉 我就觉得事情多了就紧张一点 但是我不喜欢事情一下子都堆在一起的感觉
22:51	JSL1	是的是的 我也是很多事情一下子跑出来让你这几天做完 就会各种 <u>ストレス</u>
23:04	JSL2	比如今天下午要做 <u>プレゼンテーション</u> 然后一点开始 <u>じゅぎょう</u> 嘛 我就会12点25打印我的 <u>レジュメ</u> 在那之前我就一直在写我的东西 我就一定要今天早上才写得出东西 现在我也不逼自己了 也不写我的 <u>レジュメ</u> 了 就等到今天再写
26 20	JSL2	我是那种 比如说这个课题 <u>かだい</u> 完成的很差的时候 我就有一种回避的心情 但是如果有什么问题就会和老师接触的很频繁 所以最近经常被老师说 <u>あなたはまじめ</u> 之类的
26 53	JSL1	你的老师是 <u>にしせんせい</u>
26 57	JSL2	对的 对的 之前的老师是 <u>あずませんせい</u> 嘛 也是被这样说过的 就是要写论文的时候就会和老师邮件交流非常频繁 所以就会被说成 <u>まじめ</u> 之类的 就是变化特别大
30 01	JSL1	第四个呢 <u>おもしろいこと</u>
30 06	JSL2	恩 好像没什么特别的
30 11	JSL1	跟日本人的都不 <u>おもしろい</u>
33 51	JSL1	就是平常他们日本人对我们外国人的那种 <u>やさしさ</u> 或者是 <u>はいりよさ</u> 有点不同 他们说话的时候看到了他们日本社会中日本人的相处 而他们对我们好像是有一种照顾 <u>えんりよ、はいりよ</u> 的那种感觉
34 07	JSL2	就是感觉和外国人说话还是很不一样是吧

Pair 2

時間	話者	会話内容
1:03	JSL3	他让说的这个 <u>について</u> 是感受啊还是啥呀
1:11	JSL4	就随便啥都行
2:35	JSL4	大阪的名物就 <u>たこやき</u>
2:41	JSL3	哎 就他们说的那个一兰的那个你们吃过么
2:49	JSL4	什么呀
2:53	JSL3	拉面啊 <u>いちらん</u>
3:45	JSL3	大阪的就是 <u>たこやき</u> 和 <u>おこのみやき</u> 哈 我之前在那个 <u>いざかや</u> 的时候 就全是吃这个的 我还是挺喜欢吃 <u>おこのみやき</u> 的
4:03	JSL4	你喜欢日本的艺人么 <u>げいのうじん</u>
4:11	JSL3	艺人是啥呀
4:15	JSL4	<u>げいのうじん</u>
4:19	JSL3	明星啊 不太关注
4:27	JSL4	我对日本的 <u>げいのうじん</u> 都不怎么关心 我对中国的 <u>げいのうじん</u> 也不怎么关心
6:21	JSL4	日本的歌 你喜欢啥
6:30	JSL3	日本的东西都不太喜欢
6:37	JSL4	我喜欢 <u>ありよりの</u>
12:09	JSL4	<u>アルバイト</u> <u>さきで</u> <u>できごと</u> 你有什么事要讲么
12:16	JSL3	<u>アルバイト</u> 的 事啊
12:22	JSL4	你肯定有事 你那 <u>くらし</u> 一会看这个一会看那个的
12:31	JSL3	我在那块也干了一年零几个月了 一开始的时候 他们都在前面干 就我一个人在那干 <u>あらいば</u>
12:45	JSL4	<u>あらいば</u> haha……
12:51	JSL3	我就想他们在那干嘛呢 说说笑笑我也听不懂啊 特别就是 <u>あらいば</u> 么 盘子挺多的闻着挺臭的 那滋味很难受嘛 去的时候就特别不情愿嘛 天天就是从五点到 <u>ラスト</u>
13:05	JSL4	这也不算 <u>できごと</u> 啊
13:12	JSL3	这只能算 <u>おもいで</u>
13:18	JSL4	<u>おもいで</u> 恩 要说 <u>できごと</u> 也没啥吧
14:20	JSL3	说完我的啦 说说你的吧 有什么 <u>できごと</u>
14:29	JSL4	我没什么啊 也不太说话 就在那和几个中国人聊得还挺嗨的
14:43	JSL3	没什么 <u>できごと</u> 么 有人送驴肉汤
14:51	JSL4	这也不是 <u>アルバイト</u> <u>さき</u> 的 <u>できごと</u> 啊
16:12	JSL3	研究室的 <u>できごと</u> 研究室真是挺少的 主要是我去的也挺少的
16:20	JSL4	你最近不是要 <u>ちゅうかん</u> 发表么
16:24	JSL3	对 是要 <u>ちゅうかん</u> 发表
16:30	JSL4	那你还不 <u>ちゅうかん</u> 发表准备的怎么样了
16:38	JSL3	我准备周一做一下PPT 周二看一下 周三去发表 最近发生的 <u>できごと</u> 就是和助教发生了一点冲突 就是就学术问题上发生了一点分歧 这就是最近发生的 <u>できごと</u>
20:40	JSL4	在日本受到的 <u>さべつ</u> 这个太有了 比如说我去健身的时候 同时用两个器材 就会有人过来说我 但是日本人用两个都没人说 你呢 有受到过什么 <u>さべつ</u> 么
20:58	JSL3	懂
24:23:00	JSL4	最近比较让你吃惊的事
24:27:00	JSL3	比较吃惊的事啊
24:30:00	JSL4	没人给你送驴肉汤 haha……
24:35:00	JSL3	这个确实 比较 <u>ショック</u> 恩 <u>びっくりされたこと</u> 也没有什么太 <u>びっくり</u> 的 我就没有对什么事比较 <u>びっくり</u> 的 生活太平静 你们没什么 <u>びっくり</u> 的事啥的么
25:01:00	JSL4	我 <u>びっくり</u> 的事啊 我比较 <u>びっくり</u> 的就是 黄哥天天送那谁回家安的是什么心
25:12:00	JSL3	顺路顺路 haha……

Pair 3		
時間	話者	会話内容
1:53	JSL5	接下去我们聊第二个 你觉得日本有什么好吃的
2:01	JSL6	大阪的话不就是 <u>たこやき</u> 和 <u>おこのみやき</u> 么
2:07	JSL5	<u>たこやき</u> 不是全日本都有么
2:13	JSL6	但是没觉得多好吃
2:17	JSL5	我们家旁边有一家 <u>たこやき</u> 是我吃过 <u>たこやき</u> 里面最好吃的一家 然后 <u>おこのみやき</u> 吧 我喜欢吃糊的
2:29	JSL6	<u>おこのみやき</u> 啊
2:33	JSL5	恩 <u>おこのみやき</u> 吧 他一弄不就容易糊么
2:38	JSL6	那是关西风的 你吃过广岛风的
2:42	JSL5	广岛风的不就是一小堆 中间
2:47	JSL6	对 放 <u>キャベツ</u>
2:53	JSL5	中间放鸡蛋 豁了豁了
3:01	JSL6	我以前打工的地方就是做 <u>おこのみやき</u> 的 广岛风的关西风的都会做
3:07	JSL5	那你打工的就是 <u>おこのみやき</u> 店啊 那个 <u>おこのみやき</u> 是怎么做的
3:16	JSL6	<u>おこのみやき</u> 你说的是关西风的那种烤糊的 我们那是工厂生产的 是走量的 就放一个架子 然后放 <u>ねた</u> 就是做好的面 放在铁板上 烧到一定程度就翻过来放肉片鸡蛋 还有放牛肉的 还有放 <u>かつお</u> 嘛 就是放各种东西 但是我是感觉广岛风的比较好吃 因为菜多 广岛风的还可以放 <u>そば</u>
4:01	JSL5	啊 放 <u>そば</u> 那个不是叫 <u>博登やき</u> 啊 还是什么的
4:09	JSL6	反正广岛风的是可以放 <u>そば</u> 其实关西风的也可以放 <u>そば</u> 就是简单放一点 都可以
4:23	JSL5	我觉得放 <u>そば</u> 的不是很好吃
4:27	JSL6	我也觉得放 <u>そば</u> 的就一般
4:30	JSL5	我去吃也就是去风月吃
4:34	JSL6	啊 那你喜欢吃日本的 <u>そば</u> 么
4:38	JSL5	<u>そば</u> 啊 还行吧 看哪种 <u>そば</u>
4:41	JSL6	<u>やき, やきそば</u>
4:44	JSL5	<u>やきそば</u> 还行 之前和教授一起出去吃的那个 <u>そば</u> 也挺好吃的 叫什么 <u>出云そば</u> 那个挺好吃的
4:52	JSL6	但是日本为什么过年要吃 <u>そば</u> 啊 像中国吃饺子一样 日本过年吃 <u>そば</u> 吧
4:59	JSL5	对啊 就像你过生日还得下面条一样
5:03	JSL6	对啊 他们是吃 <u>そば</u>
5:06	JSL5	习惯吧
5:08	JSL6	但是这个习惯来源是什么
5:12	JSL5	不知道
5:15	JSL6	<u>そば</u> ~ <u>そば</u> 日本哪里的最出名
5:20	JSL5	香川
5:23	JSL6	香川是 <u>うどん</u> 还是 <u>そば</u> 来着
5:29	JSL5	不太清楚
5:32	JSL6	因为 <u>そば</u> 是那种…… <u>そば</u> 是面嘛 日本面产的不多 可能是香川吧
5:39	JSL5	这个不太清楚
6:21	JSL5	日本的艺人我了解的比较多 我比较喜欢搞笑的 最近比较出名的就是叫什么0.8秒的一个组合 两个人 穿着红衣服 戴着墨镜
6:32	JSL6	不知道
6:34	JSL5	叫什么来着 叫什么 不知道你听没听过 就是 <u>ちよっとまって, ちよっとまって, おにいさん</u> 就是这种感觉
6:52	JSL6	没听过
6:56	JSL5	就是现在比较火 我平时看综艺节目比较多 比较喜欢的一个组合叫当当 两个人
7:03	JSL6	唱歌的么 还是演戏的
7:09	JSL5	不是 就搞笑的 一个是 <u>まつもと</u> 、一个是 <u>はまた</u> 每到过年都会出一个题材的 24小时的节目 叫 <u>わらってはいけない</u> 就是在这24小时之内有人笑的话 就会受到酷刑
7:26	JSL6	我是每年都会看日本的整蛊

7:30	JSL5	叫什么 <u>だまされたたいしょう</u> 啊
7:35	JSL6	我看那个挺狠的 我每年都看 这都不是艺人啊
7:41	JSL5	这也是 <u>げいのうじん</u> 啊 <u>わらいげいのうじん</u>
10:55	JSL6	我最近打工的事 我打工是在 <u>コンビニ</u> <u>コンビニ</u> 的时候特别自由 没有老板 我们是个经营店
11:03	JSL5	那一个月能挣多少钱
11:10	JSL6	六万多吧 不够花 我现在还得家里救济呢 不像我大学的时候打那个 <u>おこなみやき</u> 的 就是累 这个是早班 每天不耽误事
16:03	JSL6	昨天A说以为咱们生科最厉害的老师是B的那个老师呢 我都不认识
16:10	JSL5	那个老师是谁呀
16:13	JSL6	不知道 本来 <u>コース</u> 不一样嘛
18:02	JSL6	我最近看了一个新闻 说一小孩的爸爸给孩子买了个茶叶蛋 孩子吃了之后发烧痢疾 三天就死了 太快了
18:21	JSL5	三天死了这个事 应该是没有进行很好地处理吧 因为鸡蛋确实很容易感染的
18:30	JSL6	对啊 <u>カンピノバクター</u> 什么的
18:34	JSL5	最主要的是 <u>サンフィロメラー</u> 这个比较多一点
18:39	JSL6	<u>サンフィロメラー</u> 但是他这个速度太快了
18:46	JSL5	造成死亡 他这个诱因是什么呢 因为我们研究的大肠杆菌都只是会造成痢疾的
18:54	JSL6	对 <u>げり</u> 的
26:06:00	JSL6	其实咱们在西日本还是很不错的 大阪就是比较有人情味 东京和大阪完全就是区别很大 东京就没有人情味
26:24:00	JSL5	大阪人就喜欢各种开玩笑 人挺有意思的
26:31:00	JSL6	你还没有去过小农村呢 像我以前在农村待了四年 人都特别 <u>やさしい</u>
28:01:00	JSL6	和我关系比较密切的就是大学的时候的那个 <u>ゼミ</u> 老师 那时候写论文嘛 跟着他上了一年的 <u>ゼミ</u> 很负责 然后偶尔出去 <u>けんがく</u> 一下 反正我们那也没什么研究 也算是一个 <u>ゼミ</u> 吧 挺好的老师 去年给他发了一个 <u>メール</u> 好像要退休了吧

Pair 4		
時間	話者	会話内容
0:32	JSL7	你没有想过这个问题么？ 为什么平时说话的时候会带日语
0:38	JSL8	就是 <u>ついで</u> 的就带出来啦 就跟 <u>ついで</u> 似的
0:43	JSL7	没有啊 你很少说 <u>ついで</u> 这样的 很少不是么 往往是名词不是么？ 比如说吃的东西玩的东西 就比如说 <u>たこやき</u>
4:21	JSL7	比如说你今天吃 <u>やきとり</u> 了吧 要不然你说什么？ 烤串？
4:29	JSL8	烤串啊
4:32	JSL7	你一说烤串肯定是往东北大烤串那方面去想是吧 他们这个才是 <u>やきとり</u> 是吧 当然这些都是 <u>どうでもいいのはなし</u>
11:53	JSL7	因为在动物界 动物要一直进行觅食是吧 就是 <u>できれば</u> 要一直尽量去找食物
15:02	JSL8	我跟你说我的研究题目 就是日本的隐逸精神
15:08	JSL7	隐逸精神是什么意思？ 你的先跟我解释一下
15:13	JSL8	就是 <u>やまにかくれる</u> 、 <u>かくれる</u> 知道么？
16:03	JSL8	你知道遣唐使么 他是什么时代的你知道么？
16:09	JSL7	就唐朝呗
16:13	JSL8	是 <u>りくじょうじだい</u> 是六朝时代的
16:16	JSL7	不是遣唐使么？
16:19	JSL8	反正就统称为唐啦
16:23	JSL7	你太糊弄了
16:25	JSL8	不是他真的是 <u>りくじょうじだい</u> 的时候来的遣唐使 然后我想研究的这个人叫 <u>ふじわらうまかい</u> 他们这个藤原家族有三个男孩 他们家的 <u>ちょうなん</u> 呢 就特别厉害杀了很多人自己做官 然后二男呢 <u>まあま</u> 很 <u>ふつう</u> 的一个人 然后三男呢就是我研究的这个人 他就是有做官又有隐逸精神 为什么这么说呢 因为他写了一篇叫游吉野川 <u>よしのがわにあそぶ</u> 这首诗能体现出官隐
19:28	JSL8	陶渊明是我研究的这个 <u>ふじわらうまかい</u> 之前的人 哎 陶渊明是他之后的人？ <u>まあいや</u> 反正就是说大家的观点是 <u>うまかい</u> 的思想是吸收了陶渊明的思想 我的论文就是推翻这个思想的 我研究的这个人呢 <u>もともと</u> 是出身于一个大家族的 他爸爸本身就是一个特别 <u>えらい</u> 的人 你知道 <u>むらさきまきぶ</u>
20:32	JSL7	不知道
20:37	JSL8	就是紫式部写的源氏物语嘛 源氏物语里面写的那些公主啊 其实就是 <u>ふじわらうまかい</u> 的女儿 就是说他们家的后人已经和皇室联姻了
25:19:00	JSL8	他的诗中最出名的一句就是 山中明月夜 自得幽居心 自得幽居心的日文就是 <u>おのずからようきよのこころをえる</u> 他是以自己为主题写的 不是以天皇为主体写的 反正写这篇论文目的就是不是歌颂他 说的小点就是觉得这个人很伟大 说的大点就是在整个的上代文化史里面他们也是有隐逸思想的 而且他们的思想不仅是 <u>やまにかくれる</u> 他们也有官隐的思想
27:12:00	JSL8	我今天说太多话了 不想说了
27:18:00	JSL7	那后半截怎么办？
27:23:00	JSL8	你自己说吧
27:27:00	JSL7	人家要的是 <u>かいわ</u>
27:31:00	JSL8	那你刚才跟我 <u>かいわ</u> 了么？
27:36:00	JSL7	<u>かいわ</u> 了啊
31:03:00	JSL8	鱼一般多长时间交配一次啊？
31:09:00	JSL7	不一样的 我研究的那个鱼常年都在交配 两个星期一次 也有一辈子只能交配一次的
31:19:00	JSL8	这么惨 什么鱼啊？
31:24:00	JSL7	鲑鱼啊
31:27:00	JSL8	鲑鱼是什么鱼？
31:31:00	JSL7	就是 <u>さけ</u> 啊
31:35:00	JSL8	<u>さけ？</u> <u>さけ</u> 他是不是要回游的啊
31:39:00	JSL7	对啊
33:06:00	JSL7	行了 <u>おつかれ</u>

Pair 5		
時間	話者	会話内容
0:48	JSL9	就让我们自己聊啊，这也太尴尬了一点
0:49	JSL10	旅行 <u>について</u> 你都去什么地方玩过
0:51	JSL9	恩…… 福冈 奈良 京都
1:49	JSL10	京都都有什么好玩的
1:50	JSL9	京都啊，京都就多了，什么 祇 <u>ぎおん</u>
1:51	JSL10	啊 <u>ぎおんまつり</u> 呀 是不是那个
1:52	JSL9	还有一个 清水寺
2:25	JSL9	大阪最有名的不就是 <u>たこ焼き</u> 呀，其他的没啥了
2:30	JSL10	不就还有一个螃蟹么 没吃过
2:32	JSL9	哦 那个 <u>かにどうらく</u> 没吃过 貌似挺贵的
2:39	JSL10	是啊 有机会去吃一下 还要预约 好像是
2:44	JSL9	那个店比较忙
3:35	JSL10	然后是什么来着 艺能 <u>げいのうじん</u> 看看日剧么不就是
3:41	JSL9	<u>にほんのげいのうじん</u> <u>興味はないなあ</u> ~ hahaha~
3:44	JSL10	听听唱歌还行
3:47	JSL9	<u>にほんのげいのうじん</u>
3:51	JSL10	不就什么木村拓哉呀 然后就是日本的歌 不就是什么AKB 呀 滨崎步啊 什么的
3:56	JSL9	日本的歌啊 有一个叫 <u>ゆい</u> 的 你听说过么
4:03	JSL10	啊 知道 应该知道
4:07	JSL9	那个女的唱的还是不错的 我挺喜欢的 其他的就没有了
4:12	JSL10	是啊 听听歌还是不错的
5:32	JSL10	然后打工的话 有什么事 <u>できごと</u> 是什么意思 做出的成果?
5:37	JSL9	不是不是 就是有一些意外发生的事
5:42	JSL10	有么?
5:44	JSL9	有 <u>アルバイト</u> 就是有客人来投诉啦之类的 经常有
5:48	JSL10	讲讲呗
8:13	JSL9	都炒什么菜?
8:14	JSL10	炒什么菜~ 日本的菜也没什么地道的菜 基本上都是跟 <u>ちゅうか</u> 学的 中国风的东西
8:20	JSL9	你们饭店贵不贵?
8:23	JSL10	还行吧 一般吃一顿得个七八百块钱吧
10:24	JSL9	那不是C么 C现在轻松了
10:27	JSL10	她找工作啊
10:29	JSL9	他那工作好啊 叫什么住友电机啊
10:34	JSL10	他那个不知道结果怎么样
10:38	JSL9	应该没问题 她现在都不干别的了 他那个叫内定吧 内内定
10:47	JSL10	已经决定啦?
10:49	JSL9	对 公司里确定就能上了 他那个是大手 住友电机 学校推荐的 <u>すみともでんき</u>
11:01	JSL10	那挺好啊
11:24	JSL10	他不是百元店那打工么 ?
11:25	JSL9	恩 百元店也打 这边也打 因为都是一个 <u>てんちょう</u> 嘛
11:29	JSL10	啊
13:57	JSL9	我看的理学 比如说一自由度 二自由度 那些 他给你一个 <u>モデル</u> 运动方程式
15:57	JSL9	<u>いまず</u> 那个小组的人都比较忙
15:59	JSL10	是么?
16:04	JSL9	<u>いまず</u> 老是过来找他们

18:16	JSL10	这里面黑的还挺酸的
18:19	JSL9	哪个黑的
18:20	JSL10	这个
18:21	JSL9	蓝莓啊 <u>ブルーベリー</u>
18:24	JSL10	这什么东西 像药一样
18:28	JSL9	应该是蓝莓吧 看他这不写着 <u>ラムネかし</u>
20:47	JSL9	留考就选个ABCD 不是1234就行了
20:49	JSL10	是啊
20:50	JSL9	<u>あいうえお</u>
22:53	JSL9	我看我们研究室 我听 <u>いませ</u> 那组的那个人说 他们正式开始考研之前正式的完全不用做研究 <u>いませ</u> 完全不管的时候就一个月
23:05	JSL10	就一个月
23:07	JSL9	然后就是高田那边的昨天就开始了 然后那个 <u>うらやま</u> 那边的 就是W他们研究室的一直就没什么人
23:37	JSL9	他们没什么事 他们就把东西放上就在那等 就什么 <u>さいまん</u> 呀 什么 <u>てつ</u> 啊 什么的
23:48	JSL10	是啊
23:51	JSL9	然后 <u>うらやま</u> 做的稍微那个 麻烦一点 那边有个机器什么 什么 <u>焼き鈍し</u> 什么 <u>焼き入れ</u> 什么的
24:01:00	JSL10	谁啊 那个 <u>うらやま</u>
24:06:00	JSL9	他还去阪大做实验 老师还开车带他去
24:15:00	JSL9	我们研究室那天来了一个兵库县立大学的一个人 他们是学校推荐 就是直接不用考试就上他们学校的大学院啦
24:31:00	JSL10	那么好
24:32:00	JSL9	恩 但是他好像是要做什么 <u>かいせき</u> 呀 什么 <u>じっけん</u> 要到我们研究室来做
24:43:00	JSL10	那人是研究啥的
24:45:00	JSL9	不知道 好像也是 <u>いませ</u> 那边的 我估计是那个 估计是跟那个 <u>かわいせんせい</u> 的那个 估计他那个桥梁那些玩意 有可能是那个
25:08:00	JSL9	还有就是前两天来了一个关西大学的
25:10:00	JSL10	找哪个老师的
25:12:00	JSL9	他想找 <u>いませ</u> 的
26:17:00	JSL9	还有那个叫什么 <u>にしむらせんせい</u> 么 他的研究室至少有一个或者两个要就职的
26:24:00	JSL10	他们研究室都要走啊?
26:27:00	JSL9	我就想把我弄过去就行了 我对理学最拿手了
26:31:00	JSL10	但我觉得理学没意思啊
26:33:00	JSL9	你觉得没意思啊? 我还觉得超有意思
26:36:00	JSL10	感觉就什么 <u>おおさかガス</u> 啊 里面就职的 要不然整个空调啊这种 感觉没劲啊
26:41:00	JSL9	不是 他那些 <u>ターミ</u> 那些多有意思啊 他的那个热交换 他的那个 <u>サイクル</u>
26:46:00	JSL10	啊 他的那个 <u>ガスターミ</u> 呀 ↓
26:48:00	JSL9	最好玩的是那些 就是那些 <u>サイクル</u> 就是并不是那些实际上的那些机器 他那个 <u>サイクル</u> 用真正的机器来模拟那个 <u>サイクル</u> 的那些压力变化啊 或者是热输送那些东西 那些挺有意思的 其实流体是最难的
27:08:00	JSL10	是啊 流体是比较难
27:14:00	JSL9	这门学问太难 因为他那个方程式就没法解 那个 <u>なべストック</u> 方程式 真的是没法解 只有用 <u>fortran</u> 那个语言 用那个 <u>さぶんほう</u> 你知道吧 ↓
27:20:00	JSL10	知道 知道
27:23:00	JSL9	只能用那个来模拟计算 只能用那个 到目前为止没有一个 <u>かいほう</u> 没有一个解法
27:32:00	JSL10	是么

27:34:00	JSL9	恩 只能用fotola 就是fotola 就是只能用差分法 所以他这个学问很难 你包括那个 <u>うず</u> 就是那个涡 那些东西都是很难的 就只能是模拟 很多问题都解决不了 还有那个造飞机 造房子 那些东西都是有流体的么 <u>かせ</u> 呀什么的 你知道他怎么弄么 算他都是要算的 他都是些近似的 什么抵抗系数 <u>こうりゅうこけいすう</u> 什么的 都是近似的 所以他必须要用 <u>ふんどうじっけん</u> 必须要用风动 各种模拟各个方向的风 所以他还是很多东西都建立在模拟上 这是一门很难的学问啊
30:05:00	JSL9	因为他看那个力学最后全是方程式 什么 <u>かいてんと</u> 什么 <u>モメント、かんせいモメント</u>
30:10:00	JSL10	哦哦 那些东西国内的大学是不是要学的
30:12:00	JSL9	肯定要学 必须要学
30:13:00	JSL10	感觉到了日本这边都觉得有点缺啊 咱上高中的时候那些东西都没学过哈
30:16:00	JSL9	就是这样的 高中就是F=MA么 上大学都是X的 <u>につけいびぶん</u> <u>にくる</u> 那个 高中的时候是直接定理来做 但是上大学全都是方程了 所以这就是不一样的东西 一个逆推一个正推
31:32:00	JSL9	我们研究室还有一个更吊的 他的桌子和电脑一直放在那里 从来没见过他 叫做什么 <u>よしなり</u>

Pair 6		
時間	話者	会話内容
0:25	JSL11	你来日本这么久有没有吃到什么比较好吃的食物
0:32	JSL12	<u>たこやき</u> 啊
0:36	JSL11	对啊 <u>たこやき</u> 是大阪的比较有名的食物 像我的话就比较喜欢吃 <u>やきそば</u> 还吃过鹤桥那边的 <u>おこのみやき</u>
0:52	JSL12	哦 <u>おこのみやき</u>
0:56	JSL11	对 <u>おこのみやき</u> 那个我觉得很好吃
1:01	JSL12	广岛你去过么
1:06	JSL11	没有 其实我更喜欢广岛风的
1:10	JSL12	广岛风的是偏甜还是偏咸呢
1:13	JSL11	不是 就是他那里面会加 <u>やきそば</u>
2:45	JSL11	那来日本这么久 有没有喜欢的电影什么的呢
2:52	JSL12	电影我看过几部 我比较喜欢千与千寻
2:59	JSL11	哦 千与千寻 宫崎骏的 宫崎骏的电影我都很喜欢 比如说 <u>トトロ</u> 啊
3:41	JSL11	你来日本这么久了 有打过工么
3:47	JSL12	有啊 我在 <u>コンビニ</u> 打过工 料理店 超市我都干过
3:56	JSL11	哇哦 好厉害啊 那你能说说打工的时候发生的事么
4:04	JSL12	发生的事啊 让我想想哈 就是在 <u>コンビニ</u> 打工的时候 就会遇到形形色色的人 见到各式各样的日本人
5:05	JSL11	那你在日本有没有受到过一些区别对待呢
5:12	JSL12	当然有啊 比如说在 <u>コンビニ</u> 打工的时候 遇到那种上班族 他们白天在工作中压力很大 然后晚上来 <u>コンビニ</u> 购物的时候 可能就会看你是外国人就会故意找茬
7:34	JSL11	我们来日本这么久了肯定也有和自己关系比较好的老师 我比较喜欢的就是我们自己的老师 <u>こいとせんせい</u> 他是一个非常 <u>やさしい</u> 的老师
7:51	JSL12	除了我们老师之外 其他的老师也都挺好的
8:35	JSL11	我最近有什么 <u>びっくりした</u> 的事情 就是前两天 我们家附近有一个 <u>なつまつり</u> 的 然后一大早起来就锣鼓喧天的 所以就觉得日本和中国虽然里的不是很远但是文化差异还是挺大的 挺有意思的
8:51	JSL12	对 这边是夏天的时候会有 <u>なつまつり</u> 就会有 <u>はなびたいかい</u> 什么的 可是在中国都是冬天的时候才会放烟花的 然后这边的女孩子都会穿 <u>ゆかた</u> 呀 打扮得漂漂亮亮的 就是挺好的

Pair 7		
時間	話者	会話内容
0:17	JSL13	最接受不了思考方式 我觉得有时候他们太较真了 比如说小孩玩游戏吧 你说输就输了吧 他们就非得说 <u>くやしい、くやしい</u> 这个就经常能听到
0:35	JSL14	我最受不了的就是他们不知变通的这一点
0:41	JSL13	对 <u>あたまがかたい</u>
1:23	JSL13	还有有的时候太 <u>れいぎた</u> 了 比如说他进到我们店里边吧 在那个 <u>おみやげ</u> 那个 <u>コーナー</u> 里面。你说你想进来就进来呗！还非得说 <u>みせていただけませんか</u> 你说我们店员能说 <u>だめです</u> 吗？
1:41	JSL14	对啊 很奇怪啊 比如说你给我杯水吧 他就会说特别长 <u>あつ、すみません、ちよつと</u> <u>いいですか</u> 好多都不需要啊
2:12	JSL13	然后 第四个 <u>できあがたおもしろいこと</u> 我觉得和他们交流没有什么让我觉得 <u>おもしろいこと</u> 啊！
2:34	JSL14	我看到他们很假的表情我就觉得很 <u>おもしろい</u>
2:41	JSL13	对啊 我也觉得很假啊 但是我不觉得很 <u>おもしろい</u> 啊 就总之就 <u>とりあえず</u> 很假
3:49	JSL13	我觉得他们语言特别的单调 什么都是 <u>かわいい</u> 比如说一个吃的吧 就一个 <u>たまこ</u> <u>ンブ</u> 那么小的一个东西 都要说 <u>かわいい</u> <u>かわいい</u> 我就觉得这有什么可 <u>かわい</u> <u>い</u> 的
4:03	JSL14	就可能是习惯了吧
4:12	JSL13	<u>にほんでうけたさべつについて</u> <u>さべつ</u> 那咱们要是接受这种 <u>さべつ</u> 的话 顶多就是这种国籍方面的吧
4:34	JSL13	<u>たべもの</u> <u>きらいな</u> <u>たべもの</u> 他们吃的太少了
5:05	JSL13	<u>すきなにほんのげいのうじん</u> 我觉得日本的 <u>げいのうじん</u> 长得都不好看呀 你比如说 <u>スマップ</u> 那里面有几个长得好看的啊 还有你喜欢的那个 <u>あらし</u> 真没几个长得好看的 而且还有什么喜欢那个 <u>もえもえ</u> 的人
5:26	JSL14	就是他们可能就是这种型吧
5:45	JSL13	你怎么这样呢 你让 <u>Leeせんせい</u> 听见这种话不得伤心死啊
5:51	JSL14	<u>Leeせんせい</u> 感觉立场也这样
5:57	JSL13	感觉上次 <u>コロキユム</u> 的时候他给我指出的问题还是挺 <u>きびしい</u> 的
12:02	JSL14	<u>さいきんびっくりされたこと</u> 被惊到的事情 我好像没啥被惊到的事情
12:08	JSL13	我就说那个 我同学突然有一个休学了 我非常的 <u>びっくり</u>
12:14	JSL14	我也很 <u>びっくり</u>
12:17	JSL13	听说是 <u>こころのやみ</u>
12:31	JSL14	不就因为 <u>しつれん</u> 么

Pair 8		
時間	話者	会話内容
1:03	JSL15	得开始写东西了 今天还要上 <u>ゼミ</u> 呢
4:58	JSL15	你可以讲讲 <u>アルバイトさきでのできごと</u>
5:04	JSL16	我打工的时候也没什么特别的事
5:34	JSL15	我们店长喜欢玩 <u>パチンコ</u>
5:39	JSL16	他玩 <u>パチンコ</u> 他不带自己钱去玩啊
5:43	JSL15	不是他有的时候那店里的钱去玩
7:14	JSL16	恩…… <u>おもしろい</u> 就觉得周围的日本人也有很 <u>やさしい</u> 的 也有 <u>きびしい</u> 的 <u>きびしい</u> 算不上吧 就是 <u>ふしんせつ</u> 就是不亲切的人 特别是在 <u>コンビニ</u> 打工的时候 碰到有些老头很可恨的 比如说有的时候他们要什么东西 就叽里呱啦的说一通 也不是听得很 <u>はっきり</u> 嘛 就再问他一遍 他就很不耐烦的 我就很想说既然你要说话就 <u>ちゃんといえよ</u> 不要像 <u>ひとりごと</u> 一样 我每次还要把头伸过去听也听不清
9:02	JSL15	现在国内不是那种 <u>スーパー</u> 也很多嘛
9:10	JSL16	但是国内的超市和日本的 <u>スーパー</u> 不一样啊
9:15	JSL15	概念不一样哈
9:17	JSL16	人都去 <u>コンビニ</u> 就好了 但是中国一般都是一家人逛超市 一个人逛很 <u>さびしい</u> 的
15:03	JSL15	那你度蜜月的时候可以来一个 <u>ヨーロッパ</u> 环游之旅啊
15:08	JSL16	对啊 我是想去的

Pair 9		
時間	話者	会話内容
2:15	JSL18	艺人啊 我喜欢向井理 演过天堂之吻
2:21	JSL17	哦 这个我知道 那个男的是不是 <u>さくら</u> 里面的 哎 什么 <u>さくら</u> 啊 是 <u>あらし</u>
4:32	JSL18	打工的 <u>できごと</u> 啊 我在药妆店打工 就发现中国人是药妆店的主力军 每天人好多好多 很累很累
4:41	JSL17	你那个地方好 好吧
4:46	JSL18	就是在 <u>うめだ</u>
6:17	JSL18	研究室的 <u>できごと</u> 那是现在的研究室呢 还是北海道的呢
6:21	JSL17	随意啦
6:24	JSL18	我们现在的研究室呢 我觉得我们现在也不觉得有什么 <u>けんきゅうしつ</u> 啊 或者 <u>ゼミ</u> 什么的 但是在北海道大学的时候 我是学教育学嘛 然后我们 <u>せんこう</u> 的话 <u>ぶんや</u> 的话就只有我们老师一个人 然后那个老师收了几个硕士收了几个博士 大家上 <u>ゼミ</u> 的时候还挺好的 就是很有那种 <u>せんぱい</u> 和 <u>こうはい</u> 的那种感觉 真的像他们职场上那样的 比如说我们去 <u>のみかい</u> 的时候 或者是出去玩的时候 <u>かいけい</u> 最低的那些人就是最小的人负责 等到他们第二年变成 <u>せんぱい</u> 的时候 就整个气场都不一样了
7:02	JSL17	你说中国人还是日本人
7:19	JSL18	日本人 还有一点就是 我刚去的时候虽然是修士 但是很多东西还没有大三或者大四懂得多 所以感觉还是 <u>こうはい</u> 的感觉
8:10	JSL18	<u>じぶんのけんきゅうないようについて</u> 我现在就是研究日本的化妆品 在中国的海外的是 <u>はんぱいせんりやく</u> 还有那个现地化的 <u>せんりやく</u> 主要是以资生堂为例子的 但是资生堂他的体系才庞大了 他有多个 <u>シリーズ</u> 所以就是很难研究 还需要进一步考虑
9:01	JSL18	<u>えんやす</u> 带来的影响 就是来旅游的人很多很多 <u>かんこうきゃく</u> 很多很多 刷银联就觉得很赚啊
9:09	JSL17	还有呢
9:12	JSL18	<u>えんやす</u> 啊 <u>えんやす</u> 还有什么
9:16	JSL17	你个学经济的 <u>えんやす</u> 你就说这么点丢不丢人
9:24	JSL18	我就的日本人挺那个的 现在日本人大肆宣扬中国是 <u>バブルけいざい</u> 嘛 中国经济要解体啊什么的 其实他就是揪着那天股市大跌不放 其实现在已经慢慢涨回去了
11:03	JSL18	在日本遇到的差别啊 就是在药妆店打工大家都不叫你什么什么 <u>さん</u> 的 都直接叫名字
11:16	JSL17	你说工作人员还是
11:20	JSL18	就同事啊
11:45	JSL18	<u>すきなにほんじんのせんせいについて</u> 我都没有几个 <u>にほんじんのせんせい</u> 呀 那我选择 <u>かにこせんせい</u> 没有 <u>あるかせんせい</u> 也很好啊 他不是我的 <u>せんせい</u> 但是他退休之前是校长 他退休之后就来我的宿舍当宿舍管理员 人超 <u>やさしい</u> 的
12:06	JSL18	然后就是 <u>びっくりされたできごと</u> 最惊讶的就是台风啊 就希望台风早点来 因为我没有见过台风 <u>びっくりされた</u> 也就台风吧

Pair 10		
時間	話者	会話内容
2:21	JSL19	日本的好吃的哈 我比较喜欢日本的 <u>やきにく</u> 日本的黑毛和牛 吃的的话 <u>しゃぶしゃぶ</u> 日本的 <u>しゃぶしゃぶ</u> 我比较喜欢
2:39	JSL20	我觉得还是分地方吧 一般就是那种特别有人气的不一定很好吃 要去找那种小店 比如说像 <u>たこやき</u> 也是 就有些地方做的好吃 有些地方做的不好吃 我相对来说还是比较喜欢 <u>いためもの</u> 因为我口味比较重
4:12	JSL19	喜欢的日本艺人 堺雅人 <u>さかいまさと</u> 他演技吧就是靠表情取胜
5:41	JSL19	喜欢的日本的歌 <u>ひまわりのやくそく</u> 然后就是高桥优那种风格的 摇滚乐我比较喜欢
8:34	JSL19	下面进入第六个话题 打工的时候的 <u>できごと, できごとについて</u> <u>できごと</u> 的具体含义我不太清楚啊
8:45	JSL20	就是你打工的时候发生的一些事情吧
9:07	JSL19	打工啊 我来我们的料理店已经三年了 从最初的刷碗现在也能做些别的事情了 心理上轻松了很多 然后 <u>できごと</u> 啊 就是很多事情都会做了 偶尔也可以出去做个 <u>ホール</u> 什么的 我们店一般是不让中国人做 <u>ホール</u> 的 然后我就是有时候出去 <u>ホール</u> 来不及上的话 我直接就给上上去了 这算 <u>できごと</u> 么? haha.....
9:54	JSL20	我觉得 <u>バイト</u> 的话 我才来的时候什么都不懂 日语也不太好 然后我就去了 <u>ローソン</u> 打工 那时候什么都不懂 和别人交流也很费劲 但是从 <u>ローソン</u> 出来以后 我觉得我的日语有了很大的进步 所以很感谢那个店的 <u>オーナー</u> 给了我这个机会 这个也算是我 <u>バイト</u> 当中比较有成就的事情吧
11:24	JSL19	下一个题目 研究室 <u>でのできごとについて</u>
11:32	JSL20	我们研究室的人都还很好的 尤其是我的 <u>せんぱい</u> 有什么事情都会立马帮我解决
12:45	JSL20	我的研究内容是和 <u>ミーズド</u> 相关的 就是日本每次到了夏天都会有水雾的 就是为了降温 但是我研究的这个 <u>ミーズド</u> 是针对工厂以内的 我们现在研究室做的这个喷雾可以降低两度 然后应用于工厂 这样可以降低工人工作的 <u>リスク</u> 这个实验还在进行当中
14:34	JSL19	下一个问题 <u>えんやす</u> 的影响 <u>えんやす</u> 的影响 我感觉还挺大的 现在超市的东西都特别贵 电费 <u>ガス</u> 费都在涨 在日本的生活成本一直再涨 工资不涨
14:52	JSL20	这一点确实是 现在我们打工 <u>バイト</u> 的钱 就一点都不值钱
15:04	JSL19	确实是 好吧 <u>えんやす</u> 的问题也就这样吧
18:02	JSL19	在日本受到的 <u>さべつ</u> 这个很正常啊
18:08	JSL20	我印象最深的一次就是 我刚来的时候去办三井住友的银行卡 是 <u>せんぱい</u> 带我去办的 那时候 <u>せんぱい</u> 跟我说他刚来就可以办 但是我去的时候银行就不给我办 因为我来日本还不到半年 说到 <u>さべつ</u> 我觉得确实有 就算在学校也有 比如说我们学校还有其他个国家的留学生 他们明明没有我们强 但是就是可以拿奖学金 还可以住最便宜的 <u>りょう</u>
22:17	JSL20	喜欢的日本老师啊 我觉得 <u>じむしつ</u> 的中原还挺好的 就每次都会主动跟你打招呼 然后也笑得特别灿烂 就觉得他人特别 <u>やさしい</u> 然后我觉得上学期叫我们的福田美惠老师还挺好的 他上课就特别生动 有时候还会带我们出去 <u>けんがく</u> 啊 就挺好玩的
24 02	JSL19	最后一个问题 最近 <u>びっくりされた</u> 出来事 什么呢
24 12	JSL20	我觉得就是最近中国股市大跌也是让我蛮吃惊的
24 19	JSL19	跟你有什么关系呀 你有没有买股票
24 27	JSL20	没关系 但是也觉得挺震惊啊 而且我 <u>バイト</u> 的时候 店长还会让我和我说中国的现状很 <u>きびしい</u> 啊 什么的
24 45	JSL19	我呢 最近 <u>びっくりされた</u> 让我想一想 没有哎 没有什么 <u>びっくりされた</u> 的 觉得生活很平淡

Pair 11		
時間	話者	会話内容
17:34	JSL21	你来过这么
17:38	JSL22	没来过
17:42	JSL21	那个哪 <u>あびきびょういん</u> 那边也有一家 <u>スープカレー</u>
17:53	JSL22	我吃 <u>カレー</u> 就是和你们这些爱吃 <u>カレー</u> 的一起的话 我还能吃点 自己来的话就不太想吃
18:05	JSL21	这不算 <u>カレー</u> 吧
18:08	JSL22	算吧 比如说 你做菜的时候会放 <u>カレー</u> 么
18:15	JSL21	不会啊 我做菜也放不着 <u>カレー</u> 啊
31:04:00	JSL22	假如说学校的 <u>まつり</u> 的时候 我们在那摆手机壳 然后说一千块钱一个他们有人买么
31:15:00	JSL21	不行吧 人家都是卖吃的 你卖手机壳
31:21:00	JSL22	我一边做吃的一边卖手机壳怎么了 就比如说这是3000元的 <u>セット</u> 这是 <u>プレゼント</u>
32:45:00	JSL21	这东西传来日本就全变了 <u>ちゅうか</u> <u>ちゅうか</u> 也不是中国菜的味啊
36:03:00	JSL22	我比较喜欢吃你给我推荐的 <u>ほたて</u>
36:08:00	JSL21	有么
36:11:00	JSL22	有 最便宜的 <u>セット</u> 没有 中间的那个 <u>セット</u> 就有
36:17:00	JSL21	好贵的
36:20:00	JSL22	他那个是 <u>メニュー</u> 当然贵了 你要看下面的 <u>セット</u>
37:34:00	JSL21	通信协议你懂不懂
37:39:00	JSL22	不懂
37:42:00	JSL21	这都不懂
37:46:00	JSL22	终于让你 <u>えらそう</u> 一把了 是吧
41:08:00	JSL22	我们研究室还有一个孟加拉的女的 你只要和她一上课就知道什么叫绝望 <u>ぜつぼう</u>

Pair 12		
時間	話者	会話内容
2:30	JSL23	听说你要去富士山旅行 什么时候去呀
2:35	JSL24	这周末去 很担心台风会刮到富士山去 我看那个台风的 <u>しんろ</u> 这周末是在东日本那边 但是风向可能有变化 那个 <u>しんろ</u> 一直在变 不知道会怎样
3:18	JSL24	你最近有没有要去哪里玩啊
3:21	JSL23	我八月份要去青森 那边有一个日本三大 <u>まつり</u> 之一的 我也忘了叫什么东西了
3:33	JSL24	日本的东西你比较喜欢吃什么呀
3:37	JSL23	日本的肯定是寿司啊 大阪的话就是 <u>おこのみやき</u> 呀 <u>たこやき</u> 呀 我比较喜欢重口的东西 你喜欢吃什么呀
3:45	JSL24	我其实不是很喜欢吃寿司哎 我特别喜欢吃 <u>おこのみやき</u> 我之前来大阪的时候其实就是为了 <u>たこやき</u> 来的
3:51	JSL23	真的啊
4:51	JSL23	你喜欢的日本艺人
4:54	JSL24	之前特别喜欢西野嘉娜 然后最近变心了 喜欢 <u>いしものかかり</u> 因为她唱歌也很好听
5:02	JSL23	女孩子不应该喜欢男艺人么
5:05	JSL24	我喜欢的一般都是唱歌比较好听的女艺人 唯一喜欢的男艺人就是 <u>やまP</u>
5:11	JSL23	哦 山P啊
8:36	JSL24	你最近打工的地方有什么好玩的
8:39	JSL23	打工啊 我刚来的时候就在 <u>おこのみやき</u> 打工 然后我就会做 <u>おこのみやき</u> 还会做特别正宗的 <u>やきそば</u> 什么的 然后就是在那个 <u>ちゅうかりようり</u> 就在我家楼下有 <u>ちゅうかりようり</u> 离的很近很方便 你呢?
8:54	JSL24	我其实打了挺多份工的 我在三个 <u>いんしょくてん</u> 打过工 然后两个 <u>コンビニ</u> 但我觉得我比较喜欢在 <u>いんしょくてん</u> 打工 <u>コンビニ</u> 太无聊了
9:34	JSL23	我以前打工的地方就是那种很平民的中华料理 是自己家里人开的 开了几十年的那种
9:42	JSL24	这种感觉很温馨啊
9:44	JSL23	特别温馨 客人也都是老客人 都特别好 如果我哪天没去的话就会问我们 <u>マスター</u> 哎 今天怎么 <u>ていちゃん</u> 没来啊什么的 特别好
10:21	JSL24	研究室属于放东西的地方
10:24	JSL23	是啊 我跟 <u>かどうさん</u> 一个研究室 他从来没在研究室看到我 哦 <u>さどうさん</u>
10:30	JSL24	他也不去研究室吧
10:33	JSL23	他去的 他把研究室打扮得特别好
10:37	JSL24	<u>さどうさん</u> 是不是疯了
10:40	JSL23	不知道是不是 <u>さどうさん</u>
11:20	JSL24	我们研究室我感觉去年挺好的 因为 <u>はらさん</u> 在嘛 他人很 <u>やさしい</u> 今年来了很多新人 都不认识 就不想去了
12:21	JSL24	我觉得你的研究进展的挺顺利的
12:24	JSL23	没有啊 我的第一章第二章虽然好写 但是第三章的那个 <u>ぶんせき</u> 挺难的 挺花时间的
12:31	JSL24	我觉得我的研究就是 <u>じれいけんきゅう</u> 那块 一直以来都在收集资料嘛 相对来说好弄一点 但是我不是要写两个 <u>じれい</u> 嘛 第一个 <u>じれい</u> 大概内容都有 但是另一个好不知道怎么弄 而且我的 <u>せんこうけんきゅう</u> 还不知道怎么写
12:42	JSL23	那你下一节 <u>ゼミ</u> 就不要再发表你这些积累的东西啦 你就弄个 <u>もくじ</u> 你就随便弄 因为你为的不是让老师给你改 <u>もくじ</u> 为的就是让老师告诉你该怎么写
12:50	JSL24	老师本来想让我暑假之前发表一次 <u>もくじ</u> 嘛 但是下节课就是最后一次了
13:20	JSL23	<u>えんやす</u> 的影响 我们是坏影响还是好影响呢 我觉得就是 <u>えんやす</u> 了嘛 所以来旅游的人多了
16:43	JSL24	然后最近 <u>びっくり</u> 的事情
16:47	JSL23	最近都是不好的事 终面被拒什么的啦
16:52	JSL24	哦 这个也挺让我 <u>びっくり</u> 的 我没想我会被拒
16:58	JSL23	太 <u>びっくり</u> 了 我觉得那个 <u>ニトリ</u> 比我那个更 <u>びっくり</u> 我准备了那么多

17:11	JSL23	哎 我跟你讲 不要老是看 <u>マイナビ</u> 、 <u>ニクナビ</u> 什么的 也可以看看indeed什么的
17:18	JSL24	indeed?
17:20	JSL23	in deed 也就是找工作的
17:47	JSL23	那个上面有很多是要会中国语的 但是大部分是需要 <u>しょくれき</u> 、 <u>けいけん</u> 就是经验有的没有也没有关系
18:43	JSL23	我之前去面试全部死在笔试上面了 就是 <u>かいしゃせつめいかい</u> 之后就是笔试
18:49	JSL24	然后就掉
18:52	JSL23	对
19:10	JSL23	你有没有在 <u>グローバルリーダー</u> 那个网站登录过
19:12	JSL24	没有 我连 <u>につけい</u> 我都没有登录 因为现在已经不想就职了
24:36:00	JSL23	我之前就想就算拿到 <u>ニトリ</u> 的内定我也不会去
25:12:00	JSL24	我感觉我把 <u>ぎょうかい</u> 太 <u>しぼり</u> 了 有点 因为我就想进 <u>メーカー</u> 但说不上为什么要进 <u>メーカー</u> 就感觉进了 <u>メーカー</u> 会安心一点
25:23:00	JSL23	对 就是安心一点
26:19:00	JSL23	我最近在想 如果有时间我想报哪个 <u>ぼうえき</u> 叫什么 <u>ぼうえきし</u>
26:26:00	JSL24	哦 是不是通关士
28:24:00	JSL24	感觉到了考虑前途的时候啦
28:27:00	JSL23	感觉其实日本提前一年找工作真的很累 今年又推迟了 感觉今年好 <u>つらい</u> 啊 熬过了就好了
29:34:00	JSL24	我觉得日本的公司未必适合我这种性格 感觉日本的公司有一种很 <u>かたい</u> 的那种感觉
29:41:00	JSL23	太 <u>かたい</u> 了
29:43:00	JSL24	对 不太适合我们这种崇尚自由的性格
33:23:00	JSL23	我觉得是分公司的 因为阿里巴巴旗下有好多公司的 可能月薪一万五的是那种 <u>コンサル</u> <u>ディング</u> 咨询的啊还有整体策划的那种吧
33:35:00	JSL24	应该就是那种 <u>コンサルディング</u> 的吧 向旗下的那种分公司应该不会

Pair 13		
時間	話者	会話内容
2:10	JSL25	<u>にほんのりょこうについて</u> 我还没出去玩过
2:14	JSL26	我去年去了 去了 <u>とやまけん</u> 的 <u>たてやま</u> 就是富山县的立山 他们八月份的时候还有雪在山上
4:12	JSL26	祇园祭那边有个什么 <u>ほこうしゃのてんごく</u>
4:16	JSL25	不知道
4:18	JSL26	就是叫步行者的天国 那边平时是 <u>しじょうおおどおり</u> 的大路 通车的 然后被封闭了 大家就在街上漫无目的的走 人挤人的
4:51	JSL25	<u>にほんのおおしいたべもの</u>
4:53	JSL26	<u>たべもの おおさかのめいぶつ</u>
4:56	JSL25	那就是 <u>たこやき</u> 嘛
5:00	JSL26	我觉得大阪的 <u>たこやき</u> 你觉得好吃么 特别地道么
5:06	JSL25	吃过没几次 也就是尝尝就算了 也没觉得特别好吃
5:13	JSL26	哎 我喜欢吃 <u>たいやき</u> 超好吃
5:16	JSL25	没吃过
5:18	JSL26	就是那个叫鲷鱼烧吧 就是鱼形的 里面有红豆的 那个就叫 <u>たいやき</u>
5:25	JSL25	哦 那个呀 我对甜食不是很感兴趣
5:28	JSL26	我喜欢吃红豆的 比如说什么 <u>おもち</u> 之类的
7:04	JSL25	<u>すきなにほんのげいのうじん</u>
7:07	JSL26	<u>いっぱい</u>
7:09	JSL25	我就知道木村拓哉 前几天看新闻说木村拓哉去台湾大家都很疯狂的 我就去查了一下
7:17	JSL26	大神级别的人啊 就是日本的 <u>ドラマ</u> 的 <u>しちょうりつ</u> 的前五位 可能有三部都是他演的
7:26	JSL25	这么了解啊
7:28	JSL26	我喜欢的日本的 <u>げいのうじん</u> 啊 <u>げいのうじん</u> 好多啊
7:35	JSL25	哎? 金城武算日本人么
7:38	JSL26	也算是日本的 <u>げいのうじん</u> 吧 我喜欢 <u>まつざかとおり</u>
7:43	JSL25	谁啊 说中文名
7:45	JSL26	松阪桃李 对啦 我喜欢小栗旬
7:49	JSL25	啊 那个壁咚的那个 小栗旬 不错
7:53	JSL26	<u>かべドン</u>
8:03	JSL25	<u>すきなにほんのうた</u> 喜欢好多歌 因为我们店总放那个歌嘛 一开始听着一般 听着听着就觉得挺好听了
8:11	JSL26	<u>あ なんで すきにんちやったのかな</u>
8:14	JSL25	对对对 就这个 叫什么 <u>にしのかな</u> 唱的
8:18	JSL26	他是三重松阪的
8:21	JSL25	是么 我最近在听中岛美雪
8:25	JSL26	哎呀 太老了 最近微博上特别流行那个 <u>おおつかあい</u>
8:31	JSL25	谁呀
8:34	JSL26	就是那个大家爱 就是那个星象仪那个歌
8:39	JSL25	对啦 还有那个什么 <u>なだそうそう</u>
8:42	JSL26	<u>なだそうそう?</u>
8:44	JSL25	就是那个泪光闪闪 看过这个电影没
8:48	JSL26	没有
8:51	JSL25	回去可以看一下 这首歌是 <u>おきなわ</u> 的歌 叫什么夏川里美唱的
8:56	JSL26	没听过
8:59	JSL25	你回去可以搜一下 就叫 <u>なだそうそう</u> 本来应该是 <u>なみだ</u> 我一直以为是 <u>なみだ</u> 但是念是念 <u>なだそうそう</u> 挺好听的 有点产 <u>しまうた</u> 的那种风格
9:08	JSL26	岛歌啊
9:10	JSL25	恩 就是 <u>おきなわ</u> 那边的那种 转弯的那种感觉
9:30	JSL26	<u>すきなにほんのえいが おくりびと</u>
9:34	JSL25	啊 那个看过
10:39	JSL26	你没有喜欢的日本的 <u>ドラマ</u> 么 <u>いっぱい</u> ある 你喜欢哪个 <u>ドラマ</u> 呀
10:46	JSL25	没怎么看啊 最近在看什么 <u>いたづらなキス</u> 就是纯属是为了练习日语
10:54	JSL26	你可以看那个rich man poor women 日语叫 <u>リッチメンボアウメン</u> 的 挺好看的
11:34	JSL25	绫濑遥演的那个 <u>えいが</u> 叫什么来着
11:39	JSL26	机器人那个
11:41	JSL25	我的机器人女友 都看哭了

12:10	JSL25	アルバイト先のできごとについて
12:14	JSL26	我昨天晚上打工 我一般不是早上么 早上一般卖一些 <u>おにぎり</u> 呀 <u>パン</u> 呀 还有 <u>コーヒー</u> 什么的 就没什么事么 晚上我替人班 晚上又是交水电煤气费的 又是买菜的 有个人买了一条烟 就是一整条嘛 他那个 <u>バーコード</u> 就贴在旁边 我就以为他那个 <u>バーコード</u> 是一个的 然后我就扫那个 <u>バーコード</u> 然后乘以十 算完之后要四万多块钱 然后那个人说你这是十条烟 然后又把那个 <u>キヤンセル</u> 又重新扫了一下那个 <u>バーコード</u> 然后又被一个老头 算不算是 <u>いやがらせ</u> 罗森不是有那个 <u>ポイントカード</u> 么 <u>ポイントカード</u> 有的是带那种 <u>クレジット</u> 的功能的 然后那个人就把 <u>ポイントカード</u> 给我了 给我之后他也不拿钱 然后我就直接用那个 <u>クレジット</u> 刷了 然后他就说我没让你刷这个呀 <u>ゆってませんよ</u> 就这样 你说三百块钱你交就交了呗
15:35	JSL25	我前几天也遇到一个老太太 我们不是两家店挨着吗 她刚开始可能在我们隔壁那家店问 问完之后那边说我们这没有 你要不去隔壁看一下 他就来我们这边 我们有资生堂公司的人在这边 刚好找到那个女的 那个女的就说 不好意思我是资生堂公司的人 不太了解这个店的情况 你可以去 <u>レジ</u> 那边问一下 然后他就来 <u>レジ</u> 这边刚好就问到了么 然后我就去给他找别人了 就去给他找了一个卖药的人 然后卖药的人就说不好意思 我们这边也没有 然后他就走了 谁知道他刚走到门口 正好那个东西就挂在一个很偏僻的地方 可能那个卖药的也没看到 因为我们的 <u>うりば</u> 经常会经常变嘛 有时候季节到了东西摆放就会换 没找到也很正常嘛 然后他就来投诉我们了 就说你们 <u>じゅうぎょういん</u> 什么都不懂之类的 抱怨了半天 然后他正好是在我旁边那个 <u>レジ</u> 抱怨嘛 然后他就指着我说 你看他一个中国人什么都不懂啊 还让她在那打 <u>レジ</u> 啊 什么的
16:31	JSL26	天啊 太过分啦
17:34	JSL26	<u>けんきゅうしつ</u> でのできごとについて <u>まあ</u> <u>あまりこないなあ</u>
17:39	JSL25	看书 发呆
17:42	JSL26	你什么时候看书啦 <u>haha</u> ……
17:55	JSL25	<u>じぶんのけんきゅうないよう</u>
17:59	JSL26	<u>やめとこう</u>
18:04	JSL25	这个基本上没有定
18:20	JSL25	<u>えんやすがもたらしたえいきょう</u> について
18:26	JSL26	在这工作优势变没了 哎呀 <u>えんやす</u> 怎么说呢 两边都有啊 过来旅游的赚了呀
18:34	JSL25	对啊 过来旅游的人多了
19:10	JSL25	玉出那个葱嘛 我之前买一只都是58 现在张成78了
19:17	JSL26	天啊 这就是 <u>えんやす</u> 你不是一直说 <u>たまで</u> 没有卖蒜苗的么 有啊
19:25	JSL25	有么 ?
19:27	JSL26	有的 我去那家 <u>たまで</u> 一直都有
20:00	JSL25	哎? <u>たまで</u> 是什么 <u>フランチャイズ</u> 么
20:04	JSL26	<u>たまで</u> ……
20:06	JSL25	还是就是连锁
20:09	JSL26	这种应该都是 <u>フランチャイズ</u> 吧
20:14	JSL25	是么? 就是店长自己管就行了
20:18	JSL26	不 店长的那种叫 <u>じえてん</u> 店长管的 <u>フランチャイズ</u> 就是那种……
20:26	JSL25	就是卖个商标的那种感觉呗
20:29	JSL26	他们有总公司给你拨放经费 进行统一管理 <u>じえてん</u> 就是有店长 自己把这个店买下来了 自己负责收支
20:38	JSL25	那你像我们那种药妆店呢
20:41	JSL26	有店长的应该就是 <u>フランチャイズ</u> 有 <u>オーナー</u> 的那种才是 <u>じえてん</u> 我们的 <u>ローソン</u> 就有 <u>オーナー</u>
20:50	JSL25	我们有店长负责发货啊 什么的 管理好像还是由总公司管
20:55	JSL26	一般像 <u>コンビニ</u> 之类的分 <u>フランチャイズ</u> 或者 <u>じえてん</u> 分的比较多 像你们那个 <u>ドラッグストア</u> 一般都是 <u>フランチャイズ</u> 的吧
21:35	JSL26	<u>にほんでうけられたさべつ</u> 还好 真的还好 他们说在澳洲加拿大 华人特别受欺负
21:43	JSL25	为什么呢
22:34	JSL25	但是人家都说中国人聪明啊
22:37	JSL26	也是 我也经常会被表扬什么的 比如说 <u>かしこいなあ</u> 什么的
22:56	JSL26	<u>すきなにほんじんのせんせい</u> について
22:59	JSL25	有 <u>すきの</u> 也有 <u>まら</u> 的 行不行啊
23:03	JSL26	可以 <u>haha</u> …… 我们大学有个外教叫 <u>よしだ</u> 70多岁了 特别负责任 他经常叫我们全班去他住的地方给我做饭吃 给我们做意大利面 给我们做 <u>シチュー</u> 他全都在大连有一个久光百货买那种日本 <u>ゆにゅう</u> 、 <u>ゆにゅうひん</u> 的那种 然后还在课上带我们做 <u>サンドイッチ</u>
23:22	JSL25	那你们可真好
26:56:00	JSL25	<u>さいきん</u> <u>びっくり</u> されたできごと 有什么 <u>びっくり</u> 的
26:59:00	JSL26	那就是热的好快啊
27:03:00	JSL25	受不了哈
27:53:00	JSL26	前年我在京都的时候 都37 8度 那时候我还出去找工作 可能是下午两三点的时候客人比较少 所以一般 <u>めんせつ</u> 都定在两点 当时是太阳最烈的时候 我出去两天找工作 都晒出印了

Pair 14		
時間	話者	会話内容
0:10	JSL27	最近、 <u>びっくりされたこと</u> 有什么
0:14	JSL28	没有，那是我之前有 <u>びっくりされたこと</u> 就是那个时候中华贸易区协定的时候，然后我就上雅虎查一下看日本网民什么态度。查了一下
2:05	JSL28	去洞爷湖整把刀回来
2:07	JSL27	日本刀么
2:09	JSL28	不 洞爷湖木刀，就是 <u>ぎんさん</u> 用的那把刀嘛
2:14	JSL27	<u>ぎんさん</u> ?啊.....
2:18	JSL28	对，就是 <u>ぎんさん</u> 用的那个刀叫洞爷湖刀 所以我一直想整一把
2:22	JSL27	真有吗
2:24	JSL28	可能有那种企划可能有，因为这个湖是真有嘛
2:28	JSL27	<u>げんてい</u> hehe.....
3:04	JSL27	一般晚上的时候人比较多，因为那个介绍有七家温泉馆，然后每一家都有。一般住在宾馆的话他会发给一张 <u>フリーパス</u>
3:12	JSL28	通用卷啊
3:14	JSL27	对
3:45	JSL27	而且 城崎那边的温泉都很小，他说那边是有管制的，就是外汤和宾馆里的公平竞争嘛。怕有一家做得太大了吸引所有的客人
3:53	JSL28	啊.....就是还给你做一个 <u>ルール</u>
3:57	JSL27	对 就是创造一个公平竞争的平台
4:04	JSL28	过几天我下个月不是去看 <u>さめそう</u> 么
4:07	JSL27	<u>さめそう</u> ?
4:09	JSL28	恩恩..... <u>さめそう</u> 那个 去年在国内认识一个小孩 四月份来当交换生 被我邀请一起来看 <u>さめそう</u> <u>まつり</u>
4:16	JSL27	是么
4:17	JSL28	恩 对 真好那个时候是 <u>おぼん</u>
4:20	JSL27	哦 下个月
5:48	JSL28	新干线咱买个单程的 倒是开半道看有没有连锁的
5:51	JSL27	恩 对啊 <u>タイムズカー</u> 都可以
6:08	JSL27	前几天我出去开车的时候把人家的车给刮了 haha.....
6:14	JSL28	haha..... 跑了么
6:17	JSL27	怎么跑啊 因为我租的是那个 <u>レンタカー</u> 嘛 他会有那个保险 我加了一个什么 <u>あんしんコース</u> 就不用赔钱
6:25	JSL28	啊..... 还好加了那个
7:01	JSL28	我也好想学车啊 没时间啊 也没有钱
7:05	JSL27	主要就是没有钱啊
7:07	JSL28	对啊 <u>need money</u> 啊
7:11	JSL28	我们出去玩之前我不是去买衣服了么 我前两天又去了
7:15	JSL27	唉呀妈呀 你这.....
7:17	JSL28	因为现在不是 <u>バーゲン</u> 么
8:22	JSL28	我买了个墨镜 在 <u>ジーンズ</u> 买的
8:24	JSL27	<u>ジーンズ</u> ? 哦.....好看么
8:27	JSL28	然后顺便在 <u>ニークエンド</u> 买了一个装眼镜的袋儿 这个袋儿挺厚嘛 专门装眼镜的
8:32	JSL27	专门装眼镜啊 不错啊 <u>いいなあ</u> ~
9:21	JSL28	但是我那天有点 <u>ショック</u> 就是前天还是大前天 出门看见一个老大爷跟我带的差不多 haha.....
9:24	JSL27	haha..... 同款

9:52	JSL28	今天和 <u>ちようさん</u> 聊 就是他面试的时候说了一个 <u>めっちゃ</u> 然后立刻就说 <u>すみません</u> 那样
9:59	JSL27	hehe.....
10:01	JSL28	就是千万不能说 <u>めっちゃ</u> 因为那是口语啊
10:03	JSL27	<u>ひじょうに</u> 什么的么?
10:04	JSL28	也不用 <u>ひじょうに</u> 就什么 <u>とても</u> 或者什么 <u>すごく</u> 得用这种
10:08	JSL27	恩恩..... <u>めっちゃ</u> ~
10:10	JSL28	所以还是觉得自己口语太弱 有时候不自觉你口语就蹦出来了 其实不行的
10:14	JSL27	得用什么 <u>ビジネスにほんご</u> 才行么?
10:17	JSL28	也不是 <u>ビジネス</u> 就是你得书面一点
11:26	JSL27	不过日本人好像还挺在意这个的
11:29	JSL28	因为是 <u>マナー</u> 就是得遵守嘛↓
11:52	JSL27	就是我们店里来了一个新人嘛 当时挺忙的 他就想让别人帮他拿一个电饭锅之类的东西
11:59	JSL28	那他说 <u>とってくれ</u>
12:01	JSL27	他就说 <u>とってこれいい</u> 然后就大概这类的 然后日本人就不乐意了 就说 <u>です、お願いします</u> 就这一类的
12:07	JSL28	要不也应该说 <u>とってもらってもいいですか</u> 你最起码也得加个 <u>です</u>
12:10	JSL27	对对对
12:13	JSL28	要不就说 <u>とってもらえませんか</u>
12:16	JSL27	就是不熟的时候这些礼仪还是要遵守一下哈
12:26	JSL28	我打工的时候一般都说简体 刚开始是 <u>です、ます</u> 特别注意 后来我们 <u>オーナー</u> 跟我说话我都说嗯 后来我反应过来想我刚刚怎么能说呢? 但是我们 <u>オーナー</u> 不在意
12:33	JSL27	如果长时间的认识就无所谓了
12:48	JSL28	我前天不是去参加一个面谈会么 他就说这不是面试 就是笔试和面试中间相隔时间太长 就搞了一个面谈会
12:55	JSL27	<u>hehe.....</u> <u>こんしんかい</u> <u>こんしんかい</u>
13:01	JSL28	也不是 就我一个人啊 haha.....
14:11	JSL28	就是他们投 <u>エントリーシート</u> 啊 就是这种 投个六七十份都是很正常 我现在才二十多啊
14:15	JSL27	对啊 那你还 <u>まだまだ</u> 呢
14:18	JSL28	就是没想去那么多 我觉得就是投一个最想去的就完了
17:08	JSL28	如果他真的很没礼貌也就算了 就是说咱也是打工的 做 <u>サービスの</u> 的也可以理解 但是来一个中国人 你就这样的话 那肯定就烦了
17:25	JSL28	不过我曾经也被人说过 前几天面试的时候 我说我在 <u>コンビニ</u> 打工啊 他就问我有没有被投诉啊什么的 我说就有一次 他就问我因为什么 我说因为我没笑 就被客人投诉了 他问我那怎么办了 我就说多加练习啊 我还说因为我还是打早工 就更应该 <u>げんきをだす</u> 那个人就说也是 如果他一大早上进 <u>コンビニ</u> 看见店员待答不理 他一天的心情都不会好了
17:45	JSL27	我现在也练出来了 基本就是 <u>わらいながら</u> 然后 <u>かいけい</u>
17:50	JSL28	对对对
21:20	JSL28	这还说就是 <u>たべもの</u> <u>おおさかめいぶつ</u> 我最没法吃的就是 <u>このみやき</u>
21:23	JSL27	是么 我觉得还行啊
21:27	JSL28	我吃过食物中毒过 留下了阴影
21:29	JSL27	天啊 <u>このみやき</u> 就是俗称的大头菜饼
22:15	JSL28	<u>たこやき</u> 我也不能吃太生的 就里面有生面的那种
22:19	JSL27	哦哦 就是有烤的不太熟的那种
22:23	JSL28	对对 日本人可能有喜欢那种的
22:25	JSL27	买 <u>たこやき</u> 的时候你跟他说他给我多烤一会
22:29	JSL28	我都一般不主动吃 <u>たこやき</u> 唯一的一个爱吃的可能就是 <u>そば</u> 、最近有点上瘾
22:35	JSL27	<u>やきそば</u> 啊?
22:37	JSL28	<u>ざるそば</u>
22:39	JSL27	<u>ざるそば</u> ? 哦..... 就是一个板儿的那个么
22:43	JSL28	对 就是蘸着 <u>ざるそば</u> 那个 <u>しる</u> 的那个 我觉得那个挺好吃
22:47	JSL28	给你煮 <u>そば</u> 啊 我家有 <u>しる</u> 都有 <u>そば</u> 多么健康啊!
22:50	JSL27	不用 一会去 <u>りさん</u> 家吃去
22:53	JSL28	晚上刮台风 别去了 在家整点得了
22:57	JSL27	唉呀妈呀 明天我都想 <u>かいしややすもう</u> <u>でんしや</u> 、 <u>むりかなあ</u> ~

24:40:00	JSL28	然后是研究室内容 一想到研究脑袋要炸了 我这周 <u>ぜんぶやすみ</u> 所以今天才这么悠闲
25:00:00	JSL28	我之前搜到那个的理论2 他放在natural上面发表了 然后有搜到一个他用tiwwer的 <u>データ</u> 的那个论文 然后教授就说 那这周 <u>やすみ</u> 那我说行 这周 <u>やすみ</u> 那下周我就说这俩吧
25:55:00	JSL28	我教授一开始的时候就跟我说 <u>ちょうさん</u> 要记得一定不要把题目定大
27:01:00	JSL28	我大概就已经定了 就是那个概念 <u>small world network</u>
27:06:00	JSL27	<u>network</u>
27:07:00	JSL28	<u>small world</u> 小型世界的那种 <u>ネットワーク</u> 就是以这个理论作为大前提 然后用SNS的 <u>へんせん</u> 就是变迁
27:17:00	JSL27	SNS?
28:05:00	JSL28	我也是前几天突然想到 你知道日本不是用 <u>ミキシー</u> 么 聊天 现在基本上都没人用了 然后大家都一窝蜂转到facebook 还有space 就是从美国传过来这种 然后我发现最近space 和Facebook退的人也越来越多 就很多人就不上了 然后又转 <u>ライン</u> tiwwter 就好像是Facebook对他们来说已经是一个获取信息的地方了 而不是交换的方式了 然后那天面谈会的时候也问我研究什么 我大概说了一下 他们就说也是呢 <u>ミキシー</u> 怎么没了呢
29:00:00	JSL27	那个 <u>ミキシー</u> 最开始是哪个国家开发的软件啊
29:06:00	JSL28	日本的 日本开发的 <u>ライン</u> 是日本开发的
29:09:00	JSL27	现在好多人都喜欢 <u>ライン</u>
29:11:00	JSL28	我觉得 <u>ライン</u> 就是 <u>ミキシー</u> 和Facebook的合体 就像微信这种 都是聊天加上 <u>タイムライン</u>
29:15:00	JSL27	对啊 <u>ミキシー</u> 已经退出历史舞台了
29:17:00	JSL28	我觉得Facebook要退还费点劲
32:03:00	JSL27	今年学费什么时候交啊
32:05:00	JSL28	八月末
32:08:00	JSL27	是不是要交百分之七十来着
32:13:00	JSL28	<u>さんわり</u> 大家都是 <u>さんわり</u> 现在国公立都这样
32:17:00	JSL27	这个 <u>えんやす</u> 把我们给整惨了
32:19:00	JSL28	整惨了 但是换算一下也没差多少钱
32:22:00	JSL27	差十万呢
32:34:00	JSL28	就是因为 <u>えんやす</u> 嘛 如果换算成人民币也没差很多
34:30:00	JSL28	加拿大往返要十万 住的话不用花钱
34:34:00	JSL27	那二十万差不多了
34:36:00	JSL28	但是 <u>えんやす</u> 啊 兑换成加元或者美元更不划算了
35:06:00	JSL28	我就特别好奇 我们 <u>オーナー</u> 今年暑假去哪
36:05:00	JSL28	<u>すきなにほんのげいのうじん</u> 还有喜欢的歌
36:08:00	JSL27	喜欢的歌 那个什么 <u>スピーツ</u> 知道么?
36:12:00	JSL28	<u>スピーツ</u>
36:14:00	JSL27	就是唱午后红茶的那个主题曲的 就是有什么 <u>ロビンソン</u> 那个真是太好听了 就是什么 <u>ロビンソン</u> 还有什么 <u>テュリー</u> 就是我们没出生的时候那个年代的歌 好像是听过这个团体 但是我前一段听了one away rock 的 <u>ライブ</u> 真的是打了鸡血
37:15:00	JSL27	樱岛在哪啊
37:17:00	JSL28	就是 <u>ユニバーサルシティ</u> 再往前
37:20:00	JSL27	<u>よどやばし?</u>
37:22:00	JSL28	<u>ユニバーサルシティ</u> 还是 <u>コスモスクア</u> 反正是大阪港那边
37:27:00	JSL27	哦哦 我知道我知道 那边好像是有个 <u>ドーム</u>
37:30:00	JSL28	不是那个
37:45:00	JSL28	我目前最想看的是大手稿和大梦龙
37:48:00	JSL27	大梦龙 haha.....
37:50:00	JSL28	hehe..... imagein dragen 嘛

41:30:00	JSL28	我之前看了一篇文章说 那些电影制片厂是和电视台挂钩的 那些拍片的赞助商是隶属于电视台 想什么 <u>あさひ</u> 呀 <u>ゆみうり</u> 呀 类似于这种 然后他在自己的电视上就打广告 但是外国电影就没法打了 他们只管自己的 就像之前的速度与激情 中国或者全世界都不行了 就日本感觉和我也没啥关系啊
41:41:00	JSL27	他们也就看什么 <u>アナ</u> 的那个
41:44:00	JSL28	就一个 <u>アナ</u> 不知道为什么一下就把全日本的激情点燃了 就走到哪都是 let it go
41:49:00	JSL27	感觉每个日本人都看过
43:34:00	JSL28	我这几天打工也是 小单车的抽 <u>くじ</u> 的店么 又出来了 我就想那个 <u>ラストサー</u> 是一个脸很奇怪的东西
43:41:00	JSL27	那天谁中了奖估计谁都不想要
43:44:00	JSL28	那个 <u>ラストサー</u> 就是要等到最后嘛
43:46:00	JSL27	那万一让谁抽走了呢
43:49:00	JSL28	没有 <u>ラストサー</u> 就是你买最后一张 <u>くじ</u> 的时候给
43:53:00	JSL27	那你就是等着了
43:55:00	JSL28	对 就是等
43:57:00	JSL27	那肯定要在你家摆着了 哪天我来你家看看是一个什么样的表情
44:03:00	JSL28	没有不知道我们 <u>オーナー</u> 会不会给我 如果没人买 <u>くじ</u> 的话 是要上交还是怎么样 不知道 <u>オーナー</u> 能不能给我

Pair 15		
時間	話者	会話内容
0:24	JSL29	你们 <u>ゼミ</u> 有几个人啊
0:28	JSL30	除了我跟 <u>りさん</u> 还有 <u>けいさん</u> , <u>りゅうさん</u>
0:34	JSL29	我听 <u>とさん</u> 说他今天晚上可以帮我录
4:29	JSL30	你们是住在学校的 <u>りょう</u> 里面么?
4:33	JSL29	我是住在 <u>りょう</u> 里面 <u>りさん</u> 和她姐姐住一起 你们是住在哪里呀
4:39	JSL30	我们住在 <u>あびこ</u> 地铁站附近
4:43	JSL29	大家好像都住在 <u>あびこ</u> 附近
5:17	JSL30	哎? 那个 <u>すずきゼミ</u> 是不是已经没有了
5:20	JSL29	恩
6:01	JSL29	你们研究室没满吧
6:05	JSL30	都有人 我是那个 这边是 <u>たかはしさん</u> 算算都是有人的
7:13	JSL29	我们研究科都没有课 也不用上 <u>ゼミ</u> 所以我就是一个无业游民
7:19	JSL30	哇哦 连 <u>ゼミ</u> 都不开啊
7:23	JSL29	因为我们老师带的人少 所以说有事可以找他 <u>そうだん</u>
10:09	JSL29	你们期末 <u>レポート</u> 多么
10:12	JSL30	多 感觉刚开学没多久 还没有适应这种节奏 不是在准备发表 就是刚发表完 一波接一波的
10:19	JSL29	你们那个 <u>すずきゼミ</u> 就要把你们整死
10:23	JSL30	<u>すずき</u> 还好呢 我的那个主 <u>ゼミ</u> 田村那个 <u>ゼミ</u> 他是隔周上一次 我跟 <u>はやしさん</u> 你知不知道?
10:34	JSL29	<u>やまだゼミ</u> 的那个 ?
10:37	JSL30	对对对 我们俩每周都发表
10:41	JSL29	人太少 像我们一个 <u>ゼミ</u> 就有十多个人
10:43	JSL30	哇哦 谁的 谁的?
10:46	JSL29	石井
10:48	JSL30	十多个人都是他主 <u>ゼミ</u> 的啊
10:52	JSL29	不不不 主 <u>ゼミ</u> 就四个
10:57	JSL30	他研究什么的
11:00	JSL29	国际经营 其实按理说这个对留学生来说应该比较热门 但是很奇怪这几年都没有留学生进他的 <u>ゼミ</u>
11:11	JSL30	他好 <u>さびしい</u> 啊
11:13	JSL29	我们学校刚开始的时候不是会发一本书告诉你每个老师的要求 他在上面写的太夸张了 必须每年要读多少篇英文杂志 他自己也说可能那个写得太 <u>きびしい</u> 了 大家都不敢进了
11:21	JSL30	对…… 大家都会看那个
11:24	JSL29	其实都是假的 我们连 <u>レポート</u> 都不用交 每年都不用交 <u>レポート</u> 最 <u>らく</u> 的就是石井 <u>ゼミ</u> 你只要发表发一下就好了 他也不会强迫你在 <u>ゼミ</u> 上发言什么的
11:54	JSL29	聊什么主题呢?
11:56	JSL30	<u>アンケート</u> 给她吧 ↓
15:24	JSL29	我做的主要就是 <u>アンケートちょうさ</u> 再加上后面的 <u>インタビュー</u> 了。
17:48	JSL30	你研究的是留学生, 录社会人有什么用呢, 都是 <u>サンプルがい</u> 的。

Pair 16		
時間	話者	会話内容
0:35	JSL31	反正每个地方都是那种 <u>じんじゃ</u> 呀 神社之类的去逛逛
1:32	JSL31	第二个问题我比较爱说 就是很好吃的食物 第一个就是 <u>たこやき</u> 实际上说是大阪的名物 但是感觉在哪都能吃到 然后我是比较爱吃寿司 跟烤肉相比我比较爱吃寿司
1:41	JSL32	烤肉不能算日本的食物 如果说是日本的食物话 <u>このみやき、やきそば</u> 但是一定要是那种粗的 <u>そば</u>
1:53	JSL31	我觉得乌冬面也挺好吃的
1:57	JSL32	哦 对对 乌冬面好吃 我挺喜欢吃日本的 <u>からあげ</u>
2:03	JSL31	但是都不适合天天吃
2:06	JSL32	我喜欢吃 <u>からあげ</u>
2:11	JSL31	<u>からあげ</u> 也算日本的啊?
2:16	JSL32	算吧 因为我觉得其他国家好像没有 <u>からあげ</u> 什么的吧
2:24	JSL31	因为很少有国家把 <u>からあげ</u> 当成菜然后和米饭放在一起吃的 像什么直接把 <u>からあげ</u> 当成饭 然后配什么可乐呀 薯条什么的 但是日本就会把 <u>からあげ</u> 当成菜吃 <u>かつ</u> 也还蛮喜欢的
2:37	JSL32	我喜欢吃 <u>ステーキ</u> 我相对来说不是很爱吃炸的 但是 <u>かにコロケ</u> <u>かにクリームコロケ</u> 特别好吃
2:46	JSL31	我喜欢里面加 <u>チーズ</u> 的那种
2:50	JSL32	但是日本的鱼 就是 <u>いざかや</u> 里面的鱼也挺好吃的
2:55	JSL31	关键 <u>スーパー</u> 买的那种就不知道怎么做嘛 <u>スーパー</u> 买的怎么做呢 我觉得日本料理一般在家没法做 就是去店里 你想吃的话就去 <u>レストラン</u> 啊 或者 <u>いざかや</u> 去那吃
3:06	JSL32	其他好吃的也没啥
3:10	JSL31	我还是挺喜欢吃 <u>やきにく</u> 的
3:33	JSL32	但是大阪名物说起来的话 除了 <u>たこやき</u> 还有啥?
3:39	JSL31	<u>このみやき</u> 呀
3:42	JSL32	就全都是 <u>ソース</u> 味 我就觉得日本料理的酱的味就很重要 但是他做起来 包括 <u>からあげ</u> 之类的
3:49	JSL31	不一定非得是大阪名物 就主要就是日本料理呗 我觉得像鱼 <u>サーモン</u> 、 <u>さしみ</u> 还挺好吃的
3:57	JSL32	<u>サーモン</u> 是挺好吃的 但是吃不了生的人就完全吃不了啊
4:13	JSL31	<u>すきなにほんのげいのうじん</u> 赤西仁
4:18	JSL32	我刚想说赤西仁
4:23	JSL31	堺雅人也不错
4:26	JSL32	堺雅人我喜欢 大叔 演戏百分百的 就很有 <u>キャラ</u> 的色彩
4:34	JSL31	对啊啊啊 前一段时间还在播 <u>ドクター〜</u>
4:39	JSL32	<u>リーガルハイ?</u>
4:43	JSL31	不是 <u>ドクターりんたろう</u>
4:48	JSL32	我还喜欢和他一起拍 <u>リーガルハイ</u> 的那个女孩
4:52	JSL31	叫什么来着 新垣结衣?
4:56	JSL32	对对对
5:51	JSL31	我还喜欢那个就是最后的朋友里面的比较中性的那个女的
5:55	JSL32	哦 就是演 <u>のだめ</u> 的那个
6:00	JSL31	一说 <u>のだめ</u> 我还挺喜欢那里面的男主角的 那主角叫什么来着 反正 <u>のだめ</u> 里面的人我都挺喜欢的
6:12	JSL32	我还喜欢松山健一 原来他演了一个在 <u>ピンボウだんし</u> 还是什么的
6:18	JSL31	是贫穷贵公子吧?
6:22	JSL32	不是贫穷贵公子 贫穷贵公子是小栗旬演的
6:27	JSL31	我不喜欢小栗旬 我不喜欢小栗旬啊还有.....
6:34	JSL32	人这叫 <u>すきなにほんのげいのうじん</u> 不要跑题
8:06	JSL31	<u>すきなにほんのえいが</u>
8:09	JSL32	不是 <u>うた</u> 、 <u>うた</u>
8:13	JSL31	啊 <u>うた</u> 啊 那个 <u>ゆい</u> 的歌
8:18	JSL32	我觉得那个 <u>いきものかがり</u> 还是 <u>がかり</u> 的歌 就是很平和的那种 而且能唱的来嘛 ↓
8:26	JSL31	就 <u>いきものかがり</u> 和 <u>ゆい</u> 我挺喜欢 <u>ゆい</u> 的 因为 <u>ゆい</u> 的歌很有劲那种
9:23	JSL32	日本好像没有像韩国那样的 <u>アイドル</u> 啊 什么团体的 AKB 吧 ↓
9:29	JSL31	还有 <u>あらし</u> 的歌 <u>せかいひとつだけのほな</u>
9:34	JSL32	啊 那个好有名的

11:35	JSL32	<u>すぎになにほんのえいが</u>
11:39	JSL31	这个没什么好说的
11:42	JSL32	啊 我有 <u>ジブリ</u> 的那个 <u>えいが</u> 我都很喜欢
11:46	JSL31	对对对 宫崎骏的 <u>えいが</u> 我也很喜欢 千与千寻我超喜欢
11:52	JSL32	还有 <u>ハチ、ハチ</u> 八公哭死了
11:56	JSL31	我还是比较喜欢宫崎骏 但是他近几年出的那个 <u>かぜのなか</u> 还是什么的
12:03	JSL32	啊 <u>かぜたちぬ</u> 吧 ↓
12:05	JSL31	啊 <u>かぜたちぬ</u>
12:08	JSL32	就是讲 <u>ひこうき</u> 的那个
12:12	JSL31	啊 对 那个我觉得一般
12:16	JSL32	<u>ポニユ</u> 我觉得也挺好看的
12:25	JSL32	我比较早期的看过的那个恋空 纯爱系的
12:31	JSL31	相比之下 我比较喜欢 <u>ラブレター</u> 情书那个电影拍的还挺好的
12:37	JSL32	鬼片因为我都不太看鬼片 所以没看过
12:42	JSL31	但是咒怨我看过
12:45	JSL32	我没看过 <u>さだこ</u> 我也没看过
12:51	JSL31	我也没看过 就是从电视里爬出来的那个 <u>さだこ</u>
13:41	JSL32	<u>えいが えいが</u> 我还喜欢看柯南的剧场版
17:34	JSL32	我们店长和 <u>オーナー</u> 是一对夫妻嘛 然后店长是老婆 就特别事儿 日本有那种 <u>おばさん</u> 就特别事儿那种嘛 但是我们 <u>オーナー</u> 就还挺好的
17:45	JSL31	感觉老头都比较 <u>やさしい</u> 的那种
17:54	JSL31	研究室的 <u>できごと</u>
17:58	JSL32	什么叫 <u>できごと</u> 啊 感觉在研究室就呆着呗
20:06	JSL32	我们经常要开大会 我们除了开会还要帮着运营啊 <u>うけつけ</u> 啊 接待啊照相啊什么的那种
20:23	JSL31	自己的研究内容 快说
20:27	JSL32	我的研究内容 叫 <u>おおさかの そうとしより</u> 估计可能大家都不知道是什么
20:35	JSL31	中文
20:38	JSL32	就是近世大阪的 那个词没有中文 就是日语的汉字是総年寄三个字 就是日本的行政 像咱们的 警察厅厅长的那种感觉
20:51	JSL31	就是研究行政方面 是行政的职位是么
20:56	JSL32	他那个名称算是他的职位 叫 <u>そうとしより</u> 近世大阪的主要分成三个区 每个去都有四五百名 <u>そうとしより</u> 然后他们管理整个大阪
21:10	JSL31	那你的毕业论文写得是一个区还是整体的呢?
21:15	JSL32	我的毕业论文写得是整体的 就是这些 <u>そうとしより</u> 都做什么事 因为一般 <u>そうとしより</u> 上面还有一个人 他算是市长嘛 他发一些布告指令 都是先发到 <u>そうとしより</u> 手里面
21:32	JSL31	那你的研究就是研究 <u>そうとしより</u> 这个人是怎么?
21:38	JSL32	不是 <u>そうとしより</u> 是一个整体 <u>そうとしより</u> 是一堆人嘛 就是研究他们这一堆人是干什么的 还有比较复杂的 就是 他们作为一个人 有自己的家庭 也有自己的 <u>せいぎょう</u> 就是营生嘛 比如说有的人就是 <u>どどんぶり</u> 就是开发一片地 盖房子 出租收租金什么的 就是相当于这个 <u>そうとしより</u> 十几个人 <u>つとめて</u> 这个 <u>やくめ</u> 嘛 除了他们一起要做的工作以外 还有他们自己要做的事 我现在做的就是从两方面进行研究
22:14	JSL31	听上去没有什么卵用啊 而且我觉得你说了人家也听不懂吧
22:20	JSL32	不是一个专业也听不太懂吧 你研究历史的话不都是这样 就是还原以前的历史形态是什么样的
23:40	JSL31	比如说原子和原子之间都是有手牵着的么 就是很安定的状态嘛 但是一般表面会有一层酸化膜嘛 就是通过 <u>ビーム</u> 来照射 他那个原子的小手就都漏出来了 就变成不安定的状态 在这个状态下 你如果要让原子和原子之间靠近的话 他会有那个原子力 就会自动的结合 然后通过这样的结合我们来太阳电池 当然还有别的运用 比如说 <u>トランジスター</u> 我不知道用中文怎么说 一般理工科的研究都是有一个定量 其他都是变量 通过变量来研究对其他各个方面的影响

25:40:00	JSL31	<u>えんやすがもたらしたえいきょうについて</u> 因为那个 <u>えんやす</u> 了 所以我觉得消费税涨了 这个对我的生活是翻天覆地的变化 以前吃西瓜都不用想 现在都得想一下了
25:54:00	JSL32	<u>えんやす</u> 对我的影响 就是感觉税涨了 东西变贵了
26:02:00	JSL31	但是你如果说对贸易的影响的话 那就是来旅游的人变多了
26:07:00	JSL32	对啊 来旅游的人变得好多啊 感觉走到什么 <u>なんば</u> 什么的 到处都是中国人
26:13:00	JSL31	<u>えんやす</u> 是对输出不利 对输入有利还是
26:20:00	JSL32	应该是对输出比较好吧 我觉得 <u>えんやす</u> 对企业的影响还是挺明显的吧 具体到个人生活上就是东西变贵了
27:40:00	JSL31	<u>うけられたさべつについて</u> 我觉得多少会有一些 在研究室征求大家的意见的时候 你永远都是最后一个 比如说 <u>のみかい</u> 问谁谁去不了 当然他也会征求你的意见 包括打工的时候 就我调时间会特别难调 反正我们店长就是 别人问为什么要招中国人 他就说 <u>ゆうずせいがい</u> 就是别人来不了了 就让你上大概都可以填的那种嘛
28:03:00	JSL32	我觉得 <u>さべつ</u> 吧 不能说是很明显的 <u>さべつ</u> 我就觉得日本就会有这种排他性吧 我们研究室的话 不能说是 <u>さべつ</u> 吧 因为研究历史的有些资料很难嘛 日本人都看不懂 然后后辈就会请教前辈嘛 但是日本的后辈就从来不会请教我们 即使是那个比较厉害的前辈 他们也不会问 <u>お</u> <u>うさん</u> 这个资料是什么意思啊
28:28:00	JSL31	感觉日本人比较独立嘛 他谈不上差别 但是他不会多管你的事
28:35:00	JSL32	对 大概就是这种感觉 所以我觉得日本人他不能说是 <u>さべつ</u> 、 <u>さべつ</u> 有点太过了 但是就觉得他们不会关心别人
28:52:00	JSL31	我现在感觉与其说是 <u>さべつ</u> 感觉完全是 比如说去难波 到处写的都是中文 就是要赚你的钱的 我在福知山的时候 到处都用中文写着请不要怎么样怎么样 就感觉中国人的素质很差的 而且我在 <u>サーブスエリア</u> 买东西 那边直接就有中国人用中文喊号
31:15:00	JSL31	还有 <u>すきなにほんじんのせんせい</u> 我老师真的是很好 虽然说他总让我学会发表 我有点不爽 但是对我还真的挺好的 印象最深的是我语言学校的老师
31:31:00	JSL32	是什么样的老师
31:38:00	JSL31	我那个老师叫 <u>はせがわせんせい</u> 长谷川老师
31:49:00	JSL32	啊 我知道 我知道
31:53:00	JSL31	他就是天天笑嘻嘻的那种老师 脾气很好
33:23:00	JSL32	我们当时的语言学校叫今林嘛 <u>いまばやし</u>
33:31:00	JSL31	他是组长还是什么
33:36:00	JSL32	对 他看起来还是挺凶的 但是我觉得他对学生的要求还是挺 <u>きびしい</u> 的 然后我们现在的老师 他真的很严格 而且他特别爱研究 他就觉得历史特别有趣 所有人都应该觉得很有趣 他整天跟我们说 <u>このしりょう、おもしろいですね</u> 然后我们上课的时候嘛 他就和我们一起看论文 他就说这个资料好有意思啊
37:34:00	JSL32	我们老师属于如果你有好好在弄 他一般就不会找你谈话 他也找过我一次 问我 <u>おうさん</u> 最近怎么样啊 就是会找你谈嘛 但是也不会说批评人啊什么的
38:14:00	JSL31	最近 <u>びっくりされたできごと</u> 比较吓人的
38:19:00	JSL32	<u>びっくり</u> 不能说是吓人吧
38:26:00	JSL31	就是那个谁家的猫 实在是太大了 吓死我了
38:35:00	JSL32	这个事说起来有点太奇怪了 不能叫 <u>びっくりした</u> こと啊
38:46:00	JSL31	啊 <u>びっくりされた</u> こと突然想起来那个谁 有个女生被跟踪了 就他走在路上有人跟踪她 还拍照片
39:02:00	JSL32	拍裙底么
39:06:00	JSL31	对 后来被路人看到 报了警 警察来了还把她老师也叫来了 做了笔录 但是那个 <u>ストーカー</u> 没有抓住
39:18:00	JSL32	好恐怖啊 怎么被人跟的都不知道
39:45:00	JSL31	她说她知道有人在跟她 但她没有想到是 <u>セクハラ</u> 或是 <u>ちかん</u>
39:56:00	JSL32	在哪边啊?
40:01:00	JSL31	她住 <u>あびこ</u> 那边呢 <u>あびこ</u> 那边 从 <u>あびこ</u> 那边往学校走
40:14:00	JSL32	还有就是那个谁的事情 也是 <u>びっくりされた</u> 了 就感觉留学生真的是很不容易 特别是那些年龄小的就出来了 面对这个花花世界很容易被蛊惑
40:31:00	JSL31	哇塞 你说的像老师一样
40:35:00	JSL32	haha..... <u>せんせいめざしているから</u>
40:46:00	JSL31	让我想想最近还有什么比较 <u>ショック</u> 的事情

Pair 17		
時間	話者	会話内容
0:34	JSL33	にほんでのりょこうについて 你在日本去哪玩了？
0:45	JSL34	好多啊 冲绳 北海道 还有那叫什么岛根 <u>しまねけん</u> 之类的
0:52	JSL33	岛根县是吧 它是一个县还是？
0:56	JSL34	恩 <u>しまねけん</u>
0:59	JSL33	<u>しまねけん</u> 是一个县
1:02	JSL34	然后 <u>おきのしま</u> 那个地方特别漂亮
1:05	JSL33	我好像在日本都没有怎么玩过 觉得日本玩的也就是 <u>ほうかいどう</u>
1:11	JSL34	你是一直都在这边么？ 就是最早来的时候
1:15	JSL33	最早来的时候我是在 <u>ふくおか</u> 就是福冈 日本感觉都没怎么玩哎 感觉没有去过北海道和 <u>おきなわ</u> 就像没玩过日本 <u>おきなわ</u> 虽然一直很想去嘛 一直没凑上时间
1:28	JSL34	其实我觉得 <u>おきなわ</u> 、 <u>おきなわ</u> 吧就和国内的差不多 因为我之前读大学是在厦门 所以我觉得 <u>おきなわ</u> 和厦门的感觉挺像的
2:38	JSL33	就是以前在京都的 <u>ホテル</u> 打工的时候 碰到过她
2:42	JSL34	我好像有印象 但是不记得了
2:47	JSL33	我都看到你和她还有 <u>おうさん</u> 一起出去玩了啊
2:52	JSL34	我跟 <u>おうさん</u> 还有谁
2:55	JSL33	哦 可能不是你？
2:59	JSL34	哦 我知道那个人了 <u>なるほど なるほど</u>
3:05	JSL33	你们不是同班的啊
3:09	JSL34	我们是同班的 我只是记不住她是谁
3:14	JSL33	哎？ 那个 <u>おうさん</u> 他回国了么？
3:18	JSL34	哪个 <u>おうさん</u> ？
3:22	JSL33	就是你们老师
3:25	JSL34	没有 她还在日本
3:30	JSL33	他现在在干嘛？
3:34	JSL34	她现在应该是在 <u>インターシッブ</u>
3:39	JSL33	<u>インターシッブ</u> 就是实习那样的？
3:43	JSL34	对
3:45	JSL33	但是我之前碰到她 她说要去奈良的什么.....
3:51	JSL34	对 他之前是说要去 <u>ならじょう</u> 的那边
3:57	JSL33	她说在那边做类似于 <u>けんきゅういん</u> 的那种
4:04	JSL34	那个我不知道 我也不清楚她在 <u>ならじょう</u> 在干什么 但是我知道她之前研究就和 <u>ならじょう</u> 有点关系
4:15	JSL33	你们老师现在是不是很 <u>さびしい</u> ？ 一个人
4:19	JSL34	肯定啊
5:13	JSL33	你们老师 就是那个 <u>かりだま</u> 是不是对她赞不绝口
5:19	JSL34	对啊 她真是太厉害了
8:03	JSL34	我好朋友嘛 她脸上长肝斑嘛 她去那个 <u>クリニック</u> 去做 <u>レーザー</u> 大概做了六回就好点了
8:14	JSL33	做那个东西啊 不敢做
10:01	JSL33	那个pola不是很难买么
10:06	JSL34	美白丸难买 其他的还可以
10:10	JSL33	像什么 <u>きんてつデパート</u> 什么地方都可以买是么？
14:34	JSL34	你住在哪啊？
14:37	JSL33	我住在 <u>あびこ</u>

14:43	JSL34	你去那个 <u>たかしまや</u> 的专柜 就可以试
14:49	JSL33	<u>たかしまや</u> 可以试是吧↓
14:52	JSL34	<u>きんてつ あべのハルクス</u> 我不知道有没有 你可以去查一下 但是 <u>たかしまや</u> 肯定有
18:03	JSL34	你防晒霜用么?
18:07	JSL33	因为 <u>したじ</u> 都有防晒功能嘛 没有特意用
18:13	JSL34	不行不行的 一定要防晒加 <u>したじ</u> 你如果只用 <u>したじ</u> 然后直接擦粉底的话 然后晒进去的话 皮肤会更黄更暗沉
18:24	JSL33	就是在 <u>したじ</u> 之前用防晒是吧 因为 <u>したじ</u> 的那些防晒都很低的是吧↓
19:43	JSL34	比如说 <u>クレンジング</u> 就卸妆吧 洁面 水 乳液 精华 然后是防晒 <u>したじ</u> 然后 <u>ファンデーション</u> 这个顺序比如说你用哪个你 <u>まる</u> 一下
20:02	JSL33	洁面用 水用 乳液用 精华也用 防晒暂时还没用 <u>したじ</u> 用 <u>ファンデーション</u> 也用
20:35	JSL34	一般这个顺序就是这样子的 唯一就是加一个防晒 哦 我少了一个 <u>クリーム</u> 就是一个面霜 像pola建议的就是 水 精华 乳液 然后就是 <u>UVケア</u> 然后再 <u>したじ</u> <u>ファンデーション</u> 这样的
23:46	JSL34	我的黑眼圈也很严重的 用了 <u>ファンデーション</u> 都可以看出来
23:53	JSL33	我用了 <u>ファンデーション</u> 之后还特意用遮瑕的 也遮不住 那眼霜你用的是哪种呀?
24:04:00	JSL34	眼霜我用了很多 我现在用的是pola的定制的 它是啫喱状的 <u>ジェリージョウ</u>

Pair 18		
時間	話者	会話内容
1:20	JSL35	我一般在美西的比较多 关东也去过几次 坐那个 <u>ジェットスター</u> 你知道吧 ↓
1:29	JSL36	<u>ジェットスター</u> ?
1:32	JSL35	就是一个很便宜的航空公司
4:17	JSL35	比如说这个 <u>すきなにほんのえいが</u> 你平时有去电影院么
4:26	JSL36	日本电影院啊 我去的话也不太看日本电影 都看美国的
		哦哦 那个不知道你看过没 最近出的叫 <u>シンディレラ</u>
		哦哦 灰姑娘是吧 我想去看了 后来下线了
5:16	JSL36	你最近研究还行么 我是焦头烂额啊
5:21	JSL35	我不知道啊 就像石井老师说的那样 我研究那个 <u>オープンイノベーション</u> 你知道吧 它本身就是一个概念很广的一个东西 后来我想了一下 还是尽量从那个影响里面出来 否则的话……
5:32	JSL36	<u>すずきせんせい</u> 没有给你什么意见么?
5:37	JSL35	<u>すずきせんせい</u> 他给的意见就是 老师嘛 他本身就有能力你知道吧 他说你研究这个没问题 他是觉得肯定能写出东西来
5:45	JSL36	但是我觉得那个 <u>じれいけんきゅう</u> 还是比较难的 按照我来说是比较难的 因为 <u>じれいけんきゅう</u> 的话 我是用数据嘛 数据毕竟是有个结果在那 有一个 <u>けっか</u> 你可以说 <u>こうさつ</u> 你怎么说怎么说 但是 <u>じれいけんきゅう</u> 的话 对一个人的文笔要求很高 我感觉到
6:06	JSL35	对对对 就是这样 我的总结水平目前也不是很好
6:14	JSL36	就是很难写好 所以我不敢 <u>じれいけんきゅう</u> 只能敢说放一些小的 <u>ミニケース</u> 进去 因为你得收集很多数据 比如那些 <u>インタビュー</u> 的 你得去整理 整理之后人家的那个意思你能不能很好的表达出来 我感觉很难哎
6:32	JSL35	对的对的 主要文笔真的很流畅
6:36	JSL36	但是老师这么多年他们就写得很好啦
6:41	JSL35	对啊 他们都写得很好啦 所以说我现在也在困惑当中嘛
6:47	JSL36	是不是要做 <u>じれいけんきゅう</u> 么?
6:53	JSL35	对啊 还有一点就是 <u>すずきせんせい</u> 他是研究那个产业立地论 就是接近于空间经济学 都是些很古典的理论 要和现代的东西连接 但是我是研究 <u>いせいせんりやく</u> 的 其实是很广泛的 都是一些理论的东西 就是古典理论接替新理论 我当时论文就是这样子 <u>がいねん しぎ</u> 这样子 当时就是这个 所以本身对他的立地论也不是很了解 再加上这个 <u>オープンイノベーション</u> 本身就是一个很广泛的概念 本身就是两个难题在一起
7:42	JSL36	这个 <u>オープンイノベーション</u> 和 <u>りっちろん</u> 结合起来是老师让你那样还是你自己像那样呢?
7:49	JSL35	老师也有一部分这样的意思嘛 按照他的意思 你这个多国籍企业在海外立地的时候 你肯定会利用外部的一些知识啊 技术啊 那这个时候广泛的来讲他就是 <u>オープンイノベーション</u> 他又和很多像上次老师说的 <u>ノーレジマネジメント</u> 嘛 无非就是结合外部知识 其实这在六十年代就已经……
8:23	JSL36	那个野中裕次郎 <u>のなかせんせい</u> 、 <u>ひとつばしだいがく</u> 的那个老师
8:31	JSL35	对对对
8:35	JSL36	感觉这块被人研究已经挺多了
8:42	JSL35	对对对 所以说03年提出的 <u>オープンイノベーション</u> 这个概念 虽然是新提出了的 但是可能就是结合很多以前老的东西 所以说现在也不知道该写什么
8:56	JSL36	但是我感觉你那个 <u>ハイアール</u> 那个 <u>じれい</u> 我感觉还是挺新的吧
9:02	JSL35	对 那个 <u>じれい</u> 是挺新的
9:06	JSL36	所以我觉得 这个点是 不管你要不要搞 <u>りっち</u> 也好 要不要搞 <u>オープンイノベーション</u> 也好 这个事例你不应该放弃 我感觉 我们不是去参加 <u>かごのせんせい</u> 的那个 <u>ゼミ</u> 么 那里面就有人以前是三洋的 现在是 <u>きょうとうだいがく</u> 的那个MBA的老师 他们就经常讲三洋被 <u>ばいしゅう</u> 的事情 你可以跟石井说你也想去参加这个
9:51	JSL35	那个 <u>かごのゼミ</u> 是什么时候上一次啊?
9:56	JSL36	以前是一个月上一次 现在将近两三个月上一次啊
10:02	JSL35	一般来讲一次 <u>ゼミ</u> 是几个人啊?
10:09	JSL36	多的时候二十来个 少的时候十几个不定吧 我也过去发过两次 那个 <u>かごのせんせい</u> 肯定是很厉害的 是在哪个学校么?
10:22	JSL35	
10:26	JSL36	在甲南大学 那个 <u>かごのせんせい</u> 以前是 <u>こうべだいがく</u> 的 <u>せんせい</u> 嘛 现在退到那个 <u>こうなんだいがく</u> 当荣誉教授 然后他那边可以提供 <u>ゼミ</u> 的地方
10:41	JSL35	哦 这样子啊
10:45	JSL36	我觉得那个 <u>かごのせんせい</u> 我修论去发表的时候他给我很多很好的 <u>アイデア</u> 我就直接可以放在那个 <u>こうさつ</u> 里面用嘛 就是石井老师没有想到的 而且我觉得我们现在 <u>こうさつ</u> 写不好 其实就是每次去这个地方发表一下 这个老师给你一些意见 那个地方发表一下那个老师给你一些意见 和在一起就是 <u>こうさつ</u> 我觉得那个机会挺好的
11:03	JSL35	其实这个也和 <u>オープンイノベーション</u> 有点像 就是大量的吸收外部的信息
11:09	JSL36	铃木老师我觉得他好是很好 但是还是多去接触一些外部的人 因为我觉得他毕竟不是 <u>オープンイノベーション</u> 的专家 他比较偏向经济 立地这一块
11:22	JSL35	对对对 就像你说的它本身就是一个比较老的理论嘛 像我再加入新的东西进去对我来说本身也是挑战
11:31	JSL36	但是我觉得你把他整理整理 <u>レビュー</u> 一个 <u>ろんぶん</u> 最起码能写出来
11:39	JSL35	<u>レビュー</u> 的话

11:43	JSL36	我今天就想说 <u>レビュー</u> 的事情 就是我就把它整理下来 想写一个 <u>レビュー</u> 三篇我想赶紧写
11:56	JSL35	我们发两篇 然后我们就提交博论 我想的是第三年提交
12:03	JSL36	我觉得我三年是肯定 <u>むり</u> 的 我现在最起码就是三年半
15:54	JSL36	我觉得在日本很难就职哎 就是那个 <u>かごのゼミ</u> 有一个人 他是 <u>こうべだいがく</u> 毕业的 现在都还在当 <u>けんきゅういん</u>
16:01	JSL35	在神大么
16:04	JSL36	在另一个 就是日本不是有很多研究中心的么 就是大学进不去 很难 然后 <u>いしせいせんせい</u> 说如果英语这方面很强的话 可能还有优势
17:07	JSL35	其实真的是像你选择回国发展还真的挺好的
17:12	JSL36	在日本进大学太难了
17:16	JSL35	我想在日本发展其实不是进大学 你知道吗?
17:21	JSL36	哦哦 就是进 <u>けんきゅうセンター</u> 什么的么?
17:27	JSL35	不是不是 就是想自己创业啦
19:24	JSL35	你现在都参加了什么学会呀
19:28	JSL36	就是经营学会 然后我还想参加那个 <u>こくさいビジネスけんきゅう</u>
19:34	JSL35	啊 那个在日本也很有名
19:37	JSL36	但是很 <u>やばい</u> 的是 我上次和石井提过这件事情 他跟我说我受到别人邀请但是没有去 他说你是不是觉得我很奇怪啊 我身为一个 <u>ビジネスけんきゅう</u> 的老师 还没有参加 因为石井他没有参加所以我想我是不是可以去呢 是因为他需要两个 <u>かいいんの すいせん</u> 我们研究科的好多老师都在里面
19:56	JSL35	谁啊?
19:59	JSL36	比如说那个 <u>よしむら、よしはらせんせい</u>
20:05	JSL35	就是你们那个领域的是吧?
20:11	JSL36	很多有名的老师都在里面 我不明白石井为什么不参加
20:19	JSL35	其实铃木老师也是 他也只是参加了一个最有名的学会 他的说法就是因为参加了就要他做很多 <u>じむ</u> 的东西 他觉得其烦
23:02	JSL36	我们这个研究科嘛 只有一个高桥宏信老师在里面 如果你要求他给你 <u>すいせん</u> 的话 他也会 <u>すいせん</u> 的
23:13	JSL35	你跟 <u>たかはしせんせい</u> 有接触过吗?
23:16	JSL36	在那个IFSAM接触过一次 不过通过石井老师是肯定可以的
23:21	JSL35	那是的
23:24	JSL36	我对这个学会还蛮感兴趣的 我看国内的很多大学的老师也有很多过来发表的
23:35	JSL35	对的 我也看到过的 哎 好像是2013年还是2014年 咱们大阪市立大学有一个老师好像是中国人还是韩国人
23:47	JSL36	<u>パクせんせい</u> 是吧? 他是那个 <u>ビジネス</u> 创造都市的 那个老师跟石井也认识
23:56	JSL35	他也在里面的
24:02:00	JSL36	对 他超级牛的 他就那个 <u>ふじもとせんせい</u> 的那个 <u>ものづくりけんきゅうセンター</u> 他也是从那过里面出来的
24:17:00	JSL35	对对对 我刚看了他的一篇文章
24:21:00	JSL36	他以前也是实务出身的 然后去了东大 他还会中文的 他有一本书我还有呢 就是研究中国的 就是 <u>スブライチェーンシステム</u> 的
24:34:00	JSL35	他的文章确实写的很厉害 其实他是那个都市创造嘛 和产业立地很接近的 所以他的那个文章我把它 <u>コピー</u> 下来嘛 他就是写一些多国籍企业对于立地产生的一些要素 他分析的就是
24:51:00	JSL36	是最近写的么? 他前几年写的都是 <u>サブライチェーン</u> 的东西
24:57:00	JSL35	那篇好像是08年的吧 ↓
25:01:00	JSL36	就是自动车部品有关系的吧 ↓
26:21:00	JSL35	他应该挺年轻的吧 我看他是一个准教授啊
26:27:00	JSL36	不年轻的 应该跟铃木老师差不多吧 反正肯定要比石井大的 50来岁吧 因为他是做实务出身的嘛 工作了好多年的
26:39:00	JSL35	哦 <u>なるほど</u> ~
27:01:00	JSL36	对啦 你那个钱是不是没交 我去确认过了 你就给隔壁研究室的那个 <u>くたりさん</u> 你碰到他就给他就行了
27:13:00	JSL35	就隔壁嘛 我给他就行了是吧 叫什么名字他
27:19:00	JSL36	<u>くたり</u>
27:23:00	JSL35	哎? C现在在干嘛?
27:27:00	JSL36	我还想问你呢 ↓
27:32:00	JSL35	你以前跟他说过话吗?
27:35:00	JSL35	不是一个 <u>ゼミ</u> 么? 你不在哈 他也上 <u>すざきゼミ</u> 然后就经常见面
27:43:00	JSL36	他好像回国了 他跟我一个研究室 但是这个学期一次都没有见到过 <u>くたりさん</u> 说他好像回来了
27:54:00	JSL35	我也没有见过 我不知道他发表过论文没
28:00:00	JSL36	没见过 没有在 <u>けいえいけんきゅう</u> 上见过他的论文

Pair 19		
時間	話者	会話内容
1:17	JSL37	我跟 <u>せきせんせい</u> 面试的时候 他说奈良他问我去没去过 我说没去过
2:01	JSL38	我们有一门专门介绍日本的风土人情的 叫做 <u>にほんじじょう</u> 的一个课
2:04	JSL37	没学过 我们学校太落后了
2:37	JSL37	原来在桥里面 后来搬到桥外面去了 好像那里 <u>やちん</u> 什么的便宜
2:41	JSL38	哦……
3:01	JSL38	我们以前在福冈也是 都是那种在 <u>ビル</u> 里面的 不像国内的学校还有一个操场啥的 啥也没有
3:08	JSL37	对 我们学校也是在 <u>ビル</u> 里面的 中间几个层那样 刚开始来的时候都不习惯
3:15	JSL38	不光是那个 就是日本的大学都是这样的 你看咱们在梅田那边的 <u>キャンパス</u>
4:03	JSL37	这里地方太小了 所以才会那样
4:08	JSL38	恩 你看日本那些 <u>たても</u> 都是那种细条的
5:34	JSL37	我入学手续的时候找的我们店长做的担保人 我怕我走了他不放心
5:37	JSL38	一般没什么事 但是日本人可能就是特别有 <u>こだわりの</u> 那种
5:40	JSL37	对啊 就感觉就是要负点什么责任似的
6:58	JSL37	有一个人他就是找了日本的三本小说 然后把里面的二重否定的句子全部找出来了 好几千个呢 太厉害了
7:05	JSL38	啊 那他可以用 <u>コーパス</u> 啊 就是他自己找的小说啊
8:23	JSL37	我之前考试的时候 和山崎老师联系的时候 是说想研究比较方面的研究
8:27	JSL38	哦哦 你的指导老师是 <u>やまざきせんせい</u> 呀
8:51	JSL38	二重否定就是 <u>ではないだろうか</u> 这样的么
8:54	JSL37	什么 <u>ない……ない……</u> 就使用两个 <u>ない</u> 两个否定嘛 <u>ないだろうか</u> 就是一个
8:59	JSL38	可是 <u>ではないだろうか</u> 不也是表示肯定么?
9:03	JSL37	就是两个否定的词加在一起表示肯定的意思
10:17	JSL38	我上次也是找 <u>いかりせんせい</u> <u>そうだん</u> 嘛 ↓
13:12	JSL37	像昨天下午的那种课 别人讲也要仔细听 有的时候实在想不出来问题
13:17	JSL38	对啊 其实就 <u>コメント</u> 一下就好了
13:50	JSL38	那个 <u>かさはらくん</u> 怎么总也不来呀?
13:55	JSL37	对呀 他总也不来 而且每次都来都迟到 不知道为什么
13:59	JSL38	那你们研究室他们平时都在么
14:05	JSL37	就 <u>かさはらくん</u> 基本不来研究室 然后 <u>ふじおか</u> 基本上每天都在那呆着
14:14	JSL38	啊 每天都来呀 ↓
15:47	JSL38	他不是研究英语方面的么?
15:49	JSL37	我也不知道 他上次讲的论文就是韩语和日语 在 <u>ほうそう</u> 那种节目中下面的字幕翻译的问题
15:58	JSL38	哦 这样的 我还以为他是学英语的呢
16:02	JSL37	那个 <u>かさはらくん</u> 他是大学的时候在英国 我不知道他是留学还是交换 反正 在英国待了一年吧
16:11	JSL38	那他英语应该很好吧
16:15	JSL37	对 他的发音不像日本人 日本人讲英语发音会有些奇怪嘛
16:19	JSL38	就是有 <u>カタカナ</u> 的感觉是吧
16:22	JSL37	对 但是他讲的就没有那种味道

17:47	JSL37	他也是研究什么 <u>いちおう</u> 啊, <u>ふつうにおいしい</u> 到底是多 <u>おいしい</u> 还是不 <u>おいしい</u> 他就是研究那种很 <u>あいまい</u> 的词 这种时候也会问问他们
18:01	JSL38	是 <u>せきせんせい</u> 么
18:04	JSL37	不是
18:09	JSL38	哦 <u>たなかせんせい</u> 就是高高瘦瘦的老师
19:21	JSL37	<u>せきせんせい</u> 的课也是 他找了一本有关英语语法的书 让我们翻译
19:27	JSL38	哦
19:30	JSL37	我原来以为 <u>いかりせんせい</u> 的课啊 感觉发表不好会说你 就很害怕
20:24	JSL38	这就是研究语言的人 作为学者的 <u>こだわり</u> 呀
20:29	JSL37	他就是对那种单词比较感兴趣 比如说 <u>いちおう</u> 他找了很多例子 这里是什么意思 那里是什么意思
20:27	JSL38	哦 <u>ごようろん</u> 是吧 语用论
20:31	JSL37	恩 差不多 差不多
21:13	JSL37	他们三个 我感觉 <u>かさばらくん</u> 肯定不会去 他现在都不怎么来 <u>ふじおかさん</u> 他应该……不知道
23:34	JSL38	但是打分的时候肯定会很 <u>てきとう</u> 的
24:31:00	JSL38	我们M1的时候也没有自己的指导老师 也没有 <u>ゼミ</u> M2的时候才分了 <u>ゼミ</u> 所以M1的时候就知道傻玩
27:03:00	JSL37	那个周一有一个 <u>English Café</u> 那个老师是一个外国人 你找他去
27:10:00	JSL38	那个老师好么
27:12:00	JSL37	挺好的 我就去过一次 因为我周一都有 <u>アルバイト</u> 嘛 正好那周没有
30:13:00	JSL37	我们家附近也有很多野猫 就天天蹲在我们公寓楼下 就 <u>マンション</u> 楼下 然后我们店每天晚上都来买很多猫食
30:19:00	JSL38	哦 她喂那个猫 你看平时去逛街的时候路上就有专门收流浪猫流浪狗的牌子
30:25:00	JSL37	哦 还有那样的
30:27:00	JSL38	恩 就是 <u>ぼさん</u> 嘛 募捐 就是帮助这些流浪猫流浪狗什么的
31:34:00	JSL38	对了 下周二 有一个那个什么 在哪来着 在 <u>てんじんがわ</u>
31:42:00	JSL37	那是哪儿?
34:29:00	JSL38	我昨天还看了宫崎骏的电影 都已经看了好多遍了
34:35:00	JSL37	哦 动画片 动漫
34:38:00	JSL38	恩 也算是电影 就是感觉特别 <u>いやし</u>
35:49:00	JSL37	因为我不是追星族 所以不会说特别喜欢哪个明星 就是电视换台的时候 如果出现 <u>あらし</u> 的话会停下来一会看 之前看过一个节目是 <u>あらし</u> 主持的
36:02:00	JSL38	星期六的那个是么
36:05:00	JSL37	对对对 就那个 想起来我就会看
37:34:00	JSL37	我觉得AKB他们就是卖萌 也不是像韩国的那些 <u>アイドル</u> 跳舞很厉害的什么的
37:42:00	JSL38	对啊 你想韩国的艺人出道都是很辛苦的
37:47:00	JSL37	对啊 我之前去东京 秋叶原那边有AKB的 <u>きっさてん</u>
37:56:00	JSL38	恩恩 我也见过 大阪也见过

Pair 20		
時間	話者	会話内容
3:12	JSL39	你去过最远的地方是哪呀
3:14	JSL40	最远的地方啊 白滨? 作为旅行去过最远的地方
3:18	JSL39	OK つぎ
3:23	JSL40	おいしいたべものについて
3:25	JSL39	大阪名物就是たこやき呀!
3:29	JSL40	たこやき? 好吃么
3:32	JSL39	还可以 挺好吃的 刚开始来的时候不喜欢吃
3:39	JSL40	刚来日本考大学的时候 考完了回去不都要带おみやげ么 带什么好呢 在那个おみやげ 店里面 看见里面有一个卖たこやきのおみやげ 买回去以后给我女朋友啦
3:54	JSL39	恩 挺好的
4:00	JSL40	大阪 めいぶつ 什么呀? くしかつ 炸串儿?
4:12	JSL39	恩 炸串儿 然后就是たこやき 然后就是まる、まるはん什么东西
4:21	JSL40	だるま?
4:25	JSL39	如果想吃大阪名物的话 去心斋桥那趟街 那边挺多的
4:30	JSL40	にほんのげいのうじんについて 你看电视么
4:35	JSL39	恩 我看
4:43		日本的げいのうじん 都有谁?
4:50	JSL40	日本的げいのうじん 像最近比较有名的界雅人 还有我喜欢小栗旬演的电视
5:01	JSL39	那种的演员也算げいのうじん么?
5:03	JSL40	演员也算吧 にほんのげいのうじん 但是他们的综艺节目我不怎么看 因为我家没有 电视
5:43	JSL40	下一个是龙哥的特长 にほんのうたについて 我到现在还不会唱日本歌呢
5:51	JSL39	喜欢的日本歌 就来日本之前
5:55	JSL40	你们以前在语言学校是不是也教日本歌啊?
5:59	JSL39	不教日本歌 那些都是民族歌 像什么さくら那些 这是日本的民族歌 流行歌也很多的 像日本的那些动画片的主题歌挺喜欢的
7:09	JSL40	喜欢的日本电影
7:12	JSL39	にほんのえいが 电影的话
7:16	JSL40	龙哥前几天和你女朋友去看什么电影了么?
7:19	JSL39	没有看 电影 日本电影
7:23	JSL40	我有一次去看的是ワンピース的那个
7:27	JSL39	ワンピース啊
7:34	JSL40	剧场版的那个 龙哥前两天不是说和你女朋友去看 看啥来着?
7:39	JSL39	没去看 去唱歌了 没去看电影
8:15	JSL40	好 下一个 打工的时候のできごと
8:20	JSL39	就是说是关于打工的经验吧 发生的事情吧 做过翻译 做过便利店的レジ
10:41	JSL39	干体力活的话是这样的 但是像干便利店的レジ呀 服务业什么的 也有被客人说过 少不 了
11:01	JSL39	OK 然后是研究室でのできごとについて 研究室别说了 研究室就是整天的起早爬黑 的 根本没有时间打工 如果去打工的话 那真是周一到周五是脑力活动 周六周天是体力 活动 ストレスけっこうおおい
11:48	JSL40	对啊 研究室没想象的那么简单
12:03	JSL39	OK つぎ 你自己的研究内容 じぶんのけんきゅうないよう
12:09	JSL40	研究内容 你研究啥的?
15:36	JSL39	然后下一个吧 えんやすがもたらした影響について えんやす交学费倒是不用那么愁 了
15:53	JSL40	对啊 几年前 上大二的时候汇率最高是八点几啊

16:34	JSL39	这是对学生来说哈 但是对工作的人来说的话 现在 <u>えんやす</u> 的话 赚的钱差不多和国内的工资持平了 <u>えんやす</u> 不知道日本的物价上涨有没有关系
16:55	JSL40	<u>えんやす</u> 影响最大的就是我们店变忙了
17:40	JSL39	好 下一个 日本 <u>でうけられた</u> 差别 日本 <u>でうけられた</u> 差别 什么差别啊
18:52	JSL40	对于我来说最不爽的就是日本老头 我感觉日本的老太太挺 <u>やさしい</u> 的哈 ↓
18:57	JSL39	恩 老太太是挺 <u>やさしい</u>
19:01	JSL40	日本老头对中国人态度不是太好
20:09	JSL40	下一个问题 你喜欢的日本老师
20:11	JSL39	喜欢的日本老师 那就是我们老师啊 我们老师还挺 <u>やさしい</u> 的
22:34	JSL39	原来在语言学校的时候, 老师特别关心学生的升学问题, 会给很多建议
22:45	JSL40	你们老师怎么这么好 你这样说 <u>すき</u> 如果是 <u>きらい</u> 的老师我们一堆 你们语言学校的老师还给你们推荐 我们考大学的时候 我们所有人考的大学 老师都会说我们 <u>むり</u> 都会说我们考不上
23:02	JSL39	那是激励你们呢
23:05	JSL40	怎么可能
23:36	JSL39	OK 最近 <u>びっくりされたできごとについて</u> 让我们感到震惊的事情 <u>びっくりした</u> 这个得好好的想一想 <u>びっくりした、びっくりしたできごと</u> 好像最近我们来这已经很长时间了 对于日本的生活都习惯了 知道他是怎么回事了 没有什么 <u>びっくりした</u> 的
24:03:00	JSL39	我觉得日本的停车方法挺有意思 他们停车都是把车屁股倒进去 不是车头插进去
24:17:00	JSL40	中国一般都是车头插进去这种哈 ↓
24:24:00	JSL39	恩 然后我去收车牌的时候 去那个 <u>ちゅうしゃじょう</u> 一看 好多车都是屁股倒进去 头面对着外面
24:40:00	JSL40	对对对
24:43:00	JSL39	这都是 <u>ルール</u>
25:35:00	JSL40	最近比较吃惊的事情就是 店长说我走路不行 hahaha
25:55:00	JSL39	hahaha <u>びっくりした</u>
26:01:00	JSL40	再就是最近比较 <u>びっくり</u> 的事情就是感觉自己确实能力挺差的 被自己吓到了 感觉要学的东西还有很多

Pair 21		
時間	話者	会話内容
2:54	JSL41	我觉得日本的 长时间不吃觉得会饿的唯一一个就是烤肉吧 <u>やきにく</u>
2:59	JSL42	哦 对对对 和牛的 <u>やきにく</u>
3:03	JSL41	可能就是这个时候久了会饿 别的话 像 <u>ぎゅうどん</u> 什么的 你刚来日本的时候不会觉得 <u>ぎゅうどん</u> 特别好吃么?
3:12	JSL42	没有啊 我觉得国内的也挺好吃的
3:15	JSL41	像 <u>ぎゅうどん</u> 的话 一年不吃我也不会饿 还有一个可能会饿的就是纳豆
3:24	JSL42	<u>なっとう</u> 还好吧
3:27	JSL41	纳豆跟 <u>みそしる</u> 这两个可能时间久了会饿一下 特别是早饭的时候 早上吃个米饭啊鸡蛋什么的 就要配上纳豆和 <u>みそしる</u>
4:32	JSL42	普通的那种像是 <u>くらすし</u> 啊 觉得挺难吃 要吃就吃那种肉很新鲜
4:39	JSL41	那你也没去过几次啊↓
4:41	JSL42	我去过啊 我第一次有这种感觉就是 你吃过那个 <u>さしみ</u> 也挺好的 生的 新鲜的 去那个 <u>スシロー</u> 、 <u>スシロー</u> 他那
4:49	JSL41	<u>スシロー</u> 他那也是一般的啊↓
4:51	JSL42	<u>スシロー</u> 那有特别贵的
6:10	JSL41	我们还是聊下一个话题吧↓
6:13	JSL42	<u>げいのうじん</u>
6:16	JSL41	然后 <u>げいのうじん</u> 日本的演员
6:19	JSL42	啊 演员啊 小栗旬
6:21	JSL41	我也喜欢小栗旬
12:05	JSL41	日本的歌现在比较火的就是 世界 <u>せかいがおわり</u> 知道么? 电音
12:09	JSL42	这个我知道
13:29	JSL41	聊下一个?
13:32	JSL42	<u>えいが</u>
13:34	JSL41	电影的话 日本电影很少看
13:37	JSL42	我昨天晚上看了一个
13:42	JSL41	什么电影
13:47	JSL42	叫 <u>ひゃくえんのあい</u> 翻译成中文就是百元的爱
18:20	JSL41	然后下一个话题
18:22	JSL42	<u>アルバイト先で</u>
18:27	JSL41	对 你打工 你感觉日本打工的环境怎么样
18:32	JSL42	挺好的
18:54	JSL41	在日本打工时候 看外表不管是多么凶的一个人 对你都会特别 <u>やさしい</u> 都会用 <u>けいご</u> 和你说 <u>ありがとうございます</u> 都会很平常的跟你说
19:47	JSL42	我们店也有 我现在在 <u>くらすし</u> 打工
19:49	JSL41	是么?
19:53	JSL42	我们店也有吃霸王餐的 吃完了不付帐 店长又不在 最后做 <u>アルバイト</u> 的人就说 行 买单了
20:03	JSL41	我感觉日本没有素质的人也是非常多的
21:58	JSL42	我去年刚来研究室 发现最有意思的就是 会有 <u>しんかん</u> 会有欢迎会
26:19:00	JSL41	那你为什么要研究这些内容呢?
26:22:00	JSL42	因为研究的人少
26:25:00	JSL41	你说的这些没有意思啊 你得说社会上有什么需要
26:28:00	JSL42	啊 <u>なるほど</u>
31:34:00	JSL41	<u>さべつ</u> 这方面我感觉只有进了会社才能够知道吧↓
34:09:00	JSL41	我见到过的一些歧视 比如说地铁里面啊 日语叫 <u>らくご</u> 嘛 涂鸦 可能对这个印象比较深吧 有一些种族歧视
34:17:00	JSL42	没见过

36:05:00	JSL41	你在日本接触比较多的老师都有谁
36:07:00	JSL42	咱们老师 然后还有 <u>ふじた</u> 老师
36:13:00	JSL41	我一直想问你 你们那个日语老师怎么样
36:18:00	JSL42	我们接触的更少 还没有 <u>ふじた</u> 老师接触得多呢 接触的多的就是 <u>こくさいセンター</u> 的老师刚来嘛 要办好多事
36:31:00	JSL41	<u>こくさいセンター</u> 的老师怎么样
36:34:00	JSL42	我觉得挺好的 很 <u>やさしい</u> 挺 <u>やさしい</u> 的
37:35:00	JSL42	恩 <u>さいご</u> 、 <u>びっくりされた</u>
37:39:00	JSL41	就是你来日本之后 尤其是最近 最惊讶的一件事是什么?
39:08:00	JSL41	他跟我说 <u>おめでとうございます</u> 。
39:34:00	JSL42	然后你就说 <u>ありがとうございます</u> 了?
44:03:00	JSL41	<u>いじょう</u> 没有别的话题了哈↓

Pair 22		
時間	話者	会話内容
3:29	JSL43	那边就是有各种鱼啊 那种超大的 <u>たい</u> 都没人要的
3:34	JSL44	哇哦 那太好了 那你们可以自己搞个 <u>パービキュー</u> 什么的
3:41	JSL43	我们就在那边做着吃 拍照片
4:45	JSL44	因为你知道湖里面的鱼不像海里这么多这么丰富嘛 那边的人就发明了一种叫 <u>うなずし</u> 的一种东西 就是发酵的寿司 臭臭的
5:21	JSL44	那时候还有一个课 就是环琵琶湖一周的那种课
5:29	JSL43	那是什么课?
5:31	JSL44	就叫琵琶湖论啊 然后晚上还做活动啊 吃 <u>パービキュー</u> 什么的
8:29	JSL43	还有什么 <u>にほんのおいしいたべもの</u>
8:32	JSL44	恩
10:37	JSL44	我去年不是出去抻拉面么 细面 <u>てのぼし</u>
10:42	JSL43	我不喜欢吃粗面
10:43	JSL44	不 那个是细的
11:14	JSL43	大阪的 <u>めいぶつ</u> 哦 就是那个大阪的铜锣烧是么
11:18	JSL44	大阪铜锣烧是什么?
11:22	JSL43	那是什么自己做的 <u>このみやき</u> 呀↓
11:27	JSL44	大阪烧
11:32	JSL43	我觉得那个不好吃哎 就是在吃 <u>ソース</u> 的那个味道哎
11:35	JSL44	我觉得是你没吃到好吃的店
11:37	JSL43	我觉得主要是 <u>ソース</u> 比较好吃的話 就好吃了
11:41	JSL44	说到大阪名产的话就是那个 <u>くし</u> 炸那个串
11:49	JSL43	啊 我知道啊 我会做呢 我还在考虑要不要回国开一个那个 <u>くし</u> 店 真的 做了这么多年的 <u>くし</u> 了 都知道 其实我真有那个想法 就是客人可以自助 就是自己 <u>デザイン</u> 的那一种
13:27	JSL44	接下来 艺人
13:31	JSL43	艺人啊 艺人 <u>パス</u> 我就知道小栗旬 小栗旬我还说不出来他名字呢 你不要提醒我 <u>こくりしゅん</u> 对不对?
13:41	JSL44	第一个是念 <u>お</u> 不念 <u>こ、おくり</u>
13:45	JSL43	<u>おくりしゅん</u> 我不要谈这个话题
14:31	JSL43	我都听人家说你不会日语的那个唱法 关键就在于 <u>ありのままの</u> 后面的那一句
15:21	JSL43	然后还有你在研究室里 <u>けんきゅうしつでのできごとについて</u> 好深沉的话题啊 换一个 <u>えんやすがもたらしたえいきょうについて</u>
15:34	JSL44	日元贬了 所以日本的大妈都开始买买买了
16:20	JSL43	哎呀 怎么还有12分钟啊 再来谈谈 <u>えんやす</u>
16:26	JSL44	我给你推荐一部电影哦 最近不是有一部电影不是要上了么 <u>バックマン</u> 拾梦者
20:12	JSL43	最近 <u>びっくりされたできごと</u>
20:15	JSL44	你先讲
20:17	JSL43	我有被 <u>びっくり</u> 到么? 有什么 <u>びっくりされた</u> 了呢? 你有什么 <u>びっくりされた</u> 的
20:24	JSL44	最近啊 不是 <u>びっくりされた</u> 我是一直在倒霉
27:21:00	JSL44	OK 我们到一点了 结束 <u>お疲れ様でした</u> 好啦

Pair23

時間	話者	会話内容
2:34	JFL2	就是你觉得和日本人交往花的时间会特别长是么。
2:50	JFL1	对的，就是他们的 <u>ほんね</u> 和 <u>たてまえ</u> 他们就特别喜欢说 <u>たてまえ</u> ，然后隐藏自己的 <u>ほんね</u>
3:08	JFL2	你平时都在哪些方面能觉得他们很 <u>たてまえ</u> 呀
3:19	JFL1	就各种方面啊 比如说我叫他们去KTV，他们就说去，也不说喜不喜欢。请他们吃饭呢 他们就说 <u>おいしい</u> ，然后他的饭连一半都没吃到。我就在想他是不想吃呢还是饭量小呢。
3:43	JFL2	那你跟他们的互动是怎样的呢，你请他们吃饭他们会回请你么
3:52	JFL1	没有，因为我接触的都是日本留学生，因为我是作为他们的 <u>せんぱい</u> 嘛↓他们都觉得 <u>せんぱい</u> 请吃饭是很正常的，他们没有想过要回请
4:05	JFL2	那你有想过要和日本人成为男女朋友这样的关系么？
4:14	JFL1	之前有想过，但是后来觉得还是太难了。因为我的想法就是太中国化 <u>ちゅうごくじんらしさ</u>
4:26	JFL2	特别中国人 <u>らしさ</u> 是什么意思
4:32	JFL1	就是特别中国式的。就特别是中国人和日本人的性格差别还是很大的。我是那种很主动很外向很热情的人，而他们是很内向的。就是你越是 <u>せっきよくてきに</u> 去主动出击的话，他越是躲得远。
4:51	JFL1	我之前和一个日本留学生处的挺好的
4:59	JFL2	然后有继续发展么
5:06	JFL1	然后他回国了 他回国之后跟我说他喜欢我。然后我一直不太相信。我一直觉得异国恋特别的 <u>ridiculous</u>
5:19	JFL2	你们相处了多长时间啊
5:24	JFL1	半年不到吧 不是那种 <u>あいまい</u> 的关系哈！我就觉得他是我的朋友，他是我的 <u>こうはい</u> 。
6:02	JFL2	那你平时和你那些 <u>こうはい</u> 出去玩的时候，有没有什么好玩的事啊。
6:54	JFL1	说到这个 <u>やさしい</u> 的话，那就是老师吧。老师都特别 <u>やさしい</u> 、特别是我们的女老师。我觉得日本是礼貌而不亲近，他们对你都很有礼貌，但是越是好朋友之间，就越是不需要那些礼节。他就非得要给你加上 <u>です、ます</u> 然后你就会觉得无法跟他们再进一步了。
7:32	JFL2	那你觉得他们自己呢 也是有这种 <u>feel</u> 是么
7:39	JFL1	因为我没有去过日本，具体怎么样也不知道。但是通过看些文章，就感觉他们也是那种很表面的，那种 <u>うつわり</u> 的感觉
7:52	JFL2	都很独立是么
7:57	JFL1	都是那种 <u>たてまえ</u> 嘛↓就是那种表面上处的好。我从来不知道有一个日本好朋友是什么感觉。从来没有那种 <u>いしんでんしん</u> 的感觉。
8:34	JFL2	如果你去日本玩的话，你想去哪呢？
8:42	JFL1	当然是东京啦， <u>あきはばら</u> 嘛↓秋叶原 因为我喜欢动漫。然后我还想去 <u>よこはま</u> 、因为他那边有唐人街。
15:03	JFL2	我感觉日本普通的老百姓对政治都不太感兴趣，像那种示威游行的，可能还多少有点 <u>かんしん</u> 。

Pair24		
時間	話者	会話内容
1:02	JFL4	我目前接触的日本来看 感觉他们有点小气 就是很けち的那种感觉。就是我们有时候请他们吃饭么 像中国人一般这次我请下次你请的,但是他们不会,就算他们主动邀请你吃饭但是也是AA <u>わりかん</u> 的那种。
5:32	JFL4	可能是日本的职业女性,她们下了班,经常会去 <u>いざかや</u> 喝酒
6:31	JFL3	你接触的日本人平时是比较 <u>やさしい</u> , 还是 <u>まじしい</u> 呢?
6:37	JFL4	感觉他是比较 <u>やさしい</u> 不是很 <u>まじしい</u> 的那种
10:21	JFL4	他当时看红高粱这部电视剧的时候 他说他哭了。他就觉得 <u>にほんじんはわるいです</u> 。所以从他的反应来看,他也没有否定这段历史
17:19	JFL3	你对日本的女生印象怎么样?
17:26	JFL4	比起中国的女生 感觉她们更可爱温柔
17:34	JFL3	<u>かわいい</u>
17:39	JFL4	对 <u>かわいい</u> 而且他们说话的方式也是 让你觉得
17:47	JFL3	心里很舒服么? <u>まもちいれ</u>
17:57	JFL4	对
19:26	JFL4	其实我觉得虽然我们学日语 语言方面可能不是什么大问题 但是你要处理一个日本妻子和婆婆之间的关系.....
19:38	JFL3	<u>めんどくさい</u>
19:42	JFL4	对对 很麻烦的
21:35	JFL3	那你游学的欲望还是很强的是么?
21:43	JFL4	是啊 因为你学外语的人肯定最好还是能出去看看
21:51	JFL3	体会一下 <u>いきいきしているにほんご</u> 是么?
23:21	JFL4	我就想去看一下 到底真的有那么干净么?
23:28	JFL3	肯定是比较干净 但是他那个有点 <u>おあげさ</u> 了
24:08:00	JFL4	我看日本电视都记不住他们的名字 比如说半.....
24:15:00	JFL3	哦哦 <u>はんざわなおき</u>
24:22:00	JFL4	<u>はんざわなおき</u> 那个主演就很好 但是我就不记得他的名字
25:04:00	JFL4	那个女的只是公司里的小职员 但是因为他是 <u>しゃらよう</u> 嘛 就特别尊敬他 这个男的从 <u>しゃらよう</u> 又重新进入公司
26:48:00	JFL4	歌手的话 我听得多的就是 <u>いきものがかり</u> 然后就是谁来着 就是翻唱画皮的那个 哎呀 怎么想不起来了
27:03:00	JFL3	有名么?
27:07:00	JFL4	很有名 哎呀 <u>わすれた</u>
29:07:00	JFL4	好吃的呀 我吃过除了 <u>カレーライス</u> 就是那个咖喱饭很好吃 然后就是蛋包饭
29:18:00	JFL3	那讨厌的呢?
29:22:00	JFL4	讨厌的我不喜欢吃那个纳豆
29:28:00	JFL3	你也讨厌纳豆啊
29:33:00	JFL4	而且我还喜欢吃那个 <u>マヨネーズ</u> 就是那个蛋黄酱 我们外教从日本带回来那个 <u>マヨネーズ</u> 的我尝了一下 吃不下去 然后最讨厌的就是那个 <u>さし</u>
29:48:00	JFL3	<u>さし</u> 啊!
30:03:00	JFL3	<u>さいきん なんか びっくりされたことがありますか?</u>
30:12:00	JFL4	<u>びっくりさせる びっくりさせたことは</u> 想想啊
30:24:00	JFL4	因为时间特别短么 两年的时间 也写不出来什么东西 又变严了 所以我觉得特别的 <u>なやんでいる</u>
30:36:00	JFL3	不是也可以写实践报告么?
30:42:00	JFL4	可是实践报告卡的也很紧,也不是随便写的
30:48:00	JFL3	哎 <u>どうでもいいや</u> 能把它写完就行啊!
30:36:00	JFL4	前几天不是发生了一件事情 英语系的女生受到 <u>わいせつ</u> 就是猥亵么
30:42:00	JFL3	恩? 猥亵怎么说 <u>わいせつ</u> ?
30:46:00	JFL4	<u>わいせつ</u> 好像是
31:05:00	JFL3	不知道为什么 你说起这个 我突然想起 <u>かベドン</u> 了
31:12:00	JFL4	什么?
31:15:00	JFL3	就是那个壁咚啊 我想象的太浪漫了是吗?
31:24:00	JFL4	他那个也不是壁咚,不知道是怎么弄的 反正挺 <u>びっくり</u> 的
31:32:00	JFL3	是啊 这个挺感觉 <u>こわい</u>
32:13:00	JFL3	但是我觉得你当老师也挺 <u>まじしい</u> 的就是你每天都和一群孩子在一起
32:21:00	JFL4	但是你要是教初中以上的就很好了啊 总比你每天面对一台电脑翻译来翻译去的.....
32:29:00	JFL3	更 <u>まじしい</u> 是吧!
32:33:00	JFL4	对 而且我觉得我可能不会在这种大城市生活
32:39:00	JFL3	你比较喜欢 <u>ゆっくりしてるところ</u> 是么?
32:45:00	JFL4	对 我比较喜欢中小城市

Pair25		
時間	話者	会話内容
2:12	JFL5	我那时候在日本草津的一个 <u>ホテル</u> 实习 上司在批评的你的时候也不会直接跟你说 比如说他们就说你下次的时候可不可以怎样怎样 如果你怎样怎样就 <u>ありがたい</u> 他们永远是这样 还有我觉得他们心眼挺小的 我们之前一起去实习的时候一起过去的中国留学生用中文聊天 他们就会说你们为什么不用日语说 是不是在说他们坏话 <u>わるぐらいったの</u> 其实他们的世界观很狭隘的。之前我就问他们你们对中国人的印象是怎样的 他就是中国人很 <u>こわい</u>
3:57	JFL6	但他直接这么说 不是挺直接的么 你的这个朋友是干嘛的呢 ?
4:04	JFL5	跟我是一个 <u>ホテル</u> 的
4:10	JFL6	那你认识的这些人里面 他的年龄层会有差别么 ?
4:17	JFL5	会有 <u>おとしよりの</u> 话 他们一般是比较客观 我当时在日本认识了一个老太太 70多岁 他说中国人呢很努力 但是也很 <u>ずるい</u>
4:31	JFL6	这倒是真的
4:34	JFL5	日本人相对来说比较单纯
4:39	JFL6	这是互相觉得对方很 <u>ずるい</u> 是吧 ↓
4:45	JFL5	你是觉得他们很 <u>ずるい</u> 是么 ?
4:51	JFL6	对啊
5:15	JFL5	毕竟那个人生活在不同国家不同文化背景下 肯定有些地方是 <u>つうじない</u>
13:12	JFL6	那你接触的日本人你感觉性格都是怎么样的呢 ?
13:15	JFL5	可能我接触的日本人年轻人比较多吧 都比较 <u>せつしやすい</u> 比较好接触
18:30	JFL5	因为我是西安人 所以对京都就会有一种 <u>なつがしい</u> 的感觉
24:22:00	JFL6	我今天早上还吃了日清的麦片
24:27:00	JFL5	<u>カルビ</u> 的那个么 你想要的话 我可以找人帮你带 就绝对的真正的 <u>カルビ</u>
25:58:00	JFL6	我吃三文鱼的时候 厚的话满足感会特别高啊
26:03:00	JFL5	不能太厚 我说的是 <u>さしみ</u>
27:17:00	JFL5	我还喜欢吃拉面 我在日本吃的各种拉面 比如说味增拉面 骨汤拉面 酱油拉面 <u>しお拉面</u> 反正就是各种拉面 都特别好吃 就包括你在超市买的 <u>カップ</u> 的那种
27:32:00	JFL6	恩 都好吃
30:23:00	JFL6	我比较喜欢日本进展比较快的剧
30:28:00	JFL5	<u>リガールハイム</u> ?
30:32:00	JFL6	恩 <u>リガールハイ</u> 那个我挺喜欢的
33:20:00	JFL5	那你为什么要这样 ?
33:26:00	JFL6	毕竟说到一个 <u>みずから</u> 的事情 要做一下这个手势 哈哈

Pair26		
時間	話者	会話内容
0:10	JFL7	你觉得你最受不了的日本人的思考方式是什么？
0:14	JFL8	我觉得我最受不了的就是他们这种 <u>うち</u> 和 <u>そと</u> 的观念
0:18	JFL7	<u>うち</u> 和 <u>そと</u>
0:22	JFL8	对 就是因为他这种观念会出现一些排斥外国人的现象 但是我通过浏览了一些国内国外的媒体来看的话 虽然这种情况是在减少 但是这已经成为了一种世界人对日本人的一种 <u>ていちゃんしたかんがえなんです</u> 。就是一种已经固定下来的看法
7:35	JFL8	我们去参加日语沙龙么 然后就有一个女生可能日语不太好 大家就问日语的什么最难么 然后她就说 <u>だんごがむずかしいです。とてもむずかしい、なかなかほえきれない</u> 。然后大家就觉得很奇怪 说 <u>だんご、だんご</u> 不是和式点心么 然后气氛就很冷嘛 然后那个日本人说就 <u>りょうりのほうなら、なんとかなるんですけど</u> 。意思就是做饭这件事就不要提了。然后那女生就说 <u>だんごですよ、だんごですよ</u> 。就是那个单词么 本来应该读 <u>だんご</u>
7:58	JFL7	<u>だんご</u> 是么？
8:02	JFL8	他把它读成 <u>だんご</u> 就一直读 <u>だんご、だんご</u> 特别有意思
22:26	JFL8	这种 <u>びっくり</u> 可以理解为让我感到一惊让我很担心 可以理解成这样么？
22:33	JFL7	可以可以

Pair27		
時間	話者	会話内容
0:25	JFL10	我觉得最受不了的就是日本人说话拐弯抹角的 有话就直说 为什么还要 <u>でしょうか、ではないか</u> 的 这些乱七八糟的东西完全没必要啊
5:17	JFL10	我们大二有一个外教就是比较挑剔 比如说我们去他家 去书房 如果直接是 <u>そのまま</u> 没有换鞋进去的 他肯定会说你的 后来的外教对我们就特别的 <u>や……</u> 就是非常的和蔼
12:02	JFL9	喜欢的日本食品和讨厌的日本食品
12:08	JFL10	我觉得我喜欢的日本食品就是 <u>やきにく</u> 之类的
12:13	JFL9	烤肉
12:16	JFL10	对啊 还有什么 <u>とんかつ</u> 吧！
12:21	JFL9	<u>とんかつ</u> か～
12:24	JFL10	比较讨厌的就是 <u>わさび</u>
12:30	JFL9	芥末啊？
12:33	JFL10	是啊 <u>わさび</u> 直接受不了 还有他们的火锅也特别好吃
14:49	JFL10	喜欢的女艺人也挺多的 比如上野树里啊 北川景子啊 松岛菜菜子啊 <u>いろいろ</u>
17:17	JFL10	日本乐队我有一个最喜欢的就是生物股长 <u>いきものがかり</u> 他们的歌旋律真的特别好听
17:45	JFL9	然后就是最近吓到你的事情
17:49	JFL10	你说吓到
17:52	JFL9	<u>びっくりされたことに</u>
17:56	JFL10	<u>びっくりされたこと</u> 有什么吓到我的 我想想哈 这个涉及到个人隐私啦 就是跟前女友发生了点事情
18:09	JFL9	跟什么
18:12	JFL10	<u>もとかの、もとかの。あのう～ ふたりのあいだにちょっと～ あのう～</u>
18:21	JFL9	<u>もとかの</u> 是啥？
18:25	JFL10	<u>EX girlfriend</u>
18:29	JFL9	啊 前女友啊 <u>もとかの</u> 然后呢？
18:34	JFL10	然后跟她之间有点纷争
18:39	JFL9	因为啥呀？
18:42	JFL10	<u>ひみつ</u>
18:46	JFL9	那最近的感情生活呢？
18:51	JFL10	最近感情生活 <u>ゼロ</u>
23:15	JFL9	就是平时会干扰你的情绪的都是啥啊
23:21	JFL10	干扰我的情绪啊 还是 <u>かのじょうのものだいですね！</u>
30:05:00	JFL9	那好了 先到这吧 <u>ありがとう！</u>
30:09:00	JFL10	Yeah!

Pair28		会話内容
時間	話者	
2:11	JFL11	那要上日本留学你打算怎么…怎么生活? [↑] <谜一样的生活> [↓]。
2:17	JFL12	<也是> [↓]。他首先日本都没有宿舍么?? 这就很尴尬。一般…一般咋地, 有那个 <u>ホームステイ</u> 就是<那个家庭> [↓]
2:50	JFL11	<寄宿啊> [↓]
2:55	JFL12	对 住在那个寄宿家庭。还有就是有的中国人自己租, 租地儿。
3:01	JFL11	留学生宿舍啊。
3:05	JFL12	差不多 不是 就是普通的 就是几个人关系好 住一起。
3:11	JFL11	合租啊
5:21	JFL11	不能只跟中国人说话哈 得跟日本人说话。
5:27	JFL12	对 但是这挺难的 一开始你跟外国人接触就挺难的 你首先你就<怀疑自己> [↓]
5:47	JFL11	<恥ずかしい> [↓]
5:52	JFL12	对 我这个语言就【【
5:55	JFL11	】】听听不懂啊
6:01	JFL12	对。私の考えていること/少し聞/ あのう～ はっきり言えるかどうかは うん～ ずっと疑っていますよね～但是你越疑惑 不尝试就更完蛋。就是怎么说呢? 就是这个语言特别可怕的就在这 就得用 尤其咱口语都不行 中国人口语都不行。 希望【【
6:50	JFL11	】】在国内就是 没有什么锻炼口语的机会啊。而且只能看一下日本的电视啊～ <u>ばんぐみ</u> 啊～
9:08	JFL11	说到仙台就想到/少し聞/ <u>だてまさまで</u> 独眼龙的那个正宗 他不就是仙台的么 [↑] 特别佩服他。
9:21	JFL12	比较喜欢战国时期的事。
9:27	JFL11	对 [↓]。玩游戏玩的都是。
11:25	JFL12	从咱们这两个外教老师看/少し聞/日本老师是不是都 <u>きびしい</u> 啊 [↑] <u>まじめ</u> [↑]。
11:40	JFL11	那不一定, 你看今村不是很 <u>まじめ</u> 啊 [↓]。
13:15	JFL11	包括我和那个外教谈, 我说你想留在吉林么? 他说如果我在这边安家了就留在这里。我觉得大可不必。一是可以晚点安家, 二就算安家了, 为什么就故土难离? 难道就真的像日语说的那样 <u>すみはみやこ</u> 就是久居而安。但是我不支持。你呢?
14:05	JFL12	但是十年啊, 十年以后有点太长了。 <u>10ねんはながすぎるよ</u> [↓]。如果一年之后我还可以想象一下。
15:43	JFL11	最近在看 <u>リゴロハイ</u> 觉得堺雅人演的很好。
17:20	JFL12	喜欢的艺人 <u>げいのうじん</u>
17:29	JFL11	艺人啊 刚才说的堺雅人。看 <u>リゴロハイ</u> 我一直学他的表情。
19:05	JFL11	说起歌手 我想 <u>なかこうすけ</u> 中孝介那个我喜欢 因为他声音好。
23:06	JFL12	如果是女孩 那的看 <u>かわいい</u> 的啊 性格比较好的啊 [↓]
23:23	JFL11	对。 <u>まずはよししたんれい</u> ですよ [↑]。首先得长得漂亮。
25:01:00	JFL11	我觉得日本人这个高低贵贱这个分的太开了。上一秒还是朋友, 下一秒就转换成老师了。
25:12:00	JFL12	<u>そうですね</u> 。日本的那些敬语呀, <u>です、まず</u> 啊
25:30:00	JFL11	恩, 基本上掌握的都不是特别好。我一般就是 <u>です、まず</u> 体就行了。硬要说敬语对自己是一种压力。
25:55:00	JFL12	<u>おかしいですね、むずかしいですね。</u>
26:02:00	JFL11	对啊
27:45:00	JFL12	咱们这么多日本外教, 跟他们有没有什么有意思的事?
27:51:00	JFL11	<u>面白いことですね、たくさんあると思うけど</u> 。还是说咱们老师讲的吧。之前一个教师被警察抓了, 是因为他在电车上摸了小姑娘的臀部, <u>これは面白い</u> ですね。确实日本有很多变态。 <u>あたまがおかしい人がたくさんいますねって言います。中国人のなかにもあたまがおかしい人がいますけれど、比べると、日本より少ないです。</u> 总之还是比日本少啊。
30:05:00	JFL12	吃过日本的料理吧 有没有喜欢的 <u>たべもの</u> 啥的?
30:11:00	JFL11	去过 日本东西能接受。
30:15:00	JFL12	像日本有个 <u>さしみ</u> [↑] 生鱼片啊 这样的不爱吃。
30:27:00	JFL11	有的人不吃芥末。有的日本人也不喜欢吃, 日本人有那个 <u>くわがざらい</u> 。没吃过但就是不想吃。
33:15:00	JFL12	就是想看看传统的东 西呗 [↑] <u>でんとうてき</u> …如果我的话, 刚才也说喜欢AKB48那我就得去 <u>あきはばら</u> [↑]。 <u>あきはばら</u> 有一个咖啡厅, 在那可以跟他们握手啊 见面啊。
35:11:00	JFL12	买一张专辑握5秒钟手。就只能说那么两句, <u>また来たわね、元気に出してとか</u> 。就走了。
35:24:00	JFL11	会有痴汉的, 我觉得, <u>よめにしてくれ</u> 嫁给我吧。
36:05:00	JFL12	东京有什么天空树啊 还有什么 <u>とうきょうタワー</u>
36:13:00	JFL11	对 东京塔 东京塔现在都不行了。

Pair29		
時間	話者	会話内容
8:11	JFL13	最近有没有推荐的动漫？
8:17	JFL14	比如说心花里面的 <u>エルまあロス</u>
8:24	JFL13	<u>エルまあロス</u> 你呢？
8:35	JFL14	我最近在看双心阴阳师 <u>おみょうじ</u>
8:47	JFL13	讲的是什么呢？
9:11	JFL14	那是因为你看得少了，你如果看的是我刚刚说的 <u>エルまあロス</u> 的话，那里面就有很多流行语
18:20	JFL13	他讲课的时候会带我们玩一些游戏， <u>みぎあげて、ひだりあげて</u> 、非常の <u>おもしろい</u> 。
20:01	JFL13	有没有想要去的日本公司？
20:06	JFL14	日本公司不太了解
20:11	JFL13	索尼啊 松下啊
20:19	JFL14	丰田啦
20:24	JFL13	<u>トヨタ, トヨタ</u>
20:32	JFL14	那可能去丰田吧
23:45	JFL13	听说切腹是要把肠子切断
23:52	JFL14	<u>怖い</u> ですね↓

Pair30		
時間	話者	会話内容
0:03	JFL15	你最接受不了的日本人的思维方式有什么呢？
0:12	JFL16	我接触的日本人也不是特别多 但是就周围来看的话 日本人的某些行为 咱们作为中国人 不说作为中国人 不管是作为哪国人来看也是有点稍微不舒服 日本人讲话 <u>変なところがあります</u> 。哪些地方比较奇怪呢？就是他们有的时候过分较真了。举一个我的亲身经历吧 又一次我去帮一个日本人打字 打字就有一个人名 就是那个冈啊 冈田 <u>おか～おかた～</u> 对 然后就打错了 他就让我一个一个的修改 这个就挺不能理解的 他的心是什么意思呢 <u>日本人は真面目な性格を持っているから、私を、その、私は悪いから、この何回も見直しても構いませんと思うけど、</u> 但是总是觉得让我写那么多遍 他是有心的那种惩罚。
3:11	JFL16	中国叫小灶啊 日语叫 <u>じゅく</u> 塾嘛 这是他的一个缺点吧
9:26	JFL16	我不是说我有多大能力 我涉足的东西都挺浅的 但是确实挺广泛的 怎么说呢 说的有点那个 <u>じが じさん気味な言葉を言いたいと思いますが あもう～</u> 就是说的王婆卖瓜一点吧
11:27	JFL15	<u>はい わかった。</u> 那这位同学你就这个问题是怎么想的呢？
11:45	JFL17	这个吧 还没想太多 可能要在竞争力比较大一点的城市打拼几年吧
13:37	JFL15	好 <u>いいですね↓</u>
15:10	JFL17	我觉得语言问题不是大问题 听得多了自然也就学会了嘛↓
15:35	JFL15	<u>終わりますか？</u>
15:41	JFL17	<u>終わります</u>
15:47	JFL15	<u>はい</u>
21:30	JFL16	不是说咱们学日语了 就硬要找一个日本姑娘 <u>わりやりに日本の嫁をもらいたいという考えは 私 は言ってもいけません。そうですね～ あもう～</u> 就是这样 我们不是我一定要找一个日本媳妇
24:35:00	JFL17	我的第三任老师是一个中文特别好的日本老师
24:43:00	JFL15	<u>中国語が上手ですね～</u>
24:47:00	JFL17	<u>そうですね～</u>
26:23:00	JFL16	我最想谈一下第三个外教老师 <u>やっぱり日本人は あもう ずるいと思いますよね↓ あもう この教師は 教師としての行為は正しくないと思いますけど、</u> 我觉得他确实是作为教师来说的话 做的事情是挺不合理的 <u>例えば、あもう あもう 塾でも開いて、あもう お金を儲けて、でも、口にするのは、中国に来て、友達ができたと思って、お金なんか全然関係ないって言いましたよね↓</u> 就是他嘴上说 老是说自己不是为了赚钱。
28:25:00	JFL16	日本人对于钱嘛↓ <u>厳しく思うけど、彼は一般の日本人と違って、もし、あもう、中国で長い時間をかかって、中国に行っていますから、中国人の考えが理解して、自分も中国人らしく考えるようにできると思いますけどね↓</u> 他还是在中國呆时间长了。
30:12:00	JFL16	有一次上上课嘛 他就说 <u>すみません ちょっと電話、</u> 电话来了

Pair31		
時間	話者	会話内容
1:14	JFL16	我比较喜欢吃日本的牛肉洞饭 日本比较有名的就是吉野家和 <u>すき家</u> 吧
1:27	JFL17	我比较喜欢吃的挺多的, <u>ぶた丼</u> 、然后 什么 <u>しょうが焼き</u> 、还有 那边的汤也挺喜欢的 然后还有 <u>ぎゅうどん</u> 然后讨厌的就是一切带洋葱的东西
2:24	JFL16	我觉得日本老师都非常的 <u>優しい</u>
2:34	JFL17	我这次去实习嘛 碰到几个日本人 总体来说都比较 <u>優しい</u> 的 但是也有那么几个不怎么样的人
4:32	JFL16	我最喜欢木村拓哉他们组合唱的歌 <u>せかい一つだけのはな</u> 也喜欢他演的一些电视剧
14:39	JFL16	那个四十多岁的天天模仿那个司机 <u>出猪します</u> ~什么的 然后还会模仿清扫人员 <u>あいさつ</u> 时候的样子 就是前台的人都特别幼稚。
15:30	JFL17	我自我介绍的时候总是会 <u>私は王さんと申します。</u>
15:31	JFL16	haha~ <u>王さん</u>
15:36	JFL17	然后他们总是会 <u>你看这个人称他自己为王さん</u>
15:39	JFL16	<u>王さんだ</u> って厉害呀
16:56	JFL16	北海道是有方言的 正式日语当中说可爱是 <u>かわいい</u> 、但是在北海道方言当中 <u>かわいい</u> 是 <u>めんつこい</u> 。然后我第一次听到的时候还在想他说我像面什么呢?
28:30:00	JFL16	买碟 买 <u>ショップ</u> 都很方便啦 我还希望我多吃点日本的 <u>ぶた丼</u> 、 <u>ぎゅうどん</u> 、 <u>しょうが焼き</u> 一切好吃的东西

Pair32		
時間	話者	会話内容
1:45	JFL18	还有一个老师叫今村老师 今村老师她就比较 <u>やさしい</u> 总是能过分的容忍我们的错误
4:14	JFL18	野地老师也是属于 <u>やさしい</u> 、绝对不是 <u>きびしい</u> 的那种人
5:19	JFL18	我不太能接受 比如说进屋的时候必须说 <u>おじゃまします</u> ~ 或者说 <u>ただいま</u> ~
5:24	JFL19	恩
5:27	JFL18	或者是在吃饭的时候还要说 <u>いただきます</u> ~ 必须要说 <u>いただきます</u> 就比较繁琐
5:39	JFL19	恩
8:03	JFL18	在中国很少有两个人一起奋斗一起买房子 刚开始就租一个 <u>アパート</u> 的 我感觉这个就是不太能接受
10:22	JFL18	再加上日本的那些习俗 吃饭的时候还是要说 <u>いただきます</u> 。会让我的爸爸妈妈觉得 <u>おかしい</u> 就是很难接受
17:03	JFL18	我对和服比较感兴趣 比如说那些 <u>まつり</u> 、那些活动 然后人们都会穿着和服参加节日
21:20	JFL18	我觉得公务员这个工作一是 <u>おだやか</u> 比较稳定, 就是不会担心自己会失业

Pair33		
時間	話者	会話内容
6:11	JFL20	你想去日本留学么?
6:19	JFL21	想啊 <u>でも</u> 没钱啊《笑い》
8:01	JFL21	我觉得他们都特别沉稳 特别有礼貌 然后还挺 <u>優しい</u> 的。
8:07	JFL20	反正我觉得他们跟咱们思想不一样
11:10	JFL20	你又想吃的日本的食物么?
11:15	JFL21	寿司 <u>すし</u>
11:19	JFL20	哎 你吃过那个 <u>さしみ</u> 么?
11:23	JFL21	我不爱吃 我也就能吃吃寿司
11:31	JFL20	小丸子 章鱼小丸子
11:34	JFL21	恩 那个也行
11:36	JFL20	お菓子 但是一说日本的吃的就想说 <u>美味しい</u> 也不知道啥 <u>美味しい</u> <笑い>
11:43	JFL21	啥都 <u>美味しい</u> <笑い> <u>うまい</u>
11:57	JFL20	就感觉 <u>美味しい</u> <u>美味しい</u> <u>そうね</u> <笑い>
12:24	JFL21	哎 我上次看那个和尚恋爱那个 看女主吃那个 就感觉可好吃了 <u>美味しい</u> <u>美味しい</u> <u>美味しい</u> <笑い>
12:36	JFL20	我也想吃正宗的章鱼小丸子
14:06	JFL20	我前几天看了一个电影 叫狼狽 特别 <u>こわい</u>
14:15	JFL21	我前几天看了一个是讲丧尸的 可吓人了
14:23	JFL20	那天 <u>まゆみ</u> 上课说的那个电视剧 就是讲高智商那个 那个可好看了 你可以看一看
14:34	JFL21	<u>おもしろい</u>

Pair34		
時間	話者	会話内容
1:02	JFL22	你能接受日本人做你的男朋友么?
1:35	JFL23	<u>ぜんぜん</u>
1:00	JFL22	你平时和日本人交流起来是什么样子呢?
1:13	JFL23	<u>やさしい</u>
2:13	JFL22	你想去日本哪里旅行呢?
2:17	JFL23	<u>ほっかいどう</u> <u>とうきょう</u>
2:45	JFL22	你想去日本的学校留学么?
2:53	JFL23	<u>いいえ</u>
3:34	JFL22	你最喜欢的日本食物是什么?
3:45	JFL23	<u>なっとう</u> 、 <u>ラーメンが大好き</u>
5:34	JFL23	哎 我最近让你看的是什么来着
5:42	JFL24	啊~ <u>きみの名前は?</u> <u>君の名は?</u>
5:54	JFL23	不是 是rich man poor women
5:59	JFL24	<u>ちょっと待ってください</u>
6:05	JFL23	行了就这样吧 <u>終わります</u>

Pair35		
時間	話者	会話内容
0:42	JFL25	你去吃过哪家么？那家的 天ぷら 还挺好吃的
3:24	JFL25	你一般看什么日剧呀？
3:27	JFL26	ハンザワナオキ 半泽直树
3:30	JFL25	啊
3:32	JFL26	还有那个 リーゴールハイ
3:37	JFL25	有没有搞笑一点的？
3:43	JFL26	搞笑的话 男子高中生的日常 だんしこうこうせいのにちじょう
3:52	JFL25	にちじょう これ？
3:56	JFL26	恩
3:59	JFL25	べつのか？
4:04	JFL26	是这个
4:09	JFL25	还有一个是什么来着 对 バカおんな 笨女孩
4:16	JFL26	バカおんな？
4:23	JFL25	正常日语好像叫アホウガール
4:28	JFL26	这个
4:34	JFL25	对
4:36	JFL26	这个能分享么？
4:38	JFL25	你扫一下吧
4:42	JFL26	稍等 ちょっと ちょっと 待って これ 还有别的么？
5:12	JFL25	歌的话我喜欢增野红支 まゆる まゆる
5:17	JFL26	啊啊
5:19	JFL25	身为男士的话我可以推荐一个这个《笑》
5:24	JFL26	哦哦 わかる わかる わかりました 。 べつの方が？
5:31	JFL25	也就这些吧 那就先这样
5:35	JFL26	恩 也行 お疲れ様でした
5:41	JFL25	お疲れ

語彙近接性ランキング課題

本実験は語彙間の近接性を計測するために行います。以下の例題で示しているように、提示語彙 (例えば: 花) ごとに意味連想語を 10 個用意しました。提示語彙との近接性に従って、10 個の連想語彙を 1 点から 10 点までランキングしてもらいたいです。例えば、「草」の意味が「花」と一番近いと判断したら、「草」の下に「10」を記入してください。

(提示語彙との近接性 : 1 点から 10 点まで、重複点数不可)

例題

提示語彙 : 花

連想語のランキング :

(A) 鳥	(B) 綺麗	(C) 草	(D) 環境	(E) 桜	(F) 愛	(G) 女の子	(H) 水	(I) 赤い	(J) 空
4	9	10	5	8	6	7	2	3	1

以下には 18 個の提示語彙を用意しております。例題で示しているように、提示語彙との近接性によって、10 個の連想語彙を点数で評価してください。できるだけ慎重に思考した後に、各連想語彙をランキングしてもらいたいです。

语义相关性排序实验 I

本实验是一项测试语义间相关性的实验。如下面的例题所示，每道题目中会有一个提示语（如：花）和与提示语相关的 10 个关联语。您需要根据关联语与提示语之间的相关程度，将 10 个关联语进行排序。例如，如果您觉得“草”的语义与“花”最具有相关性，那么您可以在其后面表格中填 10 分。

（相关程度：最高 10 分最低 1 分，不可出现重复分数）

例题

提示语：花

关联语排序：

(A) 鸟	(B) 美丽	(C) 草	(D) 环境	(E) 樱花	(F) 爱情	(G) 女孩	(H) 水	(I) 红色	(J) 天空
4	9	10	5	8	6	7	2	3	1

在下面的实验中将会有 18 组提示语和关联语。如例题所示，请根据提示语与关联语的相近性，对每一个关联语进行评价。您需要确保您所做出的排序是认真思考后的结果。

